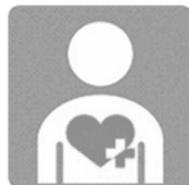


逗子市
障がい者福祉計画策定のための
アンケート調査報告書



令和2年3月

逗子市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	アンケート調査結果	2
1	障がいのある方	2
	(1) 調査の回答者について	2
	(2) 回答者属性	4
	①性別・年齢	4
	②居住地区	6
	③主な収入	8
	(3) 心身の状況について	10
	①障がいの種類と程度	10
	②医療機関との関わり	16
	③支援を必要とすること	22
	(4) あなたの暮らし方について	24
	①現在の暮らし方	24
	②日中の過ごし方	28
	③外出の際の主な手段	36
	④よく利用している情報通信手段	38
	⑤今後の暮らし方の希望	40
	(5) 日中活動について	42
	①経済的状況	42
	②就労について	44
	③仕事以外の活動への参加状況	53
	④暮らしの重点	60

(6) 情報・相談について	62
①福祉情報の入手	62
②困りごとと相談	66
③成年後見制度	73
④障害福祉サービス等の利用状況と利用意向	77
⑤障害者差別解消法の認知度	81
⑥障がいへの差別について	83
(7) 障がい児への療育や教育について	88
①療育や教育の相談について	88
②発達障がいのある子どもへの施策・サービス	91
③療育教育総合センターへの相談	93
④ひなたファイルについて	94
(8) 地域の中での関わりについて	97
①近所づき合いの程度	97
②近所に頼りたいこと	98
③災害時の対応	99
(9) 今後のあり方について	108
①障がいへの理解度	108
②権利擁護について	118
③今後重要と思うこと	121
④地域生活支援拠点等事業について	124
⑤障がいのある方による自由回答	127
(10) 介助・支援者をしている方に	144
①属性	144
②健康状態	148
③働き方	149
④介助・支援の体制について	150
⑤悩みや心配	154
⑥閉じこもりについて	158
⑦介助・支援をめぐる環境について	165
⑧相談先	171
⑨介助者による自由回答	174

2	その他の方	183
	(1) 回答者属性	183
	①性別・年齢	183
	②居住地区	185
	③職業	187
	④身近な障がい者の存在	188
	(2) 障がいのある人とのかかわりについて	192
	①障がいへの理解	192
	②障がいのある人への差別が解消されてきたと思うか	201
	③障がいのある人との関わり方	212
	④地域の中での（近所の）障がいのある人との関わり方	215
	④災害時の支援	221
	⑤障害者差別解消法について	224
	⑥権利擁護について	228
	(3) 障がい者施策について	231
	①今後重要だと思うこと	231
	②自由回答	234

Ⅲ ヒアリング調査結果 239

I	調査の概要	239
II	ヒアリング調査の結果	240
	1. 住まい	240
	2. 福祉サービス	241
	3. 就労	242
	4. 保健・医療	243
	5. 保育・教育	243
	6. 生活環境（バリアフリー等）	244
	7. 経済的状況（利用者負担等）	245
	8. 理解と交流	245
	9. 相談支援・情報提供	246
	10. 団体活動の継続・拡充	246

IV	調査結果からみた課題整理	247
1.	調査結果の概括.....	247
2.	課題の整理.....	252
V	調査票	255
1	障がいのある方向け	255
2	その他の方向け	267

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、障がいのある方などの日頃の生活や意識などを把握するとともに、障がいのない方の障がい福祉施策に関する意識などを把握し、逗子市障がい者福祉計画策定の基礎資料として、調査を実施したものです。

2 調査対象

障がいのある方：逗子市在住の障がいのある方

その他の方(15歳以上)：逗子市在住の15歳以上（無作為抽出）

3 調査期間

障がいのある方：令和元年11月13日から令和元年12月9日

その他の方(15歳以上)：令和元年11月13日から令和元年12月2日

4 調査方法

郵送やメール等による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
障がいのある方	2510通	1314通	52.4%
その他の方(15歳以上)	579通	219通	37.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。また、複数回答によるクロス集計の場合、全体の有効回答数よりも、クロス集計の有効回答数の合計が多くなる場合があります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■、2番目に高いものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・文中のクロス表において選択肢を簡略化して表記している場合があります。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

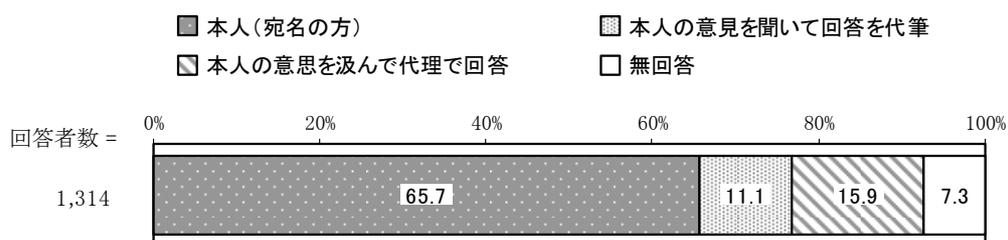
II アンケート調査結果

1 障がいのある方

(1) 調査の回答者について

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。
(1つに○をつけ、2か3をお選びの方は、付問にもお答えください。)

「本人（宛名の方）」の割合が65.7%と最も高く、次いで「本人の意見を汲んで代理で回答」の割合が15.9%、「本人の意見を聞いて回答を代筆」の割合が11.1%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	本人(宛名の方)	本人の意見を聞いて代筆	本人を代理して回答	無回答
全体	1314	65.7	11.1	15.9	7.3
0～5歳	23	—	8.7	91.3	—
6～17歳	49	14.3	14.3	61.2	10.2
18～29歳	61	52.5	6.6	37.7	3.3
30～49歳	179	68.2	7.8	18.4	5.6
50～64歳	180	78.3	8.9	7.8	5.0
65歳以上	785	71.2	13.0	11.2	4.6

【障がいの種別】

身体障がい、精神障がいで「本人（宛名の方）」の割合が、知的障がい、重複障がいで「本人の意見を汲んで代理で回答」の割合が高くなっています。

身体障がいの種別でみると、他に比べ、内部系で「本人（宛名の方）」の割合が、視聴覚系で「本人の意見を聞いて回答を代筆」「本人の意見を汲んで代理で回答」の割合が高くなっています。

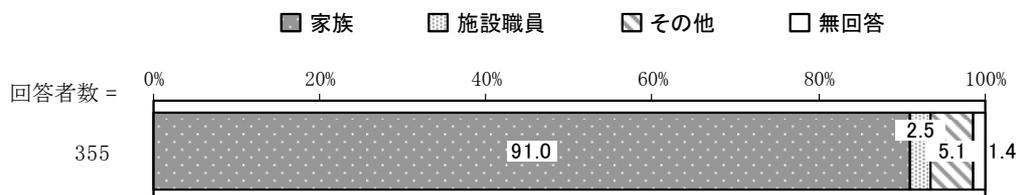
単位：%

区分	有効回答数 (件)	本人 (宛名の方)	本人の意見を 聞いて代筆	本人を代理して 回答	無回答
全 体	1314	65.7	11.1	15.9	7.3
身体障がい	946	72.0	12.2	11.3	4.5
視聴覚系	242	56.2	18.2	20.7	5.0
運動系	427	64.2	13.1	16.6	6.1
内部系	421	81.2	10.0	6.9	1.9
知的障がい	152	28.3	11.2	50.7	9.9
精神障がい	220	66.8	10.0	18.2	5.0
重複障がい	75	24.0	17.3	49.3	9.3

問1で「本人の意見を聞いて回答を代筆」「本人の意見を汲んで代理で回答」と答えた方にお聞きします。

付問① それはどなたですか。(1つに○)

「家族」の割合が91.0%、「施設職員」の割合が2.5%となっています。

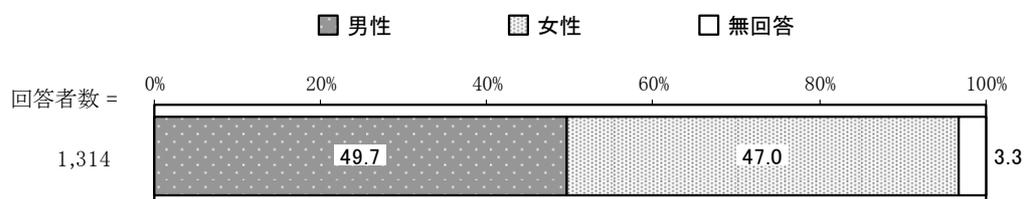


(2) 回答者属性

①性別・年齢

問2 あなたの性別はどちらですか。(1つに〇)

「男性」の割合が49.7%、「女性」の割合が47.0%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	男性	女性	無回答
全体	1314	49.7	47.0	3.3
0～5歳	23	47.8	52.2	—
6～17歳	49	57.1	40.8	2.0
18～29歳	61	49.2	49.2	1.6
30～49歳	179	57.0	42.5	0.6
50～64歳	180	56.1	43.9	—
65歳以上	785	48.5	50.7	0.8

【障がいの種別】

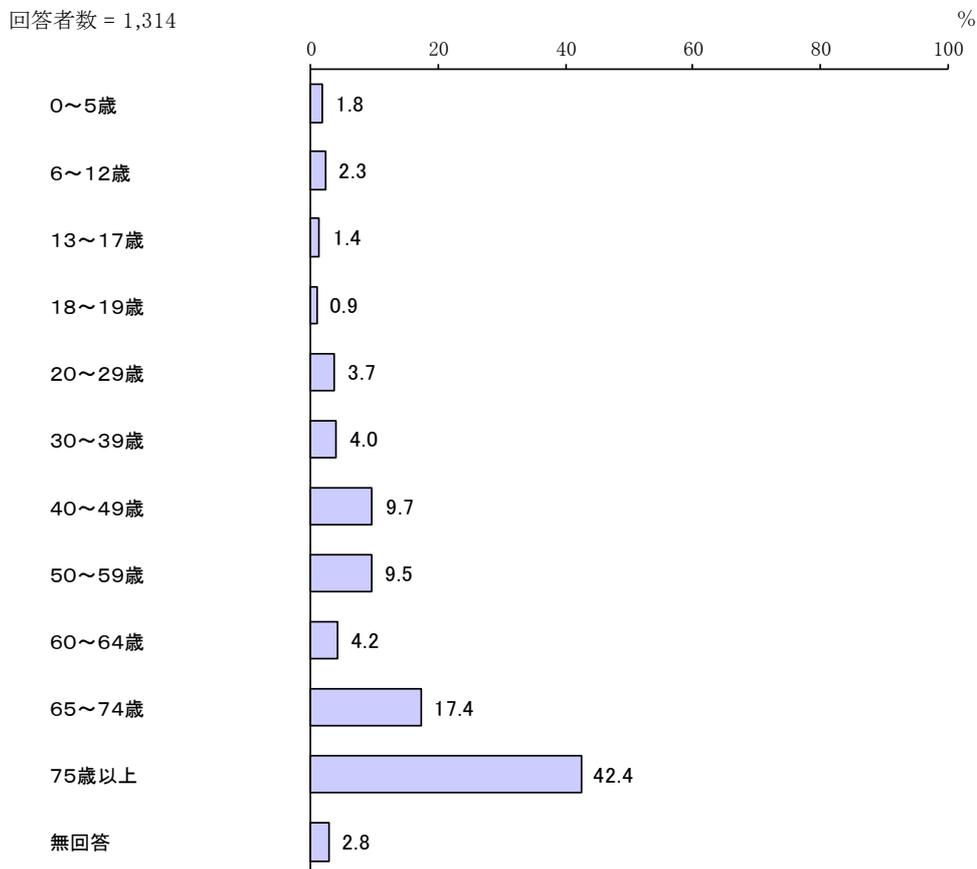
単位：%

区分	有効回答数 (件)	男性	女性	無回答
全体	1314	49.7	47.0	3.3
身体障がい	946	50.2	48.8	1.0
視聴覚系	242	50.8	48.8	0.4
運動系	427	41.5	57.1	1.4
内部系	421	58.9	40.1	1.0
知的障がい	152	50.7	48.7	0.7
精神障がい	220	54.1	45.0	0.9
重複障がい	75	53.3	44.0	2.7

問3 今年の4月1日、あなたは何歳でしたか。(1つに○)

「75歳以上」の割合が42.4%と最も高く、次いで「65～74歳」の割合が17.4%となっています。

なお、集計にあたっては、年齢を「0～5歳」、「6～17歳」、「18～29歳」、「30～49歳」、「50～64歳」、「65歳以上」に区分しています。



【障がいの種別】

身体障がいで「65～74歳」「75歳以上」の割合が、知的障がいで「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」の割合が、精神障がいで「50～59歳」の割合が高くなっています。

単位：%

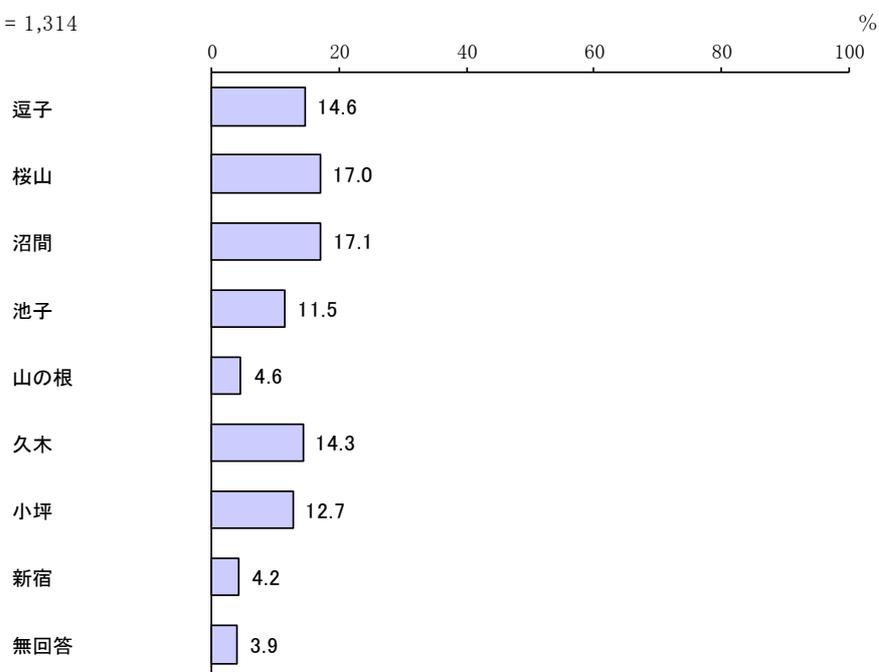
区分	有効回答数(件)	0～5歳	6～12歳	13～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
全体	1314	1.8	2.3	1.4	0.9	3.7	4.0	9.7	9.5	4.2	17.4	42.4	2.8
身体障がい	946	0.7	0.6	0.3	0.3	0.7	1.3	4.9	7.3	4.7	21.6	57.2	0.4
視聴覚系	242	2.1	0.4	0.8	0.8	0.4	2.1	5.4	5.4	5.0	16.5	61.2	—
運動系	427	0.7	0.9	0.2	0.2	1.4	1.2	7.5	9.6	4.9	22.2	51.1	—
内部系	421	0.2	0.7	—	—	0.7	0.5	2.4	5.7	4.5	21.1	63.2	1.0
知的障がい	152	3.3	9.9	9.2	5.9	19.7	13.2	23.7	5.9	1.3	5.3	2.6	—
精神障がい	220	0.9	1.8	3.2	0.9	8.2	10.9	28.2	23.2	4.1	12.3	6.4	—
重複障がい	75	2.7	8.0	9.3	2.7	9.3	6.7	25.3	9.3	—	17.3	9.3	—

②居住地区

問4 現在、あなたがお住まいの地域はどちらですか。入所・入院中の方は、ご自宅のある地域をお答えください。(1つに〇)

「沼間」の割合が17.1%と最も高く、次いで「桜山」の割合が17.0%、「逗子」の割合が14.6%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	逗子	桜山	沼間	池子	山の根	久木	小坪	新宿	無回答
全 体	1314	14.6	17.0	17.1	11.5	4.6	14.3	12.7	4.2	3.9
0～5歳	23	17.4	34.8	4.3	8.7	—	17.4	4.3	13.0	—
6～17歳	49	10.2	14.3	18.4	16.3	4.1	14.3	14.3	8.2	—
18～29歳	61	13.1	16.4	23.0	14.8	6.6	6.6	11.5	6.6	1.6
30～49歳	179	14.0	16.8	19.6	12.8	4.5	17.9	8.4	5.6	0.6
50～64歳	180	16.7	14.4	16.1	11.1	6.1	13.9	14.4	4.4	2.8
65歳以上	785	15.3	18.2	17.5	11.3	4.6	14.5	14.0	3.3	1.3

【障がいの種別】

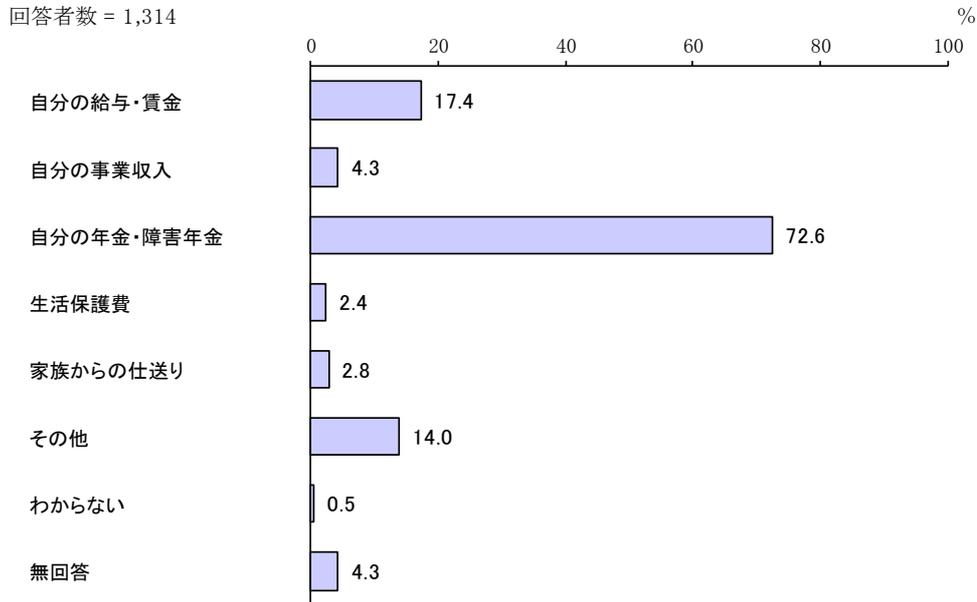
単位：％

区分	有効回答数 (件)	逗子	桜山	沼間	池子	山の根	久木	小坪	新宿	無回答
全 体	1314	14.6	17.0	17.1	11.5	4.6	14.3	12.7	4.2	3.9
身体障がい	946	15.8	18.1	16.9	10.9	4.3	15.0	14.0	3.8	1.3
視聴覚系	242	13.2	18.2	16.1	10.3	5.8	14.0	15.3	5.0	2.1
運動系	427	15.2	18.7	18.7	11.5	2.8	14.8	13.1	3.7	1.4
内部系	421	16.2	16.4	18.1	12.1	4.8	14.7	13.3	2.9	1.7
知的障がい	152	11.8	14.5	18.4	14.5	5.3	17.1	11.8	4.6	2.0
精神障がい	220	13.6	17.7	19.1	11.8	5.9	15.0	10.5	5.0	1.4
重複障がい	75	14.7	18.7	17.3	12.0	2.7	20.0	10.7	4.0	—

③主な収入

問5 あなたご自身のおもな収入は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分の年金・障害年金」の割合が72.6%と最も高く、次いで「自分の給与・賃金」の割合が17.4%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～49歳で「自分の給与・賃金」の割合が、65歳以上で「自分の年金・障害年金」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	自分の給与・賃金	自分の事業収入	自分の年金・障害年金	生活保護費	家族からの仕送り	その他	わからない	無回答
全体	1314	17.4	4.3	72.6	2.4	2.8	14.0	0.5	4.3
0～5歳	23	4.3	—	—	—	4.3	69.6	4.3	17.4
6～17歳	49	4.1	—	—	2.0	2.0	77.6	4.1	12.2
18～29歳	61	47.5	6.6	54.1	1.6	9.8	16.4	1.6	—
30～49歳	179	45.3	2.8	69.8	3.4	3.9	10.1	0.6	1.7
50～64歳	180	35.6	3.9	52.8	5.6	5.0	15.6	1.1	1.7
65歳以上	785	6.5	5.2	88.9	1.8	1.7	9.3	—	0.9

【障がいの種別】

全体的に、「自分の年金・障害年金」の割合が高くなっていますが、他に比べ、知的障がい、精神障がいで「自分の給与・賃金」の割合が高くなっています。

単位：％

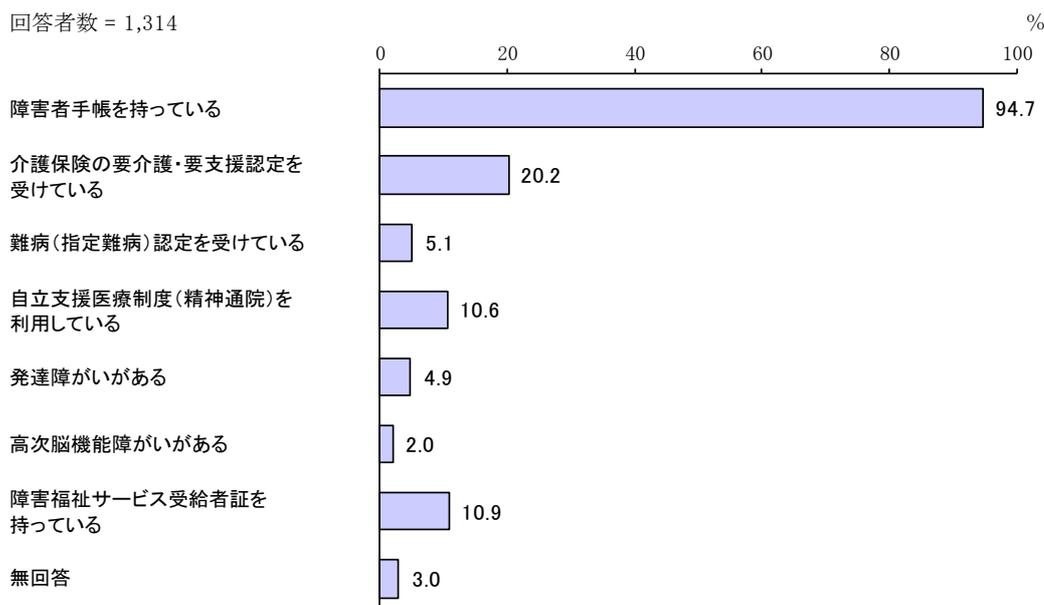
区分	有効回答数 (件)	自分の給与・賃金	自分の事業収入	自分の年金・ 障害年金	生活保護費	家族からの仕送り	その他	わからない	無回答
全 体	1314	17.4	4.3	72.6	2.4	2.8	14.0	0.5	4.3
身体障がい	946	14.4	5.1	79.8	2.5	1.9	10.9	0.3	1.7
視聴覚系	242	9.5	3.3	80.6	3.7	3.7	10.3	0.4	2.9
運動系	427	16.2	5.2	78.5	2.6	2.3	13.1	0.5	1.4
内部系	421	13.3	5.5	82.7	2.9	1.2	9.5	—	1.2
知的障がい	152	31.6	2.0	65.8	0.7	3.9	23.0	2.0	3.9
精神障がい	220	24.1	2.7	66.4	3.6	7.3	17.7	0.9	0.5
重複障がい	75	18.7	1.3	72.0	1.3	4.0	21.3	2.7	2.7

(3) 心身の状況について

①障がいの種類と程度

問6 あなたは、下記のどちらに当てはまりますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、「障害者手帳を持っている」をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

「障害者手帳を持っている」の割合が94.7%と最も高く、次いで「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」の割合が20.2%、「障害福祉サービス受給者証を持っている」の割合が10.9%となっています。



【年齢別】

年齢が低くなるにつれ「障害福祉サービス受給者証を持っている」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、17歳以下で「発達障がいがある」の割合が、30～49歳で「自立支援医療制度(精神通院)を利用している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	障害者手帳を持っている	介護保険の要介護・要支援認定を受けている	難病(指定難病)認定を受けている	自立支援医療制度を利用している	発達障がいがある	高次脳機能障がいがある	障害福祉サービス受給者証	無回答
全体	1314	94.7	20.2	5.1	10.6	4.9	2.0	10.9	3.0
0～5歳	23	52.2	—	4.3	—	34.8	—	43.5	4.3
6～17歳	49	73.5	—	2.0	6.1	40.8	2.0	36.7	4.1
18～29歳	61	100.0	—	—	18.0	14.8	3.3	21.3	—
30～49歳	179	99.4	1.1	1.7	33.0	12.3	2.2	24.0	0.6
50～64歳	180	99.4	9.4	6.1	21.7	1.1	2.8	7.8	—
65歳以上	785	98.6	31.3	6.5	3.4	0.4	1.8	5.7	0.3

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいで「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」の割合が、知的障がい、重複障がいで「障害福祉サービス受給者証を持っている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	障害者手帳を 持っている	要介護・要支援認定を 受けている	難病（指定難病） 認定を受けている	自立支援医療制度を 利用	発達障がいがある	高次脳機能障がい がある	障害福祉サービス 受給者証	無回答
全 体	1314	94.7	20.2	5.1	10.6	4.9	2.0	10.9	3.0
身体障がい	946	99.4	26.8	7.1	1.7	0.5	2.0	6.2	—
視聴覚系	242	100.0	33.1	9.5	1.7	0.8	4.1	13.2	—
運動系	427	100.0	34.4	9.1	2.1	0.7	4.2	8.4	—
内部系	421	100.0	21.4	6.9	1.7	—	1.0	3.6	—
知的障がい	152	98.0	1.3	1.3	11.8	15.1	0.7	32.2	—
精神障がい	220	100.0	11.8	1.4	53.2	21.8	11.8	20.5	—
重複障がい	75	100.0	21.3	6.7	16.0	34.7	26.7	40.0	—

問6で「障害者手帳を持っている」と答えた方にお聞きします。

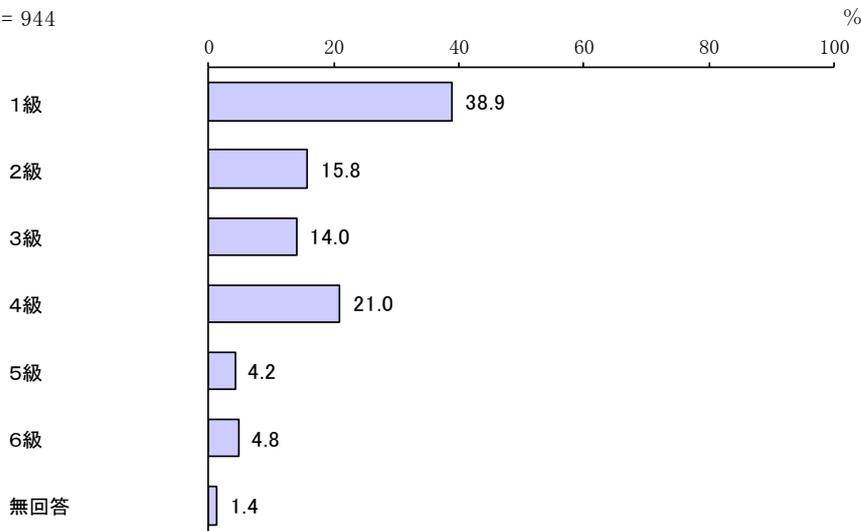
付問① あなたがお持ちの障害者手帳は次のどれですか。

（あてはまるものすべてに○をつけ、1～6をお選びの場合、付問②にもお答えください。）

①身体障害者手帳の等級

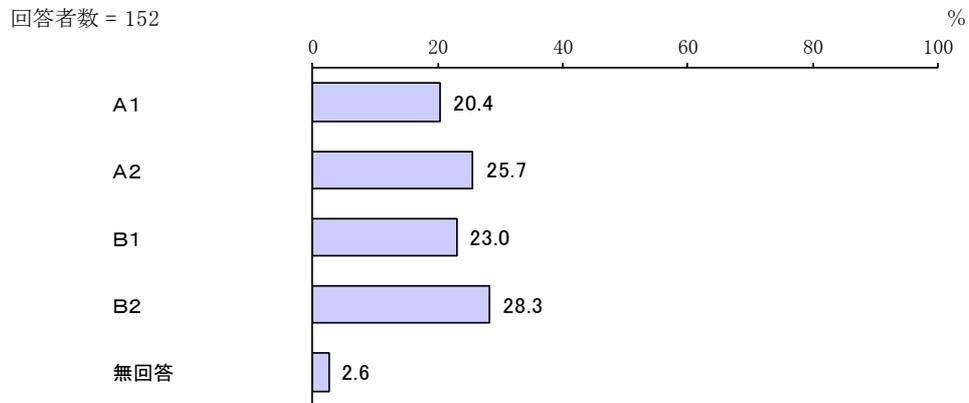
「1級」の割合が38.9%と最も高く、次いで「4級」の割合が21.0%、「2級」の割合が15.8%となっています。

回答者数 = 944



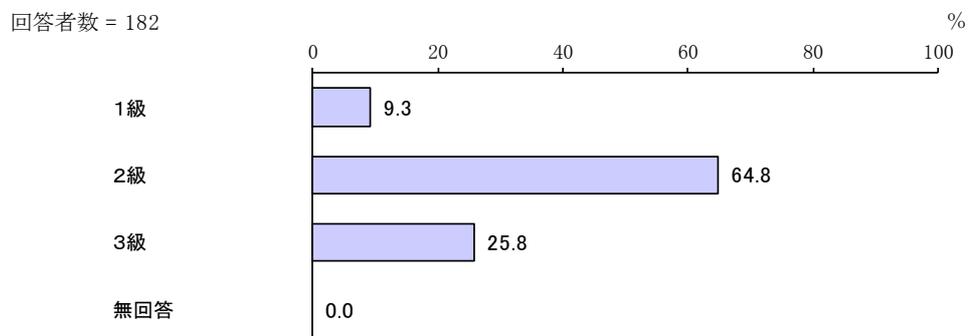
②療育手帳の等級

「B 2」の割合が 28.3%と最も高く、次いで「A 2」の割合が 25.7%、「B 1」の割合が 23.0%となっています。



③精神障害者保健福祉手帳の等級

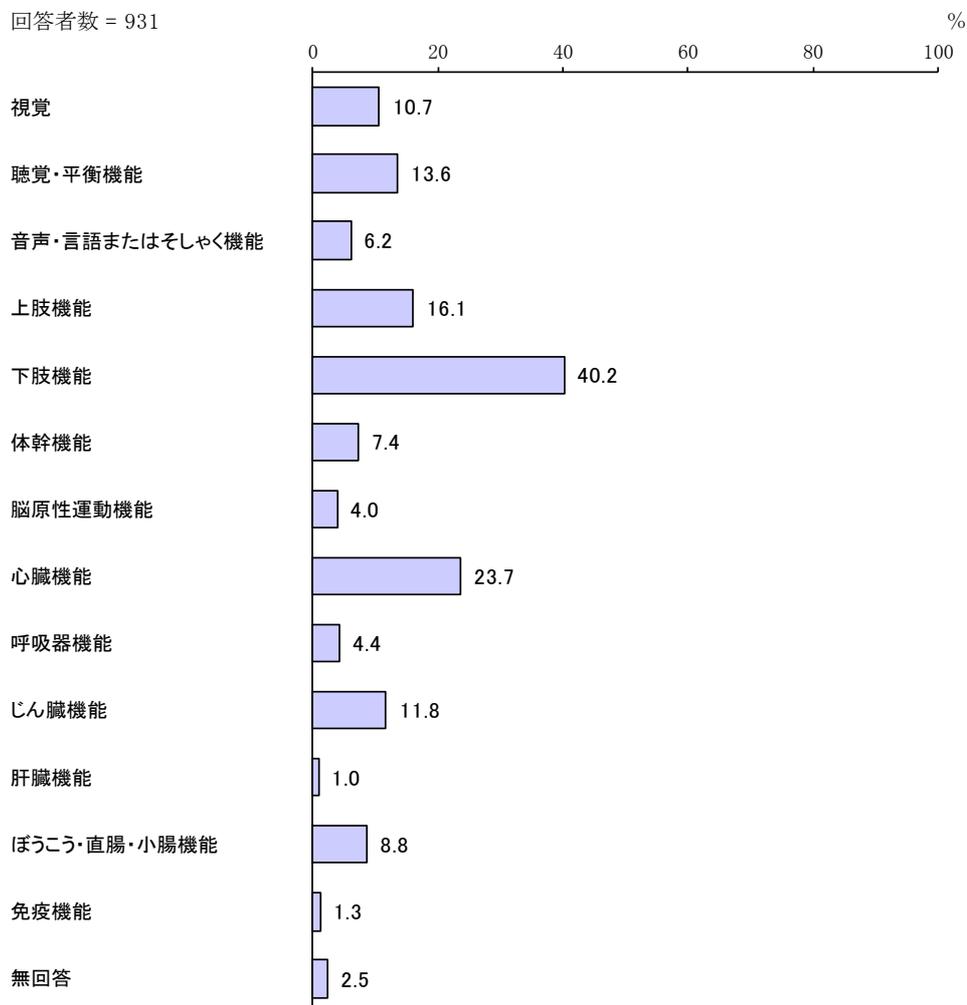
「2級」の割合が 64.8%と最も高く、次いで「3級」の割合が 25.8%となっています。



身体障害者手帳をお持ちの方のみ

付問② あなたはどのような障がいがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「下肢機能」の割合が40.2%と最も高く、次いで「心臓機能」の割合が23.7%、「上肢機能」の割合が16.1%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～17歳で「聴覚・平衡機能」の割合が、50歳以上で「じん臓機能」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	視覚	聴覚・平衡機能	音声・言語またはそしゃく機能	上肢機能	下肢機能	体幹機能	脳原性運動機能	心臓機能	呼吸器機能	じん臓機能	肝臓機能	小腸機能	ぼうこう・直腸	免疫機能	無回答
全体	931	10.7	13.6	6.2	16.1	40.2	7.4	4.0	23.7	4.4	11.8	1.0	8.8	1.3	2.5	
0～5歳	7	—	71.4	—	28.6	42.9	28.6	—	14.3	—	—	—	—	—	—	
6～17歳	8	25.0	37.5	25.0	37.5	37.5	37.5	25.0	25.0	12.5	—	—	12.5	—	—	
18～29歳	10	—	20.0	10.0	50.0	60.0	20.0	—	10.0	—	—	—	20.0	—	—	
30～49歳	57	8.8	14.0	10.5	31.6	47.4	15.8	7.0	8.8	1.8	7.0	—	3.5	—	1.8	
50～64歳	112	9.8	10.7	8.9	25.0	48.2	9.8	4.5	13.4	3.6	15.2	—	8.0	1.8	2.7	
65歳以上	733	11.2	13.2	5.3	12.8	38.3	5.7	3.5	26.5	4.5	12.1	1.2	9.1	1.4	2.6	

【障がいの種別】

身体障がいの内部系で「心臓機能」の割合が高くなっています。また、知的障がい、精神障がい、重複障がいで「下肢機能」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	視覚	聴覚・平衡機能	音声・言語またはそしゃく機能	上肢機能	下肢機能	体幹機能	脳原性運動機能	心臓機能	呼吸器機能	じん臓機能	肝臓機能	小腸機能	ぼうこう・直腸	免疫機能	無回答
全体	931	10.7	13.6	6.2	16.1	40.2	7.4	4.0	23.7	4.4	11.8	1.0	8.8	1.3	2.5	
身体障がい	931	10.7	13.6	6.2	16.1	40.2	7.4	4.0	23.7	4.4	11.8	1.0	8.8	1.3	2.5	
視聴覚系	242	41.3	52.5	24.0	16.5	32.6	11.2	9.1	10.7	3.3	5.8	2.1	4.1	1.7	—	
運動系	427	7.0	9.6	10.8	35.1	87.6	16.2	8.7	6.8	3.3	3.7	0.9	4.2	1.9	—	
内部系	421	5.0	7.8	4.0	5.2	15.0	3.3	2.6	52.5	9.7	26.1	2.1	19.5	2.9	—	
知的障がい	23	13.0	26.1	26.1	39.1	73.9	52.2	17.4	4.3	4.3	—	—	—	—	—	
精神障がい	28	17.9	10.7	32.1	64.3	67.9	25.0	21.4	14.3	3.6	—	—	—	—	3.6	
重複障がい	49	16.3	16.3	30.6	53.1	69.4	36.7	20.4	10.2	4.1	—	—	—	—	2.0	

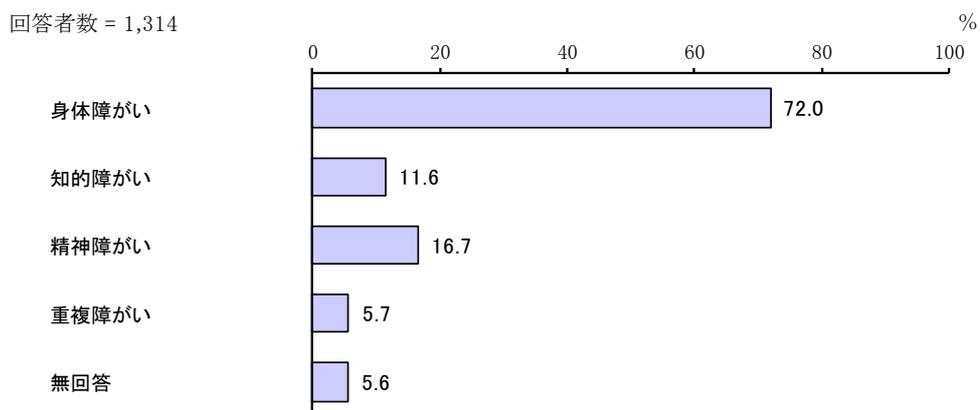
【集計上の「障がいの種別」について】

表に掲載している「障がいの種別」は、問6の認定等の状況とお持ちの障害者手帳の種類から再集計したものです。

手帳をお持ちでない方のうち、介護保険の要介護・要支援認定を受けている方、難病（指定難病）認定を受けている方は「身体障がい」、自立支援医療制度（精神通院）を利用されている方、発達障がいがある方、高次脳機能障がいがある方は「精神障がい」に区分しています。

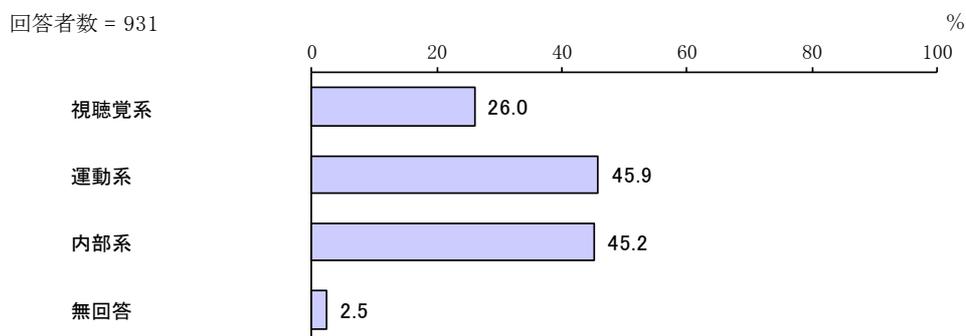
また、複数の障がいをお持ちの方は、「重複障がい」として区分し、再掲しました。

◆障がいの種別（問6付問①の再集計）



「身体障がい」については、問6付問②への回答から、視聴覚および口腔機能を「視聴覚系」、体幹・上下肢機能等を「運動系」、内臓・内分泌等を「内部系」に区分しました。

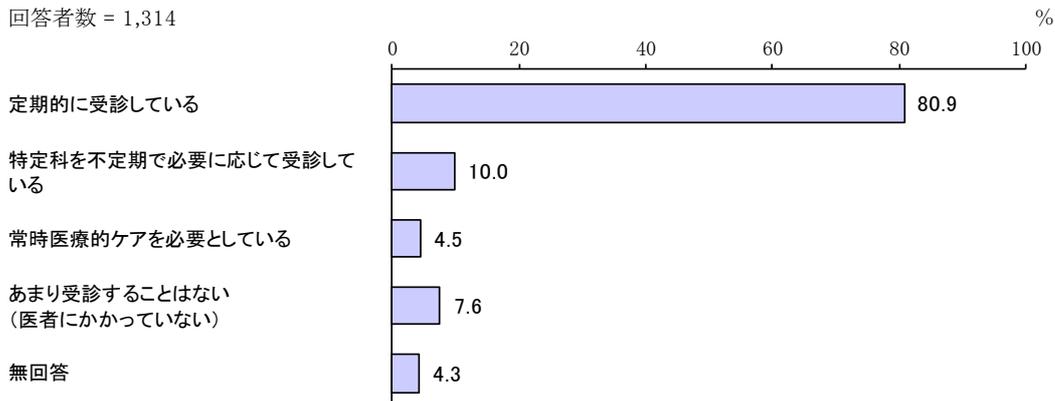
◆身体障がいの種別（問6付問②の再集計）



②医療機関との関わり

問7 あなたは、定期的に医療機関での受診をしていますか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、「定期的に受診している」または「特定科を不定期で必要に応じて受診している」をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

「定期的に受診している」の割合が80.9%と最も高く、次いで「特定科を不定期で必要に応じて受診している」の割合が10.0%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「定期的に受診している」の割合が、年齢が低くなるにつれ「あまり受診することはない (医者にかかっていない)」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	定期的に受診している	特定科を不定期で必要に応じて受診している	常時医療的ケアを必要としている	あまり受診することはない	無回答
全体	1314	80.9	10.0	4.5	7.6	4.3
0～5歳	23	43.5	17.4	4.3	34.8	4.3
6～17歳	49	55.1	10.2	2.0	32.7	6.1
18～29歳	61	73.8	11.5	—	19.7	1.6
30～49歳	179	79.3	11.7	1.7	10.1	2.2
50～64歳	180	83.3	11.7	3.3	7.2	1.7
65歳以上	785	85.2	8.7	6.0	4.2	4.1

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいの内部系、精神障がいで「定期的に受診している」の割合が高くなっています。

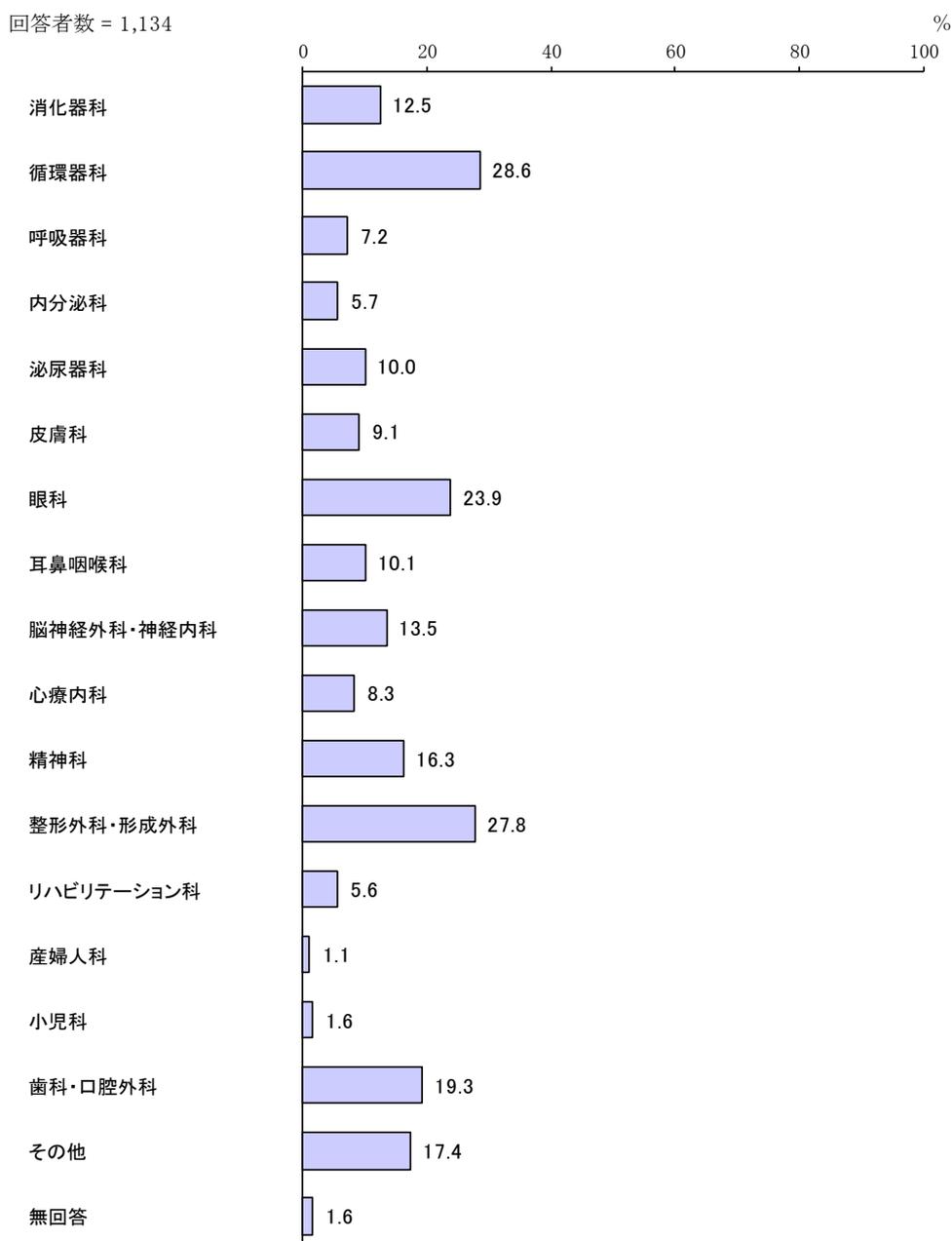
単位：％

区分	有効回答数 (件)	定期的に 受診している	特定科を不定期で 必要に応じて受診	常時医療的ケアを 必要としている	あまり受診する ことはない	無回答
全 体	1314	80.9	10.0	4.5	7.6	4.3
身体障がい	946	83.7	9.6	5.8	6.1	3.1
視聴覚系	242	78.5	13.2	7.4	8.3	4.5
運動系	427	82.9	10.1	5.9	7.7	2.6
内部系	421	88.8	8.3	8.1	1.7	3.1
知的障がい	152	68.4	9.9	1.3	21.1	3.9
精神障がい	220	85.9	11.4	3.6	4.5	1.8
重複障がい	75	72.0	14.7	8.0	16.0	1.3

問7で「定期的に受診している」「特定科を不定期で必要に応じて受診している」と答えた方にお聞きします。

付問① あなたがよく受診する診療科は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「循環器科」の割合が28.6%と最も高く、次いで「整形外科・形成外科」の割合が27.8%、「眼科」の割合が23.9%となっています。



【年齢別】

0～5歳で「耳鼻咽喉科」の割合が、18～64歳で「精神科」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	消化器科	循環器科	呼吸器科	内分泌科	泌尿器科	皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	脳神経外科・神経内科	心療内科	精神科	整形外科・形成外科	リハビリテーション科	産婦人科	小児科	歯科・口腔外科	その他	無回答
全体	1134	12.5	28.6	7.2	5.7	10.0	9.1	23.9	10.1	13.5	8.3	16.3	27.8	5.6	1.1	1.6	19.3	17.4	1.6
0～5歳	14	—	21.4	7.1	14.3	7.1	14.3	21.4	50.0	14.3	7.1	—	28.6	14.3	—	42.9	7.1	35.7	—
6～17歳	30	3.3	6.7	—	3.3	6.7	13.3	23.3	23.3	16.7	13.3	26.7	16.7	3.3	—	26.7	33.3	26.7	—
18～29歳	48	—	2.1	2.1	—	4.2	6.3	6.3	18.8	20.8	16.7	43.8	10.4	4.2	6.3	4.2	22.9	12.5	—
30～49歳	156	6.4	9.0	1.9	7.1	3.8	10.9	9.6	9.6	14.1	12.8	44.2	15.4	2.6	3.2	1.3	19.9	9.0	1.3
50～64歳	160	13.1	17.5	4.4	5.0	8.1	8.1	20.0	4.4	14.4	11.3	31.9	22.5	5.0	1.3	—	16.3	23.1	1.3
65歳以上	701	15.3	38.4	9.4	6.0	12.7	8.6	29.1	9.6	12.1	5.8	4.9	33.5	6.6	0.4	—	19.0	17.8	2.0

【障がいの種別】

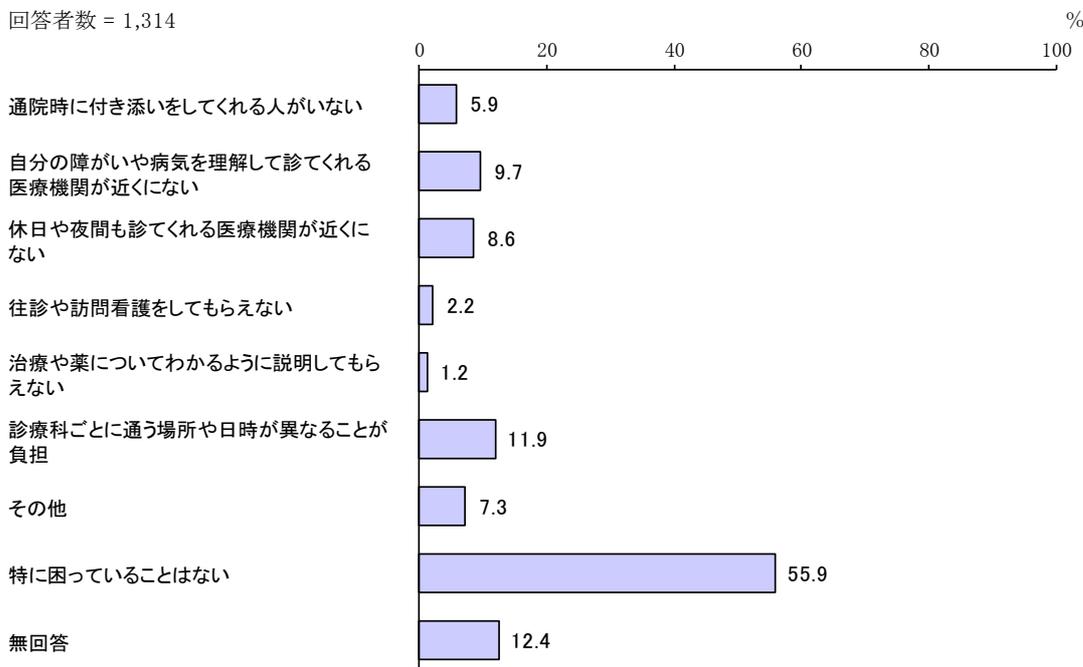
単位：％

区分	有効回答数 (件)	消化器科	循環器科	呼吸器科	内分泌科	泌尿器科	皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	脳神経外科・神経内科	心療内科	精神科	整形外科・形成外科	リハビリテーション科	産婦人科	小児科	歯科・口腔外科	その他	無回答
全体	1134	12.5	28.6	7.2	5.7	10.0	9.1	23.9	10.1	13.5	8.3	16.3	27.8	5.6	1.1	1.6	19.3	17.4	1.6
身体障がい	838	14.9	35.7	8.6	5.8	12.2	8.5	27.4	9.4	13.7	4.9	3.5	34.1	7.2	0.8	1.0	18.6	19.3	1.9
視聴覚系	207	15.0	24.2	8.7	8.2	11.1	10.1	46.4	23.2	21.7	6.3	3.4	27.1	8.2	1.0	1.9	22.2	12.6	1.0
運動系	373	13.4	22.5	8.8	7.2	8.0	9.4	21.7	6.4	20.1	4.6	4.8	53.1	13.4	0.8	1.3	18.0	20.6	1.1
内部系	390	16.9	54.9	10.5	4.1	17.2	8.5	26.2	6.9	9.5	6.7	2.1	20.3	5.4	0.5	0.8	20.0	20.8	1.8
知的障がい	114	2.6	9.6	2.6	5.3	4.4	13.2	16.7	15.8	23.7	10.5	30.7	20.2	3.5	2.6	9.6	30.7	16.7	—
精神障がい	200	5.5	7.0	2.5	6.5	6.5	10.5	9.0	11.0	11.0	18.5	67.0	10.0	3.0	1.5	1.5	17.5	12.5	1.5
重複障がい	59	1.7	11.9	1.7	6.8	10.2	11.9	11.9	16.9	32.2	6.8	30.5	30.5	11.9	—	11.9	30.5	20.3	1.7

問8 あなたが、医療について困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に困っていることはない」の割合が55.9%と最も高く、次いで「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」の割合が11.9%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	通院時に付き添いをしてくれる人がいない	障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない	休日や夜間も診てくれる医療機関が近くにない	往診や訪問看護をしてもらえない	治療や薬についてわかるように説明してもらえない	診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	1314	5.9	9.7	8.6	2.2	1.2	11.9	7.3	55.9	12.4
0～5歳	23	—	13.0	13.0	—	—	17.4	4.3	47.8	21.7
6～17歳	49	2.0	18.4	4.1	—	—	8.2	22.4	51.0	2.0
18～29歳	61	4.9	23.0	11.5	3.3	1.6	11.5	18.0	42.6	4.9
30～49歳	179	9.5	12.8	11.2	1.7	1.7	7.8	11.2	55.9	5.6
50～64歳	180	9.4	15.6	8.9	2.8	2.8	15.0	8.9	51.7	7.2
65歳以上	785	4.7	6.2	8.0	2.4	0.9	12.5	4.6	58.7	15.2

【障がいの種別】

すべての障がいで「特に困っていることはない」の割合が最も高くなっているものの、重複障がいで「障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない」の割合が高くなっています。

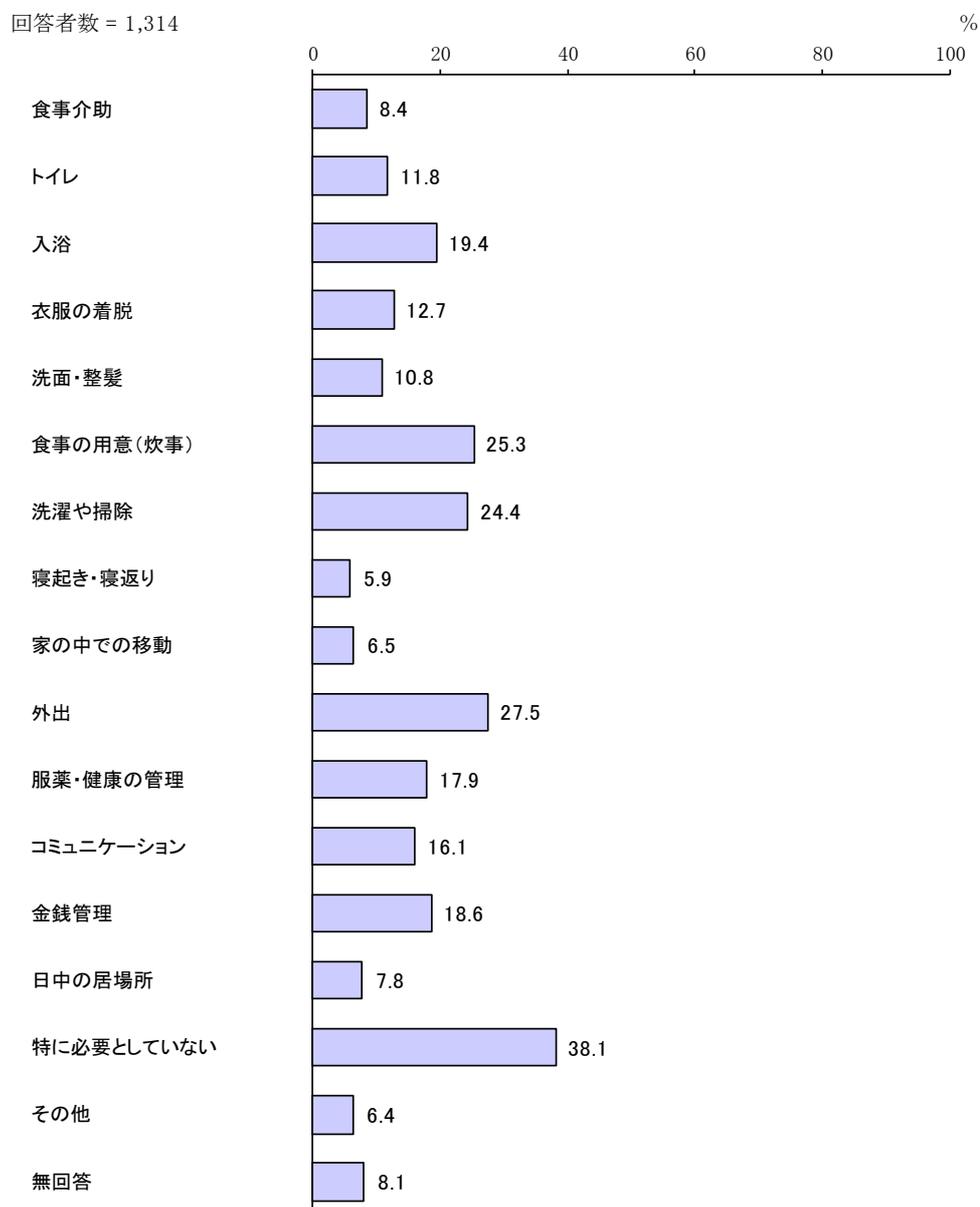
単位：%

区分	有効回答数(件)	通院時に付き添いをして くれる人がいない	障がいや病気を理解して診て くれる医療機関が近くにない	休日や夜間も診てくれる医療 機関が近くにない	往診や訪問看護をして もらえない	治療や薬についてわかるよう に説明してもらえない	診療科ごとに通う場所や 日時が異なることが負担	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	1314	5.9	9.7	8.6	2.2	1.2	11.9	7.3	55.9	12.4
身体障がい	946	5.8	8.1	7.9	2.2	1.0	12.6	6.0	57.6	13.5
視聴覚系	242	7.4	10.3	10.3	2.1	0.4	13.6	7.0	53.3	14.0
運動系	427	7.5	9.8	9.1	2.3	1.2	12.4	7.5	54.1	13.8
内部系	421	5.9	7.6	9.5	3.6	1.2	16.6	5.9	55.3	13.1
知的障がい	152	9.9	16.4	11.8	1.3	0.7	11.8	11.8	52.6	5.9
精神障がい	220	7.3	15.0	11.4	2.3	2.7	10.5	13.6	48.2	7.3
重複障がい	75	14.7	18.7	13.3	—	—	13.3	13.3	42.7	10.7

③支援を必要とすること

問9 あなたが支援を必要とすることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「特に必要としていない」の割合が38.1%と最も高く、次いで「外出」の割合が27.5%、「食事の用意(炊事)」の割合が25.3%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「特に必要としていない」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	食事介助	トイレ	入浴	衣服の着脱	洗面・整髪	食事の用意(炊事)	洗濯や掃除	寝起き・寝返り	家の中での移動	外出	服薬・健康の管理	コミュニケーション	金銭管理	日中の居場所	特に必要としていない	その他	無回答
全体	1314	8.4	11.8	19.4	12.7	10.8	25.3	24.4	5.9	6.5	27.5	17.9	16.1	18.6	7.8	38.1	6.4	8.1
0～5歳	23	21.7	34.8	21.7	26.1	21.7	30.4	30.4	4.3	8.7	26.1	21.7	43.5	21.7	8.7	8.7	8.7	26.1
6～17歳	49	16.3	20.4	34.7	18.4	24.5	44.9	38.8	6.1	6.1	40.8	34.7	51.0	42.9	40.8	14.3	8.2	6.1
18～29歳	61	16.4	18.0	24.6	18.0	24.6	36.1	42.6	8.2	4.9	32.8	39.3	50.8	50.8	24.6	26.2	6.6	—
30～49歳	179	6.1	10.6	12.3	8.4	8.9	27.9	21.2	3.4	3.4	24.0	21.8	30.2	29.6	15.1	33.5	11.2	3.4
50～64歳	180	5.0	8.9	13.9	8.3	6.1	21.7	18.9	2.8	4.4	19.4	13.9	17.2	15.6	6.1	43.3	7.8	6.7
65歳以上	785	8.4	11.3	21.1	13.8	10.2	23.6	24.3	7.4	8.0	29.7	15.4	7.0	13.0	3.4	41.5	5.0	8.7

【障がいの種別】

身体障がいでは「特に必要としていない」の割合が最も高いものの、視聴覚系、運動系で「外出」の割合が高くなっています。

単位：％

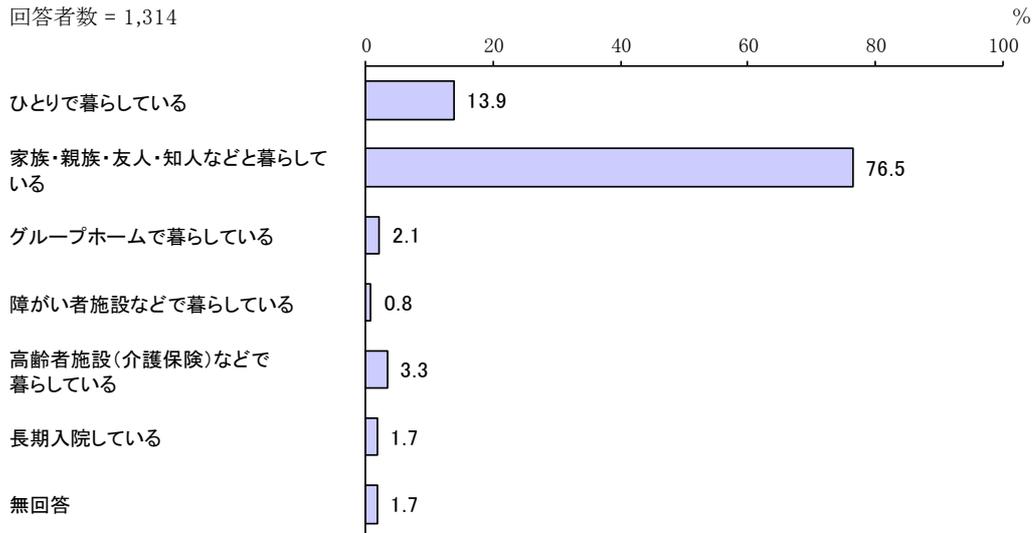
区分	有効回答数(件)	食事介助	トイレ	入浴	衣服の着脱	洗面・整髪	食事の用意(炊事)	洗濯や掃除	寝起き・寝返り	家の中での移動	外出	服薬・健康の管理	コミュニケーション	金銭管理	日中の居場所	特に必要としていない	その他	無回答
全体	1314	8.4	11.8	19.4	12.7	10.8	25.3	24.4	5.9	6.5	27.5	17.9	16.1	18.6	7.8	38.1	6.4	8.1
身体障がい	944	9.2	12.3	21.2	14.2	10.6	23.0	23.9	7.1	8.5	28.1	15.3	9.1	12.8	4.2	43.3	5.6	8.1
視聴覚系	242	16.1	18.2	29.3	20.7	16.5	34.3	29.8	10.7	11.2	43.4	22.3	20.7	19.0	6.6	24.0	8.3	6.6
運動系	427	15.2	20.1	33.0	24.8	18.7	32.3	34.7	13.1	15.2	37.0	21.3	11.2	19.7	7.5	35.6	6.6	6.3
内部系	421	6.2	9.3	16.4	9.0	6.4	18.3	20.0	3.8	6.2	23.8	12.8	5.7	10.0	2.4	51.1	4.8	9.5
知的障がい	152	18.4	28.9	34.2	22.4	28.9	52.0	44.7	9.2	8.6	48.7	45.4	48.7	57.9	30.3	17.8	7.9	2.6
精神障がい	220	6.4	9.1	14.5	8.6	10.5	26.8	22.7	5.5	5.0	23.6	22.3	32.3	27.3	18.6	28.6	7.7	5.0
重複障がい	75	26.7	37.3	50.7	32.0	40.0	52.0	50.7	20.0	22.7	56.0	49.3	45.3	53.3	37.3	18.7	6.7	2.7

(4) あなたの暮らし方について

①現在の暮らし方

問 10 あなたは、現在どのようなかたちで暮らしていますか。
 (1つに○をつけ、「家族・親族・友人・知人などと暮らしている」をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

「家族・親族・友人・知人などと暮らしている」の割合が76.5%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしている」の割合が13.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	ひとりで暮らしている	家族・親族・友人・知人などと暮らしている	グループホームで暮らしている	障がい者施設などで暮らしている	高齢者施設(介護保険)などで暮らしている	長期入院している	無回答
全 体	1314	13.9	76.5	2.1	0.8	3.3	1.7	1.7
0～5歳	23	—	100.0	—	—	—	—	—
6～17歳	49	—	100.0	—	—	—	—	—
18～29歳	61	1.6	93.4	4.9	—	—	—	—
30～49歳	179	9.5	79.9	8.9	—	—	1.7	—
50～64歳	180	18.9	72.2	2.8	2.2	1.1	1.7	1.1
65歳以上	785	16.3	74.1	0.4	0.8	5.2	2.0	1.1

【障がいの種別】

知的障がいにて特に「家族・親族・友人・知人などと暮らしている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障がい、重複障がいで「グループホームで暮らしている」の割合が高くなっています。

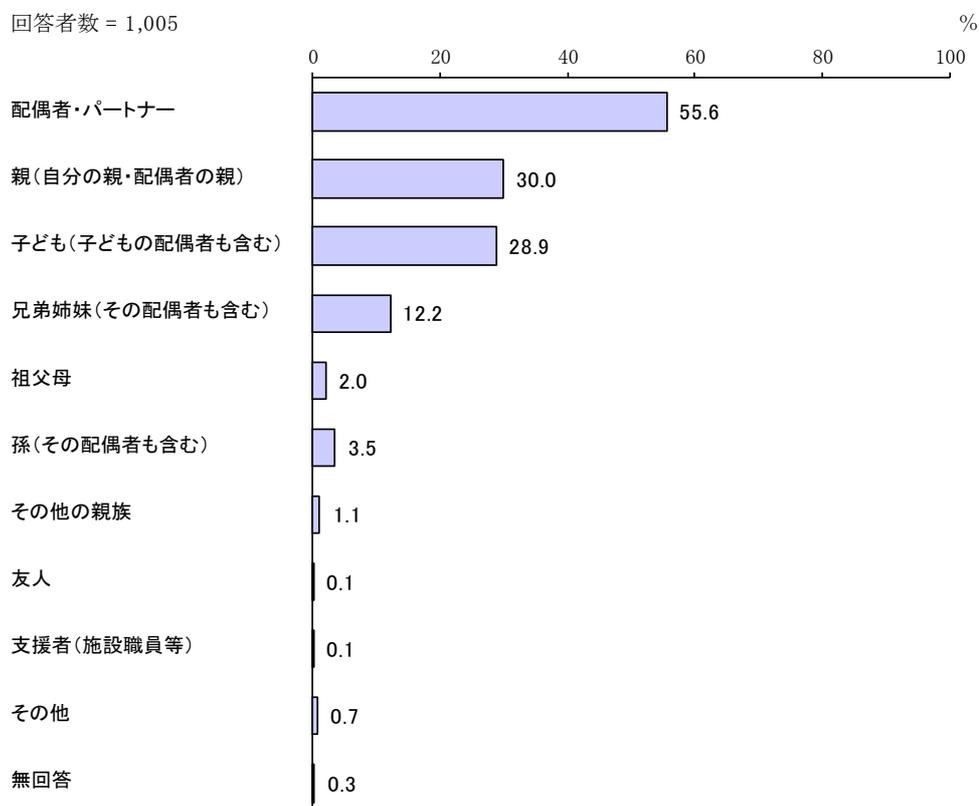
単位：％

区分	有効回答数 (件)	ひとりで暮らしている	家族・親族・友人・知人 などと暮らしている	グループホームで暮 らしている	障がい者施設などで 暮らしている	高齢者施設(介護保険) などで暮らしている	長期入院している	無回答
全 体	1314	13.9	76.5	2.1	0.8	3.3	1.7	1.7
身体障がい	946	15.4	76.4	0.7	0.6	4.2	1.6	1.0
視聴覚系	242	16.5	72.7	0.4	1.7	5.8	1.7	1.2
運動系	427	13.8	75.4	1.6	1.4	5.2	2.3	0.2
内部系	421	15.2	79.8	—	0.2	2.9	0.7	1.2
知的障がい	152	2.6	84.2	9.2	3.3	0.7	—	—
精神障がい	220	15.9	74.1	3.2	—	2.3	4.1	0.5
重複障がい	75	6.7	80.0	5.3	1.3	4.0	2.7	—

問 10 で「家族・親族・友人・知人などと暮らしている」と答えた方にお聞きします。

付問① 現在、あなたはどなたと暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者・パートナー」の割合が 55.6%と最も高く、次いで「親（自分の親・配偶者の親）」の割合が 30.0%、「子ども（子どもの配偶者も含む）」の割合が 28.9%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者・パートナー	親 (自分の親・配偶者の親)	子ども (子どもの配偶者も含む)	兄弟姉妹 (その配偶者も含む)	祖父母	孫 (その配偶者も含む)	その他の親族	友人	支援者 (施設職員等)	その他	無回答
全体	1005	55.6	30.0	28.9	12.2	2.0	3.5	1.1	0.1	0.1	0.7	0.3
0～5歳	23	—	95.7	—	60.9	8.7	—	—	—	—	4.3	—
6～17歳	49	4.1	95.9	4.1	49.0	14.3	—	8.2	—	—	—	—
18～29歳	57	—	100.0	1.8	42.1	12.3	—	1.8	—	—	—	—
30～49歳	143	21.0	75.5	13.3	18.9	2.1	0.7	1.4	—	0.7	0.7	0.7
50～64歳	130	58.5	40.8	24.6	12.3	0.8	—	0.8	0.8	—	—	—
65歳以上	582	75.3	1.7	39.3	2.9	—	5.7	0.5	—	—	0.9	0.3

【障がいの種別】

身体障がいでは「配偶者・パートナー」の割合が最も高いのに対し、知的障がい、精神障がい、重複障がいでは「親（自分の親・配偶者の親）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者・パートナー	親 (自分の親・配偶者の親)	子ども (子どもの配偶者も含む)	兄弟姉妹 (その配偶者も含む)	祖父母	孫 (その配偶者も含む)	その他の親族	友人	支援者 (施設職員等)	その他	無回答
全体	1005	55.6	30.0	28.9	12.2	2.0	3.5	1.1	0.1	0.1	0.7	0.3
身体障がい	723	70.1	12.2	36.9	5.4	0.8	4.4	0.7	—	0.1	0.7	0.1
視聴覚系	176	65.9	15.3	38.6	6.8	2.3	4.0	1.1	—	—	0.6	—
運動系	322	68.6	14.9	37.9	6.8	0.9	4.3	0.6	—	0.3	1.2	—
内部系	336	75.0	8.6	34.8	3.6	0.3	4.5	0.6	—	—	0.6	0.3
知的障がい	128	3.1	91.4	1.6	39.1	9.4	—	3.9	—	0.8	0.8	1.6
精神障がい	163	25.8	69.9	9.8	21.5	3.7	1.2	1.8	0.6	0.6	0.6	0.6
重複障がい	60	20.0	76.7	6.7	26.7	6.7	—	3.3	—	1.7	1.7	1.7

②日中の過ごし方

問 11 あなたは、通院以外に定期的に通っているところがありますか。
(あてはまるものすべてに○をつけ、1～15に○をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

「特に通っているところはない」の割合が37.5%と最も高く、次いで「職場」の割合が12.1%、「介護保険のデイサービス・デイケア施設」の割合が11.9%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で「職場」の割合が、50歳以上で「特に通っているところはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	保育所	幼稚園	療育施設	小中学校 (普通級・通級)	小中学校 (特別支援学級)	高等学校	特別支援学校	大学・短大・専門学校・ 大学院	ことば・きこえの 教室	放課後児童クラブ
全 体	1314	0.5	0.9	3.0	1.6	1.1	0.2	1.1	0.5	0.2	0.6
0～5歳	23	26.1	39.1	91.3	—	—	—	8.7	—	—	4.3
6～17歳	49	—	2.0	28.6	38.8	26.5	6.1	22.4	—	4.1	14.3
18～29歳	61	1.6	—	3.3	—	—	—	—	6.6	—	—
30～49歳	179	—	1.1	0.6	1.1	0.6	—	0.6	0.6	—	—
50～64歳	180	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
65歳以上	785	—	—	0.3	—	—	—	—	0.1	—	—

区分	ふれあいスクール	民間の学習塾	職場	障がい者の通所施設 (生活介護、生活訓練等)	介護保険のデイサービス・ デイケア施設	親戚・知人宅	行きつけの店や公共施設	特に通っているところはない	その他	無回答
全 体	1.1	1.1	12.1	8.6	11.9	3.7	11.2	37.5	10.4	9.6
0～5歳	—	4.3	—	—	—	—	8.7	—	—	—
6～17歳	8.2	6.1	2.0	8.2	6.1	8.2	8.2	4.1	22.4	—
18～29歳	—	3.3	44.3	34.4	1.6	1.6	8.2	6.6	14.8	1.6
30～49歳	0.6	—	31.3	22.9	1.7	2.2	12.3	29.1	10.6	5.6
50～64歳	1.1	—	22.8	15.6	3.9	2.8	11.1	41.1	7.8	5.6
65歳以上	1.0	1.1	4.1	1.9	17.3	4.2	11.7	45.0	10.2	12.0

【障がいの種別】

知的障がい、重複障がいで「障がい者の通所施設（生活介護、生活訓練等）」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障がい、精神障がいで「職場」の割合が高くなっています。

単位：％

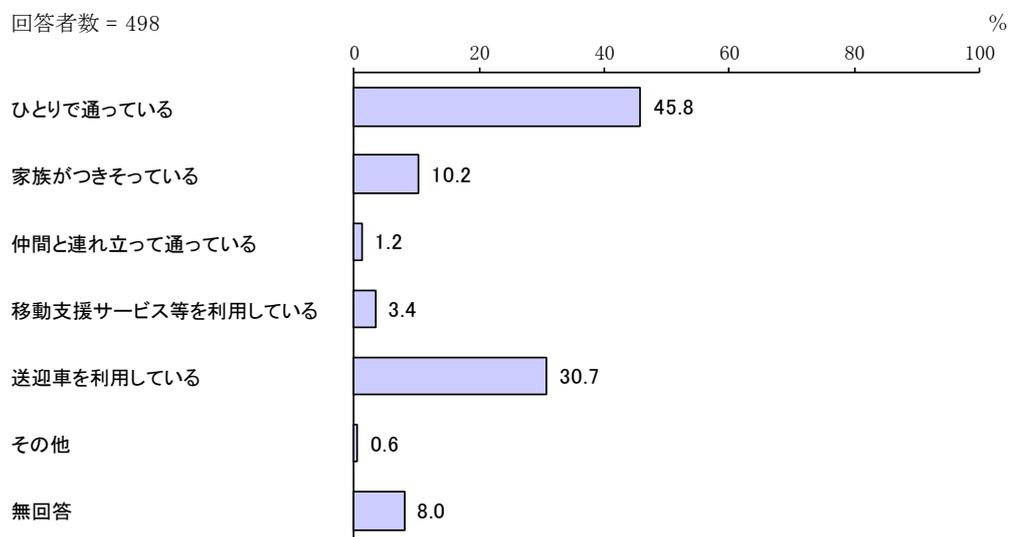
区分	有効回答数(件)	保育所	幼稚園	療育施設	小中学校(普通級・通級)	小中学校(特別支援学級)	高等学校	特別支援学校	大学・短大・専門学校・大学院	ことば・きこえの教室	放課後児童クラブ
全体	1314	0.5	0.9	3.0	1.6	1.1	0.2	1.1	0.5	0.2	0.6
身体障がい	944	0.2	0.1	1.0	0.4	—	—	0.6	0.2	—	0.1
視聴覚系	242	0.4	0.4	1.7	0.8	—	—	1.7	0.8	—	0.4
運動系	427	—	—	1.6	0.2	—	—	0.7	—	—	0.2
内部系	421	0.2	—	0.7	0.7	—	—	—	—	—	0.2
知的障がい	152	1.3	1.3	10.5	6.6	5.3	2.0	7.2	0.7	1.3	3.3
精神障がい	220	—	1.4	2.3	1.8	0.9	—	1.8	1.4	—	0.5
重複障がい	75	—	2.7	9.3	4.0	2.7	1.3	9.3	—	—	2.7

区分	ふれあいスクール	民間の学習塾	職場	障がい者の通所施設(生活介護、生活訓練等)	介護保険のデイサービス・デイケア施設	親戚・知人宅	行きつけの店や公共施設	特に通っているところはない	その他	無回答
全体	1.1	1.1	12.1	8.6	11.9	3.7	11.2	37.5	10.4	9.6
身体障がい	1.1	1.0	9.4	3.8	15.1	4.1	11.5	42.7	9.2	10.2
視聴覚系	2.1	0.4	4.5	5.8	21.9	3.3	9.1	38.0	9.9	10.3
運動系	0.2	0.7	10.1	7.0	21.1	3.3	9.8	38.6	9.4	9.1
内部系	1.4	1.2	10.0	1.9	11.4	5.0	13.5	43.9	9.7	10.5
知的障がい	1.3	2.0	22.4	36.2	2.0	2.6	8.6	13.2	11.8	2.6
精神障がい	0.5	0.5	17.3	19.1	6.8	3.2	12.3	29.5	14.1	8.2
重複障がい	—	—	9.3	36.0	14.7	2.7	10.7	13.3	10.7	4.0

問 11 で「保育所」～「介護保険のデイサービス・デイケア施設」と答えた方にお聞きします。

付問① 主に、どのように通っていますか。(1つに○)

「ひとりで通っている」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「送迎車を利用している」の割合が 30.7%、「家族がつきそっている」の割合が 10.2%となっています。



【年齢別】

65歳以上で「送迎車を利用している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	ひとりで通っている	家族がつきそっている	仲間と連れ立って通っている	移動支援サービス等を利用している	送迎車を利用している	その他	無回答
全体	498	45.8	10.2	1.2	3.4	30.7	0.6	8.0
0～5歳	23	8.7	69.6	—	—	8.7	—	13.0
6～17歳	46	32.6	41.3	4.3	2.2	4.3	—	15.2
18～29歳	51	70.6	3.9	—	5.9	11.8	—	7.8
30～49歳	98	76.5	2.0	—	3.1	15.3	—	3.1
50～64歳	74	77.0	5.4	—	2.7	13.5	—	1.4
65歳以上	194	20.1	3.6	2.1	4.1	58.8	1.5	9.8

【障がいの種別】

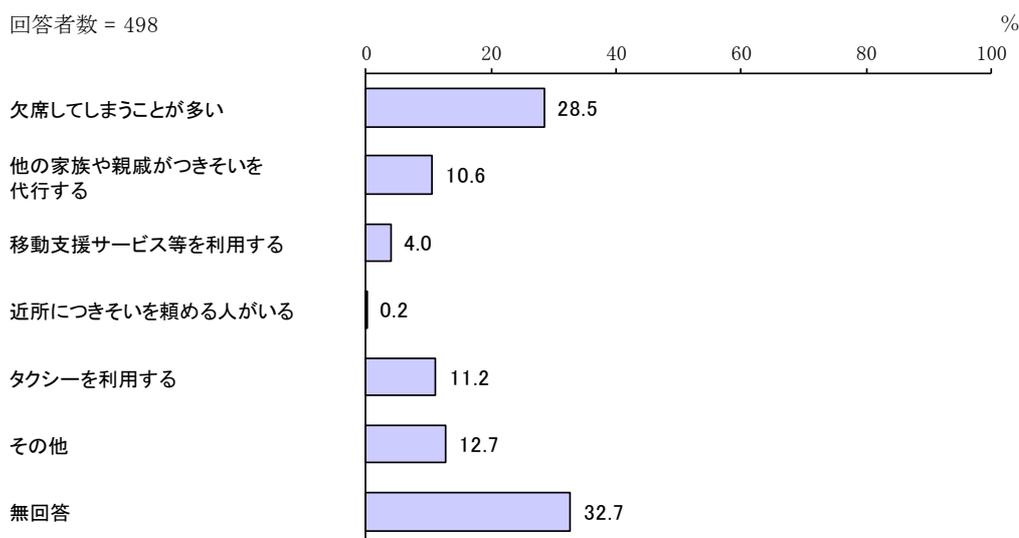
身体障がい、特に視聴覚系で「送迎車を利用している」の割合が高くなっています。また、知的障がい、精神障がいでは「ひとりで通っている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	ひとりで通っている	家族がつきそっている	仲間と連れ立って通っている	移動支援サービス等を利用している	送迎車を利用している	その他	無回答
全体	498	45.8	10.2	1.2	3.4	30.7	0.6	8.0
身体障がい	293	35.2	7.2	1.7	3.4	44.7	1.0	6.8
視聴覚系	88	17.0	10.2	1.1	4.5	59.1	—	8.0
運動系	169	27.8	8.9	1.2	3.6	50.9	1.2	6.5
内部系	110	43.6	4.5	1.8	1.8	38.2	0.9	9.1
知的障がい	121	46.3	18.2	—	5.0	19.8	—	10.7
精神障がい	103	68.0	8.7	—	2.9	13.6	—	6.8
重複障がい	57	24.6	24.6	—	3.5	38.6	—	8.8

付問② 付問①ができない時はどうしていますか。(1つに○)

「欠席してしまうことが多い」の割合が28.5%と最も高く、次いで「タクシーを利用する」の割合が11.2%、「他の家族や親戚がつきそいを代行する」の割合が10.6%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～5歳で「欠席してしまうことが多い」の割合が、17歳以下で「他の家族や親戚がつきそいを代行する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	欠席してしまうことが多い	他の家族や親戚がつきそいを代行する	移動支援サービス等を利用する	近所につきそいを頼める人がいる	タクシーを利用する	その他	無回答
全体	498	28.5	10.6	4.0	0.2	11.2	12.7	32.7
0～5歳	23	56.5	21.7	4.3	—	8.7	—	8.7
6～17歳	46	34.8	23.9	10.9	—	6.5	15.2	8.7
18～29歳	51	31.4	15.7	3.9	—	—	13.7	35.3
30～49歳	98	27.6	13.3	4.1	—	9.2	10.2	35.7
50～64歳	74	27.0	12.2	1.4	—	12.2	13.5	33.8
65歳以上	194	25.8	3.6	3.6	0.5	16.0	13.9	36.6

【障がいの種別】

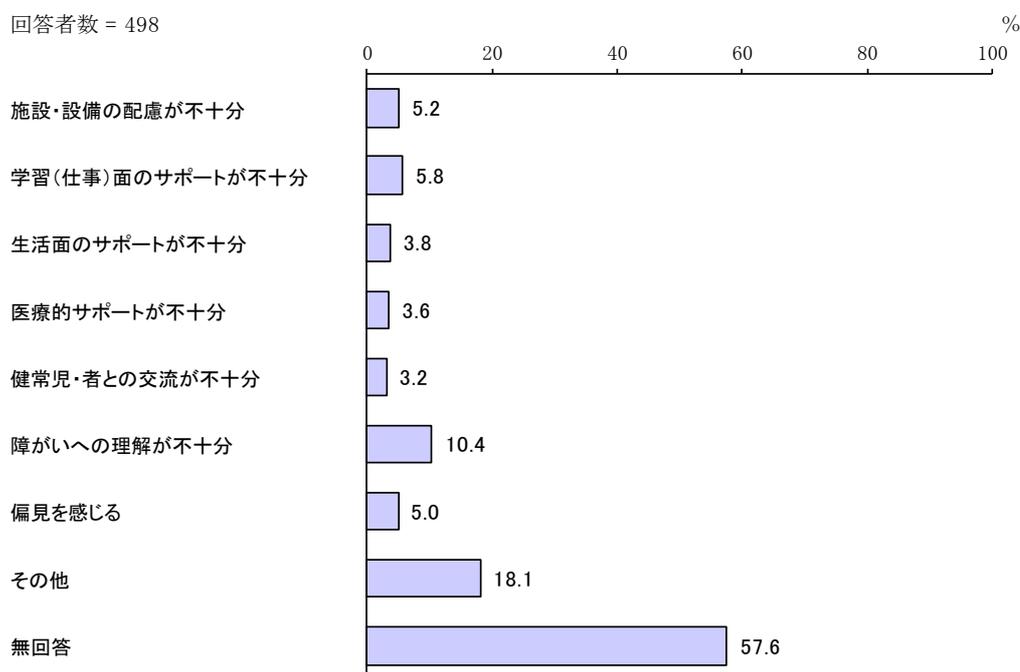
特に精神障がい、重複障がいで「欠席してしまうことが多い」の割合が高くなっています。また、他に比べ、知的障がいで「他の家族や親戚がつきそいを代行する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	欠席してしまうことが多い	他の家族や親戚がつきそいを代行する	移動支援サービス等を利用する	近所につきそいを頼める人がいる	タクシーを利用する	その他	無回答
全体	498	28.5	10.6	4.0	0.2	11.2	12.7	32.7
身体障がい	293	25.6	6.1	3.1	0.3	15.7	14.0	35.2
視聴覚系	88	26.1	4.5	4.5	1.1	13.6	10.2	39.8
運動系	169	27.2	5.9	3.6	0.6	17.8	13.6	31.4
内部系	110	30.9	8.2	1.8	—	11.8	11.8	35.5
知的障がい	121	26.4	20.7	8.3	—	5.0	12.4	27.3
精神障がい	103	38.8	8.7	3.9	—	5.8	8.7	34.0
重複障がい	57	35.1	12.3	5.3	—	8.8	10.5	28.1

付問③ 通い先で特に困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「障がいへの理解が不十分」の割合が10.4%と最も高くなっています。



【年齢別】

6～17歳で「学習(仕事)面のサポートが不十分」の割合が高く、30～64歳で「障がいへの理解が不十分」の割合が比較的高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	施設・設備の配慮が不十分	学習(仕事)面のサポートが不十分	生活面のサポートが不十分	医療的サポートが不十分	健常児・者との交流が不十分	障がいへの理解が不十分	偏見を感じる	その他	無回答
全体	498	5.2	5.8	3.8	3.6	3.2	10.4	5.0	18.1	57.6
0～5歳	23	—	8.7	—	—	4.3	—	—	13.0	78.3
6～17歳	46	4.3	26.1	8.7	2.2	8.7	19.6	4.3	23.9	34.8
18～29歳	51	3.9	9.8	7.8	2.0	11.8	7.8	5.9	17.6	51.0
30～49歳	98	4.1	7.1	5.1	4.1	3.1	16.3	11.2	15.3	51.0
50～64歳	74	6.8	1.4	1.4	4.1	1.4	13.5	9.5	18.9	55.4
65歳以上	194	6.7	1.0	2.6	4.6	0.5	5.7	1.0	19.6	64.9

【障がいの種別】

他に比べ、精神障がいで「障がいへの理解が不十分」「偏見を感じる」の割合が、重複障がいで「生活面のサポートが不十分」の割合が高くなっています。

単位：％

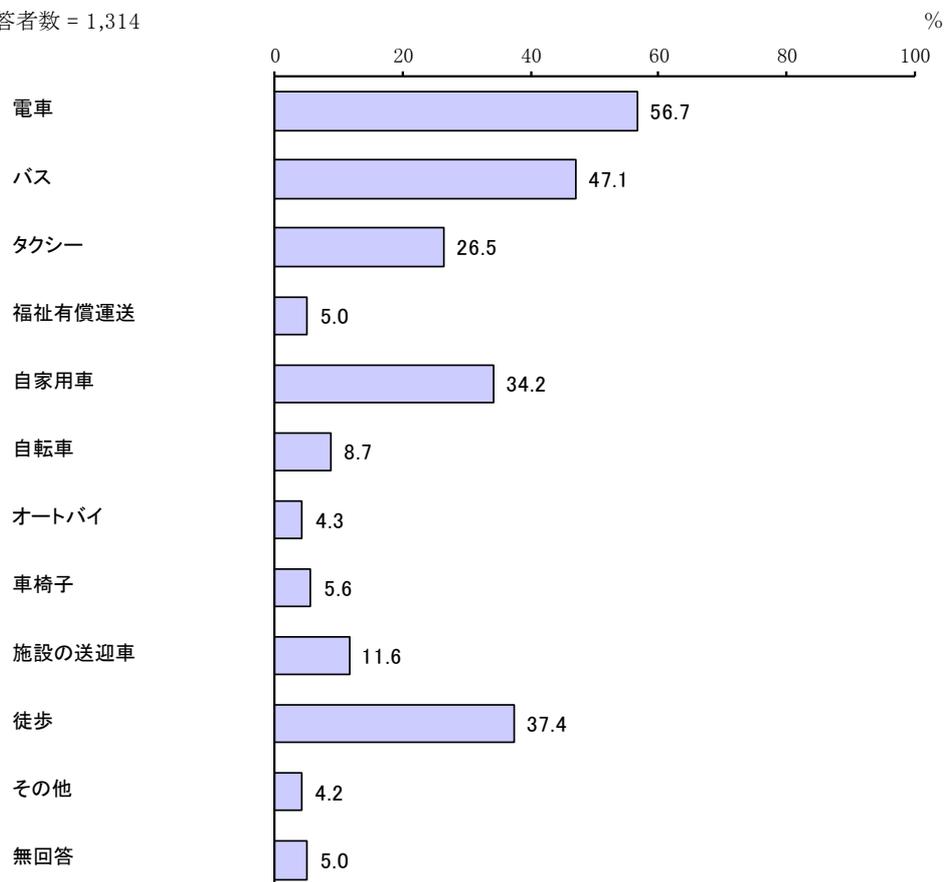
区分	有効回答数 (件)	施設・設備の配慮が 不十分	学習(仕事)面の サポートが不十分	生活面のサポートが 不十分	医療的サポートが 不十分	健常児・者との交流が 不十分	障がいへの理解が 不十分	偏見を感じる	その他	無回答
全 体	498	5.2	5.8	3.8	3.6	3.2	10.4	5.0	18.1	57.6
身体障がい	293	6.1	1.7	3.1	4.8	1.0	6.8	3.4	20.1	61.4
視聴覚系	88	6.8	1.1	4.5	6.8	3.4	6.8	3.4	17.0	59.1
運動系	169	8.3	1.8	5.3	6.5	1.2	6.5	3.6	19.5	59.2
内部系	110	8.2	0.9	2.7	5.5	0.9	6.4	4.5	20.0	62.7
知的障がい	121	3.3	10.7	8.3	4.1	8.3	12.4	5.8	18.2	48.8
精神障がい	103	5.8	10.7	6.8	2.9	3.9	18.4	13.6	13.6	49.5
重複障がい	57	5.3	10.5	12.3	7.0	5.3	8.8	8.8	21.1	45.6

③外出の際の主な手段

問 12 あなたが外出する場合の主な交通手段は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「電車」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「バス」の割合が 47.1%、「徒歩」の割合が 37.4% となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

他に比べ、0～5歳で「自家用車」の割合が、65歳以上で「タクシー」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	電車	バス	タクシー	福祉有償運送	自家用車	自転車	オートバイ	車椅子	施設の送迎車	徒歩	その他	無回答
全体	1314	56.7	47.1	26.5	5.0	34.2	8.7	4.3	5.6	11.6	37.4	4.2	5.0
0～5歳	23	69.6	56.5	13.0	4.3	73.9	52.2	4.3	4.3	13.0	52.2	—	—
6～17歳	49	65.3	40.8	6.1	—	63.3	20.4	2.0	4.1	12.2	55.1	—	2.0
18～29歳	61	85.2	63.9	6.6	4.9	27.9	3.3	1.6	3.3	8.2	47.5	1.6	—
30～49歳	179	76.5	57.0	15.1	4.5	27.4	14.0	7.3	4.5	7.8	49.2	2.8	1.1
50～64歳	180	70.6	52.8	22.8	2.2	32.2	7.8	5.0	6.1	7.2	36.7	3.9	2.2
65歳以上	785	46.6	42.3	33.0	6.2	34.4	6.5	3.8	6.4	13.6	33.5	5.4	6.0

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がい、特に視聴覚系で「タクシー」の割合が高くなっています。また、知的障がい、精神障がいで「電車」の割合が高くなっています。

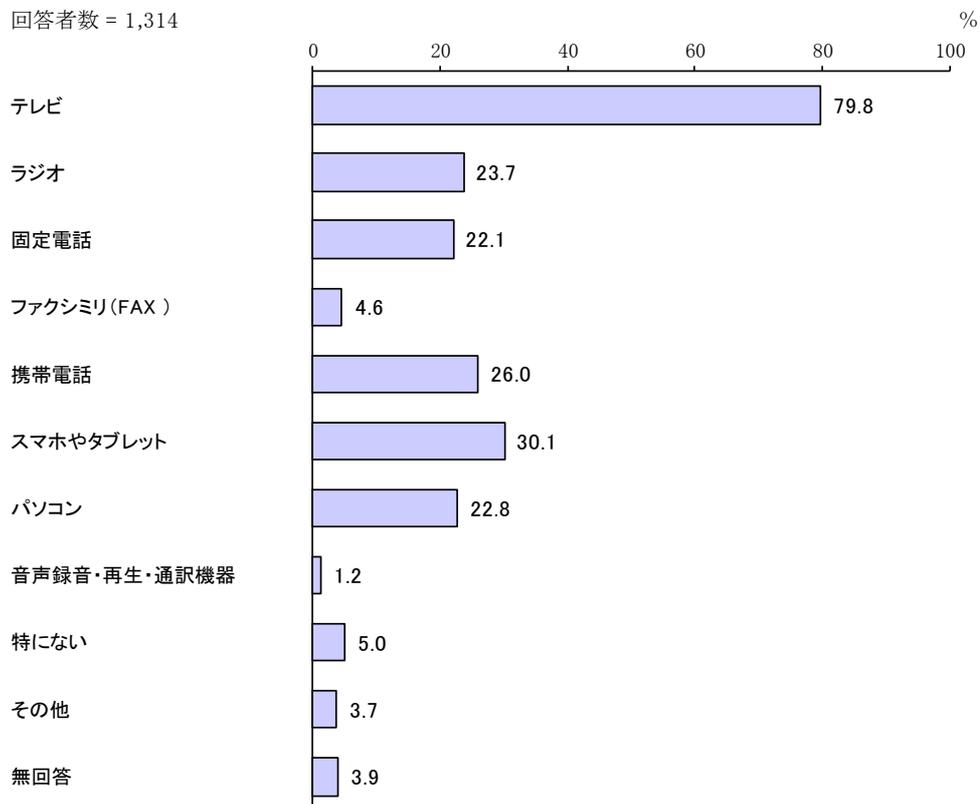
単位：％

区分	有効回答数(件)	電車	バス	タクシー	福祉有償運送	自家用車	自転車	オートバイ	車椅子	施設の送迎車	徒歩	その他	無回答
全体	1314	56.7	47.1	26.5	5.0	34.2	8.7	4.3	5.6	11.6	37.4	4.2	5.0
身体障がい	946	51.3	44.4	31.8	6.1	36.2	7.4	4.3	7.5	12.6	34.2	4.9	5.2
視聴覚系	242	50.4	45.0	38.8	7.0	29.3	5.8	1.7	10.7	16.5	33.5	3.7	7.4
運動系	427	42.6	37.2	31.4	10.3	37.5	6.3	4.2	13.3	17.1	25.1	7.7	5.2
内部系	421	57.2	46.3	32.8	5.7	39.0	7.6	5.2	4.8	12.6	39.4	3.6	4.5
知的障がい	152	69.7	57.2	9.9	5.9	34.2	8.6	0.7	6.6	19.7	43.4	2.0	0.7
精神障がい	220	71.8	51.4	16.4	3.2	21.8	11.8	5.5	2.7	6.8	44.1	4.5	1.8
重複障がい	75	56.0	45.3	24.0	12.0	30.7	10.7	—	16.0	26.7	36.0	6.7	1.3

④よく利用している情報通信手段

問 13 あなたがよく利用している情報通信手段は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「テレビ」の割合が79.8%と最も高く、次いで「スマホやタブレット」の割合が30.1%、「携帯電話」の割合が26.0%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「ラジオ」の割合が高くなる傾向がみられます。また、特に18～29歳で「スマホやタブレット」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	テレビ	ラジオ	固定電話	ファクシミリ (FAX)	携帯電話	スマホや タブレット	パソコン	音声録音・再生・ 通訳機器	特にない	その他	無回答
全 体	1314	79.8	23.7	22.1	4.6	26.0	30.1	22.8	1.2	5.0	3.7	3.9
0～5歳	23	60.9	—	8.7	—	—	34.8	8.7	—	26.1	4.3	8.7
6～17歳	49	73.5	6.1	6.1	—	16.3	53.1	10.2	—	8.2	2.0	2.0
18～29歳	61	75.4	11.5	3.3	1.6	13.1	77.0	32.8	—	4.9	1.6	—
30～49歳	179	76.0	16.2	9.5	2.2	21.8	53.6	36.3	1.7	4.5	1.7	0.6
50～64歳	180	76.7	22.8	15.0	2.8	26.7	48.9	30.6	1.1	4.4	1.7	1.7
65歳以上	785	83.7	28.7	30.1	6.1	29.4	15.9	18.5	1.4	4.6	5.0	4.1

【障がいの種別】

特に身体障がいの内部系で「テレビ」の割合が、精神障がいで「スマホやタブレット」の割合が高くなっています。

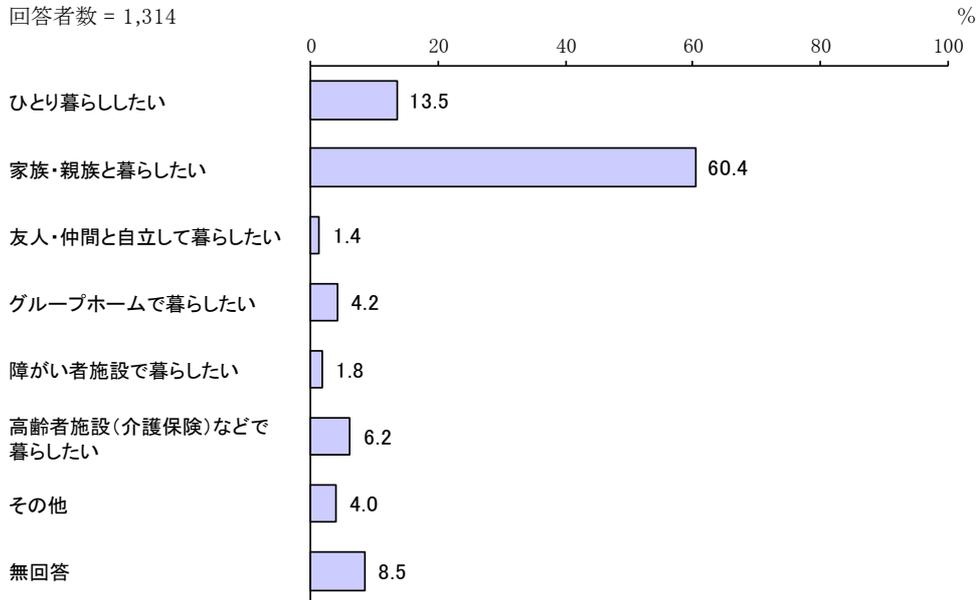
単位：％

区分	有効回答数 (件)	テレビ	ラジオ	固定電話	ファクシミリ (FAX)	携帯電話	スマホや タブレット	パソコン	音声録音・再生・ 通訳機器	特にない	その他	無回答
全 体	1314	79.8	23.7	22.1	4.6	26.0	30.1	22.8	1.2	5.0	3.7	3.9
身体障がい	946	81.9	27.1	25.5	5.5	29.0	24.7	22.7	1.4	4.7	4.5	3.7
視聴覚系	242	76.4	26.0	22.7	7.4	24.8	19.8	17.8	3.3	5.4	4.5	5.8
運動系	427	78.2	25.8	21.3	3.3	27.4	28.1	21.1	0.7	6.3	5.4	3.5
内部系	421	87.6	28.0	30.9	5.9	31.4	22.3	25.4	1.0	4.0	3.1	3.6
知的障がい	152	75.7	7.2	7.9	1.3	12.5	40.1	17.1	—	12.5	3.3	1.3
精神障がい	220	72.7	21.8	17.3	1.8	21.8	47.7	25.0	1.8	3.6	2.3	0.9
重複障がい	75	66.7	13.3	9.3	—	10.7	32.0	10.7	1.3	10.7	6.7	2.7

⑤今後の暮らし方の希望

問 14 あなたは、今後どんなかたちで暮らしたいと希望しますか。(1つに〇)

「家族・親族と暮らしたい」の割合が60.4%と最も高く、次いで「ひとり暮らししたい」の割合が13.5%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～49歳で「ひとり暮らししたい」「グループホームで暮らしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	ひとり暮らししたい	家族・親族と暮らしたい	友人・仲間と自立して暮らしたい	グループホームで暮らしたい	障がい者施設で暮らしたい	高齢者施設(介護保険)などで暮らしたい	その他	無回答
全体	1314	13.5	60.4	1.4	4.2	1.8	6.2	4.0	8.5
0～5歳	23	8.7	69.6	—	4.3	—	—	8.7	8.7
6～17歳	49	6.1	71.4	2.0	4.1	2.0	—	4.1	10.2
18～29歳	61	21.3	44.3	3.3	19.7	3.3	—	1.6	6.6
30～49歳	179	21.2	50.8	1.7	14.5	3.4	—	4.5	3.9
50～64歳	180	16.7	61.1	1.7	2.8	3.3	2.8	5.0	6.7
65歳以上	785	11.2	63.8	1.3	1.0	1.0	9.2	3.8	8.7

【障がいの種別】

他に比べ、精神障がいで「ひとり暮らししたい」の割合が、知的障がい、重複障がいで「グループホームで暮らしたい」の割合が高くなっています。

単位：％

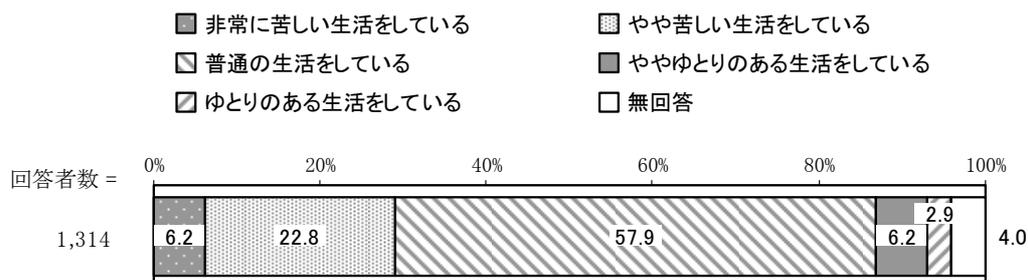
区分	有効回答数(件)	ひとり暮らししたい	家族・親族と暮らしたい	友人・仲間と自立して暮らしたい	グループホームで暮らしたい	障がい者施設で暮らしたい	高齢者施設(介護保険)などで暮らしたい	その他	無回答
全 体	1314	13.5	60.4	1.4	4.2	1.8	6.2	4.0	8.5
身体障がい	946	12.2	64.5	1.3	1.8	1.2	7.4	4.0	7.7
視聴覚系	242	10.3	58.3	2.5	2.1	2.9	9.9	5.4	8.7
運動系	427	12.2	61.4	1.4	3.3	1.4	7.5	4.7	8.2
内部系	421	10.9	70.5	0.7	0.5	1.0	6.9	3.3	6.2
知的障がい	152	11.8	44.7	3.3	22.4	6.6	—	1.3	9.9
精神障がい	220	21.8	49.5	1.8	6.8	2.7	5.0	5.5	6.8
重複障がい	75	12.0	37.3	2.7	20.0	5.3	5.3	5.3	12.0

(5) 日中活動について

①経済的状況

問 15 あなたの経済的な生活状況は、次のどれに近いと思いますか。(1つに○)

「非常に苦しい生活をしている」と「やや苦しい生活をしている」をあわせた“苦しい生活をしている”の割合が29.0%、「普通の生活をしている」の割合が57.9%、「ややゆとりのある生活をしている」と「ゆとりのある生活をしている」をあわせた“ゆとりのある生活をしている”の割合が9.1%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～5歳で「普通の生活をしている」の割合が、30～64歳で“苦しい生活をしている”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	非常に苦しい生活をしている	やや苦しい生活をしている	普通の生活をしている	ややゆとりのある生活をしている	ゆとりのある生活をしている	無回答
全 体	1314	6.2	22.8	57.9	6.2	2.9	4.0
0～5歳	23	—	13.0	73.9	—	4.3	8.7
6～17歳	49	4.1	18.4	61.2	8.2	—	8.2
18～29歳	61	4.9	21.3	65.6	3.3	4.9	—
30～49歳	179	13.4	25.7	54.7	1.7	2.8	1.7
50～64歳	180	9.4	30.0	48.3	7.8	1.7	2.8
65歳以上	785	4.2	21.1	60.9	7.3	3.1	3.4

【障がいの種別】

他に比べ、精神障がいで“苦しい生活をしている”の割合が高くなっています。

単位：％

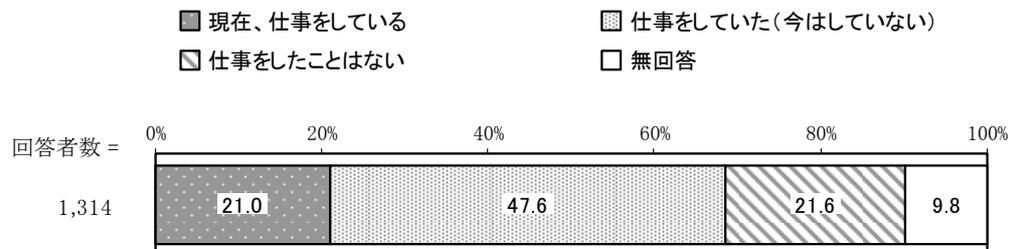
区分	有効回答数 (件)	非常に苦しい 生活をしている	やや苦しい生活 をしている	普通の生活を している	ややゆとりのある 生活をしている	ゆとりのある 生活をしている	無回答
全 体	1314	6.2	22.8	57.9	6.2	2.9	4.0
身体障がい	946	4.5	21.7	60.6	6.7	3.2	3.4
視聴覚系	242	6.2	23.1	58.3	5.0	2.5	5.0
運動系	427	4.0	22.0	63.5	5.4	1.9	3.3
内部系	421	4.3	24.7	56.5	8.1	3.6	2.9
知的障がい	152	3.9	20.4	65.8	3.9	2.0	3.9
精神障がい	220	15.9	30.5	46.4	4.1	1.4	1.8
重複障がい	75	8.0	24.0	62.7	—	1.3	4.0

②就労について

問 16 あなたの就労状況についておたずねします。

(1つに○をつけ、「現在、仕事をしている」または「仕事をしてきた(今はしていない)」をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

「仕事をしてきた(今はしていない)」の割合が47.6%と最も高く、次いで「仕事をしたことはない」の割合が21.6%、「現在、仕事をしている」の割合が21.0%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「仕事をしてきた(今はしていない)」の割合が高くなっています。また、18～49歳で「現在、仕事をしている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	現在、仕事をしている	仕事をしてきた(今はしていない)	仕事をしたことはない	無回答
全体	1314	21.0	47.6	21.6	9.8
0～5歳	23	—	—	82.6	17.4
6～17歳	49	2.0	2.0	81.6	14.3
18～29歳	61	52.5	13.1	29.5	4.9
30～49歳	179	51.4	29.1	17.3	2.2
50～64歳	180	40.6	45.6	11.7	2.2
65歳以上	785	9.4	59.6	19.2	11.7

【障がいの種別】

知的障がいでは「現在、仕事をしている」「仕事をしていた（今はしていない）」の割合が、身体障がいでは「仕事をしていない（今はしていない）」の割合が高くなっています。

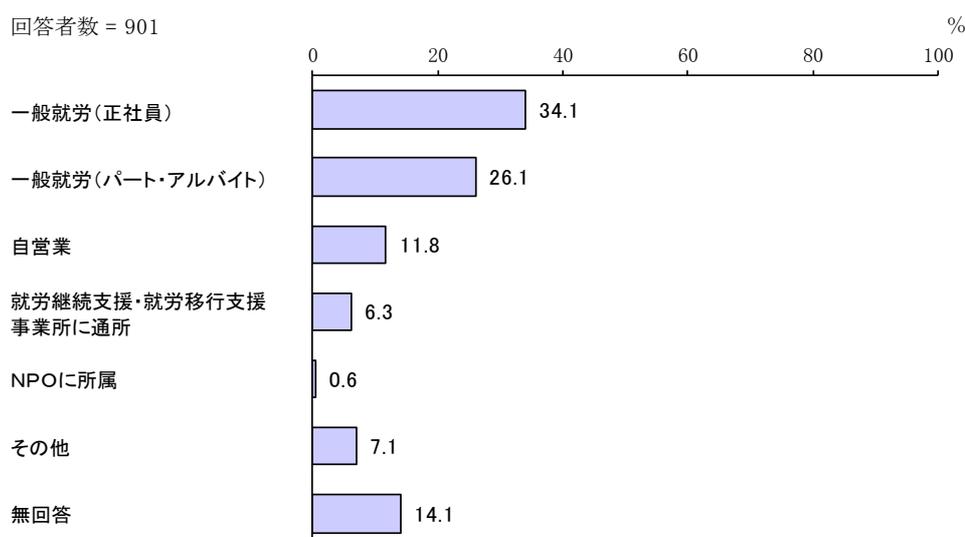
単位：％

区分	有効回答数 (件)	現在、 仕事をして いる	仕事をしていた (今はしていない)	仕事をし たことは ない	無回 答
全 体	1314	21.0	47.6	21.6	9.8
身体障がい	946	17.2	54.1	18.4	10.3
視聴覚系	242	11.2	57.9	20.7	10.3
運動系	427	18.3	49.9	21.3	10.5
内部系	421	16.9	59.1	14.3	9.7
知的障がい	152	36.8	13.8	42.1	7.2
精神障がい	220	29.1	44.5	23.2	3.2
重複障がい	75	17.3	33.3	41.3	8.0

問 16 で「現在、仕事をしている」「仕事をしていた（今はしていない）」と答えた方にお聞きします。

付問① 現在（辞めた方は直近）のあなたの就労形態はどれに当たりますか。（1つに○）

「一般就労（正社員）」の割合が 34.1% と最も高く、次いで「一般就労（パート・アルバイト）」の割合が 26.1%、「自営業」の割合が 11.8% となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で「一般就労（パート・アルバイト）」「就労継続支援・就労移行支援事業所に通所」の割合が高くなっています。また、50歳以上で「一般就労（正社員）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	一般就労（正社員）	一般就労（パート・アルバイト）	自営業	就労継続支援・就労移行支援事業所に通所	NPOに所属	その他	無回答
全体	901	34.1	26.1	11.8	6.3	0.6	7.1	14.1
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	—	50.0	—	—	—	—	50.0
18～29歳	40	12.5	42.5	2.5	30.0	—	10.0	2.5
30～49歳	144	29.2	30.6	5.6	17.4	0.7	10.4	6.3
50～64歳	155	34.2	31.0	7.1	11.0	1.3	7.1	8.4
65歳以上	542	36.7	22.1	15.9	0.4	0.4	6.1	18.5

【障がいの種別】

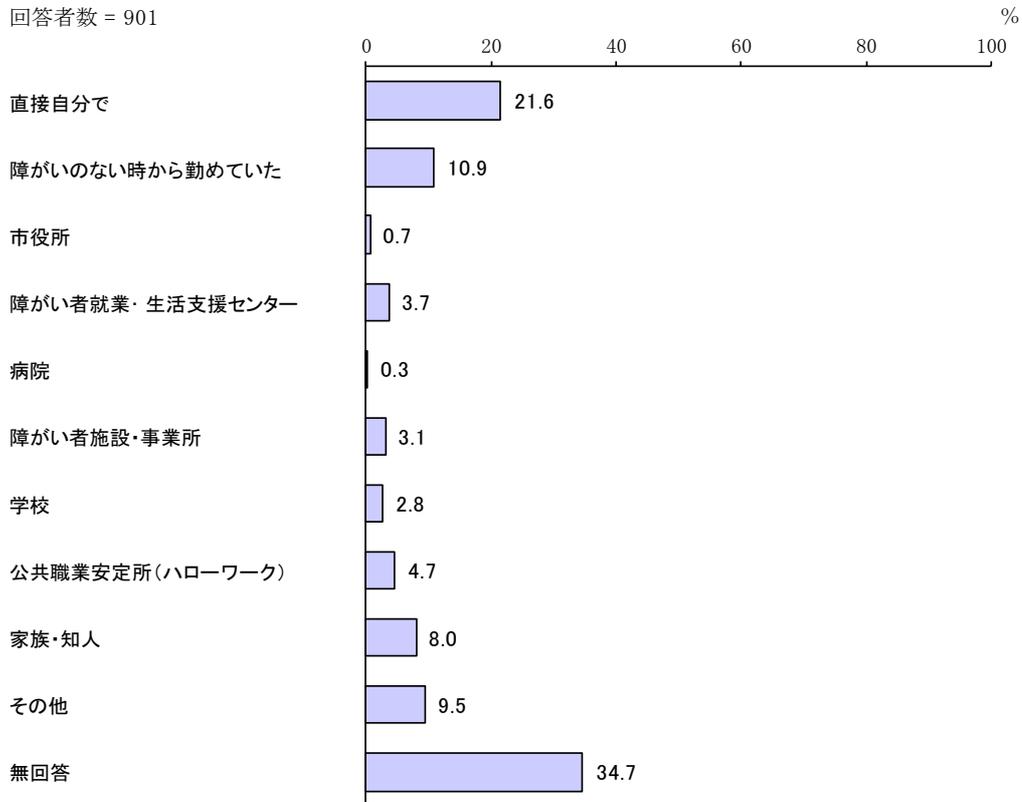
精神障がい「一般就労（パート・アルバイト）」の割合が高くなっています。また、知的障がい「就労継続支援・就労移行支援事業所に通所」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	一般就労（正社員）	一般就労（パート・アルバイト）	自営業	就労継続支援・就労移行支援事業所に通所	NPOに所属	その他	無回答
全体	901	34.1	26.1	11.8	6.3	0.6	7.1	14.1
身体障がい	675	37.6	24.1	14.5	1.3	0.4	6.4	15.6
視聴覚系	167	38.9	23.4	12.6	1.8	0.6	6.0	16.8
運動系	291	38.5	24.7	14.8	2.1	0.3	4.8	14.8
内部系	320	39.7	21.9	15.9	0.9	0.3	6.6	14.7
知的障がい	77	15.6	26.0	—	35.1	2.6	11.7	9.1
精神障がい	162	27.8	32.7	4.3	17.3	—	8.0	9.9
重複障がい	38	36.8	23.7	2.6	21.1	—	2.6	13.2

付問② あなたは、今の仕事はどのようにして探しましたか。(1つに○)

「直接自分で」の割合が21.6%と最も高く、次いで「障がいのない時から勤めていた」の割合が10.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	直接自分で	障がいのない時から勤めていた	市役所	障がい者就業・生活支援センター	病院	障がい者施設・事業所	学校	公共職業安定所(ハローワーク)	家族・知人	その他	無回答
全体	901	21.6	10.9	0.7	3.7	0.3	3.1	2.8	4.7	8.0	9.5	34.7
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	50.0	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—
18～29歳	40	20.0	2.5	2.5	20.0	—	2.5	15.0	10.0	15.0	5.0	7.5
30～49歳	144	27.1	6.9	2.1	9.7	1.4	10.4	7.6	6.9	6.3	8.3	13.2
50～64歳	155	21.3	14.2	0.6	6.5	0.6	3.9	1.3	9.7	9.0	11.0	21.9
65歳以上	542	20.5	10.9	0.2	0.2	—	1.1	1.1	2.2	7.6	9.6	46.7

【障がいの種別】

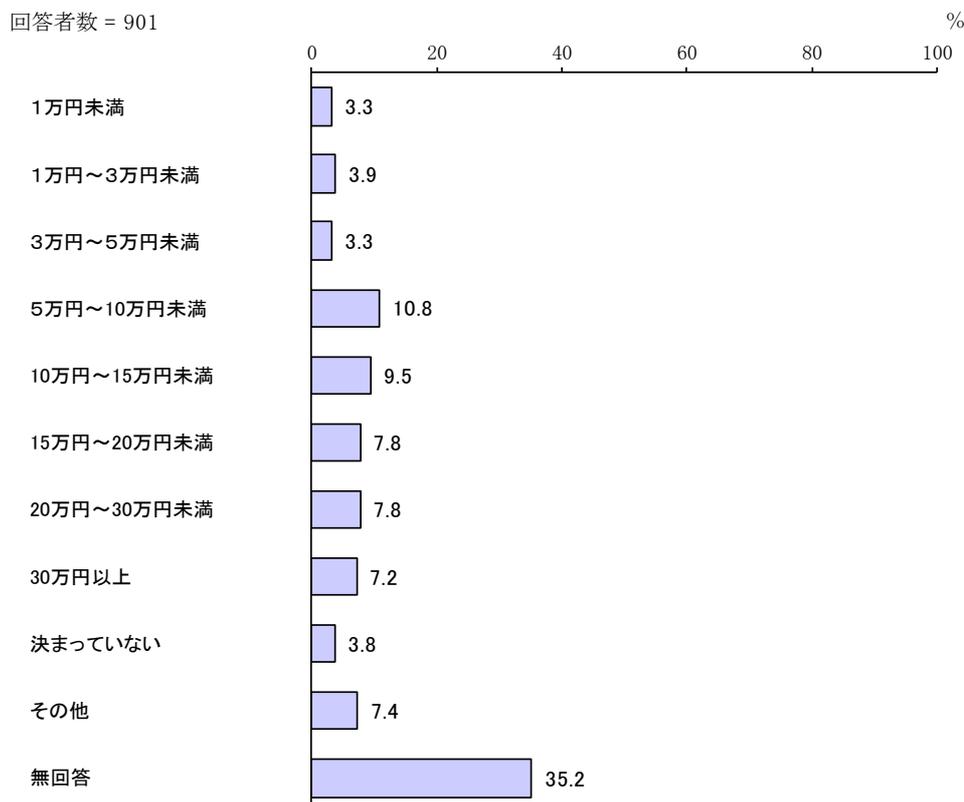
知的障がいや「障がい者就業・生活支援センター」「障がい者施設・事業所」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	直接自分で	障がいのない時 から勤めていた	市役所	障がい者就業・ 生活支援センター	病院	障がい者施設・ 事業所	学校	公共職業安定所 (ハローワーク)	家族・知人	その他	無回答
全体	901	21.6	10.9	0.7	3.7	0.3	3.1	2.8	4.7	8.0	9.5	34.7
身体障がい	675	23.0	12.1	0.1	0.7	0.1	1.0	1.8	3.7	8.0	9.8	39.6
視聴覚系	167	16.8	10.2	0.6	0.6	0.6	2.4	2.4	2.4	10.2	7.2	46.7
運動系	291	20.6	12.0	—	1.0	0.3	1.7	2.7	3.4	8.6	9.6	39.9
内部系	320	25.0	13.4	—	0.3	0.3	0.6	0.6	3.1	6.6	10.0	40.0
知的障がい	77	7.8	—	3.9	22.1	—	16.9	18.2	6.5	9.1	2.6	13.0
精神障がい	162	19.8	7.4	1.9	9.9	1.2	6.8	0.6	7.4	7.4	12.3	25.3
重複障がい	38	7.9	7.9	2.6	13.2	—	10.5	5.3	—	7.9	13.2	31.6

付問③ あなたの、1か月の平均給与・賃金はどのくらいですか。(1つに○)

「5万円～10万円未満」の割合が10.8%と最も高くなっています。



【年齢別】

18～49歳で「5万円～10万円未満」「10万円～15万円未満」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	1万円未満	1万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～10万円未満	10万円～15万円未満	15万円～20万円未満	20万円～30万円未満	30万円以上	決まっていない	その他	無回答
全体	901	3.3	3.9	3.3	10.8	9.5	7.8	7.8	7.2	3.8	7.4	35.2
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	—	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0	—	—
18～29歳	40	10.0	7.5	5.0	25.0	27.5	10.0	2.5	2.5	7.5	2.5	—
30～49歳	144	9.7	6.9	4.2	21.5	14.6	6.9	9.0	6.9	3.5	4.2	12.5
50～64歳	155	5.8	5.8	2.6	13.5	9.0	9.0	9.0	9.7	3.9	8.4	23.2
65歳以上	542	0.6	2.0	3.1	6.1	7.0	7.0	7.6	7.0	3.5	8.5	47.6

【障がいの種別】

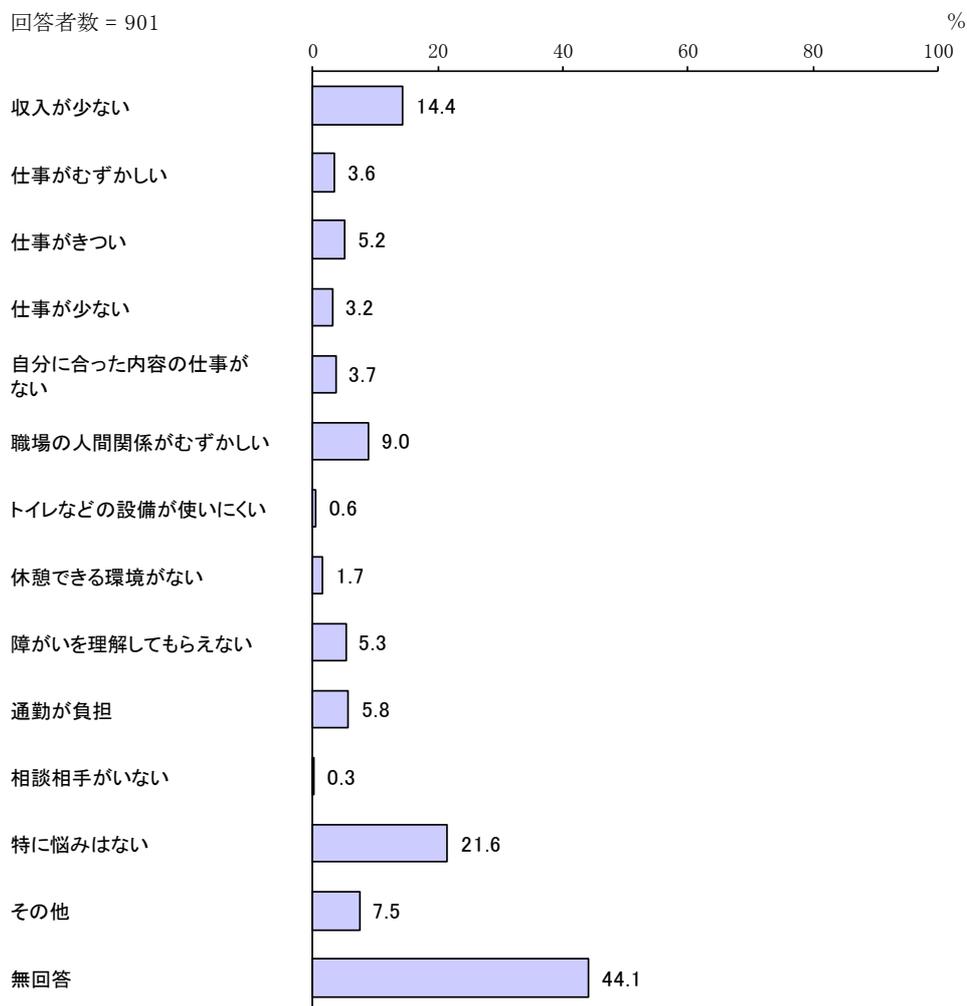
他に比べ、知的障がい、重複障がいで「5万円～10万円未満」の割合が高くなっています。また、身体障がいの内部系で「30万円以上」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	1万円未満	1万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～10万円未満	10万円～15万円未満	15万円～20万円未満	20万円～30万円未満	30万円以上	決まっていない	その他	無回答
全体	901	3.3	3.9	3.3	10.8	9.5	7.8	7.8	7.2	3.8	7.4	35.2
身体障がい	675	1.5	1.9	2.8	8.0	7.9	8.7	9.0	8.7	3.6	7.9	40.0
視聴覚系	167	1.2	3.6	3.0	5.4	6.6	10.8	8.4	4.2	3.6	8.4	44.9
運動系	291	3.1	1.7	1.4	10.3	6.9	8.6	9.6	7.9	3.1	9.3	38.1
内部系	320	0.6	1.6	3.4	6.6	7.2	7.8	8.1	11.3	3.4	8.4	41.6
知的障がい	77	20.8	5.2	6.5	32.5	15.6	2.6	—	—	3.9	3.9	9.1
精神障がい	162	6.8	9.9	3.7	16.0	13.0	5.6	3.7	4.3	4.3	6.8	25.9
重複障がい	38	18.4	—	2.6	28.9	5.3	5.3	—	5.3	2.6	5.3	26.3

付問④ 仕事をする上での悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特に悩みはない」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「収入が少ない」の割合が 14.4%となっています。



【年齢別】

年齢が低くなるにつれ「収入が少ない」「職場の人間関係がむずかしい」「障がいを理解してもらえない」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	収入が少ない	仕事がむずかしい	仕事がつらい	仕事が少ない	自分に合った内容の仕事がない	職場の人間関係がむずかしい	トイレなどの設備が使いにくい	休憩できる環境がない	障がいを理解してもらえない	通勤が負担	相談相手がない	特に悩みはない	その他	無回答
全体	901	14.4	3.6	5.2	3.2	3.7	9.0	0.6	1.7	5.3	5.8	0.3	21.6	7.5	44.1
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	50.0	—	—
18～29歳	40	47.5	5.0	2.5	5.0	10.0	30.0	—	5.0	12.5	5.0	—	25.0	17.5	—
30～49歳	144	32.6	13.9	16.0	9.0	10.4	23.6	—	2.8	13.2	12.5	1.4	18.8	8.3	16.0
50～64歳	155	21.9	4.5	7.7	3.2	3.2	12.9	1.3	3.2	9.7	12.9	0.6	26.5	8.4	25.2
65歳以上	542	5.0	0.6	1.7	1.7	1.7	2.2	0.4	0.7	1.5	1.8	—	20.7	6.3	60.5

【障がいの種別】

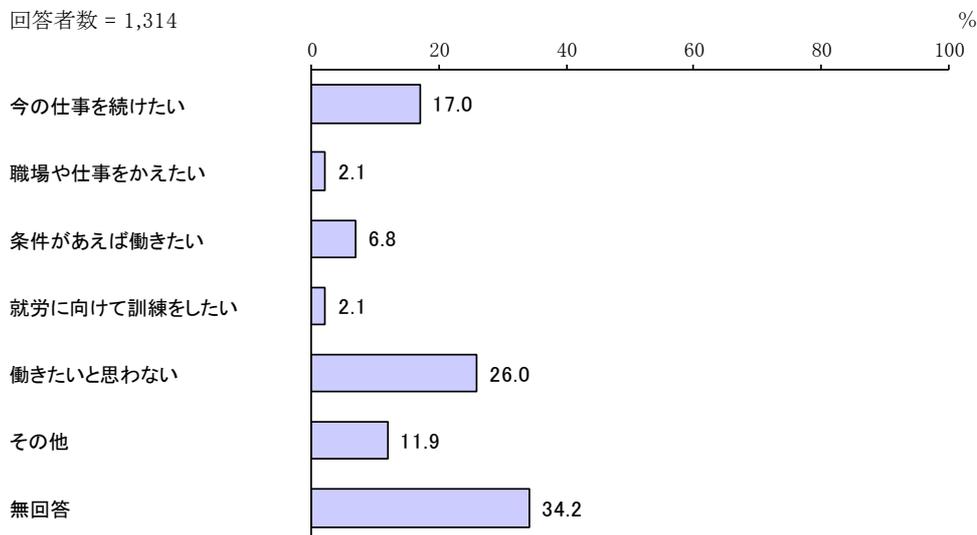
他に比べ、精神障がいでは「収入が少ない」の割合が高くなっています。また、精神障がい、重複障がいでは「職場の人間関係がむずかしい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	収入が少ない	仕事がむずかしい	仕事がつらい	仕事が少ない	自分に合った内容の仕事がない	職場の人間関係がむずかしい	トイレなどの設備が使いにくい	休憩できる環境がない	障がいを理解してもらえない	通勤が負担	相談相手がない	特に悩みはない	その他	無回答
全体	901	14.4	3.6	5.2	3.2	3.7	9.0	0.6	1.7	5.3	5.8	0.3	21.6	7.5	44.1
身体障がい	675	8.4	1.8	3.3	2.2	1.9	3.9	0.4	1.2	2.4	3.7	0.3	23.3	7.1	51.3
視聴覚系	167	7.8	1.8	1.8	3.0	1.2	4.8	1.2	1.2	4.2	3.6	—	16.2	8.4	59.9
運動系	291	10.3	2.4	2.7	2.4	2.1	4.5	0.3	1.7	2.4	5.2	0.3	20.6	7.9	50.2
内部系	320	7.2	1.3	4.1	1.3	1.6	3.4	0.6	1.3	1.6	2.8	0.3	23.8	8.8	51.3
知的障がい	77	29.9	7.8	9.1	5.2	9.1	22.1	—	1.3	10.4	3.9	1.3	26.0	6.5	14.3
精神障がい	162	34.0	9.9	11.7	6.8	10.5	28.4	0.6	3.7	17.9	13.6	—	9.9	10.5	27.2
重複障がい	38	23.7	10.5	10.5	5.3	10.5	26.3	—	—	15.8	2.6	—	7.9	10.5	34.2

問17 あなたは、今後の就労についてどのようにお考えですか。
 (1つに○をつけ、具体的な内容をご記入ください。)

「働きたいと思わない」の割合が26.0%と最も高く、次いで「今の仕事を続けたい」の割合が17.0%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で「今の仕事を続けたい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	今の仕事を続けたい	職場や仕事をかえたい	条件があれば働きたい	就労に向けて訓練をしたい	働きたいと思わない	その他	無回答
全体	1314	17.0	2.1	6.8	2.1	26.0	11.9	34.2
0～5歳	23	—	—	8.7	4.3	—	39.1	47.8
6～17歳	49	2.0	—	10.2	12.2	2.0	28.6	44.9
18～29歳	61	44.3	3.3	11.5	9.8	—	18.0	13.1
30～49歳	179	38.5	8.4	11.2	2.2	11.2	10.6	17.9
50～64歳	180	32.2	5.0	16.1	4.4	17.2	12.2	12.8
65歳以上	785	8.3	—	2.9	0.4	36.1	10.1	42.3

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいで「働きたいと思わない」の割合が、知的障がい、精神障がいで「今の仕事を続けたい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	今の仕事を 続けたい	職場や仕事 をかえたい	条件があ えば働きたい	就労に向 けて訓練を したい	働きたい と思わない	その他	無回答
全 体	1314	17.0	2.1	6.8	2.1	26.0	11.9	34.2
身体障がい	946	14.5	1.2	4.7	0.6	30.1	11.3	37.6
視聴覚系	242	7.0	2.1	5.0	0.8	28.1	15.7	41.3
運動系	427	16.2	0.9	5.4	1.2	23.9	12.6	39.8
内部系	421	14.3	1.0	2.4	0.2	33.7	11.6	36.8
知的障がい	152	27.0	3.9	7.2	7.9	9.9	16.4	27.6
精神障がい	220	21.8	5.0	15.5	5.5	18.2	15.9	18.2
重複障がい	75	14.7	2.7	6.7	2.7	10.7	30.7	32.0

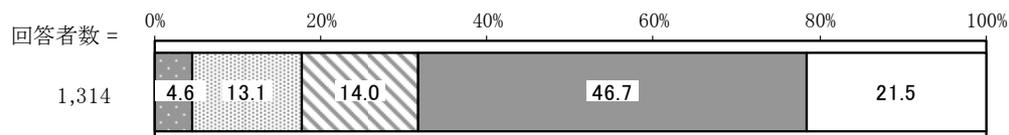
③仕事以外の活動への参加状況

問 18 あなたは、次の障害福祉サービスについて知っていますか。(1つに○)

C 就労定着支援で「知らない」の割合が高く、55.6%となっています。

A 就労移行支援

- 知っているし、利用したことがある
- ▨ 知っているが利用したことはない
- ▧ 名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない
- 知らない
- 無回答



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で「知っているし、利用したことがある」の割合が高くなっています。また、6～17歳で「知っているが利用したことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	知っているし、 利用したことがある	知っているが 利用したことはない	名前は聞いたことがあるが 詳しくは知らない	知らない	無回答
全 体	1314	4.6	13.1	14.0	46.7	21.5
0～5歳	23	—	13.0	13.0	52.2	21.7
6～17歳	49	2.0	28.6	16.3	40.8	12.2
18～29歳	61	24.6	26.2	13.1	26.2	9.8
30～49歳	179	16.8	24.6	16.8	31.8	10.1
50～64歳	180	5.6	17.8	15.6	50.0	11.1
65歳以上	785	0.5	7.4	13.4	51.8	26.9

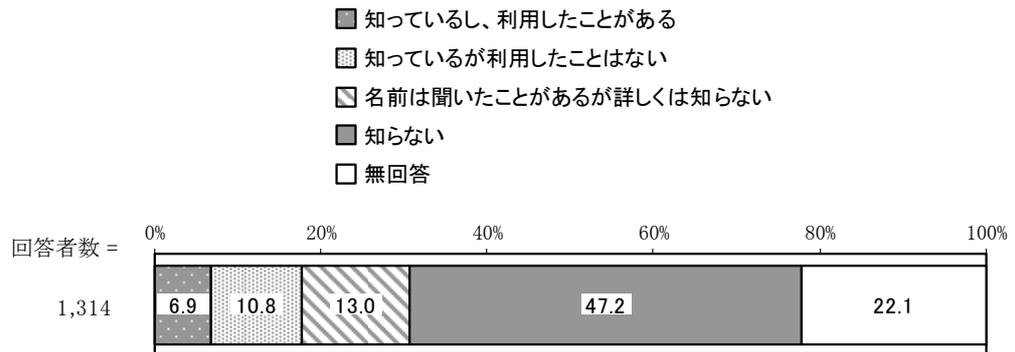
【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいで「知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	知っているし、 利用したことがある	知っているが 利用したことはない	名前は聞いたことがあるが 詳しくは知らない	知らない	無回答
全 体	1314	4.6	13.1	14.0	46.7	21.5
身体障がい	946	1.5	10.3	14.3	49.9	24.1
視聴覚系	242	2.5	8.7	10.7	53.7	24.4
運動系	427	1.9	12.2	15.2	45.7	25.1
内部系	421	0.2	10.2	15.0	49.2	25.4
知的障がい	152	12.5	25.7	15.8	29.6	16.4
精神障がい	220	15.5	21.4	12.7	38.6	11.8
重複障がい	75	9.3	26.7	12.0	32.0	20.0

B 就労継続支援（A型・B型）



【年齢別】

18～49歳で「知っているし、利用したことがある」の割合が高くなっています。また、0～5歳、65歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	6.9	10.8	13.0	47.2	22.1
0～5歳	23	—	4.3	21.7	52.2	21.7
6～17歳	49	2.0	30.6	12.2	42.9	12.2
18～29歳	61	27.9	32.8	8.2	23.0	8.2
30～49歳	179	23.5	20.1	14.0	33.5	8.9
50～64歳	180	12.8	13.9	20.0	45.0	8.3
65歳以上	785	0.8	5.2	11.6	53.6	28.8

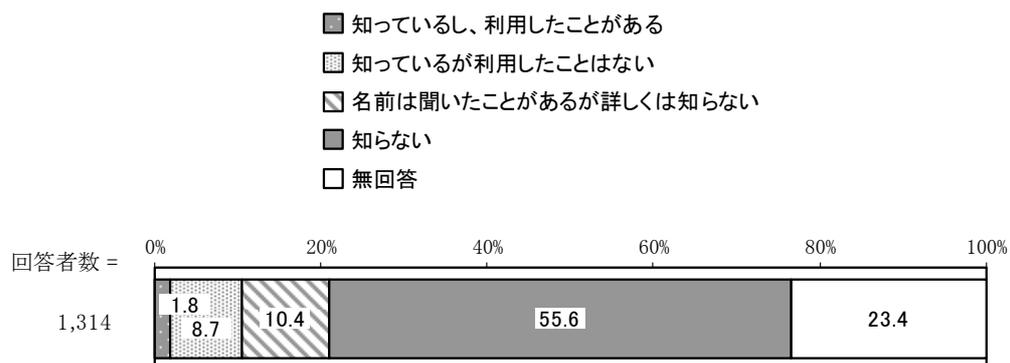
【障がいの種別】

他に比べ、精神障がい「知っているし、利用したことがある」の割合が高くなっています。また、身体障がい、特に視聴覚系で「知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	知っているし、 利用したことがある	知っているが利用 したことはない	名前は聞いたこと があるが詳しくは 知らない	知らない	無回答
全 体	1314	6.9	10.8	13.0	47.2	22.1
身体障がい	946	1.6	7.8	13.6	51.4	25.6
視聴覚系	242	2.5	5.4	8.3	57.4	26.4
運動系	427	1.9	9.1	16.4	46.4	26.2
内部系	421	0.7	8.1	13.3	51.1	26.8
知的障がい	152	21.1	25.0	9.9	28.9	15.1
精神障がい	220	25.9	18.6	11.8	35.9	7.7
重複障がい	75	20.0	24.0	8.0	32.0	16.0

C 就労定着支援



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	知っているし、 利用した ことがある	知っているが 利用した ことはない	名前は聞いたことが あるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全 体	1314	1.8	8.7	10.4	55.6	23.4
0～5歳	23	—	4.3	8.7	65.2	21.7
6～17歳	49	2.0	14.3	10.2	61.2	12.2
18～29歳	61	9.8	18.0	13.1	47.5	11.5
30～49歳	179	5.0	16.8	10.6	54.2	13.4
50～64歳	180	1.7	13.3	15.6	57.8	11.7
65歳以上	785	0.6	4.7	9.3	56.4	28.9

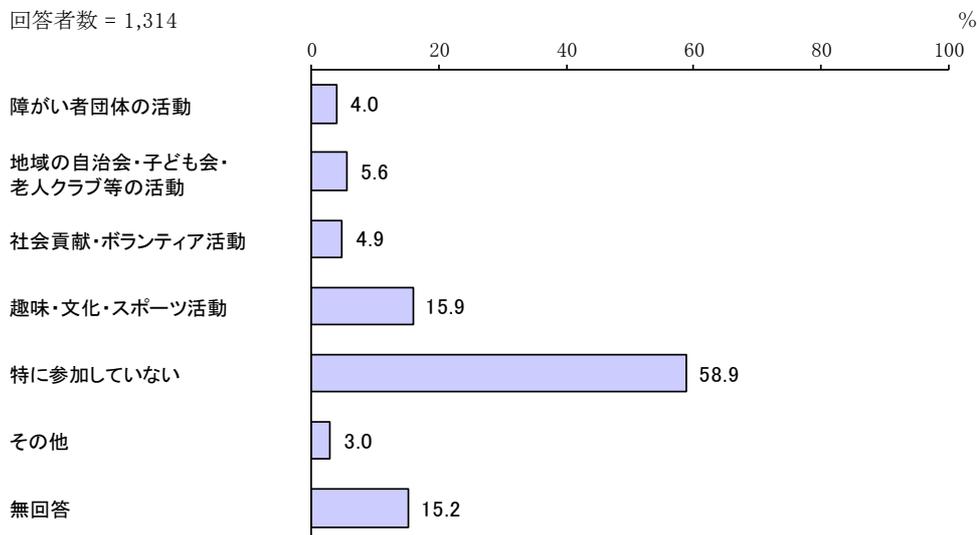
【障がいの種別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	知っているし、 利用した ことがある	知っているが 利用した ことはない	名前は聞いたことが あるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全 体	1314	1.8	8.7	10.4	55.6	23.4
身体障がい	946	0.6	7.3	11.0	55.5	25.6
視聴覚系	242	1.7	5.0	6.6	60.3	26.4
運動系	427	0.7	8.7	12.4	52.5	25.8
内部系	421	0.2	7.4	10.9	54.4	27.1
知的障がい	152	5.3	11.8	11.8	52.0	19.1
精神障がい	220	5.9	15.0	9.5	55.5	14.1
重複障がい	75	4.0	17.3	13.3	45.3	20.0

問 19 あなたが、仕事以外で参加している団体活動等についておたずねします。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容もご記入ください。)

「特に参加していない」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「趣味・文化・スポーツ活動」の割合が 15.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	障がい者団体の活動	地域の自治会・子ども会・老人クラブ等の活動	社会貢献・ボランティア活動	趣味・文化・スポーツ活動	特に参加していない	その他	無回答
全体	1314	4.0	5.6	4.9	15.9	58.9	3.0	15.2
0～5歳	23	—	8.7	—	13.0	47.8	4.3	26.1
6～17歳	49	—	4.1	—	20.4	59.2	6.1	12.2
18～29歳	61	8.2	1.6	6.6	23.0	67.2	4.9	—
30～49歳	179	11.7	1.7	2.8	14.0	65.9	2.8	5.0
50～64歳	180	5.6	5.0	7.2	10.6	68.3	3.3	8.3
65歳以上	785	1.8	7.0	5.2	17.1	56.1	2.5	18.7

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい、重複障がいで「障がい者団体の活動」の割合が高くなっています。

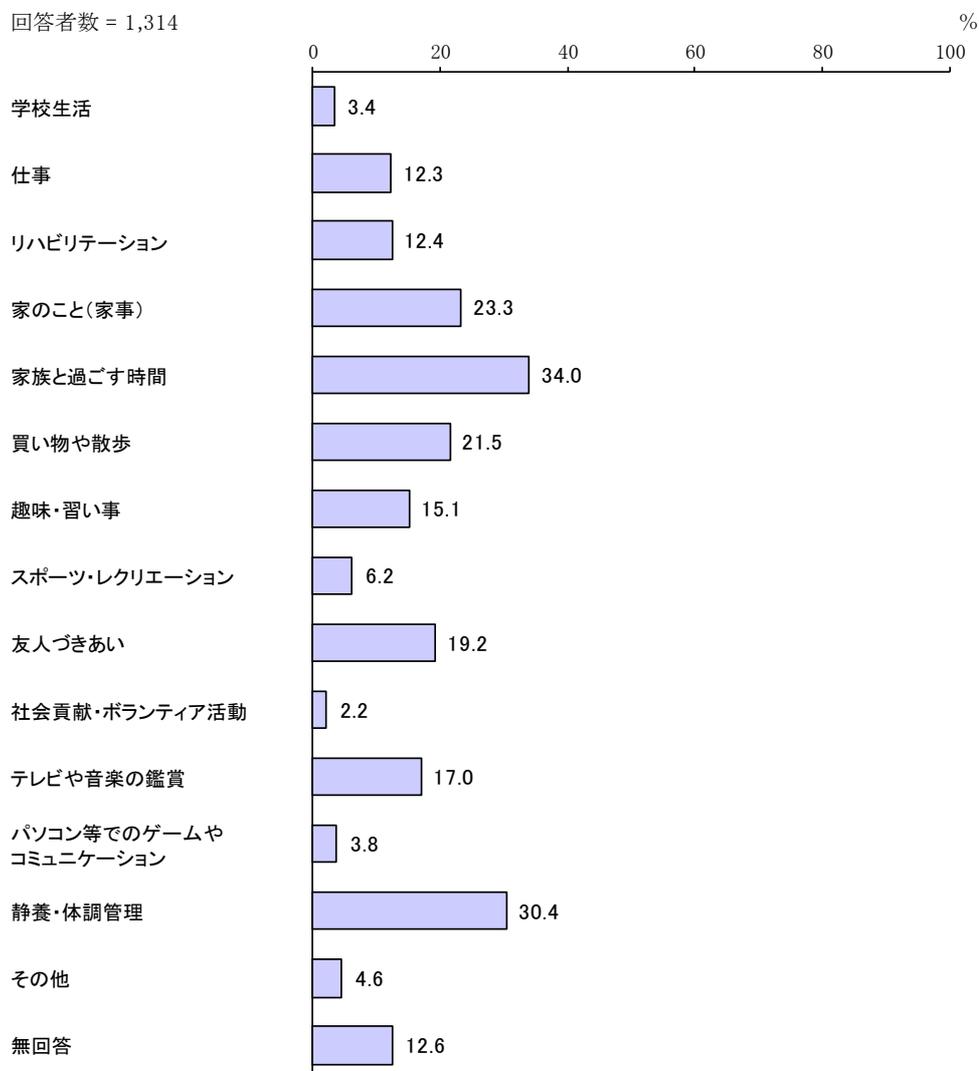
単位：%

区分	有効回答数 (件)	障がい者団体の活動	地域の自治会・子ども会・ 老人クラブ等の活動	社会貢献・ ボランティア活動	趣味・文化・スポーツ活動	特に参加していない	その他	無回答
全 体	1314	4.0	5.6	4.9	15.9	58.9	3.0	15.2
身体障がい	946	2.4	6.3	5.4	16.4	57.7	2.7	17.2
視聴覚系	242	4.5	2.9	3.7	13.6	60.7	2.1	17.8
運動系	427	2.8	5.9	5.4	16.2	58.8	1.6	16.6
内部系	421	1.2	7.4	5.5	16.2	57.7	3.1	18.5
知的障がい	152	12.5	2.6	2.6	21.1	57.2	4.6	5.3
精神障がい	220	6.4	2.7	4.5	11.4	70.9	2.7	6.4
重複障がい	75	9.3	1.3	2.7	16.0	65.3	4.0	8.0

④暮らしの重点

問 20 現在、あなたが暮らしの中で特に大事にしていることは何ですか。(3つまで○)

「家族と過ごす時間」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「静養・体調管理」の割合が 30.4%、「家のこと(家事)」の割合が 23.3%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で「趣味・習い事」「テレビや音楽の鑑賞」の割合が高くなっています。
また、65歳以上で「友人づきあい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	学校生活	仕事	リハビリテーション	家のこと(家事)	家族と過ごす時間	買い物や散歩	趣味・習い事	スポーツ・レクリエーション	友人づきあい	社会貢献・ボランティア活動	テレビや音楽の鑑賞	パソコン等でのゲームやコミュニケーション	静養・体調管理	その他	無回答
全体	1314	3.4	12.3	12.4	23.3	34.0	21.5	15.1	6.2	19.2	2.2	17.0	3.8	30.4	4.6	12.6
0～5歳	23	39.1	—	21.7	—	60.9	—	13.0	8.7	21.7	—	8.7	—	17.4	8.7	21.7
6～17歳	49	63.3	2.0	4.1	4.1	53.1	4.1	12.2	6.1	14.3	—	14.3	8.2	6.1	4.1	18.4
18～29歳	61	4.9	31.1	4.9	8.2	37.7	18.0	34.4	6.6	18.0	3.3	31.1	9.8	18.0	9.8	6.6
30～49歳	179	1.1	28.5	3.9	18.4	33.0	24.6	16.8	7.3	13.4	1.7	26.8	8.9	29.1	2.8	12.8
50～64歳	180	—	27.2	8.3	26.7	39.4	21.1	14.4	6.1	8.3	2.2	16.1	0.6	35.0	6.1	10.6
65歳以上	785	—	5.4	16.4	27.0	31.7	22.9	14.0	5.9	23.3	2.4	14.4	2.9	32.9	4.3	11.3

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がい、特に視聴覚系、運動系で「リハビリテーション」の割合が、知的障がい
いで「テレビや音楽の鑑賞」の割合が高くなっています。

単位：％

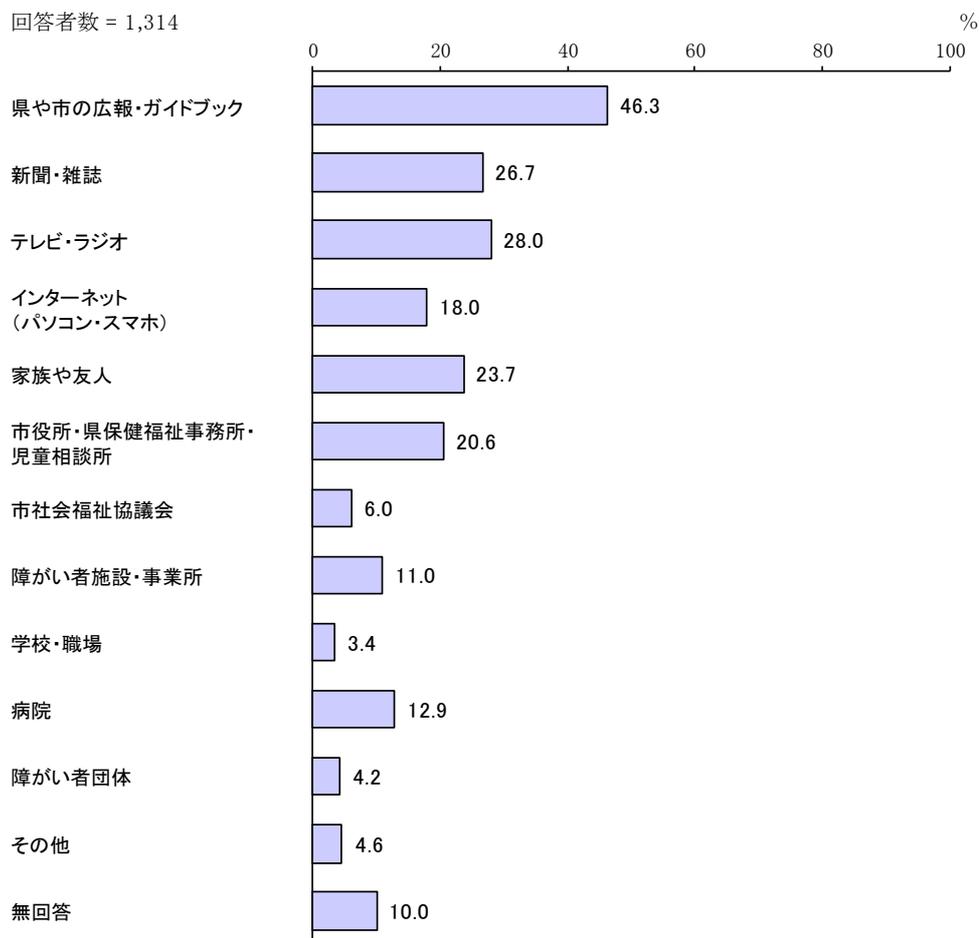
区分	有効回答数(件)	学校生活	仕事	リハビリテーション	家のこと(家事)	家族と過ごす時間	買い物や散歩	趣味・習い事	スポーツ・レクリエーション	友人づきあい	社会貢献・ボランティア活動	テレビや音楽の鑑賞	パソコン等でのゲームやコミュニケーション	静養・体調管理	その他	無回答
全体	1314	3.4	12.3	12.4	23.3	34.0	21.5	15.1	6.2	19.2	2.2	17.0	3.8	30.4	4.6	12.6
身体障がい	946	0.7	10.4	16.1	26.0	34.1	21.7	14.3	5.8	21.0	2.3	14.1	2.9	31.9	4.7	11.9
視聴覚系	242	1.7	6.2	21.9	23.1	32.6	24.4	13.2	5.4	18.2	1.7	14.9	1.7	30.6	7.4	12.0
運動系	427	0.9	10.5	23.4	22.2	31.9	16.6	13.6	4.9	21.1	2.8	16.4	3.3	30.7	5.2	13.8
内部系	421	0.2	11.2	12.4	26.4	37.3	23.8	15.2	6.2	20.4	1.7	13.8	3.3	34.0	3.6	10.9
知的障がい	152	17.8	16.4	4.6	7.9	38.2	19.1	17.1	7.9	13.2	2.0	31.6	5.9	21.1	7.2	10.5
精神障がい	220	5.0	19.1	5.9	20.9	32.7	25.9	17.7	7.3	11.4	1.8	22.7	7.3	35.5	4.1	10.5
重複障がい	75	16.0	8.0	17.3	6.7	37.3	18.7	12.0	8.0	8.0	1.3	21.3	5.3	32.0	6.7	13.3

(6) 情報・相談について

①福祉情報の入手

問 21 福祉に関する情報を、あなたはどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

「県や市の広報・ガイドブック」の割合が46.3%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」の割合が28.0%、「新聞・雑誌」の割合が26.7%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「県や市の広報・ガイドブック」「新聞・雑誌」「テレビ・ラジオ」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、0～5歳で「インターネット（パソコン・スマホ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	県や市の広報・ガイドブック	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	インターネット（パソコン・スマホ）	家族や友人	市役所・県保健福祉事務所・児童相談所	市社会福祉協議会	障がい者施設・事業所	学校・職場	病院	障がい者団体	その他	無回答
全体	1314	46.3	26.7	28.0	18.0	23.7	20.6	6.0	11.0	3.4	12.9	4.2	4.6	10.0
0～5歳	23	47.8	8.7	13.0	43.5	47.8	30.4	—	30.4	8.7	—	—	8.7	8.7
6～17歳	49	22.4	8.2	6.1	26.5	57.1	12.2	4.1	8.2	38.8	6.1	2.0	2.0	16.3
18～29歳	61	21.3	8.2	11.5	26.2	42.6	13.1	1.6	41.0	6.6	6.6	8.2	1.6	6.6
30～49歳	179	34.1	10.6	16.2	33.5	21.2	27.4	3.9	27.4	4.5	16.8	9.5	4.5	6.7
50～64歳	180	43.9	18.3	21.1	31.1	12.2	26.1	3.3	12.8	3.9	15.0	3.3	6.1	7.2
65歳以上	785	53.4	35.8	35.4	10.1	23.1	19.0	8.0	4.3	0.5	13.0	3.1	4.6	9.9

【障がいの種別】

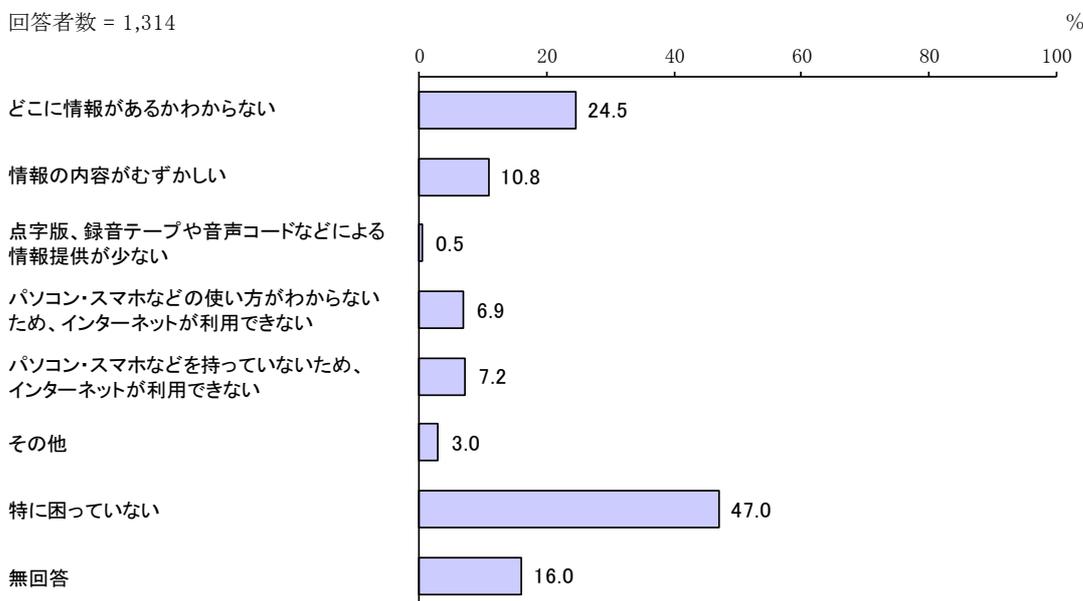
身体障がい、特に内部系で「県や市の広報・ガイドブック」の割合が高くなっています。また、知的障がい、重複障がいで「障がい者施設・事業所」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	県や市の広報・ガイドブック	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	インターネット（パソコン・スマホ）	家族や友人	市役所・県保健福祉事務所・児童相談所	市社会福祉協議会	障がい者施設・事業所	学校・職場	病院	障がい者団体	その他	無回答
全体	1314	46.3	26.7	28.0	18.0	23.7	20.6	6.0	11.0	3.4	12.9	4.2	4.6	10.0
身体障がい	946	52.0	32.8	32.2	16.5	21.9	20.5	7.0	5.7	1.4	12.9	3.4	4.5	9.6
視聴覚系	242	46.7	29.8	30.6	13.2	24.8	23.1	8.7	8.7	1.7	12.0	4.5	6.2	8.3
運動系	427	49.2	30.7	31.1	16.9	24.8	20.1	7.3	8.4	0.9	10.3	2.6	5.4	9.6
内部系	421	56.3	36.1	33.7	16.4	19.5	20.9	5.7	3.6	2.1	16.2	2.9	4.0	9.5
知的障がい	152	25.0	6.6	11.2	11.8	34.9	20.4	3.9	38.2	12.5	2.6	10.5	2.0	13.8
精神障がい	220	34.1	11.8	16.8	23.6	25.0	26.4	4.1	22.3	5.5	20.9	3.6	8.6	3.2
重複障がい	75	33.3	8.0	8.0	9.3	36.0	26.7	5.3	34.7	9.3	9.3	5.3	9.3	5.3

問 22 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に困っていない」の割合が 47.0%と最も高く、次いで「どこに情報があるかわからない」の割合が 24.5%、「情報の内容がむずかしい」の割合が 10.8%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～5歳で「どこに情報があるかわからない」の割合が、18～29歳で「情報の内容がむずかしい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	どこに情報があるかわからない	情報の内容がむずかしい	点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない	パソコン・スマホなどの使い方がわからない	パソコン・スマホを持っていない	その他	特に困っていない	無回答
全体	1314	24.5	10.8	0.5	6.9	7.2	3.0	47.0	16.0
0～5歳	23	60.9	21.7	—	—	—	4.3	17.4	17.4
6～17歳	49	30.6	10.2	—	—	2.0	4.1	42.9	22.4
18～29歳	61	27.9	27.9	—	—	—	6.6	39.3	11.5
30～49歳	179	34.6	16.2	—	3.9	6.1	3.9	42.5	11.2
50～64歳	180	33.3	14.4	—	5.0	6.7	5.0	45.0	8.9
65歳以上	785	18.7	7.6	0.8	9.0	8.7	1.9	51.1	17.6

【障がいの種別】

他に比べ、精神障がいで「どこに情報があるかわからない」の割合が、知的障がい、精神障がいで「情報の内容がむずかしい」の割合が高くなっています。また、身体障がいで「特に困っていない」の割合が高くなっています。

単位：％

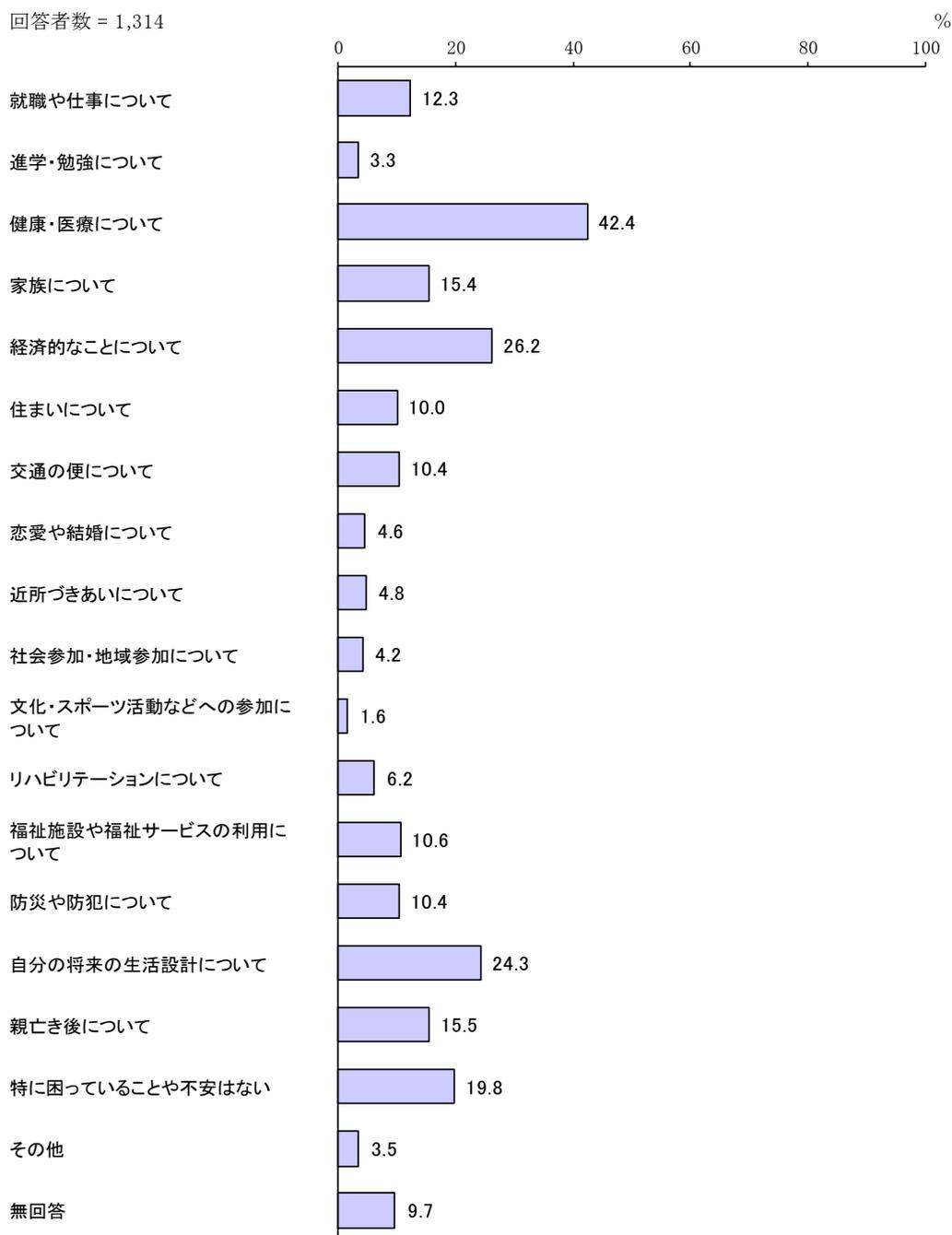
区分	有効回答数(件)	どこに情報があるかわからない	情報の内容がむずかしい	点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない	パソコン・スマホなどの使い方がわからない	パソコン・スマホなどを持っていない	その他	特に困っていない	無回答
全 体	1314	24.5	10.8	0.5	6.9	7.2	3.0	47.0	16.0
身体障がい	946	21.1	8.0	0.6	7.3	7.3	2.3	50.8	16.4
視聴覚系	242	29.3	9.9	2.1	8.7	7.4	3.3	42.1	15.3
運動系	427	22.7	8.7	0.2	6.6	6.3	2.3	49.2	16.6
内部系	421	19.5	6.4	0.2	8.1	8.1	2.1	53.0	17.3
知的障がい	152	26.3	21.1	—	3.9	4.6	4.6	38.2	20.4
精神障がい	220	37.3	20.5	—	6.8	9.1	5.5	37.7	7.7
重複障がい	75	26.7	16.0	—	4.0	5.3	5.3	40.0	17.3

②困りごとと相談

問 23 現在あなたが困ったり、不安に思っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「健康・医療について」の割合が42.4%と最も高く、次いで「経済的なことについて」の割合が26.2%、「自分の将来の生活設計について」の割合が24.3%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

0～17歳で「進学・勉強について」の割合が、18～49歳で「自分の将来の生活設計について」「親亡き後について」の割合が高くなっています。

位：%

区分	有効回答数(件)	就職や仕事について	進学・勉強について	健康・医療について	家族について	経済的なことについて	住まいについて	交通の便について	恋愛や結婚について	近所づきあいについて	社会参加・地域参加について	文化・スポーツ活動などへの参加について	リハビリテーションについて	福祉施設や福祉サービスの利用について	防災や防犯について	自分の将来の生活設計について	親亡き後について	特に困っていることや不安はない	その他	無回答
全体	1314	12.3	3.3	42.4	15.4	26.2	10.0	10.4	4.6	4.8	4.2	1.6	6.2	10.6	10.4	24.3	15.5	19.8	3.5	9.7
0～5歳	23	17.4	65.2	21.7	—	13.0	—	4.3	13.0	—	8.7	—	4.3	21.7	17.4	26.1	26.1	8.7	—	13.0
6～17歳	49	32.7	42.9	26.5	10.2	30.6	12.2	14.3	8.2	6.1	10.2	2.0	6.1	18.4	10.2	26.5	40.8	18.4	—	10.2
18～29歳	61	37.7	4.9	39.3	16.4	39.3	18.0	4.9	23.0	6.6	9.8	—	3.3	9.8	13.1	55.7	60.7	4.9	8.2	4.9
30～49歳	179	33.0	1.7	43.6	26.3	34.6	18.4	8.9	14.0	9.5	7.8	2.2	5.6	8.4	14.5	46.9	48.6	10.1	4.5	2.2
50～64歳	180	23.9	1.1	46.1	21.7	40.6	11.7	12.8	7.2	7.8	6.7	2.2	5.6	12.2	10.6	40.0	25.0	11.7	5.0	6.7
65歳以上	785	1.4	—	44.3	12.4	20.0	7.1	10.7	—	2.9	2.0	1.5	7.0	10.3	9.0	13.2	0.8	25.9	2.9	11.1

【障がいの種別】

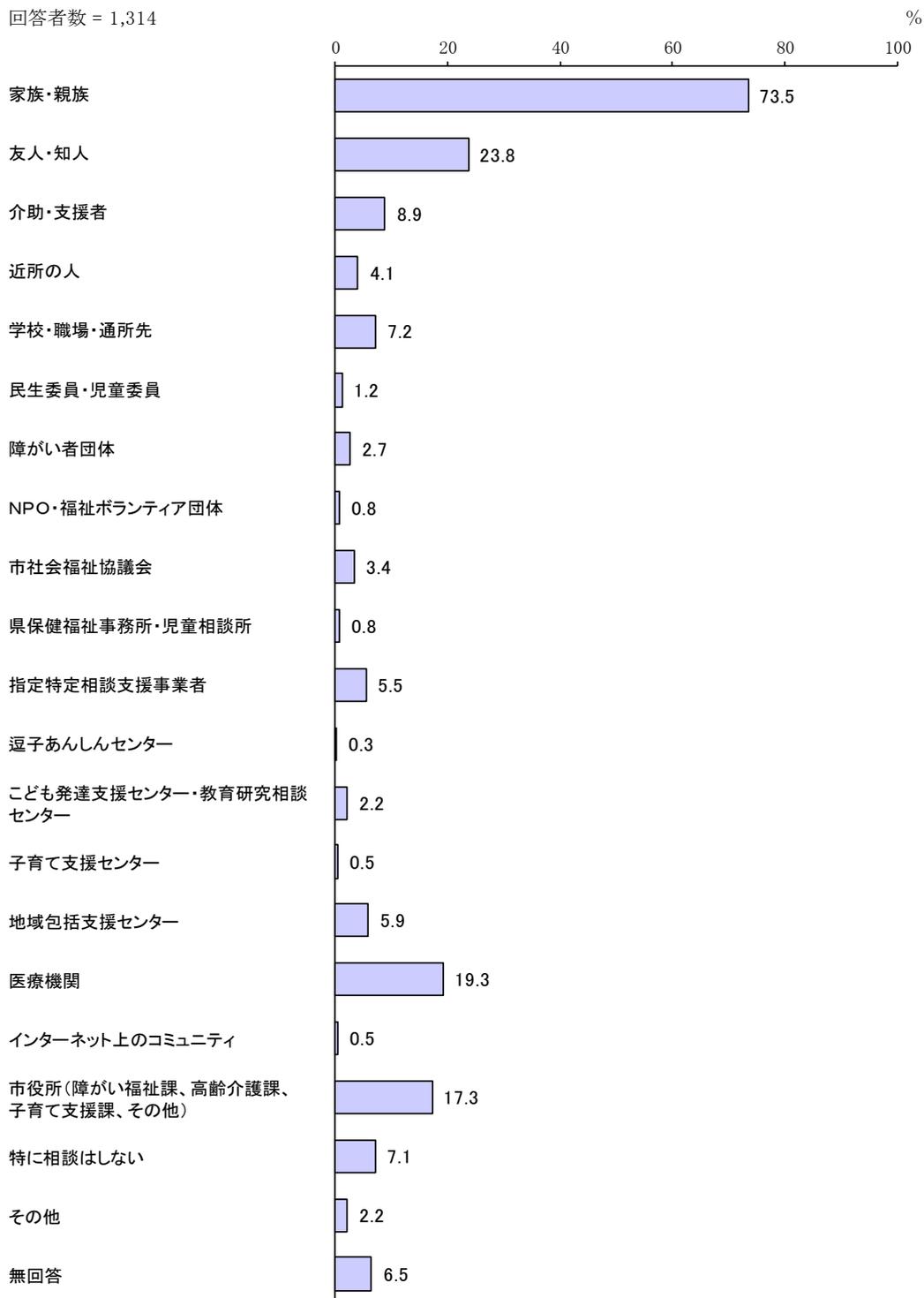
知的障がい、重複障がいで「親亡き後について」の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障がいで「就職や仕事について」「家族について」「経済的なことについて」「自分の将来の生活設計について」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	就職や仕事について	進学・勉強について	健康・医療について	家族について	経済的なことについて	住まいについて	交通の便について	恋愛や結婚について	近所づきあいについて	社会参加・地域参加について	文化・スポーツ活動などへの参加について	リハビリテーションについて	福祉施設や福祉サービスの利用について	防災や防犯について	自分の将来の生活設計について	親亡き後について	特に困っていることや不安はない	その他	無回答
全体	1314	12.3	3.3	42.4	15.4	26.2	10.0	10.4	4.6	4.8	4.2	1.6	6.2	10.6	10.4	24.3	15.5	19.8	3.5	9.7
身体障がい	946	5.7	0.7	42.7	13.5	22.0	8.9	11.0	1.4	3.6	2.9	1.6	7.6	10.7	10.0	17.8	5.6	24.1	3.4	10.3
視聴覚系	242	4.5	1.7	44.2	14.0	27.7	9.9	10.3	3.3	5.4	6.2	3.3	6.6	16.5	13.2	19.8	7.9	22.3	5.8	8.7
運動系	427	6.6	0.7	44.0	14.8	22.0	9.1	14.3	0.9	4.4	3.3	1.4	12.9	12.6	10.5	19.0	8.7	20.4	4.7	9.4
内部系	421	5.9	0.7	46.3	15.4	23.8	9.0	10.9	0.5	2.6	2.4	1.4	6.7	10.7	9.7	18.5	4.0	24.5	2.6	9.5
知的障がい	152	20.4	9.2	34.9	8.6	21.1	9.9	7.2	8.6	3.9	5.3	1.3	5.3	16.4	9.9	38.2	53.3	10.5	4.6	8.6
精神障がい	220	33.2	4.5	51.4	30.9	49.5	19.1	10.5	15.9	11.4	11.4	3.6	3.6	12.7	13.6	50.0	44.1	7.7	5.0	3.2
重複障がい	75	16.0	6.7	38.7	18.7	28.0	18.7	9.3	6.7	6.7	10.7	4.0	10.7	24.0	14.7	34.7	48.0	13.3	8.0	5.3

問 24 困りごとや心配ごとのあなたの主な相談先はどこ(誰)ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族・親族」の割合が73.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が23.8%、「医療機関」の割合が19.3%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～5歳で「こども発達支援センター・教育研究相談センター」の割合が、6～17歳で「学校・職場・通所先」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	家族・親族	友人・知人	介助・支援者	近所の人	学校・職場・通所先	民生委員・児童委員	障がい者団体	NPO・福祉ボランティア団体	市社会福祉協議会	県保健福祉事務所・児童相談所
全体	1314	73.5	23.8	8.9	4.1	7.2	1.2	2.7	0.8	3.4	0.8
0～5歳	23	82.6	26.1	4.3	—	34.8	—	—	—	—	4.3
6～17歳	49	83.7	14.3	4.1	—	51.0	—	—	—	—	2.0
18～29歳	61	73.8	29.5	18.0	1.6	19.7	1.6	6.6	4.9	3.3	1.6
30～49歳	179	70.9	22.9	10.1	1.7	17.9	0.6	6.7	2.2	5.0	1.1
50～64歳	180	62.8	21.7	8.9	1.7	6.1	1.1	2.2	—	3.9	1.1
65歳以上	785	76.8	24.7	8.5	5.7	0.8	1.4	1.7	0.4	3.3	0.3

区分	指定特定相談支援事業者	逗子あんしんセンター	こども発達支援センター・教育研究相談センター	子育て支援センター	地域包括支援センター	医療機関	インターネット上のコミュニティ	市役所	特に相談はしない	その他	無回答
全体	5.5	0.3	2.2	0.5	5.9	19.3	0.5	17.3	7.1	2.2	6.5
0～5歳	—	—	65.2	8.7	—	17.4	—	21.7	—	4.3	8.7
6～17歳	10.2	—	24.5	2.0	—	12.2	—	8.2	—	2.0	6.1
18～29歳	21.3	—	—	1.6	3.3	19.7	1.6	14.8	4.9	4.9	4.9
30～49歳	15.6	1.1	1.1	1.1	2.8	22.9	—	22.3	8.9	3.4	1.7
50～64歳	7.2	—	—	—	2.8	24.4	1.1	17.2	12.8	1.7	3.9
65歳以上	1.4	0.3	—	—	8.2	18.0	0.5	17.3	6.2	1.8	7.0

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい、重複障がいで「学校・職場・通所先」「指定特定相談支援事業者」の割合が高くなっています。また、精神障がいで「医療機関」の割合が高くなっています。

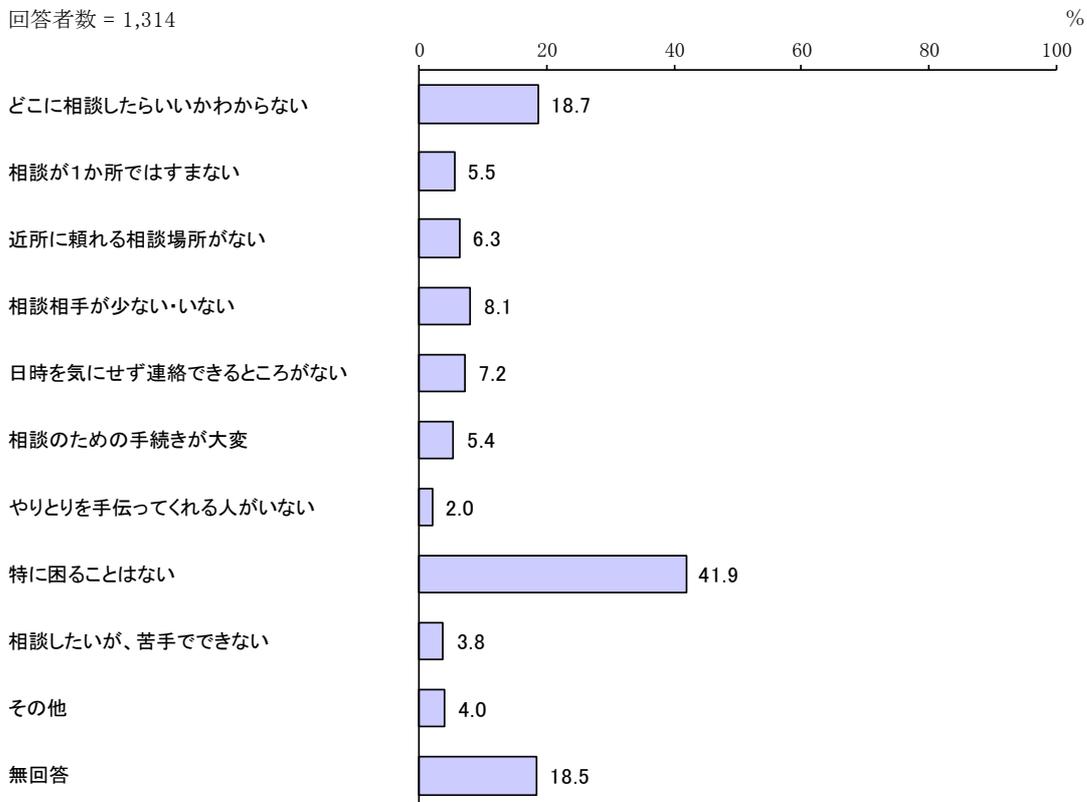
単位：％

区分	有効回答数(件)	家族・親族	友人・知人	介助・支援者	近所の人	学校・職場・通所先	民生委員・児童委員	障がい者団体	NPO・福祉ボランティア団体	市社会福祉協議会	県保健福祉事務所・児童相談所
全体	1314	73.5	23.8	8.9	4.1	7.2	1.2	2.7	0.8	3.4	0.8
身体障がい	946	74.8	25.6	8.2	5.1	2.6	1.5	2.0	0.3	3.5	0.5
視聴覚系	242	74.0	21.9	11.6	5.4	3.3	2.1	1.7	—	3.7	0.8
運動系	427	74.5	26.5	11.2	4.4	2.8	1.9	2.8	0.5	3.7	0.9
内部系	421	77.2	25.9	6.9	6.9	3.1	1.4	1.2	0.2	3.8	0.7
知的障がい	152	72.4	9.9	14.5	0.7	27.6	0.7	5.3	0.7	3.3	1.3
精神障がい	220	70.5	19.5	8.2	1.8	14.1	0.5	3.6	3.2	2.7	1.8
重複障がい	75	74.7	13.3	10.7	1.3	22.7	1.3	4.0	1.3	1.3	2.7

区分	指定特定相談支援事業者	逗子あんしんセンター	こども発達支援センター・教育研究相談センター	子育て支援センター	地域包括支援センター	医療機関	インターネット上のコミュニティ	市役所	特に相談はしない	その他	無回答
全体	5.5	0.3	2.2	0.5	5.9	19.3	0.5	17.3	7.1	2.2	6.5
身体障がい	2.7	0.2	0.4	0.3	7.0	17.4	0.5	17.2	7.6	1.9	6.7
視聴覚系	2.5	—	0.8	0.8	8.7	16.9	1.2	24.0	6.6	2.1	6.6
運動系	4.7	0.5	0.5	—	7.7	16.6	0.9	15.9	8.4	2.6	5.9
内部系	2.4	—	0.2	0.2	7.6	21.4	0.2	18.5	6.4	1.9	7.4
知的障がい	21.7	1.3	5.3	2.0	3.3	15.8	—	19.1	2.6	3.3	5.3
精神障がい	11.4	—	2.7	0.5	5.0	33.2	0.9	23.6	7.7	5.0	1.8
重複障がい	18.7	—	5.3	1.3	8.0	22.7	—	26.7	4.0	6.7	4.0

問 25 あなたが相談したい時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「特に困ることはない」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「どこに相談したらいいかわからない」の割合が 18.7%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～5歳で「どこに相談したらいいかわからない」の割合が高くなっています。また、18～29歳で「相談相手が少ない・いない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	どこに相談したらいいかわからない	相談が1か所ではすまない	近所に頼れる相談場所がない	相談相手が少ない・いない	日時を気にせず連絡できるところがない	相談のための手続きが大変	やりとりを手伝ってくれる人がいない	特に困ることはない	相談したいが、苦手でできない	その他	無回答
全体	1314	18.7	5.5	6.3	8.1	7.2	5.4	2.0	41.9	3.8	4.0	18.5
0～5歳	23	39.1	13.0	—	4.3	8.7	13.0	—	17.4	—	4.3	21.7
6～17歳	49	20.4	6.1	4.1	8.2	2.0	6.1	—	32.7	6.1	8.2	20.4
18～29歳	61	18.0	6.6	4.9	19.7	14.8	3.3	3.3	21.3	11.5	9.8	14.8
30～49歳	179	25.1	8.4	8.4	14.0	12.8	6.7	5.0	33.5	6.1	5.6	10.6
50～64歳	180	27.2	8.3	8.3	15.6	11.1	8.9	3.9	35.6	4.4	5.6	11.1
65歳以上	785	14.9	3.8	6.0	4.6	5.0	4.5	1.0	48.8	2.5	2.7	20.8

【障がいの種別】

他に比べ、精神障がい、重複障がいで「どこに相談したらいいかわからない」「相談が1か所ではすまない」「日時を気にせず連絡できるところがない」の割合が高くなっています。

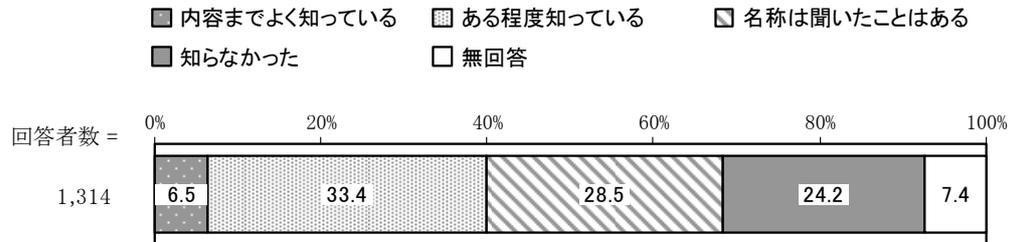
単位：％

区分	有効回答数(件)	どこに相談したらいいかわからない	相談が1か所ではすまない	近所に頼れる相談場所がない	相談相手が少ない・いない	日時を気にせず連絡できるところがない	相談のための手続きが大変	やりとりを手伝ってくれる人がいない	特に困ることはない	相談したいが、苦手でできない	その他	無回答
全体	1314	18.7	5.5	6.3	8.1	7.2	5.4	2.0	41.9	3.8	4.0	18.5
身体障がい	946	17.8	4.5	5.8	5.3	5.8	4.5	1.5	47.3	2.3	3.1	19.2
視聴覚系	242	24.0	5.8	7.0	6.6	9.1	6.2	2.5	39.7	1.2	4.1	20.2
運動系	427	19.7	5.2	4.7	4.9	7.0	5.6	1.4	44.5	2.8	3.5	19.0
内部系	421	16.2	4.8	7.1	5.2	4.5	5.2	1.0	49.2	1.7	3.1	20.0
知的障がい	152	19.1	4.6	5.3	10.5	9.2	7.9	2.6	25.7	8.6	7.2	19.1
精神障がい	220	23.2	10.5	10.9	21.8	15.9	7.3	4.5	28.2	8.6	7.7	9.1
重複障がい	75	24.0	8.0	6.7	14.7	13.3	4.0	2.7	25.3	8.0	6.7	14.7

③成年後見制度

問 26 あなたは、金銭や財産の管理、福祉サービスの利用手続きなどを本人に代わって行い、判断に不安のある人を守る「成年後見制度」についてご存知ですか。
(1つに○)

「ある程度知っている」の割合が33.4%と最も高く、次いで「名称は聞いたことはある」の割合が28.5%、「知らなかった」の割合が24.2%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で「知らなかった」の割合が高くなっています。また、65歳以上で「ある程度知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	内容までよく 知っている	ある程度 知っている	名称は聞いた ことはある	知らなかつた	無回答
全 体	1314	6.5	33.4	28.5	24.2	7.4
0～5歳	23	—	8.7	52.2	26.1	13.0
6～17歳	49	2.0	30.6	12.2	44.9	10.2
18～29歳	61	3.3	16.4	23.0	50.8	6.6
30～49歳	179	7.3	27.9	29.1	33.0	2.8
50～64歳	180	8.3	28.9	27.2	30.0	5.6
65歳以上	785	6.2	38.2	30.1	18.2	7.3

【障がいの種別】

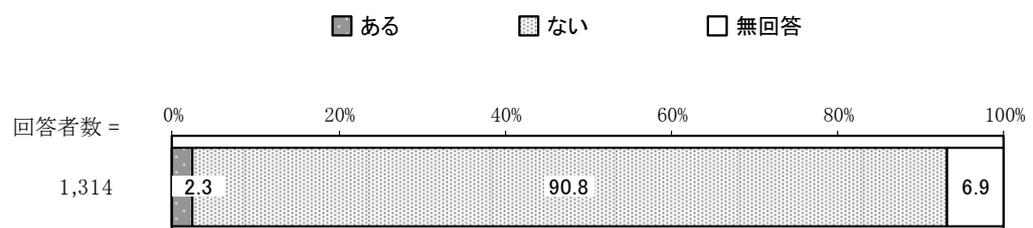
他に比べ、身体障がいで「ある程度知っている」の割合が、精神障がい、重複障がいで「名称は聞いたことはある」の割合が高くなっています。また、知的障がいで「知らなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	内容までよく 知っている	ある程度 知っている	名称は聞いた ことはある	知らなかった	無回答
全 体	1314	6.5	33.4	28.5	24.2	7.4
身体障がい	946	6.9	36.9	29.2	20.3	6.8
視聴覚系	242	7.0	35.1	28.1	23.1	6.6
運動系	427	8.0	38.6	28.6	18.5	6.3
内部系	421	6.4	34.9	32.1	19.2	7.4
知的障がい	152	4.6	26.3	22.4	36.8	9.9
精神障がい	220	5.5	27.7	33.6	31.4	1.8
重複障がい	75	5.3	34.7	34.7	22.7	2.7

問 27 あなたは成年後見制度を利用したことがありますか。(1つに○)

「ある」の割合が2.3%、「ない」の割合が90.8%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	ある	ない	無回答
全 体	1314	2.3	90.8	6.9
0～5歳	23	—	87.0	13.0
6～17歳	49	—	89.8	10.2
18～29歳	61	—	93.4	6.6
30～49歳	179	5.0	93.9	1.1
50～64歳	180	2.8	92.2	5.0
65歳以上	785	1.9	91.0	7.1

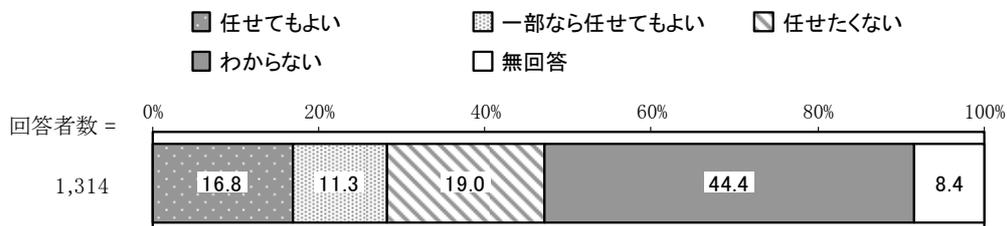
【障がいの種別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	ある	ない	無回答
全 体	1314	2.3	90.8	6.9
身体障がい	946	1.7	91.5	6.8
視聴覚系	242	2.9	89.3	7.9
運動系	427	2.1	90.9	7.0
内部系	421	0.5	92.4	7.1
知的障がい	152	5.3	87.5	7.2
精神障がい	220	3.6	95.0	1.4
重複障がい	75	4.0	93.3	2.7

問 28 あなたは、自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見制度」を利用し
後見人に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

「わからない」の割合が44.4%と最も高く、次いで「任せたくない」の割合が19.0%、「任せ
てもよい」の割合が16.8%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「任せたくない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	任せてもよい	一部なら任せても よい	任せたくない	わからない	無回答
全 体	1314	16.8	11.3	19.0	44.4	8.4
0～5歳	23	21.7	4.3	4.3	56.5	13.0
6～17歳	49	12.2	18.4	6.1	53.1	10.2
18～29歳	61	9.8	14.8	9.8	59.0	6.6
30～49歳	179	19.0	18.4	14.5	46.9	1.1
50～64歳	180	20.0	14.4	15.6	44.4	5.6
65歳以上	785	16.9	8.7	23.2	41.9	9.3

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいで「任せたくない」の割合が高くなっています。

単位：%

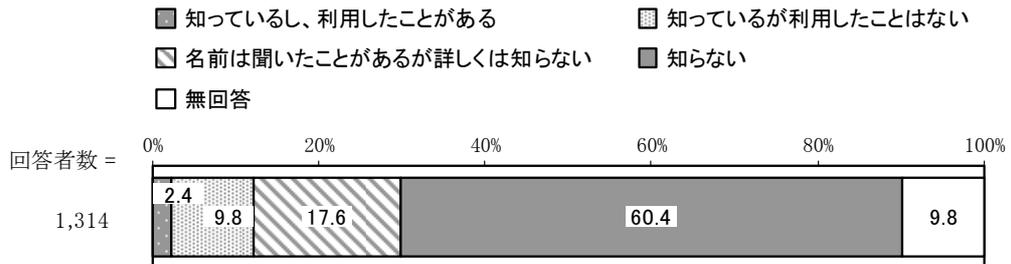
区分	有効回答数 (件)	任せてもよい	一部なら任せても よい	任せたくない	わからない	無回答
全 体	1314	16.8	11.3	19.0	44.4	8.4
身体障がい	946	17.1	10.1	22.1	42.1	8.6
視聴覚系	242	14.0	9.9	23.6	43.0	9.5
運動系	427	19.9	9.8	19.0	42.9	8.4
内部系	421	14.0	10.0	24.2	43.0	8.8
知的障がい	152	15.8	15.1	7.9	53.3	7.9
精神障がい	220	18.2	15.5	15.9	47.7	2.7
重複障がい	75	17.3	16.0	12.0	48.0	6.7

④障害福祉サービス等の利用状況と利用意向

問 29 あなたは、逗子市社会福祉協議会が行っている次のサービスについて知っていますか。(1つに○)

A 逗子あんしんセンター、C ボランティアセンターで「名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない」の割合が高く、約2割となっています。また、A 逗子あんしんセンター、D 生活困窮者自立支援事業で「知らない」の割合が高く、6割を超えています。

A 逗子あんしんセンター



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	2.4	9.8	17.6	60.4	9.8
0～5歳	23	—	4.3	—	87.0	8.7
6～17歳	49	2.0	8.2	4.1	77.6	8.2
18～29歳	61	1.6	6.6	16.4	72.1	3.3
30～49歳	179	3.9	10.1	15.1	68.2	2.8
50～64歳	180	2.2	7.2	15.0	67.8	7.8
65歳以上	785	2.3	10.7	20.4	55.4	11.2

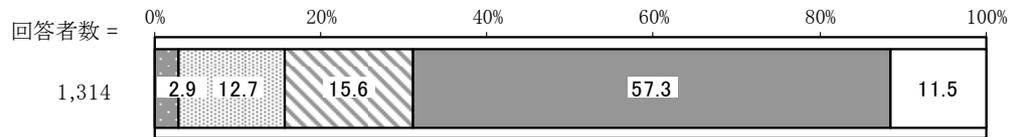
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	2.4	9.8	17.6	60.4	9.8
身体障がい	946	2.3	11.1	19.8	57.0	9.8
視聴覚系	242	2.9	9.9	16.9	61.6	8.7
運動系	427	2.8	10.3	18.7	56.9	11.2
内部系	421	1.0	11.6	21.9	55.1	10.5
知的障がい	152	3.9	9.2	15.1	61.8	9.9
精神障がい	220	2.3	5.0	14.1	73.2	5.5
重複障がい	75	4.0	8.0	20.0	61.3	6.7

B フレンドリーヘルパー

- 知っているし、利用したことがある
- 知っているが利用したことはない
- 名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない
- 知らない
- 無回答



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	2.9	12.7	15.6	57.3	11.5
0～5歳	23	4.3	13.0	4.3	69.6	8.7
6～17歳	49	2.0	18.4	8.2	63.3	8.2
18～29歳	61	3.3	9.8	13.1	68.9	4.9
30～49歳	179	2.8	10.1	12.3	69.8	5.0
50～64歳	180	1.7	9.4	16.7	63.9	8.3
65歳以上	785	3.2	14.1	17.6	52.0	13.1

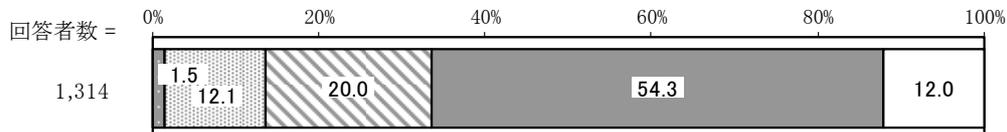
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	2.9	12.7	15.6	57.3	11.5
身体障がい	946	3.2	14.0	17.9	53.4	11.6
視聴覚系	242	2.1	14.0	14.0	58.7	11.2
運動系	427	4.2	15.5	17.3	51.5	11.5
内部系	421	2.9	12.1	21.1	51.5	12.4
知的障がい	152	2.6	13.8	14.5	57.2	11.8
精神障がい	220	2.3	10.0	9.1	72.7	5.9
重複障がい	75	2.7	17.3	14.7	57.3	8.0

C ボランティアセンター

- 知っているし、利用したことがある
- 知っているが利用したことはない
- 名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない
- 知らない
- 無回答



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	1.5	12.1	20.0	54.3	12.0
0～5歳	23	—	8.7	—	82.6	8.7
6～17歳	49	4.1	12.2	8.2	67.3	8.2
18～29歳	61	1.6	13.1	21.3	59.0	4.9
30～49歳	179	1.7	14.0	22.9	57.5	3.9
50～64歳	180	1.1	11.1	17.2	61.1	9.4
65歳以上	785	1.4	12.1	21.7	51.1	13.8

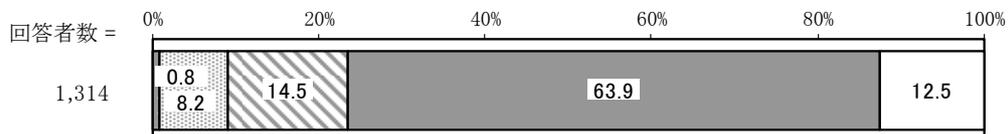
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	1.5	12.1	20.0	54.3	12.0
身体障がい	946	1.4	13.5	22.6	50.4	12.1
視聴覚系	242	0.8	13.2	21.1	52.5	12.4
運動系	427	1.6	12.6	22.7	50.6	12.4
内部系	421	1.0	14.5	22.8	49.2	12.6
知的障がい	152	3.3	10.5	19.7	55.3	11.2
精神障がい	220	1.8	7.7	14.5	69.5	6.4

D 生活困窮者自立支援事業

- 知っているし、利用したことがある
- 知っているが利用したことはない
- 名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない
- 知らない
- 無回答



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	0.8	8.2	14.5	63.9	12.5
0～5歳	23	—	4.3	—	87.0	8.7
6～17歳	49	—	6.1	20.4	65.3	8.2
18～29歳	61	—	6.6	16.4	72.1	4.9
30～49歳	179	1.1	6.7	14.0	72.1	6.1
50～64歳	180	2.2	8.3	15.0	65.6	8.9
65歳以上	785	0.6	8.9	14.6	61.5	14.3

【障がいの種別】

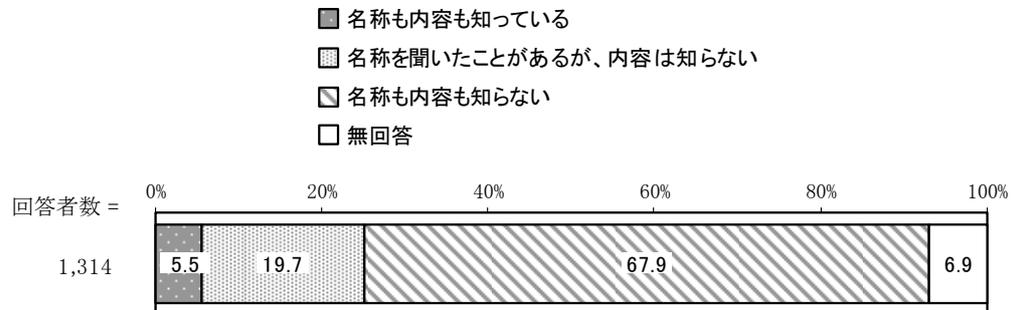
単位：%

区分	有効回答数 (件)	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない	知らない	無回答
全体	1314	0.8	8.2	14.5	63.9	12.5
身体障がい	946	0.6	9.4	16.2	61.0	12.8
視聴覚系	242	—	10.3	12.0	65.7	12.0
運動系	427	0.9	8.7	15.9	61.4	13.1
内部系	421	0.7	9.0	19.2	57.5	13.5
知的障がい	152	1.3	7.2	16.4	63.2	11.8
精神障がい	220	1.4	5.9	9.1	76.8	6.8
重複障がい	75	—	9.3	18.7	64.0	8.0

⑤障害者差別解消法の認知度

問 30 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

「名称も内容も知らない」の割合が67.9%と最も高く、次いで「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が19.7%となっています。



【年齢別】

他に比べ、6～17歳で「名称も内容も知っている」の割合が高くなっています。また、18～29歳で「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことがあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	1314	5.5	19.7	67.9	6.9
0～5歳	23	4.3	17.4	65.2	13.0
6～17歳	49	12.2	22.4	55.1	10.2
18～29歳	61	4.9	29.5	65.6	—
30～49歳	179	7.3	21.8	68.7	2.2
50～64歳	180	7.2	18.9	68.9	5.0
65歳以上	785	4.2	18.7	69.9	7.1

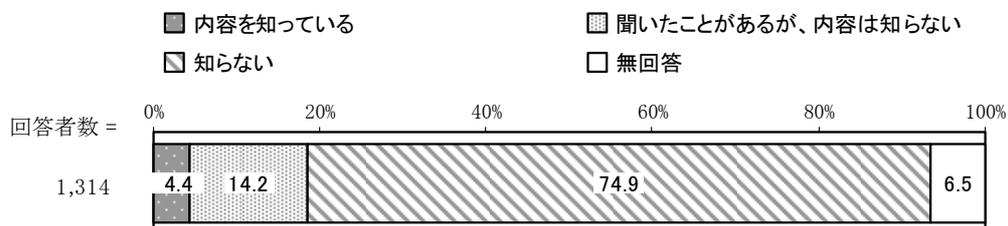
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことがあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	1314	5.5	19.7	67.9	6.9
身体障がい	946	5.2	20.6	67.8	6.4
視聴覚系	242	7.9	22.7	63.2	6.2
運動系	427	4.2	21.8	66.0	8.0
内部系	421	4.8	19.2	69.1	6.9
知的障がい	152	6.6	23.0	63.2	7.2
精神障がい	220	6.8	18.2	71.8	3.2
重複障がい	75	8.0	28.0	57.3	6.7

問 31 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。
(1つに○)

「知らない」の割合が74.9%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が14.2%となっています。



【年齢別】

他に比べ、6～17歳で「内容を知っている」の割合が高くなっています。また、65歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	内容を 知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答
全 体	1314	4.4	14.2	74.9	6.5
0～5歳	23	8.7	21.7	60.9	8.7
6～17歳	49	20.4	18.4	51.0	10.2
18～29歳	61	8.2	21.3	70.5	—
30～49歳	179	4.5	18.4	75.4	1.7
50～64歳	180	6.7	12.8	75.6	5.0
65歳以上	785	2.3	12.7	78.1	6.9

【障がいの種別】

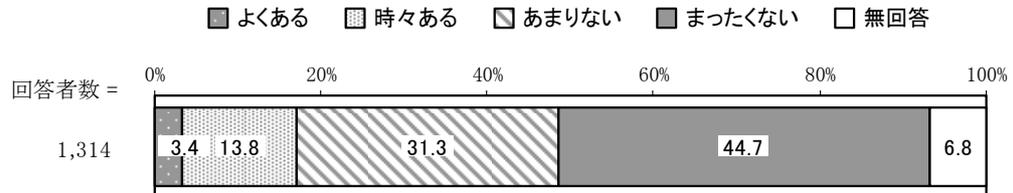
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容を 知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答
全 体	1314	4.4	14.2	74.9	6.5
身体障がい	946	3.6	14.1	75.9	6.4
視聴覚系	242	4.1	14.5	74.4	7.0
運動系	427	3.3	14.8	74.2	7.7
内部系	421	3.3	13.1	77.2	6.4
知的障がい	152	5.9	18.4	69.7	5.9
精神障がい	220	5.9	14.5	77.3	2.3
重複障がい	75	8.0	21.3	65.3	5.3

⑥障がいへの差別について

問 32 ここ5年間に於いて、あなたは障がいがあることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。
 (1つに○をつけ、1または2とお選びの方は付問にもお答えください。)

「まったくない」の割合が44.7%と最も高く、次いで「あまりない」の割合が31.3%、「時々ある」の割合が13.8%となっています。



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「まったくない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、6～29歳で「よくある」「時々ある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	よくある	時々ある	あまりない	まったくない	無回答
全体	1314	3.4	13.8	31.3	44.7	6.8
0～5歳	23	—	26.1	52.2	13.0	8.7
6～17歳	49	12.2	34.7	28.6	16.3	8.2
18～29歳	61	14.8	29.5	34.4	18.0	3.3
30～49歳	179	6.7	25.7	36.3	27.9	3.4
50～64歳	180	5.6	25.0	35.0	29.4	5.0
65歳以上	785	0.8	5.7	29.2	57.6	6.8

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい、精神障がい、重複障がいで「時々ある」の割合が高くなっています。また、身体障がい、特に内部系で「まったくない」の割合が高くなっています。

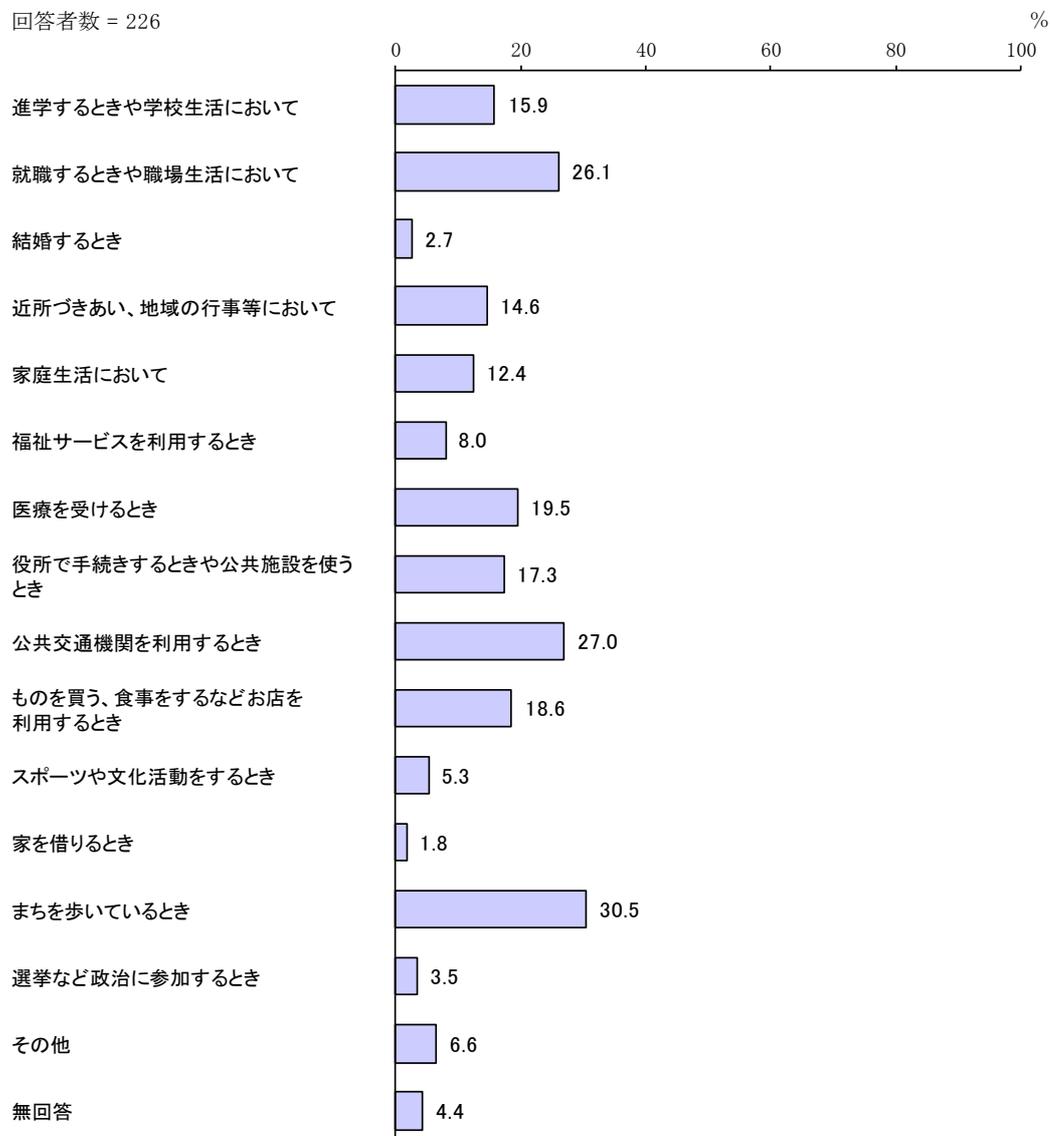
単位：%

区分	有効回答数(件)	よくある	時々ある	あまりない	まったくない	無回答
全体	1314	3.4	13.8	31.3	44.7	6.8
身体障がい	946	1.5	8.8	30.1	53.5	6.1
視聴覚系	242	3.3	15.7	34.7	38.8	7.4
運動系	427	0.9	9.6	34.0	48.2	7.3
内部系	421	1.2	5.9	27.3	59.4	6.2
知的障がい	152	6.6	28.3	36.8	18.4	9.9
精神障がい	220	11.4	26.8	35.5	23.6	2.7
重複障がい	75	9.3	25.3	38.7	20.0	6.7

問 32 で「よくある」「時々ある」と答えた方にお聞きします。

付問① あなたがそう感じたのはどのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

「まちを歩いているとき」の割合が 30.5%と最も高く、次いで「公共交通機関を利用するとき」の割合が 27.0%、「就職するときや職場生活において」の割合が 26.1%となっています。



【年齢別】

0～5歳、18～29歳で「まちを歩いているとき」の割合が高くなっています。また、30歳以上で「医療を受けるとき」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	進学するときや学校生活	就職するときや職場生活	結婚するとき	近所づきあい、地域の行事等	家庭生活	福祉サービスを利用するとき	医療を受けるとき	役所での手続き・公共施設を使うとき	公共交通機関の利用	お店を利用するとき	スポーツや文化活動をするとき	家を借りるとき	まちを歩いているとき	選挙など政治への参加	その他	無回答
全体	226	15.9	26.1	2.7	14.6	12.4	8.0	19.5	17.3	27.0	18.6	5.3	1.8	30.5	3.5	6.6	4.4
0～5歳	6	50.0	16.7	—	16.7	—	—	16.7	16.7	50.0	33.3	—	—	50.0	—	—	—
6～17歳	23	65.2	—	—	13.0	4.3	—	13.0	4.3	8.7	13.0	4.3	—	30.4	—	4.3	—
18～29歳	27	40.7	37.0	—	18.5	14.8	3.7	3.7	7.4	18.5	25.9	3.7	3.7	48.1	7.4	3.7	—
30～49歳	58	12.1	41.4	6.9	17.2	20.7	10.3	22.4	15.5	20.7	13.8	6.9	3.4	29.3	—	10.3	5.2
50～64歳	55	—	36.4	3.6	10.9	5.5	10.9	20.0	27.3	32.7	21.8	—	—	30.9	5.5	7.3	3.6
65歳以上	51	—	3.9	—	13.7	13.7	7.8	25.5	21.6	37.3	19.6	9.8	2.0	21.6	5.9	5.9	7.8

【障がいの種別】

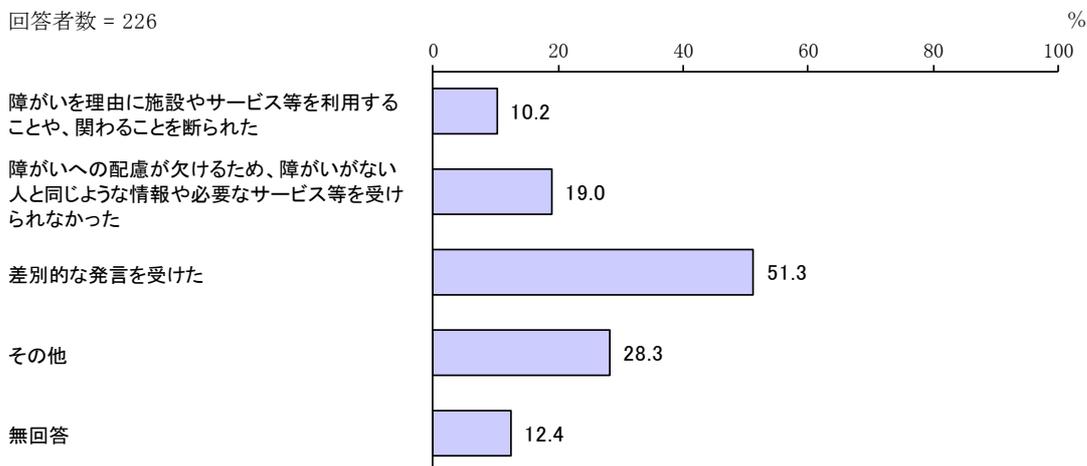
他に比べ、身体障がいの視聴覚系、内部系で「公共交通機関を利用するとき」「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」の割合が高くなっています。また、精神障がい、重複障がいで「家庭生活において」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	進学するときや学校生活	就職するときや職場生活	結婚するとき	近所づきあい、地域の行事等	家庭生活	福祉サービスを利用するとき	医療を受けるとき	役所での手続き・公共施設を使うとき	公共交通機関の利用	お店を利用するとき	スポーツや文化活動をするとき	家を借りるとき	まちを歩いているとき	選挙など政治への参加	その他	無回答
全体	226	15.9	26.1	2.7	14.6	12.4	8.0	19.5	17.3	27.0	18.6	5.3	1.8	30.5	3.5	6.6	4.4
身体障がい	97	4.1	22.7	3.1	14.4	11.3	10.3	16.5	21.6	36.1	24.7	5.2	—	30.9	6.2	7.2	5.2
視聴覚系	46	2.2	17.4	2.2	15.2	10.9	4.3	17.4	19.6	37.0	26.1	6.5	—	19.6	4.3	6.5	8.7
運動系	45	4.4	22.2	2.2	13.3	13.3	15.6	15.6	13.3	35.6	20.0	4.4	—	35.6	6.7	6.7	6.7
内部系	30	—	20.0	—	6.7	10.0	13.3	26.7	30.0	50.0	40.0	—	—	20.0	3.3	10.0	3.3
知的障がい	53	34.0	22.6	—	15.1	3.8	—	13.2	11.3	20.8	22.6	3.8	3.8	50.9	5.7	3.8	—
精神障がい	84	17.9	34.5	4.8	14.3	20.2	10.7	26.2	17.9	21.4	11.9	4.8	2.4	25.0	—	9.5	4.8
重複障がい	26	34.6	26.9	3.8	15.4	15.4	7.7	15.4	11.5	26.9	23.1	—	—	50.0	3.8	7.7	—

付問② あなたが受けたのはどのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

「差別的な発言を受けた」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「障がいへの配慮が欠けるため、障がいがない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられなかった」の割合が 19.0%、「障がいを理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」の割合が 10.2%となっています。



【年齢別】

全体的に「差別的な発言を受けた」の割合が高くなっていますが、他に比べ、29歳までで「障がいを理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	障がいを理由に施設やサービス等の利用、関わりを断られた	障がいがない人と同じ情報やサービス等を受けられなかった	差別的な発言を受けた	その他	無回答
全体	226	10.2	19.0	51.3	28.3	12.4
0～5歳	6	16.7	—	66.7	16.7	16.7
6～17歳	23	21.7	13.0	34.8	30.4	13.0
18～29歳	27	18.5	7.4	63.0	25.9	11.1
30～49歳	58	12.1	17.2	56.9	31.0	10.3
50～64歳	55	3.6	23.6	49.1	30.9	7.3
65歳以上	51	5.9	23.5	47.1	23.5	21.6

【障がいの種別】

他に比べ、精神障がい、重複障がいで「差別的な発言を受けた」の割合が高くなっています。また、身体障がいの視聴覚系、内部系で「障がいへの配慮が欠けるため、障がいがない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

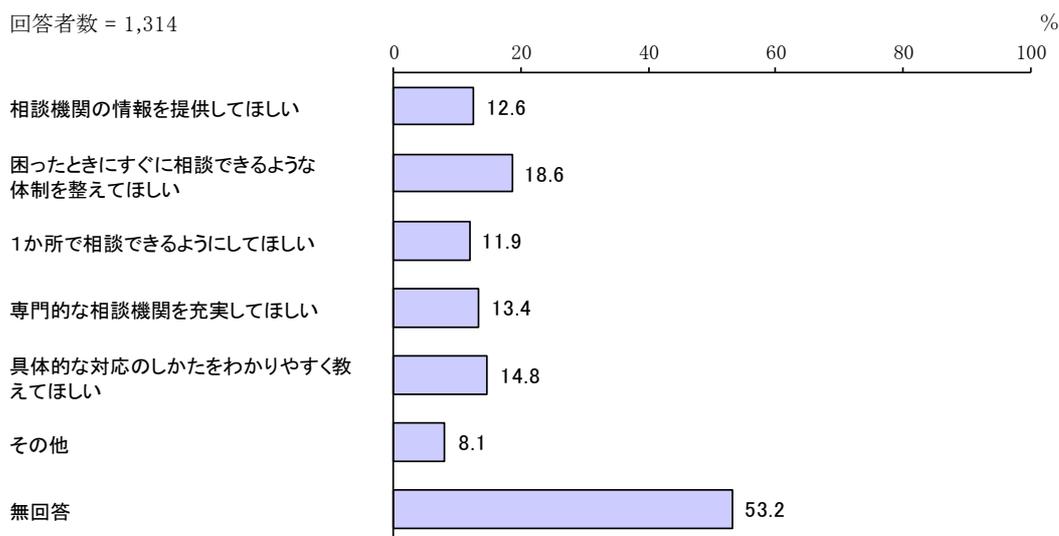
区分	有効回答数(件)	障がいを理由に施設やサービス等の利用、関わりを断られた	障がいがない人と同じ情報やサービス等を受けられなかった	差別的な発言を受けた	その他	無回答
全 体	226	10.2	19.0	51.3	28.3	12.4
身体障がい	97	5.2	24.7	45.4	26.8	16.5
視聴覚系	46	6.5	30.4	43.5	21.7	21.7
運動系	45	2.2	20.0	46.7	35.6	11.1
内部系	30	3.3	30.0	36.7	43.3	10.0
知的障がい	53	17.0	17.0	52.8	30.2	9.4
精神障がい	84	13.1	11.9	60.7	29.8	6.0
重複障がい	26	15.4	15.4	61.5	26.9	3.8

(7) 障がい児への療育や教育について

①療育や教育の相談について

問 33 あなたは療育や教育に関する相談について望むことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」の割合が 18.6%と最も高く、次いで「具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい」の割合が 14.8%、「専門的な相談機関を充実してほしい」の割合が 13.4%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	相談機関の情報を提供してほしい	困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい	1か所で相談できるようにしてほしい	専門的な相談機関を充実してほしい	具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい	その他	無回答
全体	1314	12.6	18.6	11.9	13.4	14.8	8.1	53.2
0～5歳	23	34.8	39.1	21.7	43.5	56.5	8.7	17.4
6～17歳	49	28.6	38.8	28.6	34.7	49.0	4.1	18.4
18～29歳	61	24.6	34.4	23.0	32.8	21.3	8.2	23.0
30～49歳	179	19.0	29.6	17.9	23.5	21.8	10.1	34.1
50～64歳	180	11.7	15.0	11.1	11.7	17.8	6.1	54.4
65歳以上	785	9.0	14.1	8.8	8.2	9.0	8.7	61.7

【障がいの種別】

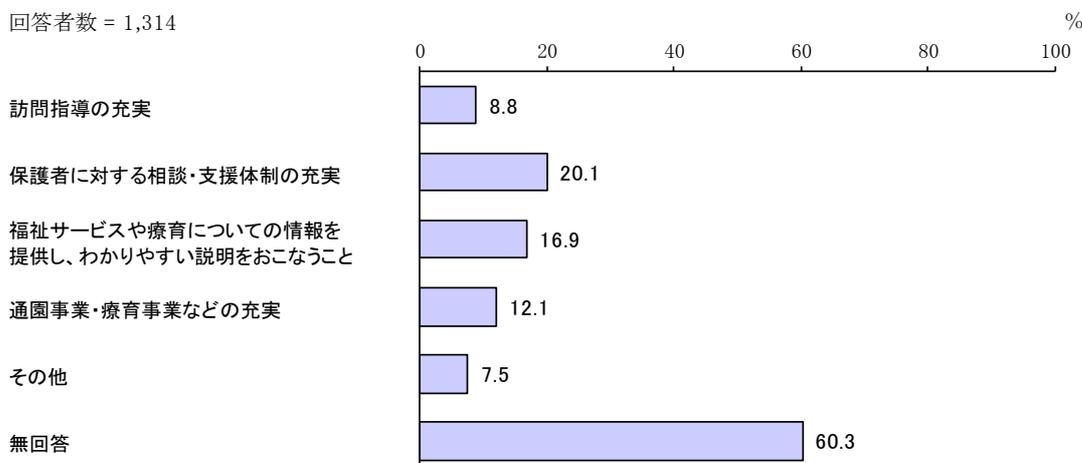
単位：％

区分	有効回答数 (件)	相談機関の情報を 提供してほしい	困ったときにすぐに相談 できるような体制を 整えてほしい	1か所で相談できる ようにしてほしい	専門的な相談機関を 充実してほしい	具体的な対応のしかたを わかりやすく教えてほしい	その他	無回答
全 体	1314	12.6	18.6	11.9	13.4	14.8	8.1	53.2
身体障がい	946	11.4	16.3	10.7	10.5	12.3	7.8	57.1
視聴覚系	242	12.4	13.6	12.8	9.1	14.5	9.1	56.6
運動系	427	12.4	15.9	11.7	11.0	12.9	8.4	57.1
内部系	421	11.4	19.0	9.3	10.2	10.5	8.1	57.2
知的障がい	152	20.4	36.8	25.7	28.9	28.9	5.3	27.6
精神障がい	220	13.2	18.2	12.7	19.1	17.3	11.8	48.2
重複障がい	75	18.7	26.7	22.7	29.3	25.3	8.0	37.3

問 34 あなたは乳幼児期における母子保健や療育に関わることでどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

「保護者に対する相談・支援体制の充実」の割合が 20.1%と最も高く、次いで「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」の割合が 16.9%、「通園事業・療育事業などの充実」の割合が 12.1%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	訪問指導の充実	保護者に対する相談・ 支援体制の充実	福祉サービスや療育の情報 提供、わかりやすい説明	通園事業・療育事業などの充実	その他	無回答
全 体	1314	8.8	20.1	16.9	12.1	7.5	60.3
0～5歳	23	4.3	60.9	56.5	69.6	8.7	13.0
6～17歳	49	14.3	51.0	53.1	55.1	8.2	20.4
18～29歳	61	11.5	41.0	44.3	39.3	11.5	21.3
30～49歳	179	11.7	29.6	23.5	15.6	8.9	47.5
50～64歳	180	4.4	16.7	16.7	6.1	7.2	63.3
65歳以上	785	8.9	14.6	10.4	6.5	7.1	68.2

【障がいの種別】

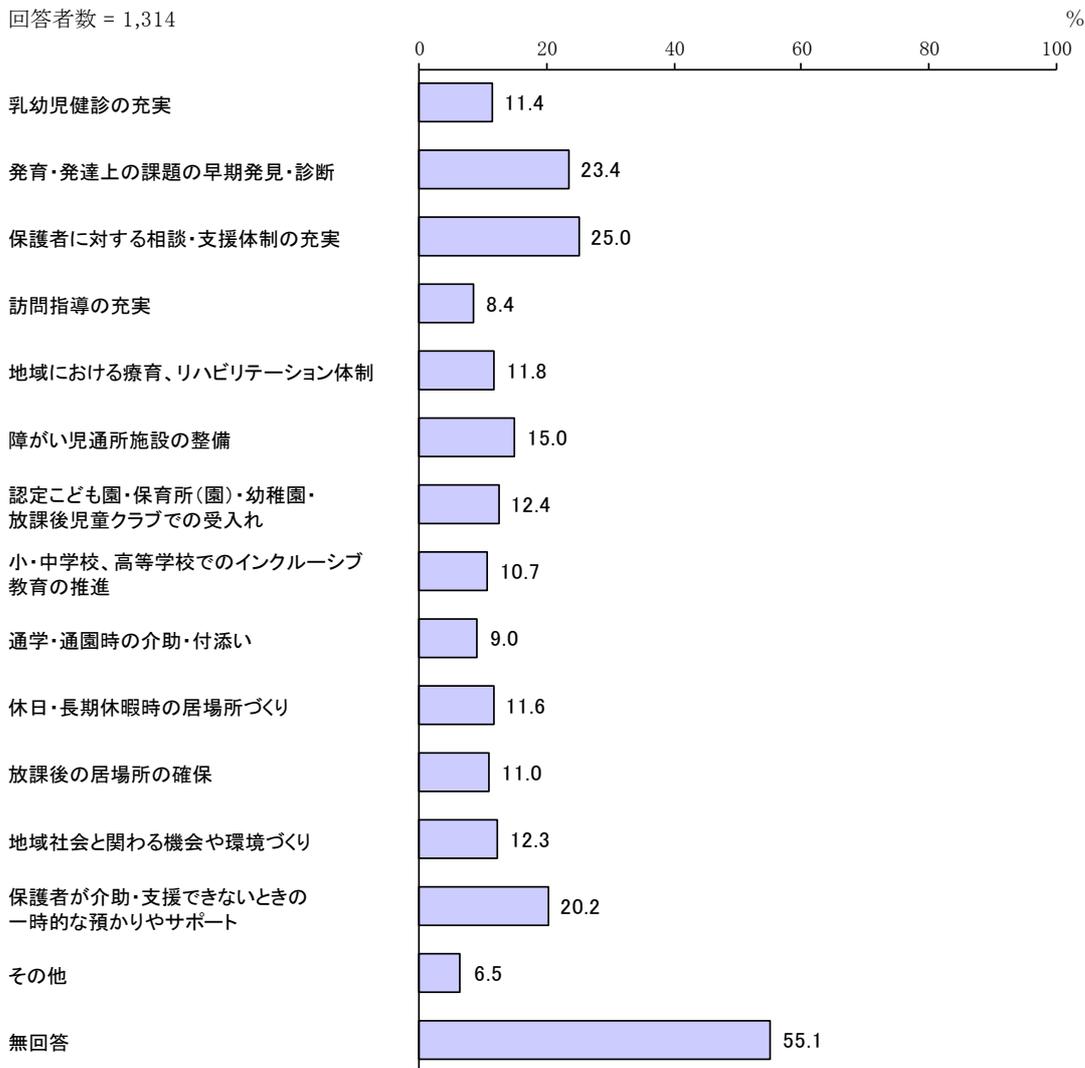
単位：％

区分	有効回答数 (件)	訪問指導の充実	保護者に対する相談・ 支援体制の充実	福祉サービスや療育の情報 提供、わかりやすい説明	通園事業・療育事業などの充実	その他	無回答
全 体	1314	8.8	20.1	16.9	12.1	7.5	60.3
身体障がい	946	9.2	17.7	14.2	8.8	6.8	63.8
視聴覚系	242	9.5	21.5	15.3	9.5	8.7	59.9
運動系	427	7.7	16.4	14.8	9.1	7.5	64.6
内部系	421	11.6	17.8	14.0	9.0	7.1	63.2
知的障がい	152	12.5	35.5	36.2	28.9	8.6	38.8
精神障がい	220	8.6	21.4	20.9	16.8	9.1	55.5
重複障がい	75	16.0	32.0	33.3	28.0	6.7	42.7

②発達障がいのある子どもへの施策・サービス

問 35 発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「保護者に対する相談・支援体制の充実」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「発育・発達上の課題の早期発見・診断」の割合が 23.4%、「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」の割合が 20.2%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	乳幼児健診の充実	発育・発達上の課題の早期発見・診断	保護者に対する相談・支援体制の充実	訪問指導の充実	地域における療育、リハビリテーション体制	障がい児通所施設の整備	保育所(園)での受入れ	インクルーシブ教育の推進	通学・通園時の介助・付添い	休日・長期休暇時の居場所づくり	放課後の居場所の確保	地域社会と関わる機会や環境づくり	一時的な預かりやサポート	その他	無回答
全体	1314	11.4	23.4	25.0	8.4	11.8	15.0	12.4	10.7	9.0	11.6	11.0	12.3	20.2	6.5	55.1
0～5歳	23	13.0	69.6	82.6	8.7	65.2	56.5	65.2	60.9	47.8	34.8	34.8	26.1	52.2	8.7	8.7
6～17歳	49	4.1	40.8	63.3	8.2	44.9	40.8	40.8	53.1	32.7	51.0	53.1	32.7	53.1	6.1	12.2
18～29歳	61	9.8	39.3	55.7	4.9	31.1	23.0	19.7	23.0	23.0	31.1	19.7	32.8	37.7	9.8	14.8
30～49歳	179	10.6	31.8	31.8	8.4	15.1	20.1	19.0	16.8	10.1	20.7	16.2	19.0	27.9	7.8	40.2
50～64歳	180	13.3	21.1	24.4	8.9	12.8	14.4	11.1	8.3	8.3	9.4	9.4	11.7	17.8	4.4	57.8
65歳以上	785	12.1	19.1	17.8	8.7	6.0	11.0	7.4	5.1	5.5	5.6	6.5	7.8	15.0	6.6	63.7

【障がいの種別】

単位：％

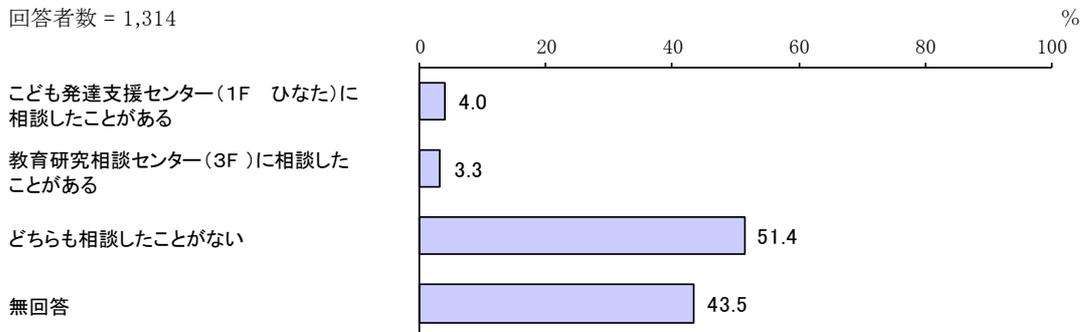
区分	有効回答数(件)	乳幼児健診の充実	発育・発達上の課題の早期発見・診断	保護者に対する相談・支援体制の充実	訪問指導の充実	地域における療育、リハビリテーション体制	障がい児通所施設の整備	保育所(園)での受入れ	インクルーシブ教育の推進	通学・通園時の介助・付添い	休日・長期休暇時の居場所づくり	放課後の居場所の確保	地域社会と関わる機会や環境づくり	一時的な預かりやサポート	その他	無回答
全体	1314	11.4	23.4	25.0	8.4	11.8	15.0	12.4	10.7	9.0	11.6	11.0	12.3	20.2	6.5	55.1
身体障がい	946	12.7	21.9	22.4	9.0	8.9	13.7	9.5	7.8	7.3	8.4	8.7	10.1	18.4	5.6	58.9
視聴覚系	242	10.3	21.1	21.9	9.1	8.7	13.2	9.9	8.7	8.7	8.3	9.1	10.3	17.8	7.4	57.4
運動系	427	11.7	22.2	23.4	9.4	11.7	15.7	9.1	8.4	8.4	9.1	8.2	11.0	18.5	5.6	58.8
内部系	421	13.8	22.8	23.5	9.7	8.1	13.8	10.5	7.1	8.1	8.3	9.5	9.3	19.2	5.2	58.9
精神障がい	220	8.6	23.6	26.8	8.2	15.5	15.0	12.3	11.4	7.7	13.6	13.2	14.1	20.0	10.0	52.3
重複障がい	75	12.0	30.7	38.7	12.0	28.0	29.3	12.0	16.0	14.7	30.7	20.0	18.7	38.7	4.0	38.7

③療育教育総合センターへの相談

問 36 あなたは市の療育教育総合センター（こども発達支援センター及び教育研究相談センター）に相談したことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「どちらも相談したことがない」の割合が51.4%と最も高くなっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	こども発達支援センターに相談したことがある	教育研究相談センターに相談したことがある	どちらも相談したことがない	無回答
全体	1314	4.0	3.3	51.4	43.5
0～5歳	23	82.6	30.4	8.7	8.7
6～17歳	49	61.2	49.0	24.5	6.1
18～29歳	61	1.6	11.5	75.4	11.5
30～49歳	179	1.1	2.2	63.1	34.1
50～64歳	180	—	—	55.6	44.4
65歳以上	785	—	0.1	49.9	49.9

【障がいの種別】

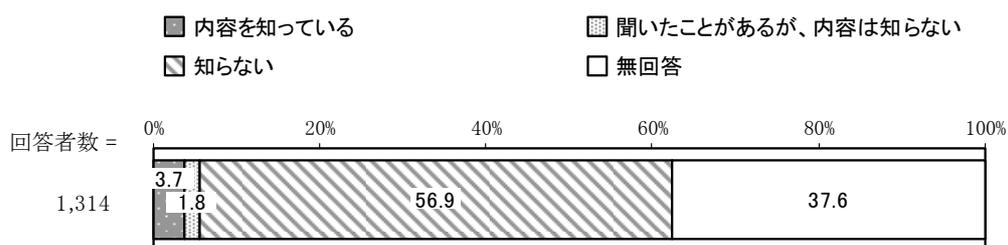
単位：％

区分	有効回答数 (件)	こども発達支援センター に相談したことがある	教育研究相談センターに 相談したことがある	どちらとも相談した ことがない	無回答
全 体	1314	4.0	3.3	51.4	43.5
身体障がい	946	0.6	0.6	51.9	46.9
視聴覚系	242	1.2	1.2	50.0	47.5
運動系	427	0.9	0.9	50.1	48.2
内部系	421	0.2	0.7	53.0	46.3
知的障がい	152	15.8	13.2	55.3	23.0
精神障がい	220	4.1	5.5	53.2	40.0
重複障がい	75	10.7	12.0	50.7	32.0

④ひなたファイルについて

問 37 あなたはひなたファイルを知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が56.9%と最も高くなっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	内容を知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	知らない	無回答
全 体	1314	3.7	1.8	56.9	37.6
0～5歳	23	73.9	4.3	13.0	8.7
6～17歳	49	55.1	6.1	36.7	2.0
18～29歳	61	—	1.6	90.2	8.2
30～49歳	179	1.7	1.1	67.6	29.6
50～64歳	180	—	1.1	60.6	38.3
65歳以上	785	0.3	1.4	55.3	43.1

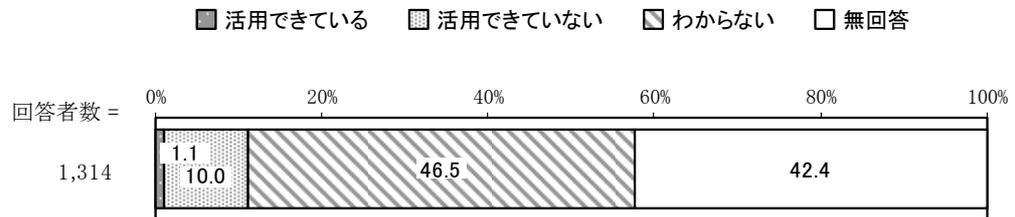
【障がいの種別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	内容を知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	知らない	無回答
全 体	1314	3.7	1.8	56.9	37.6
身体障がい	946	1.0	1.6	57.0	40.5
視聴覚系	242	2.1	3.3	56.6	38.0
運動系	427	1.2	0.5	56.9	41.5
内部系	421	0.5	1.7	56.8	41.1
知的障がい	152	14.5	3.3	64.5	17.8
精神障がい	220	3.6	0.9	61.4	34.1
重複障がい	75	13.3	2.7	58.7	25.3

問 38 あなたはひなたファイルを活用できていますか。(1つに○)

「わからない」の割合が46.5%と最も高く、次いで「活用できていない」の割合が10.0%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	活用できている	活用できていない	わからない	無回答
全 体	1314	1.1	10.0	46.5	42.4
0～5歳	23	26.1	52.2	8.7	13.0
6～17歳	49	16.3	46.9	34.7	2.0
18～29歳	61	—	13.1	77.0	9.8
30～49歳	179	0.6	15.1	51.4	33.0
50～64歳	180	—	7.8	50.0	42.2
65歳以上	785	—	5.6	45.2	49.2

【障がいの種別】

単位：%

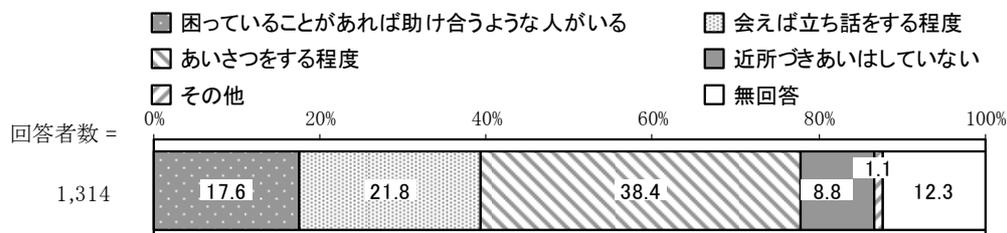
区分	有効回答数 (件)	活用できている	活用できていない	わからない	無回答
全 体	1314	1.1	10.0	46.5	42.4
身体障がい	946	0.1	7.4	46.3	46.2
視聴覚系	242	0.4	9.1	45.9	44.6
運動系	427	0.2	8.2	44.5	47.1
内部系	421	0.2	6.4	47.3	46.1
知的障がい	152	3.9	20.4	54.6	21.1
精神障がい	220	0.9	12.3	50.0	36.8
重複障がい	75	2.7	18.7	49.3	29.3

(8) 地域の中での関わりについて

①近所づき合いの程度

問 39 あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。(1つに○)

「あいさつをする程度」の割合が38.4%と最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度」の割合が21.8%、「困っていることがあれば助け合うような人がある」の割合が17.6%となっています。



【年齢別】

0～5歳で「困っていることがあれば助け合うような人がある」の割合が高くなっています。また、特に18～29歳で「あいさつをする程度」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	困っていることがあれば助け合うような人がある	会えば立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所づきあいはしていない	その他	無回答
全体	1314	17.6	21.8	38.4	8.8	1.1	12.3
0～5歳	23	30.4	26.1	30.4	4.3	—	8.7
6～17歳	49	20.4	22.4	46.9	8.2	—	2.0
18～29歳	61	9.8	11.5	63.9	11.5	—	3.3
30～49歳	179	8.4	14.0	52.0	15.6	2.2	7.8
50～64歳	180	13.3	17.8	45.6	15.0	1.1	7.2
65歳以上	785	20.9	25.6	32.4	6.0	0.9	14.3

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいで「困っていることがあれば助け合うような人がある」の割合が高くなっています。また、知的障がい、精神障がいで「近所づきあいはしていない」の割合が高くなっています。

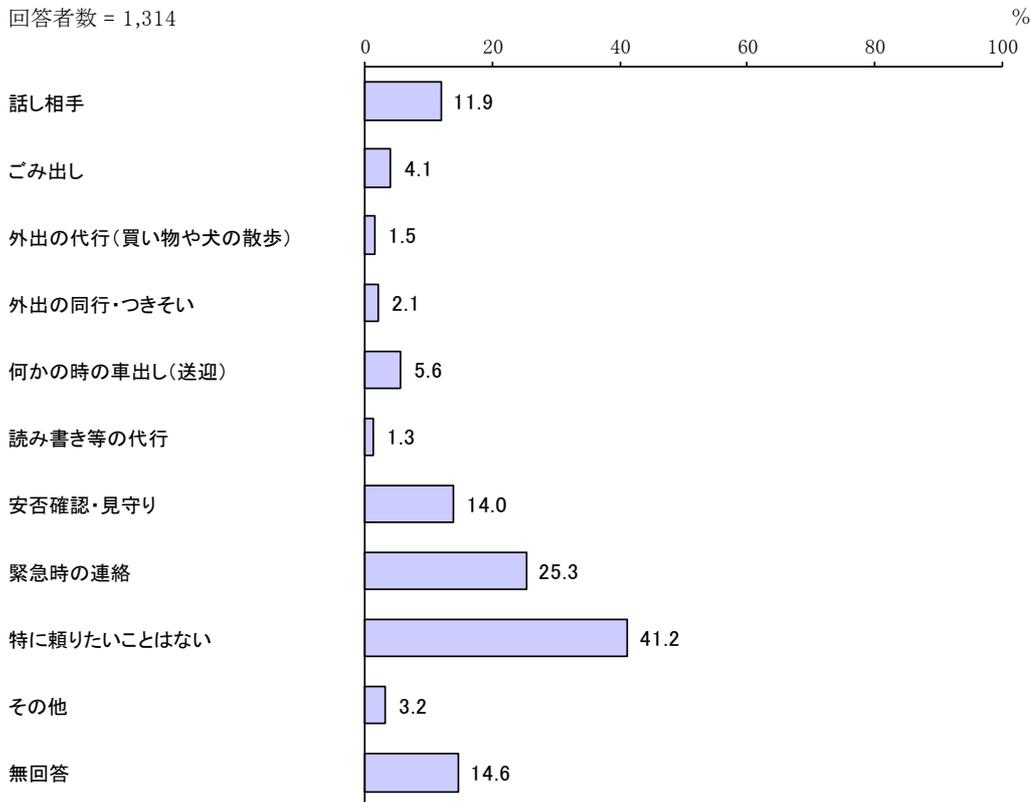
単位：%

区分	有効回答数(件)	困っていることがあれば助け合うような人がある	会えば立ち話をする程度	あいさつをする程度	近所づきあいはしていない	その他	無回答
全体	1314	17.6	21.8	38.4	8.8	1.1	12.3
身体障がい	946	19.6	24.6	36.0	5.6	0.8	13.3
視聴覚系	242	18.6	17.4	41.7	6.6	1.7	14.0
運動系	427	20.1	25.1	31.4	7.3	1.4	14.8
内部系	421	20.2	27.8	34.9	5.0	0.5	11.6
知的障がい	152	11.8	15.1	45.4	17.8	—	9.9
精神障がい	220	10.5	14.1	47.3	18.6	3.2	6.4
重複障がい	75	13.3	20.0	38.7	13.3	2.7	12.0

②近所に頼りたいこと

問 40 あなたが日頃の生活でご近所に頼りたいことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「特に頼りたいことはない」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「緊急時の連絡」の割合が 25.3%、「安否確認・見守り」の割合が 14.0%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	話し相手	ごみ出し	外出の代行 (買い物や犬の散歩)	外出の同行・ つきそい	何かの時の車出し (送迎)	読み書き等の代行	安否確認・見守り	緊急時の連絡	特に頼りたいことは ない	その他	無回答
全 体	1314	11.9	4.1	1.5	2.1	5.6	1.3	14.0	25.3	41.2	3.2	14.6
0～5歳	23	17.4	—	—	—	8.7	—	13.0	13.0	39.1	4.3	13.0
6～17歳	49	12.2	2.0	—	2.0	8.2	—	26.5	24.5	28.6	4.1	14.3
18～29歳	61	9.8	—	1.6	4.9	1.6	—	11.5	19.7	50.8	4.9	9.8
30～49歳	179	13.4	3.4	2.8	2.8	8.4	2.8	16.8	27.9	44.7	3.9	8.9
50～64歳	180	8.9	4.4	0.6	2.2	4.4	1.1	12.2	30.0	47.8	3.9	8.3
65歳以上	785	12.5	4.8	1.7	1.9	5.4	1.1	13.6	24.6	39.7	2.7	16.3

【障がいの種別】

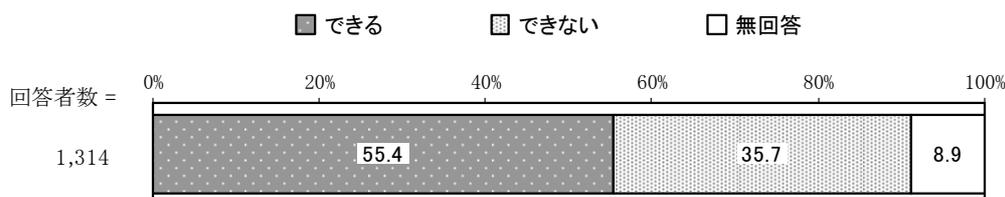
単位：％

区分	有効回答数 (件)	話し相手	ごみ出し	外出の代行 (買い物や犬の散歩)	外出の同行・ つきそい	何かの時の車出し (送迎)	読み書き等の代行	安否確認・見守り	緊急時の連絡	特に頼りたいことは ない	その他	無回答
全 体	1314	11.9	4.1	1.5	2.1	5.6	1.3	14.0	25.3	41.2	3.2	14.6
身体障がい	946	12.2	4.5	1.7	2.1	5.7	1.3	13.1	26.3	40.9	3.1	14.8
視聴覚系	242	13.2	4.1	2.9	4.1	6.6	4.5	14.9	33.9	31.4	4.1	16.1
運動系	427	12.2	4.9	2.8	1.9	7.0	0.9	15.5	27.4	38.9	3.5	14.8
内部系	421	12.8	5.2	1.7	1.9	5.9	0.5	12.1	25.9	43.0	2.6	13.8
知的障がい	152	13.2	2.6	1.3	5.3	8.6	4.6	17.1	27.0	32.9	4.6	13.8
精神障がい	220	11.8	4.5	2.7	3.2	5.5	0.5	18.6	24.5	44.5	3.2	11.4
重複障がい	75	14.7	4.0	5.3	8.0	10.7	5.3	22.7	33.3	26.7	4.0	16.0

③災害時の対応

問 41 火事や地震などの災害発生時に、あなたは自力で避難できますか。(1つに○)

「できる」の割合が 55.4%、「できない」の割合が 35.7%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	できる	できない	無回答
全 体	1314	55.4	35.7	8.9
0～5歳	23	34.8	56.5	8.7
6～17歳	49	51.0	44.9	4.1
18～29歳	61	62.3	36.1	1.6
30～49歳	179	60.3	33.5	6.1
50～64歳	180	68.9	24.4	6.7
65歳以上	785	52.2	38.5	9.3

【障がいの種別】

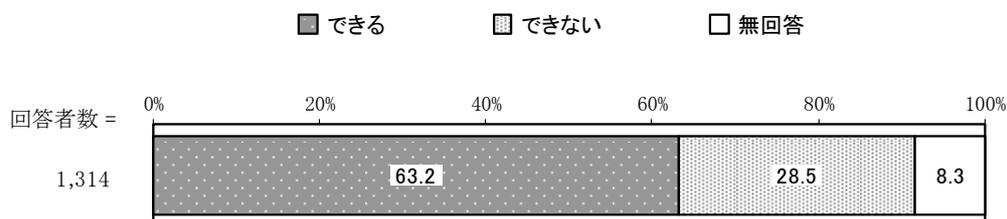
身体障がいの視聴覚系、運動系、知的障がい、重複障がいで「できない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	できる	できない	無回答
全 体	1314	55.4	35.7	8.9
身体障がい	946	53.8	37.1	9.1
視聴覚系	242	39.7	50.8	9.5
運動系	427	40.5	49.9	9.6
内部系	421	62.7	28.3	9.0
知的障がい	152	35.5	58.6	5.9
精神障がい	220	67.3	25.9	6.8
重複障がい	75	26.7	62.7	10.7

問 42 火事や地震などの災害発生時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。
(1つに○)

「できる」の割合が63.2%、「できない」の割合が28.5%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	できる	できない	無回答
全 体	1314	63.2	28.5	8.3
0～5歳	23	47.8	43.5	8.7
6～17歳	49	55.1	42.9	2.0
18～29歳	61	55.7	41.0	3.3
30～49歳	179	64.8	30.2	5.0
50～64歳	180	70.0	22.8	7.2
65歳以上	785	63.2	27.9	8.9

【障がいの種別】

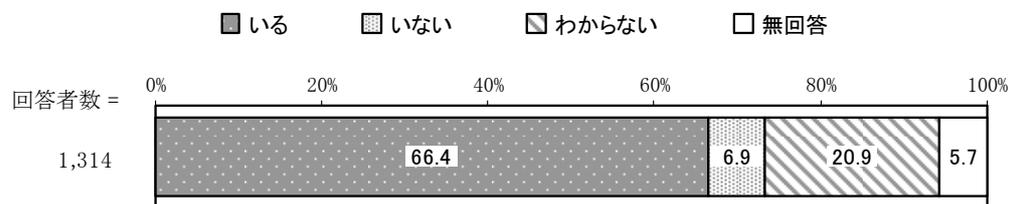
他に比べ、身体障がいの内部系、精神障がいで「できる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	できる	できない	無回答
全 体	1314	63.2	28.5	8.3
身体障がい	946	64.6	27.1	8.4
視聴覚系	242	48.3	42.6	9.1
運動系	427	56.4	32.3	11.2
内部系	421	71.7	21.1	7.1
知的障がい	152	36.8	56.6	6.6
精神障がい	220	65.9	29.1	5.0
重複障がい	75	34.7	57.3	8.0

問 43 火災や地震などの災害発生時に、あなたを助けてくれる方はいますか。
(1つに○)

「いる」の割合が66.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が20.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	1314	66.4	6.9	20.9	5.7
0～5歳	23	82.6	—	8.7	8.7
6～17歳	49	91.8	2.0	4.1	2.0
18～29歳	61	83.6	—	14.8	1.6
30～49歳	179	66.5	6.7	24.0	2.8
50～64歳	180	51.1	15.6	27.2	6.1
65歳以上	785	67.4	6.1	20.9	5.6

【障がいの種別】

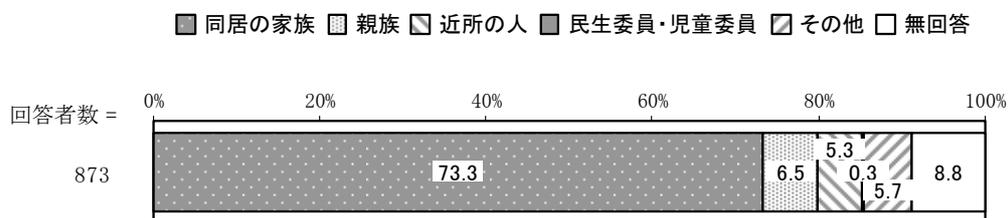
単位：%

区分	有効回答数 (件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	1314	66.4	6.9	20.9	5.7
身体障がい	946	66.4	6.8	21.4	5.5
視聴覚系	242	63.6	7.9	23.1	5.4
運動系	427	65.6	7.7	19.9	6.8
内部系	421	68.2	6.9	20.7	4.3
知的障がい	152	76.3	2.6	16.4	4.6
精神障がい	220	62.7	10.0	24.1	3.2
重複障がい	75	73.3	1.3	20.0	5.3

問 43 で「いる」と答えた方にお聞きします。

付問① あなたを助けてくれる方は誰ですか。(1つに○)

「同居の家族」の割合が73.3%と最も高くなっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	同居の家族	親族	近所の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全 体	873	73.3	6.5	5.3	0.3	5.7	8.8
0～5歳	19	84.2	—	—	—	—	15.8
6～17歳	45	80.0	4.4	—	—	—	15.6
18～29歳	51	80.4	2.0	—	—	5.9	11.8
30～49歳	119	72.3	8.4	1.7	—	6.7	10.9
50～64歳	92	75.0	7.6	3.3	—	9.8	4.3
65歳以上	529	71.5	7.0	7.4	0.6	5.5	8.1

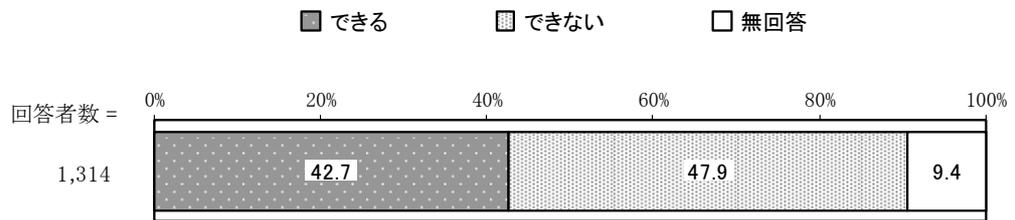
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	同居の家族	親族	近所の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全 体	873	73.3	6.5	5.3	0.3	5.7	8.8
身体障がい	628	73.6	6.8	6.2	0.5	4.6	8.3
視聴覚系	154	76.0	3.9	5.8	—	7.8	6.5
運動系	280	73.6	7.5	4.3	0.7	6.1	7.9
内部系	287	73.9	6.6	8.4	0.3	2.4	8.4
知的障がい	116	71.6	0.9	2.6	—	9.5	15.5
精神障がい	138	73.9	8.7	2.2	—	8.7	6.5
重複障がい	55	78.2	1.8	1.8	—	9.1	9.1

問 44 あなたは市からの防災情報を防災行政無線またはメール等で受信することができますか。(1つに○)

「できる」の割合が42.7%、「できない」の割合が47.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	できる	できない	無回答
全 体	1314	42.7	47.9	9.4
0～5歳	23	39.1	47.8	13.0
6～17歳	49	40.8	57.1	2.0
18～29歳	61	54.1	42.6	3.3
30～49歳	179	52.0	41.3	6.7
50～64歳	180	51.1	40.0	8.9
65歳以上	785	38.7	51.6	9.7

【障がいの種別】

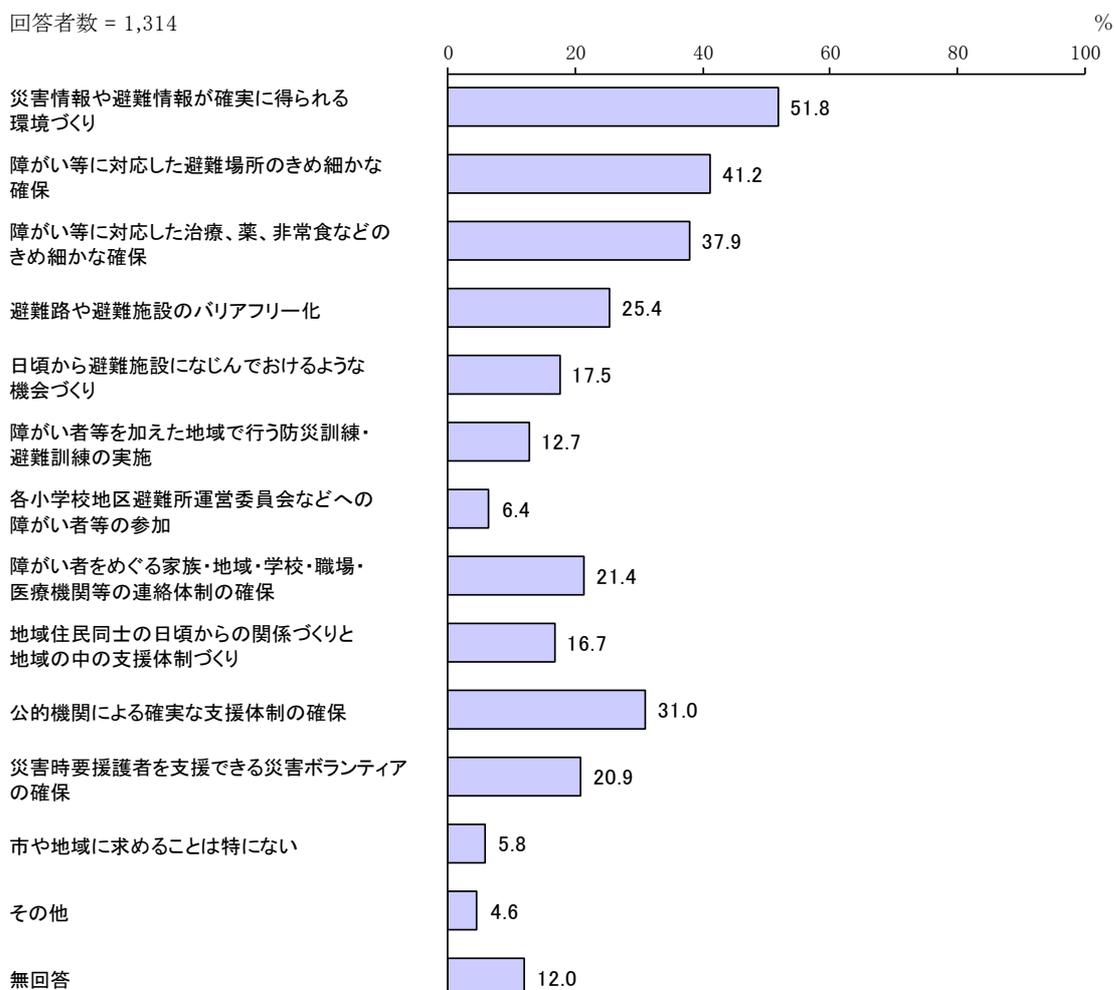
単位：%

区分	有効回答数 (件)	できる	できない	無回答
全 体	1314	42.7	47.9	9.4
身体障がい	946	42.9	47.8	9.3
視聴覚系	242	37.2	52.9	9.9
運動系	427	40.0	49.9	10.1
内部系	421	44.2	48.7	7.1
知的障がい	152	33.6	58.6	7.9
精神障がい	220	44.5	49.1	6.4
重複障がい	75	29.3	64.0	6.7

問 45 あなたは、災害時の避難について、市や地域に、どんな支援や配慮を求めますか。
(あてはまるものすべてに○)

「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」の割合が 41.2%、「障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保」の割合が 37.9%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

年齢が高くなるにつれ「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」の割合が高くなっています。また、特に6～17歳で「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり	障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保	障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保	障がい等に対応した避難施設のバリアフリー化	日頃から避難施設になじんでおけるような機会づくり	障がい者等を加えた地域で行う防災訓練・避難訓練の実施	障がい者等の参加	各小学校地区避難所運営委員会などへの障がい者等の参加	障がい者をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保	地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域の中の支援体制づくり	公的機関による確実な支援体制の確保	災害ボランティアの確保	災害時要援護者を支援できる	市や地域に求めることは特にない	その他	無回答
全体	1314	51.8	41.2	37.9	25.4	17.5	12.7	6.4	21.4	16.7	31.0	20.9	5.8	4.6	12.0		
0～5歳	23	39.1	43.5	30.4	13.0	34.8	26.1	13.0	39.1	26.1	13.0	4.3	4.3	—	17.4		
6～17歳	49	42.9	73.5	28.6	18.4	24.5	20.4	14.3	34.7	22.4	24.5	18.4	4.1	10.2	2.0		
18～29歳	61	44.3	52.5	37.7	16.4	19.7	18.0	9.8	29.5	18.0	32.8	18.0	4.9	6.6	3.3		
30～49歳	179	49.7	45.8	43.6	19.6	21.8	19.6	7.8	27.9	16.2	29.6	23.5	7.3	5.0	8.9		
50～64歳	180	48.3	36.7	41.1	26.7	13.9	10.6	5.0	22.2	9.4	28.3	20.0	5.6	6.7	11.7		
65歳以上	785	55.2	38.7	36.9	28.2	16.3	10.3	5.1	18.1	17.7	33.4	21.5	5.7	3.8	12.6		

【障がいの種別】

他に比べ、身体障がいの内部系で「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」の割合が高くなっています。また、重複障がいで「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」「障がい者等を加えた地域で行う防災訓練・避難訓練の実施」「障がい者をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保」「災害時要援護者を支援できる災害ボランティアの確保」などの割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	環境づくり 災害情報や避難情報が確実に得られる	障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保	障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保	避難路や避難施設のバリアフリー化	日頃から避難施設になじんでおけるような機会づくり	障がい者等を加えた地域で行う防災訓練・避難訓練の実施	障がい者等を加えた地域で行う防災訓練・避難訓練の参加	障がい者等をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保	障がい者等をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保	地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域の中の支援体制づくり	公的機関による確実な支援体制の確保	災害ボランティアの確保	災害時要援護者を支援できる	市や地域に求めることは特にない	その他	無回答
全体	1314	51.8	41.2	37.9	25.4	17.5	12.7	6.4	21.4	16.7	31.0	20.9	5.8	4.6	12.0		
身体障がい	946	54.5	40.1	37.6	29.1	16.6	11.8	6.1	19.8	17.0	32.6	22.7	5.8	4.0	11.9		
視聴覚系	242	48.3	45.5	39.3	31.4	16.5	16.9	5.0	25.6	21.9	36.0	28.5	5.8	3.7	12.0		
運動系	427	52.5	46.8	38.2	36.8	17.6	13.3	6.8	22.7	16.9	35.4	28.1	6.1	4.2	11.9		
内部系	421	60.6	36.3	42.3	25.9	18.8	10.9	5.7	20.4	17.3	34.9	22.1	4.5	4.5	10.5		
知的障がい	152	35.5	60.5	36.2	21.7	20.4	21.1	10.5	35.5	20.4	31.6	23.0	4.6	4.6	10.5		
精神障がい	220	50.0	43.6	46.4	18.6	21.8	15.0	5.9	28.2	14.1	29.5	19.1	6.4	6.8	7.7		
重複障がい	75	38.7	70.7	41.3	32.0	25.3	25.3	10.7	38.7	21.3	30.7	36.0	5.3	5.3	8.0		

(9) 今後のあり方について

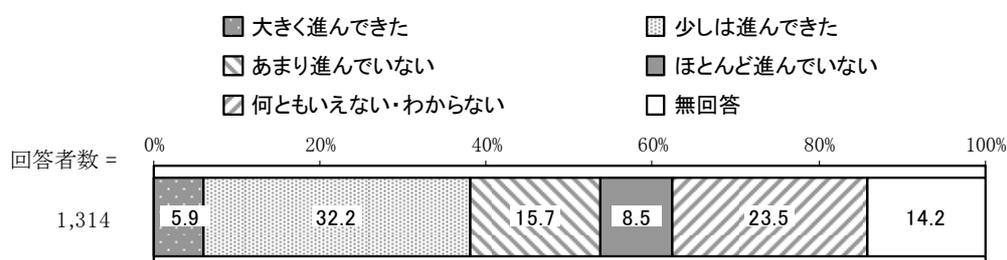
①障がいへの理解度

問 46 あなたは、最近の5年程度で、障がいや障がいのある人に対する理解が進んできたと思いますか。「ア～オ」について、最もあてはまると思うものに1つずつ○をつけてください。

オ. あなたやあなたの家族の中で「大きく進んできた」と「少しは進んできた」をあわせた“進んできた”の割合が高く、50.8%となっています。一方、エ. 市内の身近な地域で「あまり進んでいない」と「ほとんど進んでいない」をあわせた“進んでいない”の割合が高く、28.3%となっています。

ア. 社会全体で

「大きく進んできた」と「少しは進んできた」をあわせた“進んできた”の割合が38.1%、「あまり進んでいない」と「ほとんど進んでいない」をあわせた“進んでいない”の割合が24.2%となっています。



【年齢別】

区分	有効回答数 (件)	大きく進ん きた	少しは進ん きた	あまり進ん でない	ほとんど進ん でない	何ともいえない・ わからない	無回答
全 体	1314	5.9	32.2	15.7	8.5	23.5	14.2
0～5歳	23	4.3	47.8	17.4	13.0	8.7	8.7
6～17歳	49	4.1	38.8	18.4	12.2	18.4	8.2
18～29歳	61	1.6	39.3	16.4	19.7	19.7	3.3
30～49歳	179	6.1	29.1	17.9	16.2	22.9	7.8
50～64歳	180	5.6	26.7	18.9	11.1	28.9	8.9
65歳以上	785	6.5	33.4	14.5	5.2	23.3	17.1

単位：%

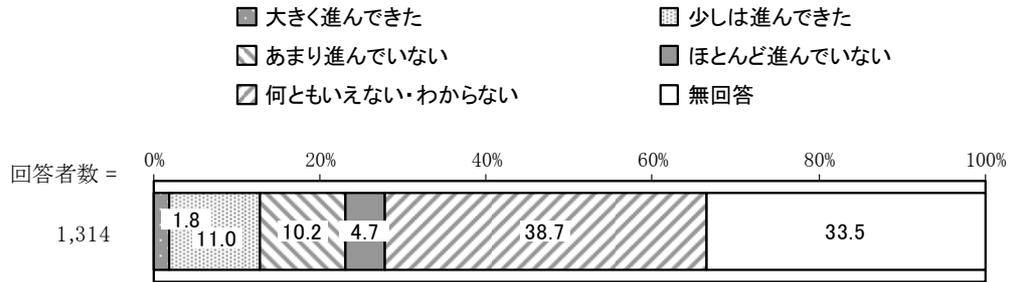
【障がいの種別】

区分	有効回答数 (件)	大きく進ん きた	少しは進ん きた	あまり進ん でない	ほとんど進ん でない	何ともいえない・ わからない	無回答
全 体	1314	5.9	32.2	15.7	8.5	23.5	14.2
身体障がい	946	6.4	33.2	15.0	6.6	23.3	15.5
視聴覚系	242	7.4	31.4	13.2	8.7	24.0	15.3
運動系	427	6.3	34.4	13.8	6.6	23.7	15.2
内部系	421	6.9	33.3	17.6	6.4	21.1	14.7
知的障がい	152	2.0	31.6	19.7	11.2	21.1	14.5
精神障がい	220	6.4	33.2	16.4	15.9	22.3	5.9
重複障がい	75	4.0	42.7	10.7	12.0	18.7	12.0

単位：%

イ. 学校で

“進んできた”の割合が12.8%、“進んでいない”の割合が14.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	1.8	11.0	10.2	4.7	38.7	33.5
0～5歳	23	4.3	39.1	17.4	8.7	21.7	8.7
6～17歳	49	8.2	40.8	20.4	10.2	12.2	8.2
18～29歳	61	1.6	26.2	23.0	13.1	29.5	6.6
30～49歳	179	3.9	6.1	16.2	9.5	44.7	19.6
50～64歳	180	2.2	8.9	12.8	6.1	45.0	25.0
65歳以上	785	0.9	9.0	6.5	2.4	39.0	42.2

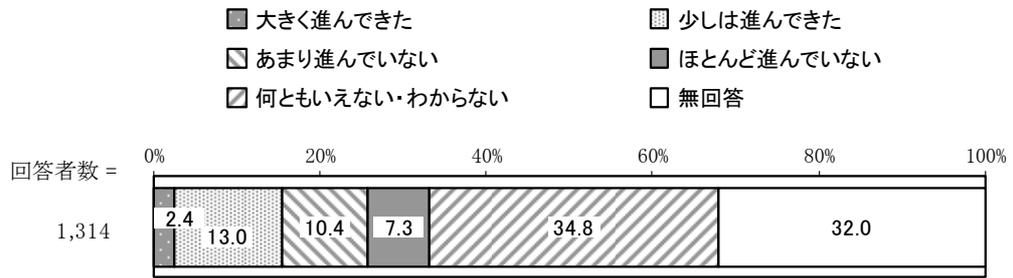
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	1.8	11.0	10.2	4.7	38.7	33.5
身体障がい	946	1.7	9.7	7.8	3.5	39.6	37.6
視聴覚系	242	2.1	9.5	7.0	4.5	39.7	37.2
運動系	427	1.9	10.3	6.3	3.7	39.1	38.6
内部系	421	1.9	9.3	8.8	4.5	38.7	36.8
知的障がい	152	3.3	23.0	17.8	7.9	23.0	25.0
精神障がい	220	2.3	9.1	15.0	9.1	43.6	20.9
重複障がい	75	5.3	18.7	10.7	6.7	32.0	26.7

ウ. 職場で

“進んできた”の割合が15.4%、“進んでいない”の割合が17.7%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	2.4	13.0	10.4	7.3	34.8	32.0
0～5歳	23	—	21.7	17.4	8.7	43.5	8.7
6～17歳	49	—	8.2	4.1	8.2	49.0	30.6
18～29歳	61	8.2	31.1	19.7	11.5	21.3	8.2
30～49歳	179	8.4	17.9	16.8	15.1	29.1	12.8
50～64歳	180	2.2	17.8	15.6	12.2	32.8	19.4
65歳以上	785	1.0	9.9	7.5	3.9	36.4	41.1

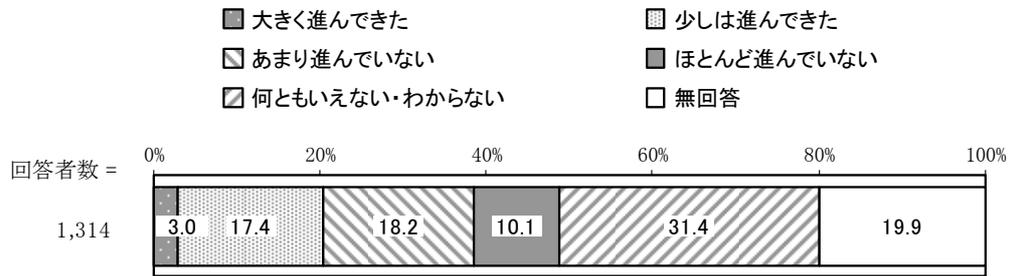
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	2.4	13.0	10.4	7.3	34.8	32.0
身体障がい	946	1.6	11.7	9.3	5.8	34.9	36.7
視聴覚系	242	1.2	12.4	7.4	6.6	35.1	37.2
運動系	427	1.2	11.9	8.2	5.4	35.4	37.9
内部系	421	2.1	11.2	10.2	7.1	33.5	35.9
知的障がい	152	5.3	23.0	11.8	6.6	30.9	22.4
精神障がい	220	5.0	14.1	13.6	14.5	35.9	16.8
重複障がい	75	2.7	14.7	8.0	8.0	41.3	25.3

エ. 市内の身近な地域で

“進んできた”の割合が20.4%、“進んでいない”の割合が28.3%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	3.0	17.4	18.2	10.1	31.4	19.9
0～5歳	23	4.3	17.4	21.7	8.7	39.1	8.7
6～17歳	49	—	24.5	24.5	22.4	18.4	10.2
18～29歳	61	3.3	11.5	34.4	19.7	27.9	3.3
30～49歳	179	4.5	16.2	21.2	16.2	32.4	9.5
50～64歳	180	2.8	12.8	24.4	14.4	32.8	12.8
65歳以上	785	2.8	19.1	14.5	6.6	31.7	25.2

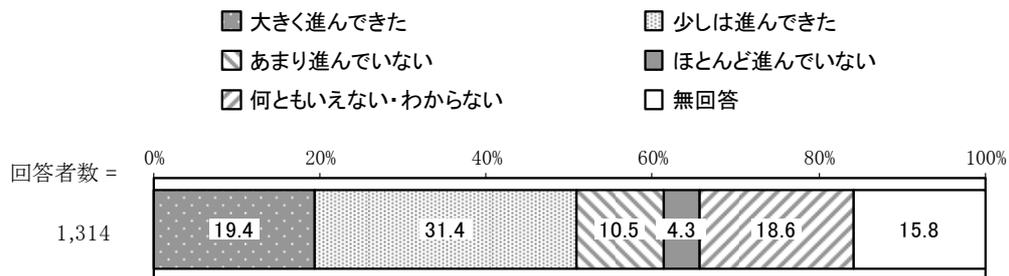
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	3.0	17.4	18.2	10.1	31.4	19.9
身体障がい	946	2.9	19.0	16.5	8.2	30.8	22.6
視聴覚系	242	3.3	21.5	15.7	6.2	32.2	21.1
運動系	427	1.4	20.8	16.2	9.4	30.0	22.2
内部系	421	3.3	17.3	18.1	8.6	29.2	23.5
知的障がい	152	1.3	17.1	27.6	12.5	26.3	15.1
精神障がい	220	4.5	11.8	20.9	19.1	34.5	9.1
重複障がい	75	1.3	17.3	25.3	14.7	26.7	14.7

オ. あなたやあなたの家族の中で

“進んできた”の割合が50.8%、“進んでいない”の割合が14.8%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	19.4	31.4	10.5	4.3	18.6	15.8
0～5歳	23	39.1	43.5	—	4.3	4.3	8.7
6～17歳	49	30.6	32.7	12.2	—	14.3	10.2
18～29歳	61	31.1	37.7	16.4	3.3	8.2	3.3
30～49歳	179	20.7	27.9	15.1	7.8	21.8	6.7
50～64歳	180	13.9	29.4	12.8	6.7	24.4	12.8
65歳以上	785	18.5	32.4	8.8	3.3	18.1	19.0

【障がいの種別】

単位：%

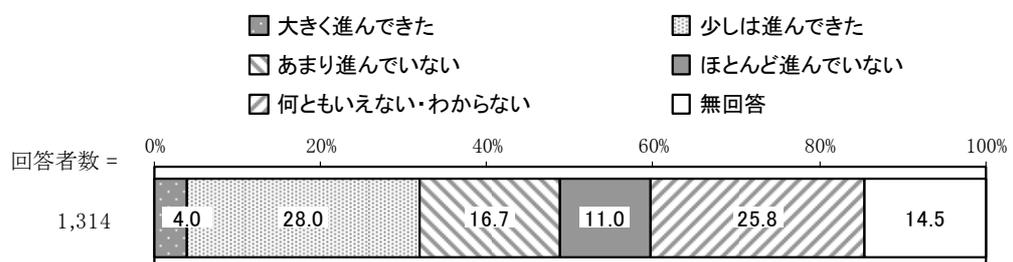
区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	19.4	31.4	10.5	4.3	18.6	15.8
身体障がい	946	18.7	31.5	9.7	3.8	18.9	17.3
視聴覚系	242	16.9	36.0	9.9	5.0	17.4	14.9
運動系	427	19.7	33.3	8.9	3.5	17.1	17.6
内部系	421	20.2	33.3	9.3	3.6	17.3	16.4
知的障がい	152	23.7	35.5	10.5	2.6	15.1	12.5
精神障がい	220	20.0	31.8	14.5	6.8	18.2	8.6
重複障がい	75	21.3	37.3	9.3	2.7	17.3	12.0

問 47 あなたは、最近の5年程度で、障がいのある人への差別が解消され、分け隔てのない状態が進んできたと思いますか。「ア～オ」について、最もあてはまると思うものに1つずつ○をつけてください。

オ. あなたやあなたの家族の中で「大きく進んできた」と「少しは進んできた」をあわせた“進んできた”の割合が高く、50%近くとなっています。また、ア. 社会全体で、エ. 市内の身近な地域で「あまり進んでいない」と「ほとんど進んでいない」をあわせた“進んでいない”の割合が高く、25%を超えています。

ア. 社会全体で

「大きく進んできた」と「少しは進んできた」をあわせた“進んできた”の割合が32.0%、「あまり進んでいない」と「ほとんど進んでいない」をあわせた“進んでいない”の割合が27.7%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全 体	1314	4.0	28.0	16.7	11.0	25.8	14.5
0～5歳	23	—	34.8	17.4	21.7	17.4	8.7
6～17歳	49	4.1	26.5	28.6	16.3	16.3	8.2
18～29歳	61	3.3	26.2	21.3	24.6	21.3	3.3
30～49歳	179	3.9	23.5	24.0	17.9	24.6	6.1
50～64歳	180	3.9	21.1	20.0	16.1	30.0	8.9
65歳以上	785	4.3	31.2	13.5	6.8	26.5	17.7

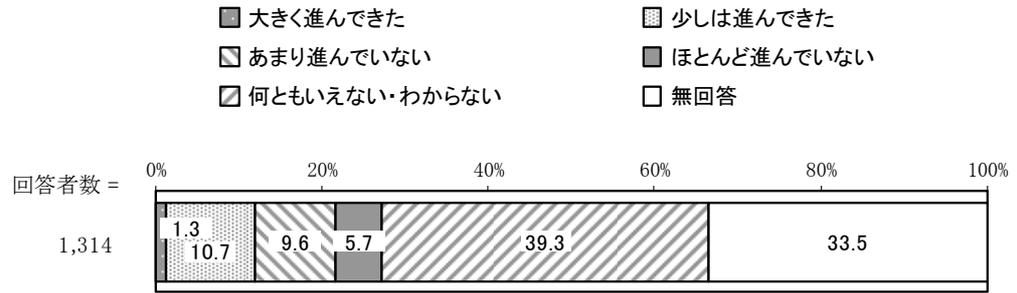
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全 体	1314	4.0	28.0	16.7	11.0	25.8	14.5
身体障がい	946	4.4	30.7	14.5	8.1	26.3	16.0
視聴覚系	242	3.7	31.0	13.2	8.3	28.1	15.7
運動系	427	3.5	30.4	14.3	9.4	26.2	16.2
内部系	421	5.2	31.4	15.7	8.1	24.7	15.0
知的障がい	152	3.9	23.0	27.0	13.2	21.1	11.8
精神障がい	220	3.2	21.4	24.1	20.5	25.5	5.5
重複障がい	75	4.0	29.3	24.0	9.3	24.0	9.3

イ. 学校で

“進んできた”の割合が12.0%、“進んでいない”の割合が15.3%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	1.3	10.7	9.6	5.7	39.3	33.5
0～5歳	23	4.3	39.1	13.0	13.0	21.7	8.7
6～17歳	49	10.2	36.7	18.4	10.2	16.3	8.2
18～29歳	61	1.6	21.3	21.3	14.8	34.4	6.6
30～49歳	179	1.1	6.7	16.8	8.9	44.7	21.8
50～64歳	180	1.7	9.4	12.2	8.3	43.3	25.0
65歳以上	785	0.6	8.5	6.1	3.3	40.0	41.4

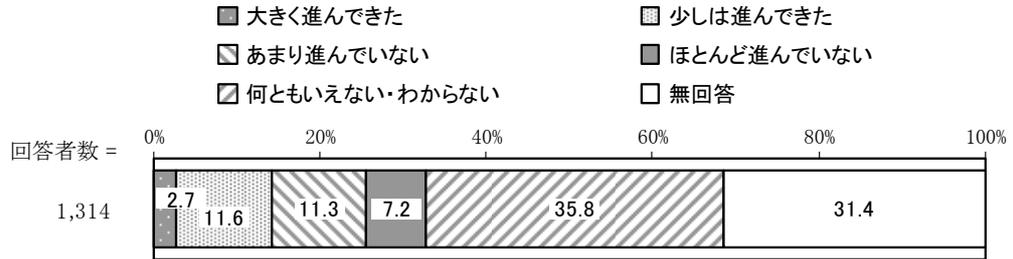
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	1.3	10.7	9.6	5.7	39.3	33.5
身体障がい	946	1.4	9.9	7.0	4.0	40.4	37.3
視聴覚系	242	1.7	8.7	7.4	3.7	40.9	37.6
運動系	427	1.6	10.3	6.3	4.4	39.3	37.9
内部系	421	1.4	10.2	6.7	4.5	40.6	36.6
知的障がい	152	3.9	17.1	19.7	11.2	23.7	24.3
精神障がい	220	1.4	6.4	16.4	10.5	44.5	20.9
重複障がい	75	8.0	13.3	13.3	9.3	32.0	24.0

ウ. 職場で

“進んできた”の割合が14.3%、“進んでいない”の割合が18.5%となっています。



【年齢別】

他に比べ、18～29歳で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	2.7	11.6	11.3	7.2	35.8	31.4
0～5歳	23	—	21.7	17.4	13.0	39.1	8.7
6～17歳	49	2.0	12.2	12.2	8.2	42.9	22.4
18～29歳	61	9.8	21.3	19.7	13.1	29.5	6.6
30～49歳	179	7.3	14.5	20.1	12.3	31.8	14.0
50～64歳	180	2.8	13.9	16.7	12.8	34.4	19.4
65歳以上	785	1.4	9.3	7.5	3.9	37.6	40.3

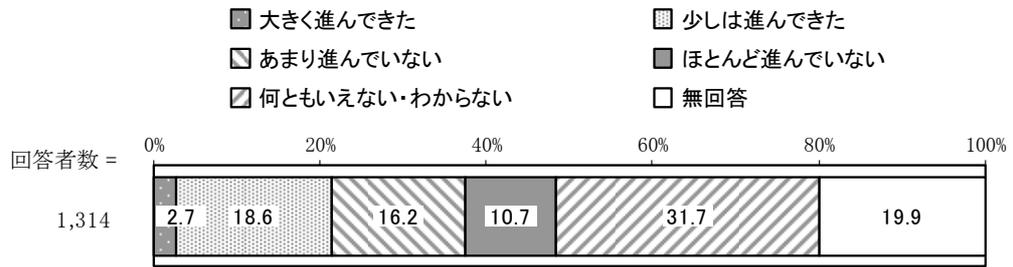
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	2.7	11.6	11.3	7.2	35.8	31.4
身体障がい	946	2.3	11.1	9.1	5.4	36.2	35.9
視聴覚系	242	1.7	10.7	9.9	5.0	36.8	36.0
運動系	427	2.3	9.8	9.1	4.9	37.0	36.8
内部系	421	2.9	10.9	9.0	5.9	35.9	35.4
知的障がい	152	7.2	14.5	15.8	9.2	31.6	21.7
精神障がい	220	3.2	11.4	18.2	14.5	37.3	15.5
重複障がい	75	5.3	12.0	10.7	12.0	37.3	22.7

エ. 市内の身近な地域で

“進んできた”の割合が21.3%、“進んでいない”の割合が26.9%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	2.7	18.6	16.2	10.7	31.7	19.9
0～5歳	23	4.3	13.0	30.4	13.0	30.4	8.7
6～17歳	49	2.0	18.4	26.5	26.5	16.3	10.2
18～29歳	61	3.3	14.8	23.0	21.3	34.4	3.3
30～49歳	179	2.8	21.2	20.1	14.0	33.0	8.9
50～64歳	180	3.3	11.1	20.0	17.2	33.3	15.0
65歳以上	785	2.5	20.3	13.0	6.9	32.5	24.8

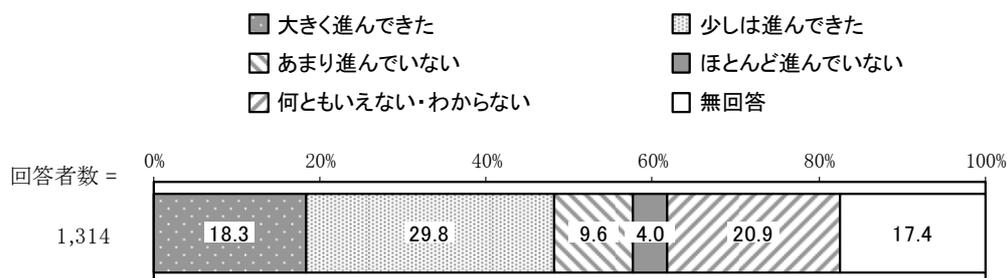
【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	2.7	18.6	16.2	10.7	31.7	19.9
身体障がい	946	3.0	19.5	14.7	8.2	32.1	22.5
視聴覚系	242	2.9	21.5	14.0	7.4	34.3	19.8
運動系	427	2.6	19.7	15.5	8.9	31.1	22.2
内部系	421	4.0	20.9	13.1	8.1	31.6	22.3
知的障がい	152	3.3	17.8	23.7	17.1	23.7	14.5
精神障がい	220	2.3	15.9	19.1	18.6	34.1	10.0
重複障がい	75	4.0	20.0	24.0	16.0	22.7	13.3

オ. あなたやあなたの家族の中で

“進んできた”の割合が48.1%、“進んでいない”の割合が13.6%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	18.3	29.8	9.6	4.0	20.9	17.4
0～5歳	23	39.1	34.8	—	8.7	8.7	8.7
6～17歳	49	30.6	26.5	4.1	2.0	22.4	14.3
18～29歳	61	27.9	41.0	14.8	4.9	8.2	3.3
30～49歳	179	17.9	30.2	15.6	7.3	22.3	6.7
50～64歳	180	16.1	27.8	11.1	5.6	25.0	14.4
65歳以上	785	17.1	29.4	8.4	2.9	21.1	21.0

【障がいの種別】

知的障がい、重複障がいで“進んできた”の割合が高くなっています。また、他に比べ、精神障がいで“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：%

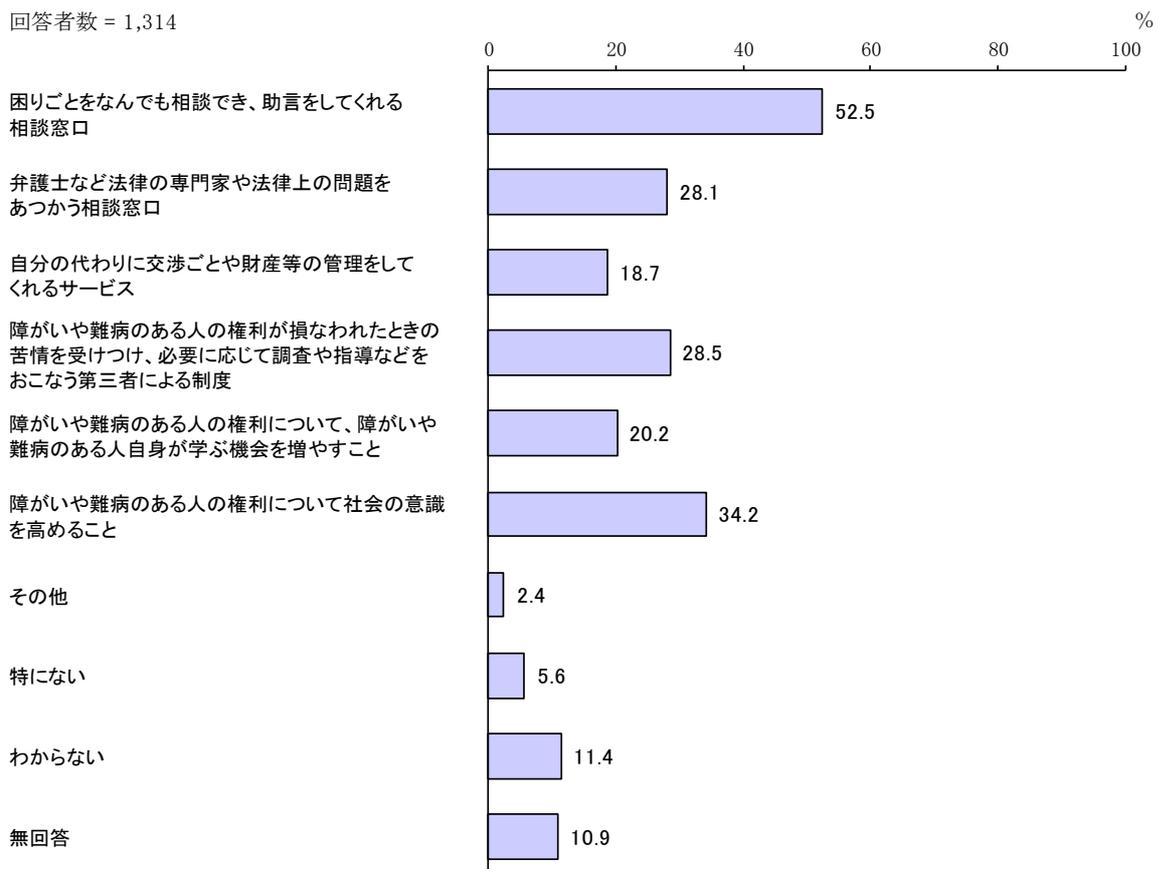
区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	1314	18.3	29.8	9.6	4.0	20.9	17.4
身体障がい	946	18.0	29.2	8.9	3.4	21.4	19.2
視聴覚系	242	16.1	31.4	9.1	4.1	22.3	16.9
運動系	427	18.7	28.8	8.4	4.0	19.4	20.6
内部系	421	19.0	31.8	9.0	3.3	20.2	16.6
知的障がい	152	24.3	34.9	6.6	4.6	15.1	14.5
精神障がい	220	17.7	31.4	16.4	5.5	20.0	9.1
重複障がい	75	25.3	36.0	6.7	2.7	16.0	13.3

②権利擁護について

問 48 あなたは障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるとよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」の割合が52.5%と最も高く、次いで「障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること」の割合が34.2%、「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」の割合が28.5%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

18～29歳で特に「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」の割合が高くなっています。また、18～49歳で「弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口」「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	なんでも相談、助言してくれる相談窓口	法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口	自分の代わりに交渉ことや財産等の管理をしてくれるサービス	権利が損なわれたとき苦情を受けつけ調査や指導などをおこなう第三者による制度	権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと	障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること	その他	特になし	わからない	無回答
全 体	1314	52.5	28.1	18.7	28.5	20.2	34.2	2.4	5.6	11.4	10.9
0～5歳	23	43.5	21.7	21.7	21.7	34.8	43.5	8.7	—	21.7	17.4
6～17歳	49	36.7	18.4	28.6	32.7	26.5	40.8	4.1	2.0	18.4	10.2
18～29歳	61	63.9	32.8	29.5	39.3	21.3	39.3	1.6	3.3	8.2	3.3
30～49歳	179	59.2	36.9	27.9	39.1	30.2	42.5	3.9	6.1	6.7	5.0
50～64歳	180	49.4	30.0	20.0	30.0	20.0	33.9	4.4	2.8	13.9	6.7
65歳以上	785	53.1	26.8	15.0	25.5	17.6	31.7	1.4	6.6	11.3	12.4

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい、重複障がいで「自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス」の割合が高くなっています。また、特に重複障がいで「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」の割合が高くなっています。

単位：％

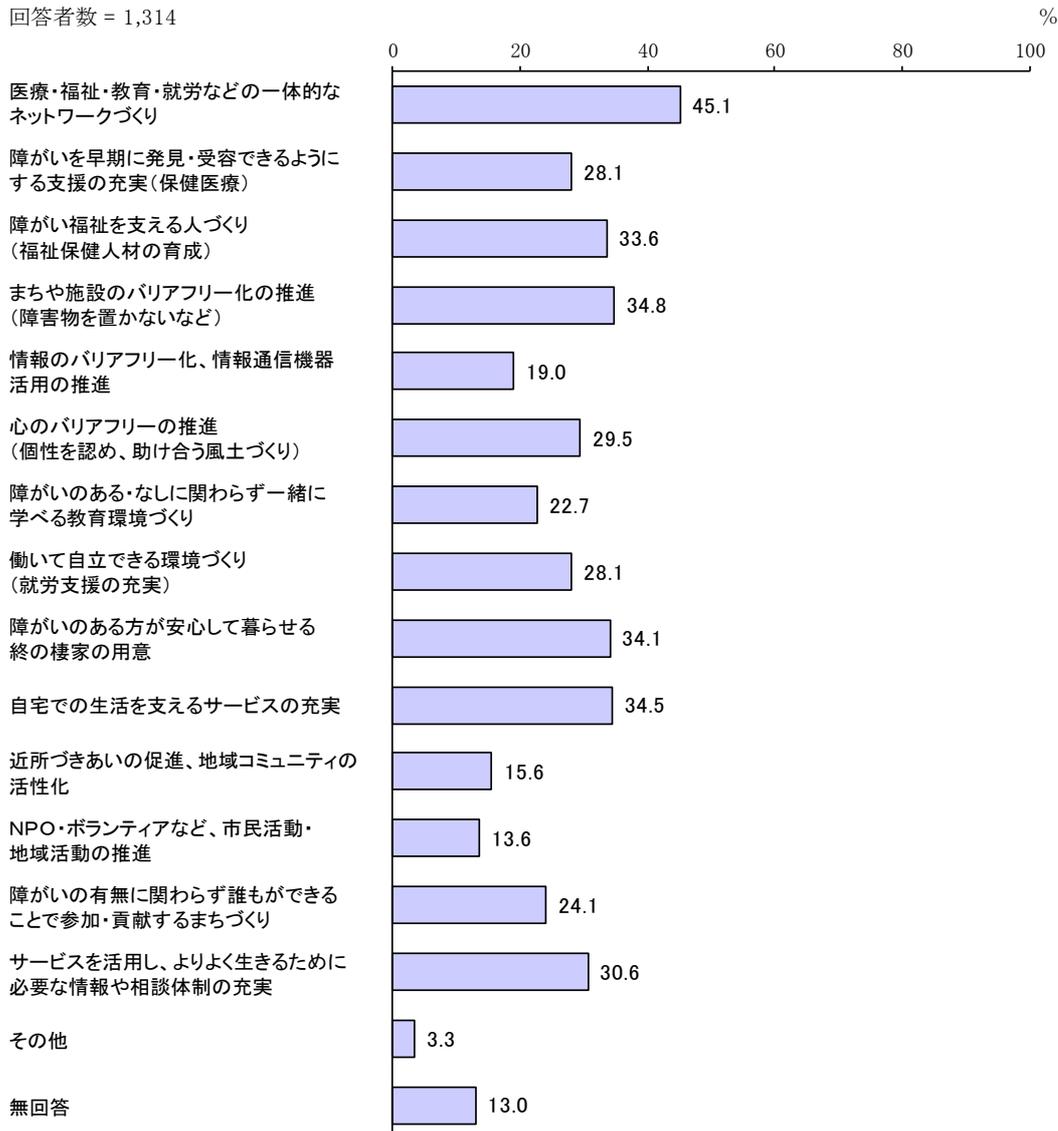
区分	有効回答数 (件)	なんでも相談、 助言してくれる相談窓口	法律の専門家や法律上の問題を あつかう相談窓口	自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理を してくれるサービス	権利が損なわれたとき苦情を受けつけ調査や 指導などをおこなう第三者による制度	権利について、障がいや難病のある人自身が 学ぶ機会を増やすこと	障がいや難病のある人の権利について 社会の意識を高めること	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	1314	52.5	28.1	18.7	28.5	20.2	34.2	2.4	5.6	11.4	10.9
身体障がい	946	52.7	27.9	15.5	28.6	19.5	34.2	1.9	6.0	10.5	11.3
視聴覚系	242	52.9	24.4	11.6	24.4	18.6	36.8	1.2	2.9	11.6	12.0
運動系	427	55.7	30.4	18.7	31.4	17.8	35.8	2.6	4.9	8.9	11.2
内部系	421	56.1	28.5	15.9	31.4	23.3	34.2	2.1	7.1	9.5	10.2
知的障がい	152	57.2	27.6	32.2	33.6	20.4	40.8	0.7	2.6	15.1	8.6
精神障がい	220	56.8	34.5	29.1	30.0	24.1	34.1	5.5	4.5	10.9	4.5
重複障がい	75	61.3	29.3	32.0	34.7	22.7	41.3	4.0	2.7	12.0	4.0

③今後重要と思うこと

問 49 あなたが、障がいの有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちにするために、今後特に重要と思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」の割合が45.1%と最も高く、次いで「まちや施設のバリアフリー化の推進（障害物を置かないなど）」の割合が34.8%、「自宅での生活を支えるサービスの充実」の割合が34.5%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

低い年齢層で「心のバリアフリーの推進」「障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり」の割合が高くなっています。また、特に0～5歳で「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり	障がい福祉・保健医療	障がい福祉を支える人づくり (福祉保健人材の育成)	障がい福祉を置きかえないなど (障害物を置きかえないなど)	まちや施設のバリアフリー化の推進	情報通信機器活用の推進	心のバリアフリーの推進 (個性を認め、助け合う風土づくり)	障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり	働いて自立できる環境づくり (就労支援の充実)	障がいのある方が安心して暮らせる 終の棲家の用意	自宅での生活を支えるサービスの充実	近所づきあいの促進、地域コミュニティの 活性化	地域活動の推進	NPO・ボランティアなど、市民活動・ 地域活動の推進	障がいのある有無に関わらず誰もが 参加・貢献するまちづくり	サービスを活用し、よりよく生きるために 必要な情報や相談体制の充実	その他	無回答
全 体	1314	45.1	28.1	33.6	34.8	19.0	29.5	22.7	28.1	34.1	34.5	15.6	13.6	24.1	30.6	3.3	13.0		
0～5歳	23	73.9	52.2	43.5	26.1	39.1	56.5	60.9	60.9	34.8	26.1	21.7	17.4	26.1	30.4	4.3	13.0		
6～17歳	49	51.0	28.6	36.7	16.3	16.3	57.1	59.2	53.1	46.9	36.7	14.3	24.5	26.5	38.8	6.1	10.2		
18～29歳	61	45.9	29.5	55.7	24.6	26.2	62.3	41.0	59.0	50.8	21.3	11.5	19.7	31.1	31.1	1.6	4.9		
30～49歳	179	52.0	35.8	37.4	26.3	28.5	39.7	31.3	51.4	47.5	35.8	20.7	19.6	32.4	33.5	5.0	3.9		
50～64歳	180	43.9	23.3	29.4	30.6	15.6	30.0	15.0	32.8	31.7	26.1	11.1	9.4	20.6	25.6	5.0	11.1		
65歳以上	785	42.8	26.6	32.1	40.4	16.7	22.7	18.1	17.2	29.9	37.7	15.8	12.1	22.4	30.4	2.5	15.2		

【障がいの種別】

他に比べ、重複障がい「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」「情報のバリアフリー化、情報通信機器活用の推進」「NPO・ボランティアなど、市民活動・地域活動の推進」の割合が、知的障がいと重複障がい「障がい福祉を支える人づくり（福祉保健人材の育成）」「障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり」「障がいのある方が安心して暮らせる終の棲家の用意」の割合が高くなっています。また、精神障がい「働いて自立できる環境づくり（就労支援の充実）」の割合が高くなっています。

単位：％

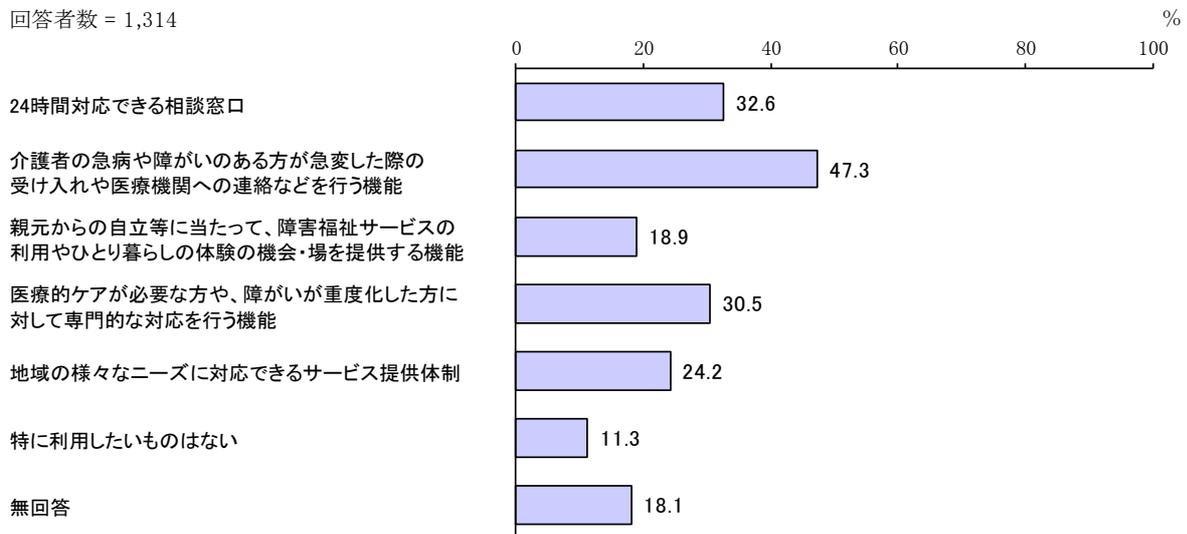
区分	有効回答数（件）	医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり	障がいの早期発見・受容の支援の充実（保健医療）	障がい福祉を支える人づくり（福祉保健人材の育成）	まちや施設のバリアフリー化の推進（障害物を置かないなど）	情報通信機器活用の推進	心のバリアフリーの推進（個性を認め、助け合う風土づくり）	障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり	働いて自立できる環境づくり（就労支援の充実）	障がいのある方が安心して暮らせる終の棲家の用意	自宅での生活を支えるサービスの充実	近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化	NPO・ボランティアなど、市民活動・地域活動の推進	障がいの有無に関わらず誰もがができることで参加・貢献するまちづくり	必要な情報や相談体制の充実	サービスを活用し、よりよく生きるために	その他	無回答
全体	1314	45.1	28.1	33.6	34.8	19.0	29.5	22.7	28.1	34.1	34.5	15.6	13.6	24.1	30.6	3.3	13.0	
身体障がい	946	44.3	27.1	32.1	40.2	18.6	25.5	20.3	21.7	31.1	35.5	15.3	12.5	23.3	30.3	3.2	13.7	
視聴覚系	242	47.1	27.7	37.6	42.6	23.1	26.9	23.6	20.7	35.5	36.8	17.4	14.0	24.8	36.4	2.5	13.6	
運動系	427	45.9	26.0	37.0	47.3	22.0	28.3	19.0	22.0	34.2	38.6	16.6	15.0	23.7	33.7	4.7	12.4	
内部系	421	49.4	32.1	32.3	37.1	17.3	25.2	20.7	21.1	29.9	37.3	16.9	11.9	22.3	32.1	2.9	11.9	
知的障がい	152	51.3	29.6	47.4	23.0	20.4	45.4	35.5	46.7	59.2	29.6	13.8	19.7	27.6	32.2	2.0	8.6	
精神障がい	220	48.6	30.0	36.4	24.5	23.2	38.6	20.9	46.4	41.8	35.0	18.2	15.9	28.6	30.5	3.2	7.3	
重複障がい	75	57.3	29.3	45.3	34.7	26.7	41.3	26.7	40.0	60.0	33.3	16.0	20.0	32.0	33.3	1.3	6.7	

④地域生活支援拠点等事業について

問 50 地域生活支援拠点等事業とは、障がい児・者の重度化・高齢化や親亡き後を見据えて、住み慣れた地域で安心した生活が送れるように様々な機関が協力し合い、障がい児・者を切れ目なく地域で支え合える体制づくりのことをいいます。市では現在この事業の整備について検討していますが、以下の機能について、あなたが利用したいものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能」の割合が47.3%と最も高く、次いで「24時間対応できる相談窓口」の割合が32.6%、「医療的ケアが必要な方や、障がい重度化した方に対して専門的な対応を行う機能」の割合が30.5%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

低い年齢層で「親元からの自立等に当たって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能」の割合が高くなっています。また、他に比べ、30～49歳で「24時間対応できる相談窓口」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	24時間対応できる相談窓口	介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能	親元からの自立等に当たって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能	医療的ケアが必要な方や、障がいが重度化した方に対して専門的な対応を行う機能	地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制	特に利用したいものはない	無回答
全体	1314	32.6	47.3	18.9	30.5	24.2	11.3	18.1
0～5歳	23	30.4	30.4	52.2	26.1	34.8	4.3	17.4
6～17歳	49	20.4	44.9	59.2	30.6	32.7	12.2	10.2
18～29歳	61	32.8	42.6	55.7	21.3	34.4	6.6	6.6
30～49歳	179	41.9	47.5	39.1	33.0	32.4	12.3	7.8
50～64歳	180	32.2	45.0	13.9	30.0	26.1	16.1	13.9
65歳以上	785	31.7	49.9	9.6	31.5	21.0	10.6	21.5

【障がいの種別】

特に重複障がいで「介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能」「医療的ケアが必要な方や、障がいが重度化した方に対して専門的な対応を行う機能」の割合が高くなっています。また、知的障がいで「親元からの自立等に当たって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	24時間対応できる相談窓口	介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能	親元からの自立等に当たって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能	医療的ケアが必要な方や、障がいが重度化した方に対して専門的な対応を行う機能	地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制	特に利用したいものはない	無回答
全体	1314	32.6	47.3	18.9	30.5	24.2	11.3	18.1
身体障がい	946	31.2	48.5	11.3	32.5	22.8	11.6	20.1
視聴覚系	242	33.5	50.0	12.0	36.0	26.4	11.2	19.0
運動系	427	30.7	53.4	12.2	37.9	23.4	8.7	19.7
内部系	421	33.0	49.6	9.7	34.7	24.7	11.6	19.0
知的障がい	152	33.6	52.6	56.6	32.2	31.6	6.6	10.5
精神障がい	220	40.9	50.5	30.9	27.3	30.9	10.9	8.2
重複障がい	75	36.0	64.0	40.0	38.7	37.3	4.0	8.0

⑤障がいのある方による自由回答

アンケート調査票の自由記述欄において、合計 307 件の意見を寄せていただきました。意見の内容を分野に応じて整理したところ、意見は以下のとおりとなります。なお、意見については延べ件数でまとめています。

分類回答	件数
(1) 相談支援について	22
(2) 情報提供について	18
(3) 居住の場について	12
(4) こころのバリアフリーについて	19
(5) 障がいに対する差別について	7
(6) 安全と安心な暮らしについて	45
(7) 療育等について	8
(8) 雇用・就労について	18
(9) 経済的支援について	34
(10) 地域活動、文化・スポーツ活動について	8
(11) 障害福祉サービス等について	30
(12) その他	65
(13) アンケートについて	21

(1) 相談支援について

- ・相談しやすい窓口と、相談しやすい機能を提供してください。
- ・個人的な相談は地域の支援センターにすることとなるが、一方的な見解を防ぐためにも市役所としての介入をお願いし、幅広く相談窓口を設けてもらいたい。細かく時間をかけて丁寧に相談にのってもらいたい。また持続的関係性を築き上げてほしい。
- ・実のところ、自分の障がいについてさほど深刻に考えず今まで過ごしてきたが、高齢化がすすみ、いろいろ不自由な事態に直面するようになってきたので今後、行政の福祉関係のアドバイスやサービスを要することに直面すると思うので、そういう時にすぐ対応していただける環境、支援があることを望んでいる。
- ・対相談者について表面的やさしさは感じられるが、事務的というか、真実味を感じられない時がある。関係者全体に感じられる時がある。
- ・市役所の窓口等への相談時にもとてもいい、かつ適切に対応してもらっていると思います。この点については現状を是非継続して頂きたいと思います。
- ・私もそうですが、精神障がいの方にはわずかな悩みでも、自分で自分を悪い方へ追い込んでしまう傾向があると思いますので、占いなどではなく常識的な角度で24時間対応できる、心の相談窓口があればよいと思います。
- ・大人になってわかった（あると知った）発達障がい（グレーゾーン含む）に対して対応してくれるところがほしい。トラブルの相談や軽減のためのアドバイス（リハビリ）など、いろいろ。
- ・市役所でも医療機関でもほとんどの方は親切で丁寧な対応をしてくださいますが、ごく一部に横柄な態度をとったり嫌がらせのようなことをしたりする人がいるのはとても残念です。
- ・障がい福祉課の皆様は優しく親切な対応に、いつも感謝しています。何か起きても、相談したい所は障がい福祉課です。
- ・役所、相談窓口、警察など仕事をこなしているだけで、よいことはありませんでした。わかったのは家族自分たちが支えあう事でした。
- ・障がい担当課とそれ以外の課の障がいに対する理解度に格差がある。対応が違う。障がい担当課も以前はあいさつなど声かけあったが、今は事務的で無機質。
- ・健常者の視線からの障がい対策にすぎない。仕事の内容も専門性に欠け、責任感はない。障がい福祉課にしても専門知識の欠如は大きく、相談しても信頼性に欠けることが多い。
- ・逗子市役所から紹介された精神専門の相談事業所に何度か行った時、とてもデリカシーのない発言や態度をとられ衝撃を受けました。体験利用を進められ、日程調整がとれずお断りすると「やる気がないならこなくていい」と言われました。他にもきつい言い方をされ、会社で受けたパワハラがよみがえり1か月寝こみました。半年間相談事業所を探す気になれず、就労移行などすべて自力で探し、新たに相談事業所を探すのに7か月かかりました。
- ・妊娠した時に病名が変わりショックでどうしたらよいかわからない折、子育て支援課の担当の方が丁寧に話を聞いてくれ、その後病院、訪問看護の横の連携もとってくれ安心して産むことができた。生まれてからも訪問を月に1回、電話など様々な角度から支えてくれ、何とかここまでこれました。こんなに優れた人材が素晴らしいやり方で支えてくれるとは驚きました。妊娠していない障がい者に対しても同じように安心して生きられるよう支援してほしい。自分からSOSが出せない状況もあります。何とか助けてあげてください。これからもよろしくお願い致します。
- ・うつ病で市の精神障がいの相談所と指定されている相談支援事業所に相談したが、対応がひどく、怒りすら覚え強い不信感を持っている。厚生障害年金、自立支援、障害者手帳の受給についての情報は他所から得ることになったため、発病後10年以上何も知らずに結果として大きな医療費の負担をせねばならなかった。
- ・各自の障がいを理解してもらい、どうしてもできないこと、少し手を加えたらできること、そのような具体的な相談と支援をお願いしたいです。

- ・ほっとする、助かる、窓口がいつもあるとよいです。

(2) 情報提供について

- ・障がい者が重度の人は福祉に関するサービスや内容の事などの情報が知ることができない。市から送られる書類は高齢者の私には難しくわかりづらく困る。
- ・子どもの発達障がいに関しては支援が進んでいると思うが、大人になってから発達障がいと知った人への支援も広げてほしい。例えば地域の医療機関から、福祉サービスまで詳しい専門家による月一回の相談窓口の開設や、老後も安心して暮らせるよう生活資金のことをファイナンシャルプランナーに相談できる場所。相談窓口の開設が無理であれば、情報を集約した冊子づくりやホームページでの案内でも。
- ・親亡き後はどうなるのかすごく心配。情報が欲しい。わざわざ講演会などに行かなくても情報を得られるようにしてほしい。
- ・広報の音声が入り込んで聞きとれない。携帯電話では情報を得られると聞いたが携帯は持っていない人のため。
- ・福祉サービスについての説明不足。
- ・障がい者福祉の具体的な施策やできごとや情報に触れる機会がありません。いろいろな方策で情報発信してほしいと思います。
- ・将来年をとって1人暮らしが難しくなった時、逗子市がどのような対応をしてくれるのか知りたいです。安心して暮らしてゆけるように配慮をお願いしたいと思います。
- ・介護福祉関連で、積極的に情報がもらえればありがたいです。
- ・私は軽度の聴覚障がい者のため、普段の生活は困っていませんが、人とのコミュニケーションにやや難を感じます。また、災害でアナウンスのみの案内だと、どうしても聞き取れず困ってしまいます。耳だけではなく、視覚からでも情報を得られるようにしてほしいです。また、聴覚障がいは、固有名詞の聞き取りが難しいです。ゆっくり、はっきり言っても、同じ言葉にしか聞こえない場合があります。大事なことは文字で提供できるようにしてほしいです。
- ・障がい者全員が同じ福祉情報を伝えてもらえる行政。
- ・就労継続支援A型の受給者証を持った時に話をし、手続きを教えてほしかった。
- ・市から提案してもらった事はない。移動支援の事業所を紹介してくれたが、どの事業所がどのようなサービスを扱っているか、市では把握していない。
- ・市に頼れる福祉の内容について積極的に広報してほしい。市の担当部でもスタッフの知識の差があり、知りたい事になかなか行きつかない。
- ・精神障がいを持っています。子育て・介護・仕事・学校・家族関係、経済状態など様々な理由で精神障がいを起こす人はとても多いし、誰もがなりうる病気です。複合している場合もあります。精神障がいの一歩手前でふみとどまっている人も多いと思います。その一歩手前でふみとどまっている人たちへ、そうならないためにはどうすればよいか、そうなった時どうすればよいか、インフォメーションアプローチしていくことが今後の障がい福祉には求められるのではないのでしょうか。
- ・自分がどのようなサービスや支援を受けられるか、自分（家族）が探して問い合わせないと情報がない。退院する際、保健師と障がい福祉課の方がいらっしゃいましたが、こちらのニーズを汲み取るようなことはなく、こちらからの働きかけが必要で、さらになかなか回答が得られないこともありました。市役所内でも横で連携されたり、課内で情報を共有されたりするとよいのではないかと思います。
- ・精神障がいだと書類を理解、手続きが困難。フローチャート化、自動手続化を進めてほしい。

- ・近隣市町では、ホームページは視覚障がい者は PDF ファイルは非常に読みにくいのを配慮し、テキスト版ホームページをアップしている。(全てではない)

(3) 居住の場について

- ・介護施設で医療的な行為がもっとできるようにしてほしい。介護施設をもっと作ってほしい(病院と連携した)。介護施設の料金が高い。ヘルパーやケアをする人の人手不足。
- ・市営住宅を増やしてほしい。
- ・高齢となり日頃の生活に支障をきたすに至った時、現在の年金では施設に入所できると思えませんので、低廉な公共施設を建設していただきたい。
- ・特別養護老人ホームの数を増やす必要があると感じています。また、特別養護老人ホームでも 24 時間の医療行為(例：痰の吸引)が行えるよう、資格のある人材の確保が必要です。
- ・国が地域移行を進め、県がそれに則った形で施設から地域移行への目標値まで掲げていることは疑問に思う。そこまでするなら親亡き後地域で暮らせるだけの日中の活動場所、住まいが整備され、職員配置が適切な環境を整備することを先行してもらいたい。
- ・横浜市では日中の居場所(家庭以外)を確保するため、居場所となる施設が各区にあるが、この施設のように家庭以外で居場所とできる場所(できれば開所時間が長いもの)があれば良いと思う。
- ・親なき後の住居、生活費、生活の目処がない。どうすれば生きれるのか教えてほしい。
- ・本人に判断能力がありません。親亡き後の生活安定を望みます。24 時間体制の生活支援。
- ・活動する場、作業所、短期入所施設がとても少なく困っています。親が病気になった時、どうなるか心配です。グループホーム、入所施設もないのでどうやって生活していくのですか。高齢者と同様に障がい者のことも考えてほしいです。
- ・親亡き後、本人がゆったりと暮らせる体制を整えてもらいたい。例えば、一生いられるグループホームで充実したサービスを受けられるよう(食事・外出等)。本人にとって安らぎの場所をと切に願います。
- ・統合失調症、認知症を抱えています。保険利用で入れる施設はないでしょうか。
- ・ひとり暮らしをしたいが、家賃が高いと生活が厳しいので、安いところがあると助かります。

(4) こころのバリアフリーについて

- ・私は聴力が弱いので聞きとれないことがあり、誤って返事をすることがある。2～3度聞き直すこともあり失礼しているが、話を一生懸命聞こうと努力していることも理解してほしい。
- ・自身も精神の障がい者ですが、他の自分とは異なる状態の障がいの方とかかわる機会があり、その対応に悩むところです。同じ精神の領域でありながら自分だったらこうしてほしいと思う対応をすると、逆に怒鳴られたりすることもあります。今後も勉強を続け、ピアカウンセラーのような存在になれたらいいなと思いながら日々過ごしています。
- ・主人の転勤で 40 年前から逗子市民になりました。第一印象は市役所の人を始め市民の皆さんが親切で丁寧に対応してくださることでした。今障がい者になっても特別嫌な思いはしていません。身体は不自由ながらも町内で困った人を見たら声かけをするように心がけています。
- ・市役所の福祉課にて、視覚に障がいがあるにもかかわらず(大変な思いでたどり着く)「ここまで一人で来られたのに」と言われ、心なき言葉にショックを受けた。
- ・健康な人たちでも助け合うことは大切だし、てれたり恥ずかしがらないで人を助ける、助けていただく事を大切に。相手が望んでいるのか、いないのか、とっさに判断が難しいのですが、時におせっかいかもわかりませんが、声をかけ、時には手を出して助けようと思つてます。

- ・役所は何でも来い来いとありますが、足が悪くて行けないとき、どうすればよいのですか。家まで来てくれるとかないのか。E T C、バスの有効期限が切れますよの連絡がない。障がい福祉の手引きが古いので届けてもらいたい。健常者が障がい者福祉をやっているから障がい者の気持ちがわからないのでは。
- ・障がい者マークを車のガラスに貼っている人が多いが、障がいの認定もなく使用している者には馬鹿にされてる気がするのですが。
- ・障がいを気にせず関わってほしい。耳がどう聞こえているのか聴覚障がいを持っていない人に体験して理解してほしい（感音性難聴の聞こえ方など）。学校など体験する場を作れば認識が高まると思う。
- ・精神障がい者への理解がもっと社会全体で進むとよい。
- ・街を歩いていると、私に何かできることはありませんかと声を掛けてくれる人が増えてきた。早朝リハビリでの散歩中、おはようございます、と挨拶してくれる方が多い。特に小学生の方からの声掛けは、うれしく思う。
- ・幼児と高齢者と障がい者が一緒に触れ合える場所をつくり、小さいころからそういう社会が当たり前の世の中にしていく。
- ・日ごろ、いろいろなところが主催の発達障がい等の勉強会のようなものが開かれていますが、興味がある人は参加してより理解を深めるでしょうが、興味のない人、関係ない人はいつまでたっても、自分には関係のない、不理解のまま。どの分野においても福祉は社会、地域の理解、協力が必要。興味のない人たちへも知る機会が広がればと思います。
- ・私の場合、内部障がいのため、外見からはそれとわからないので理解してもらえず、不便を感じる時があります。優先席に座っていても肩身が狭い思いです。
- ・テレビの障がい者についての番組づくりの中に、視聴者が浅い理解をすることしか求めているのか、やたらとカラフルな小道具をスタジオ内に配置して飽きさせないことに特化した（バラエティ番組のような作りの）番組が見受けられるが、障がい者を熱心に理解しようとしている人のニーズに応えるようなテレビ番組が増えるとよいと思う。
- ・障がい児だからとレッテルを貼られること。診断名があるのかないのか、どの書類でも記入欄があるが、必要なか疑問を感じる。それを伝えたいが、ただレッテルを貼られ、本人の困り感や必要な支援につながりにくいのではないかと感じる。
- ・自分自身は障がい福祉のサービスを受けていることを恥だとは思っていないが、家族のことも考え「福祉部、障がい福祉課」名で郵便物を送付してくるのはいかがなものか。その辺りの配慮からするのが先ではないのか。
- ・道を歩いているだけでもジロジロ見られ、何度も振り返って見てくる。小学生は指をさして笑ってくる時もあり、とても悲しくなる。
- ・先月、職場駐車場の減免制度を知り手続きした。しかしペースメーカー装着の場合、見た目は全く健常者であるため、周りからよく思われないのではと不安である。
- ・障がい者が積極的にボランティア参加できるような社会理解が育ってほしい。

（５）障がいに対する差別について

- ・TVなどのメディアでも発達障がいについて取り上げられていますが、一方で凶悪な事件が起きると容疑者は発達障がいである（ではないか）という話がネット上に必ず発信されます。見た目の情報だけで勝手に判断（診断）して発達障がいの間違った見方が情報として拡散されていることにモヤモヤさせられます。素人判断することは当事者を傷つけ、立場をおびやかすこともわかってほしいです。
- ・主人がよく差別的な発言をするのでやめてほしい。
- ・大学を出て半導体の業界で来年で15年2か月になります。訪問看護師と外出することで子どもから偏見や差別がなくなりました。

- ・ 2年ほど前よりデイサービスに通うようになりましたが、高齢者の接し方、優しさにまるで別世界に来たようで驚きました。ここだけでなくすべてがこのようであれば、どんなに年寄りも癒されるだろうとつくづく思いました。
- ・ もっと社会全体が障がいの事を知って、差別なく仕事ができる社会になってもらいたいです。
- ・ 障がい者でも差別されることなくボランティア活動参加できる機会がふえてほしい。
- ・ 昔、複数の窓口で、差別的でやる気のない、こちらが急がされる対応をされ精神的に疲れた経験が多々あった。市長が変わってから送られてくる説明文などを見ると、以前は書式も何だか理解しづらかったが読みやすくなった。特に市長を支持している訳ではないが、民間からの血を入れただけでこれだけ変わったのだから、もっと増やすとよいのではないかと思います。

(6) 安全と安心な暮らしについて

- ・ 災害時の一番の心配は停電や断水で透析できなくなることです。かかりつけのクリニックが被災したらどうすればよいのか、不安しかありません。
- ・ 災害時の避難について、障がい者を移動させることより安全な建物場所に施設をつくり、そこに住民を受け入れる仕組みができればどんなに安心かと思う。
- ・ 現在、個人的には4級で普通に暮らせていますが、問 48、49には障がいの大きい方々にとって手助けや取組みが必要だと思います。
- ・ 銀座通りの歩道の広さ、段差が案じられます。
- ・ バスの段差、考えていただきたい。
- ・ JR逗子駅も完全バリアフリーとなり、電車を使っての外出も苦にならなくなりました。逗子市だけでなく日本中が少しずつバリアフリーになって行くことを願っております。
- ・ 町や施設のバリアフリー化、特に道路の整備。
- ・ 商店街の歩道について車イスは無理です。唯一池田通りは通れるのだが、各商店で歩道上に看板を出していたり“自転車はおして”の案内板が通行のさまたげをしている。市役所や商店街の会長などに相談しようかと思う。
- ・ 車イスで移動するのに、道路の状態の悪い場所がある。
- ・ 視覚障がい者です。複数のバス路線がとまるバス停で行き先をはっきり車外に聞こえるようにしてほしい。歩行者信号に音をならしてほしい。特に体育館の手前、図書館の横、押しボタンのところは押した時に（市役所前のように）信号を人形が赤ではなく、全体が青赤とはっきり大きく見えるようにしてほしい。
- ・ 道路上の標識等を白線上、または縁石上にする事。歩道を広く利用できる。例えば市役所前の共同溝をせっかく作っても縁石からの幅を大部取ってから建てているのでは何のための共同溝か不明だ。
- ・ 外出時に通る道が悪く、車イス移動で乗っている者にとっては振動が辛い時がある。舗装の状態がよくなる事を望みます。
- ・ 中心部の歩道がせまく電信柱、傾斜で転倒したことも数回ある。（自転車や障害物で）
- ・ 歩道の根本的再整備。車両のためでなく、歩行者第一の歩きやすい歩道。段差を無くす。スロープ（車庫入り口の）はやめ車道との境界の段差対策は角を取る事で十分。歩行者優先の歩道にしてほしい。
- ・ 歩道の充実。
- ・ 市役所の障がい福祉というと手続きを事務的に行うところといった概念です。地域で安心に生活をしたいのでそのための整備を整えてください。
- ・ 歩道が歩きづらく、（傾斜が強く）確保されてないため危ないと思うことが多い。ノンステップのバスが少ない。

- ・バス便の本数が少なく不便。横浜市のように高齢者に安くバスが利用ができるようにしてほしい。
- ・市内の道路はどこも狭く特に歩行者用が無いに等しいほど狭く、さらに平坦でなく非常に危ない。JR 逗子駅前の信号は車と歩行者用を完全に分けてほしい。更に右折用の信号の設置を希望。
- ・車イスの生活で道路が平坦になっていないので困っている。外出時介護タクシーを利用しているが、人手不足でタクシーを頼んでも来てもらえない。外出時の交通手段を充実させてほしい。
- ・体内の障がいは見ためではわからないので、電車などで座席を譲ってもらえないが、長時間立っているのがつらい時がある。何か目印になる物があるとよいと思う。
- ・日頃感じる事は、聴覚障がいのため歩行時に危険が迫ることが予想されるので「聴覚障がい者であること」のサインなり、札なり、身にはおる服など（ジャンパーなど）を市が用意してくださるとよいと思います。無料ならよいが、市の予算もあることなので一部有料でもよいと思っています。歩行の際の危険もあるが、他にも買物するとき、人とすれ違うときなど必要と感じる場面がいくつか考えられると思います。
- ・もう少し坂でなく、平坦な道等に住宅をつくってください。とても不便に思います。ミニバス等も求む。
- ・要支援認定を受けてもケアマネジャーとの相談しかできない。非常時に避難指示が発令されても（老老介護）本人が遠くまで歩けない。（例、個人を自治会に登録しておく）
- ・道路のでこぼこや排水口の穴などが目が見えないので歩きにくい。歩道がせまい。
- ・歩道などが狭い場所など、電柱があって通りにくい所など歩いていると気になる。
- ・透析や認知症になっていて、2人ぐらしなので何かあった時連絡など不安はあります。
- ・商店街、中心部に行く途中、ベンチを増やしてほしいです。身体不自由な方や高齢者が杖をついたり、やっとカートを押しながら買物、通院、銀行等に行かなければなりません。街の中心一部にはありますが、周辺にも、もっともっとベンチがあれば、安心して外出できます。
- ・道路の段差及びデコボコがあり、車いすで走りにくい。
- ・バリアフリー化に関係があるが、歩道の整備（健常者でも通行できない道の現状）を急いでほしい。車道は定期的にされているが歩道の意味を無していない所が多すぎ危険である。（桜山8丁目田越川沿いなど）
- ・路上での歩きたばこ、歩道の狭さ。
- ・市役所前の横断歩道信号機がつかしましたが7秒とのこと。1/3しかすすめません。事情があるのでしょうが、もう少し考えてほしい。
- ・歩道が整備されていない（凸凹がはげしい）。狭い。池田通りの自転車走行が傍若無人すぎる。
- ・東日本大震災や近年の台風災害の被災地を見ていて、大きな声を出したり動作が大きく他者に迷惑になる障がい者は避難所には入りにくいだろうと感じる。いろいろと想定して障がいの人と家族の避難所をあらかじめ設定しておいて、避難訓練等を定期的にしてほしい。私たちが安心して住める場であれば、犬や猫等ペットのいる人も避難場所が決まっていればいざというときにもめなくていいし、協力して行える。
- ・高齢者が使うトイレの手すりの増設をお願いします。
- ・1年365日リハビリをして過ごしていますが、逗子の町は道路の整備が悪く、歩くのにとっても危険を感じます。
- ・歩道がところどころ斜めになっています。足に障がいのあるものにとっては歩きづらいです。
- ・市内の高齢者の急増により体調不良の状況が増えており急患急送の事態を拝見します。今回、障がい福祉のアンケートを記入し市民の病状も各種異なり大変な事項と察します。市政の大意に添い安心のまちづくりも奮闘してください。

- ・歩行するときの道路事情がかなりひどいところがあります。傘を使用できない人もいます。歩道の信号の変わる時間早すぎるのでは。バス停など屋根（雨よけ）がほしい。
- ・公共施設建物内での点字シートを設置してほしい。
- ・災害時の避難所での生活が心配です。トイレや床に降りれないなど、どこまでバリアフリーなのか心配で避難をためらってしまいます。市内の歩道を段差をなくし、幅も車いすが通れるようにバリアフリーにしてほしい。
- ・歩道上の違法駐車に対する取り組み。（警察も含む）
- ・逗子市内に肢体不自由者の助けになるようなベンチ類が極めて少ないと感じています。ちょっとした腰かけ程度でも良いので200～300mおきには設置してもらえることを切に願います。
- ・防災無線放送が聞き取れない。
- ・災害発生時、又は発生のおそれのある時に流される防災放送は、その真下にある方には有効ではあるも少し離れた者にはまったく聞きとれないことが多く、やめたらよいとまでは言うつもりはないが、聞く側に立ってあり方を考える必要があるのではないかと。

（7）療育等について

- ・「手厚く」というのは理念としては正しいですが、市や行政が無償で提供できることにも限度があると理解しています。「本当に必要な人」をしっかり選別し、その方たちの自立、生活支援を必要最小限フォローしていただけたら充分だと思います。特に児童の一般クラスとの混在教育が本人のためにならない（特に知的な障がいの人には）ことを日々痛感しています。専門ルートでの教育の重要性の周知と運用が本人のためです。
- ・一部の小学校の支援級では、朝の送りは6年生まで付き添いが必要と聞きました。他の小学校は1人で通学できる子は1人でも可能なのに、その差は何でしょうか。1人でできることは健常の子と同じように考えてほしいと思いますし、親の負担の軽減にもつながると思いますので、改善してほしい。
- ・学校に専属でPSW、ケースワーカーのような方を配置し、子どもに対するケアの充実を望みます。
- ・逗子は療育が進んでいると感じます。とても行き届き、素敵な人材が多いです。でも、こども発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、教育相談、相談支援事業所と保育園～小学校、通級など過ごす場所が変わるとき各所に同じようなことを伝え相談せねばならず、親の負担が大きく感じることがあります。そのため、支援を受けることを断念することもあります。フルタイムで仕事をしていても子どもには必要な支援を受けさせられるようなシステムになると良いと思います。
- ・市役所、こども発達支援センター・病院・児童相談所の4つが連携していない。療育手帳の発行で二度手間があり困った。（市役所のHPはボーダーラインのIQ74が明記なし）市外の方も同じことで困っていることを聞いている。
- ・市内には養護学校がないため高等部に進む場合には選択肢があまりありません。スクールバスに乗ることができず、仕事を辞め子どもの送迎に追われる日々を送っています。
- ・社会が障がいがある人に対して何かサポートしていく動きは見えてきました。しかし、そもそもの親が子どもの障がいを受け入れなかったり認めないことも多く、そのことの方が大きな障がいになってます。そういう親の元で育つのは幸せではないのですが、親の考えを正すとかは無理なのでそういう親からは早期に子どもを離して、子どもの障がいに理解のある施設で育ててほしいです。
- ・小学校の普通級（通級と併用）に在籍しているが、まわりのクラスメートとのトラブルが多く、補助の先生に入って頂けるとありがたい。

(8) 雇用・就労について

- ・市の福祉サービスを利用して就職につながったことは、とても嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。今の職場でできる限り長く働きたいです。
- ・私は精神障がい者2級の手帳を持っていますが、癌患者であった時期を経て心不全患者にもなり、リンパ浮腫、橋本病等、様々な困難をかかえています。働きたいのですが、なかなか私の現在の状況を理解し受け入れてくれる職場や相談窓口がありません。国が一億総活躍というなら、早くきめ細かな体制を市からつくってほしいです。在宅ワークや短時間労働等。病気でも働く意欲があること、障がいをかかえても安心して働ける逗子になって欲しいです。
- ・国の障がい者への就労体制が明確化されていない。ハローワークには求人を出しているが、採用、不採用の理由が不明確でポーズだけで信じられないケースが多々ある。
- ・携帯の使い方とパソコン使用を丁寧に教えて下さる所を探しています。あと精神障がい者の働き場所（年金がもらえる範囲で）働ける場所を探していますが、どこに相談してよいかわからない。
- ・仕事を探しているが、中々見つからずに困っている。そのうえで年金の中から健康保険料を支払わなければならない、もう限界を感じている。
- ・収入がなく、生活がままならない。仕事をしたいが差別を受ける。
- ・一般の企業などへの就職がしやすい環境作り。
- ・障害年金に加えて、就労継続支援B型の工賃で生活している。
- ・障がい者就労、障がいの程度を軽くし一般就労に繋がる方法。
- ・およそ3年にわたって現在の職場で働いてきましたが、小売店の売り場づくりから事務の仕事が変わりました。（腰を痛めたため）事務作業はスピードにシビアな面が多く、あまり向かないようで、対人間関係から体調を崩してしまい、現在休職しています。年齢的に次の仕事をさがすのも難しく迷ってます。
- ・就労の事業所について、働く場とグループホームの様な居場所がワンセットか、隣接しているものを、もっと増やして欲しい。
- ・就労支援センターから訪問がないので困っている。
- ・逗子で働くことのできる所を増やしてほしい。（発達障がいや軽度の障がい者に対して）
- ・障がい者として受けていた支援が65歳すぎたら介護保険優先。障がい基礎年金が主な収入の場合、経済的負担が重すぎます。障がい高齢者でも働くことができる機会は必要です。週1回でも働き、収入を得る場がほしい。
- ・以前（10年以上前）、障がい者のパソコン教室に参加したり、就職に希望を持っていましたが、最近ではめっきり体力が弱ってしまい働ける自信がない。その当時に就労継続支援のことを知っていたならば、とのことです。
- ・障がいをオープンにして働いてみたが、あまりメリットというものが感じられなかった。賃金も、健常者と同じぐらい働けたとしても、障がいを持っているということで、最低賃金ぐらいしかもらえない。病気をオープンにして2年働いているが、メリットよりもデメリットの方を働いていて感じることも多いので、この状況を変えてもらいたい。
- ・計画相談、通所するところを増やしてほしい。就職するためにいろいろな職種の練習する場をつくってほしい。障がい者にあった職員さんを相談につけてほしい。（その方のそれぞれ性格が違うと思うので、相性の合う方についてほしい）

(9) 経済的支援について

- ・ ストーマ用装具補助が削減見込ですが、夏の暑さで7月8月9月の約3ヶ月は毎日取り替える。見直しで多く出してほしい。
- ・ 障害年金が手続きをしても、もらえなかったので今もらえていたらもう少し楽だと思います。
- ・ ストーマ用装具購入助成事業が突然中止されたが、ぜひとも復活してほしい。中止の意味がよくわからない。
- ・ 逗子市の障がい者に対するバスの補助は半額になっていますが、他市では全額補助と聞いています。各種補助とも神奈川県内では統一した補助をお願いしたいと思います。
- ・ 市の財政悪化により、補助金が削除され自己負担が増加したことはいたかった。
- ・ とにかく経済的に不安定です。貯金などままならず、年金、市民税など高額で、手元に残るお金など微々たるものです。それで生計を立てるのは大変きびしく、働けなくなるイコール死を意味するようなものです。
- ・ 杖をついていて、左手麻痺で力が入らず傘が持てず、タクシーを利用したいと思いますが、費用がかかるので控えたり、予定を変更してもらったりです。軽度の身障者にも補助があってほしい。
- ・ 重度障がい者医療費助成制度は、なくさないでほしい。なくなるのではないかと不安でしかたない。
- ・ 現在迄は、年金をベースに毎月、貯金を取崩しつつ、生活してきたが、昨今の増税攻勢に、やや生活のベースが圧迫されてきている。今後も介護保険料の増額などを考えると、いつまで生活できるのか不安となる。
- ・ 精神障害1級から2級になったため、年収が18万円も減りました。生活が苦しくて仕方がありません。
- ・ 病院に行くのにいつもタクシー利用するのに経済的に大変。その度に働いている家族を休ませる事が心苦しい。
- ・ 私は直腸障がい者です。昨年までストーマ給付について市の補助がありましたが、今年から打切になりました。市の給付復活をお願いします。
- ・ 年金の繰り上げ支給をしたため、障害年金がもらえません。この決まりをなくして欲しい。
- ・ 友人が市外の障がい者なので、逗子市のサービスが劣っていると感じる。タクシー券がない。腹膜透析のプラ（薬、点滴袋）がプラゴミで出せない（近隣市はプラ）。逗子市は生ゴミで出すようゴミセンターに言われたので、ゴミ袋（有料）が何倍にもなった。ゴミ袋の年間〇枚という補助を願います。
- ・ 精神障害者保健福祉手帳取得者に対して①交通機関の割引、鉄道、全く対応できていない。バス、一部対応、助かってます。飛行機は全く対応できてない。②障がい支援金¥3000/月を充実させてほしい。③NTT、水道料金を手帳2級も対応できるようにしてほしい。
- ・ 逗子市は他市よりいろいろな金銭的な援助が少ない。特にバス、タクシー割引などの額は県内で一番悪いのでは。
- ・ 逗子市は近隣市と違って、真剣に障がい者のことを考えていない。交通費を安くしてほしい（特にバス代）。
- ・ 精神科の他に内科医も通院しており、内科医の費用が高く助けていただければ幸いです。
- ・ 逗子市財政悪化に伴い、障がい者、高齢者、子ども、ひとり親等の弱者に対する助成金のカットやサービスの終了は大変な怒りを持っている。例えば、市の広報誌にパブリックコメントとして2019年春頃に「手帳1級」所持者への医療費助成金の所得制限に関して意見を募集していましたが、全く目立たない。家族背景等を考慮せずに、一方的にカットされた事に私の不信感は更に大きくなった。

- ・親も定年を迎えます。お金などの支援や付き添い人を付けてほしい。
- ・経済的援助体制の充実を望みます。
- ・市の障がい者の補助金がカットされたのはすごく残念です。
- ・肢体不自由、自分の意思でトイレに行けない子だけでなく、夜だけオシメをしている子にも援助ができるようにしてほしい。
- ・今3か月に一度障がい福祉金を頂いてる。どうかなくさないでください。我が家で一番困ってるのはお金ですから。
- ・外出時の経済的な支援。
- ・私は軽度な障がいですが、バスの半額制度が外出の促進になっており、非常にありがたいです。
- ・私は関節リウマチのため定期的な通院が必要ですが、医療費を補助していただけるだけでも大変ありがたいと思っています。
- ・特に療養が医療援助をして頂き、深く感謝しています。
- ・障がい者や高齢者の医療費の市への負担が、年々大きくなっていると思います。感謝と同時にできるだけ不要のものを排除するようにしています。
- ・障がい者に対し、無料パスを発行してもらいたい。
- ・他市と違い逗子市は精神2級でも医療費が自費ですし、障がい者2,000人雇用など、障がい者のことを考えてくれる他市と違うと思います。年金と賃金で生きていくには、そういった活動や仕事を提供してほしいです。
- ・逗子市は障がい者福祉が遅れていると思う。交通費を割引して欲しい。
- ・万が一に、妻が先に死亡した時にそなえ、医療機関に無料で通える制度を妻が健在のうちに確立されている事。
- ・現在精神3級の手帳を取得しているが、1年毎の更新の度に高額な診断書料を負担している。手帳（3級）を取得しても、生活経済、なんら恩恵を受けることができず、手帳を更新しようか毎回迷う。

(10) 地域活動、文化・スポーツ活動について

- ・地区で10年程前から10数人がボランティアで年4～5回お茶会を開催し、台風、雪などの時、きまった人だけがかけつけ手助けしてくださり非常に助かる。
- ・料理が上手にできないので、困っています。友だちや同級生とお茶を飲むことができるようになりたいです。
- ・掲示板、歩くこと（医師、看護師に外でと言われるので）見に行ったりします。ありがたいです。行けても行けなくてもコンサート招待他もうれしいです。町の無料の映画もよかったです。
- ・気軽に世間話やちょっとした話ができるような、福祉的な「カフェ」が市役所内にあって、立ち寄っていつでも話ができる。そういう話を聞いてくれる人がいるとよいと思う。（若い人向けの福祉サークルのようなものに参加したい。ダンスやミュージカルなど）
- ・障がい者のリハビリ（機能回復/軽度の運動）を気軽に行える施設・業者が少ないように思います。障がい者は体力的にも機能的にも気分的にも自ら軽度な運動に外出しやすい様な施設があると（送迎を含む）自身の健康回復・維持に大いに役立ちます。特に逗子にはそのような施設が少ないように思います。市民運動公園・施設等を活用（できれば事業者に開放して）介護予防制度としてのデイサービスが行えればと考えています。
- ・池子地域はコミュニティーの場が無い。

- ・障がいのあるなしにかかわらず、人と人が交流できる場所が足りないと思います。
- ・市外にある多機能型事業所を利用しています。逗子から近いのでリハビリから市外のいろいろなサービス、子どもから高齢者まで1か所に利用できるのも、逗子でも近くにそのような場所があればよいです。

(11) 障害福祉サービス等について

- ・支援1から2になりました。私も年を取り、歩行に危惧を覚えるようになりましてので、手すりを付けたいと今年ケアマネジャーさんをお願いしたら、機構が変わったので不可能とのことでした。やはりもっと身近なカバーをしていただきたいと思います。
- ・対象者が何人いるか不明ですが、本人が出向くことは実際問題としてなかなか容易でない面があります。ご苦労ですが、実態把握と経過を把握に努めていただきたい。電話でもよいでしょう。
- ・月に一度でいいので、市役所を土日に開けてほしい。働き始めると平日がなかなか空かず、福祉サービスの申請が進まなかった。
- ・市がいろいろサービスしてくださることを知らなかった。あまり利用しないので今後考えます。
- ・自立支援の手続きの時等、市の職員の方がすぐ出てきてくれてやってくれて助かっています。
- ・逗子市は福祉に対して、市民に手厚くしてもらいたい。
- ・今のところは障がい福祉関係の利用はないが、身体もだいぶ傷んできたのでこれから利用させてもらおうと思う。その時はよろしくお願いします。
- ・短期・長期入所先がないのでつくってほしい。
- ・身体障がい者に対する優遇制度の充実をもっとしてほしい。
- ・勤労者は通勤等の移動サービスが受けられない等受けられないサービスもあり、基本的には自力で通っているが、介助者不在の時など一時的に認めてもらえるなど、状況により柔軟な対応をお願いしたい。
- ・50代で、右半身マヒで、要介護1です。できなくても、一生けん命がんばり、前向きに生きていけると、要介護度を下げられて、障害者手帳があっても、要支援になったり、理不尽だと思う。
- ・主人と二人の生活ですが、買い物、食事づくりに、困ることが多くなってきたので、週に2回くらいのヘルパーさんを頼みたいと思いますが、申込方法がわからない。
- ・軽度の障がい者にも重度の障がい者にも等しく福祉サービスが提供できているか心配しています。
- ・他のセンターの方が特定の人へは月1回来ているとの事。お忙しいでしょうが、一人暮らしの所へも近所へ来た時は顔を見せてくれたらありがたいです。
- ・希望通りは大変難しいことではと思うが、障害者手帳をいただいても何も利用ができません。外出したくてもバスに乗ることもできず、結局はタクシーを使うには無理だし、いろいろ考えると家の廻りを歩くだけ。

- ・最終的に国、県の承認が必要な事務手続きが多く、市役所の役割は市民と国、県をつなげることが多いと思うが、不明なことをサポートしてくれたり教えてくれたりするので助かっている。市から弱者に手を差し伸べる、助ける、補う自発的態度を取ってくれるのなら、全国の市に先立つ模範的な地域として自慢できるのだが。
- ・今の所、現状のサービス（バス割引証等）で満足しています。
- ・桜山の社会福祉協議会や池子の高齢者センター、市役所障がい福祉課など各部門は立派に活動されています。それに引き替え、横の連絡や共同の活動がありません。
- ・高齢で精神障がいがある者への支援がほとんどなく困っている。
- ・①ガイドヘルパーの制度はあるが、実際には人手不足で、どの事務所も新規の受け入れには慎重である。制度はあれど、人はなしという現状を打破する政策が必要。②従来、ガイドヘルパーの利用費負担はなかったが、近年自己負担になった。諸々の福祉制度の遅れている本市では、唯一他市に誇れる制度であったが残念。遅れている具体例として、近隣市町では、タクシー利用券の給付制度があり、障がい者の社会参加を積極的に支援している。
- ・日常生活用具の給付品目についての見直しが行われていない。例えば、スマホである。一つは音声で発声させることができるが、操作方法は難しく、スムーズな操作には補助装置が必要である。この補助装置は4万円もする。全国的には日常生活用具給付対象にする市町村が増加している現状である。このような生活をスキルアップするものを、給付対象にするような見直しはどのようにしたらいいのか、考えてほしい。スマホにはもう一つの課題がある。かつてパソコンを障がい者に普及させるために講習会を開いた事もある。今はスマホを使う講習会を開く必要があると思う。スマホが使えないと視覚障がい者は社会から置いてけぼりを食うことになりかねない。社会参加の一環としても、行政のプランの中に取り込んでほしいと考える。
- ・障がいを補完するための施策。視覚障がい者が情報を得るためにパソコン、スマホの活用が必要。そのためにパソコン、スマホの使い方についての指導を受けたい。これこそ社会から孤立を防ぐ最大の方法だと思う。
- ・障がい福祉課の（窓口）サービスはよくやったださると思います。薬がないと眠れないので、どうかやる気のない僕に、代わりに薬を家まで届けてくれる人が出てくれることができる法律ができると助かります。
- ・市役所に用事がある時、自動車、介助人を低料金で手配をしてもらいたい。
- ・障がい福祉で働く現場の人手不足と待遇の低さから、将来的に現在の福祉サービスが低下する一方ではないか不安でいる。
- ・私は市外の就労継続支援B型事業所にて5年半働いています。毎週4～5回通所し、絵や美文字を描きアート活動をしています。収入は多くありませんが、事業所のアットホームな雰囲気が入っています。私のように作業所で働いている障がい者にも有給やボーナスをもたらえる制度を作って、一般就労と同じ扱いにしてもらえないでしょうか。
- ・私はパーキンソン病ステージ3（1～5）で薬を利用して何とか動くことができますが、薬が効かないときはどうにもなりません。いざというときは公的な援助がほしいと思っています。週4回デイサービスその他を利用して体を動かしています。パーキンソン体操週2回、デイケア週2回、音楽をきいたり合唱その他自力でリハビリをやるように心がけています。

(12) その他

- ・ 自立して働いているので、該当しないと思います。
- ・ 障害者手帳をいただくと何かと便利でありがたいのですが、私の場合のように右半身不随の脳卒中系障がい者は、唯一使える左手は杖を手離せないため、ポケットやバッグから障害者手帳を取り出して、バス運転士さんなどに提示することは極めて不便。危険なこともあります。手帳に鳩目穴をつけてくだされば、ヒモを通し、首から下げられてとても安心して使えます。ご一考をよろしくお願いします。
- ・ 現在、不自由していない。
- ・ 高齢者になると日頃丈夫であった方も、どこかしら身体の変化が出てきます。日頃から自分の身体の「管理」を考えて食事の内容、できる運動等を考えず、すぐお医者様にかかることばかり考えて、3つも4つもかかっている方が多く、医者と病院をいくつもかかっている人が多すぎると思います。これも今後考える必要ありと思います。
- ・ 私は精神疾患で長いこと（19才で発症）引きずっていますが、未来やこの国のこと、社会に対して、その他普遍的な事柄に対して、子どもたちによく聞かれます。一体どう答えてよいのかをととてもとても悩みます。あまり国や行政のあり方について言いすぎるのは「おそろしい」かと思いますが、一番の特効薬は国が国民を大切にすることだと思ってます。
- ・ 市内に医療施設の充実を。早急な総合病院建設に着手していただきたい。
- ・ 私は障がいといっても軽いので、今の所1人暮らしで88才でがんばっています。高齢者にとって、何もする用事が無いことほど悲しくつらいものはありません。若い人はどうぞ年寄りの気持ちをわかってください。
- ・ 介護保険の要支援、要介護認定は2～3年ごとに家庭訪問調査の上認定更改をしていますが、障がい者等級の再調査は当初認定（8年前）以後一度も行われません。再手術、病状の進行等自己申告のみ対応でしょうか。
- ・ 一にも二にも逗子市に（近くに）総合病院を。
- ・ 市役所各職員の方々の対応にいつも感謝しております。一日も早くベット数のある逗子市立病院の完成を願っています。生まれつきの障がい、成長期での障がい、高齢者等々、多数のお世話これからもよろしくお願いいたします。
- ・ 逗子市の市民高齢化は市政の大きな課題だと思います。市政に参加できていない者にとって意見を申し上げることは容易なことではありません。市役所内の御担当者以外の方も含め、しっかり議論されることを切望致します。
- ・ 心臓疾患のため、3か所手術しました。今、人工弁もそのひとつで「身体障害者手帳」交付していただき、感謝しています。
- ・ I P S医療による機能の向上等々の進むことを期待しています。理化学研究所のリーダーと直接面談してみましたが、驚くほどの金銭が必要なことに驚きました（3年ほど前）。人工知能（A I）も発達してきていますので、この方面の研究、導入を考えることが必要ではないかと思います。
- ・ 逗子には、お風呂屋さんがないのでつくってあげてください。
- ・ 逗子に総合病院を作りたいです。
- ・ 両足の親指が、陥入爪のため、事業所に通えなくなってしまいました。また、寒くて風邪がはやっているため、地域活動支援センターに通えなくなってしまいました。両親・祖父母が眠っているお墓参りにも、行けなくなってしまいました。自宅で、突然死して天国のお母さんの所へ行きたいとか、自殺ができれば、早く天国のお母さんの所へ行きたい、ということばかり家で考えています。入院・手術・延命は、望みません。早く、自宅で突然死して、天国のお母さんの所へ行きたいです。

- ・私は 42 歳の時に大動脈弁膜に異常が診られ、医師に大動脈弁置換手術をすれば良くなる可能性があると言われ手術を受けました。その後 2 か月に 1 回の定期的検診を欠かすことなく受診していますがどの医師も人工弁がどのくらい持つのかを聞いても教えて貰えず日々不安を持ちながら生活をしています。専門医療機関の充実及び総合病院の開設。
- ・障がい者に対しての行政コストが出費増になることで、申し訳ない思いを意識して過ごしております。
- ・障がいの有無にかかわらず、人をあてにしない。年金が少ないので生活が大変です。
- ・生活支援、地域でたずさわっている方々に感謝。
- ・先日市の仕事ではない指定医療機関の書類で、わけのわからない私にとってもやさしく教えて下さり、無事手続きができ感謝しています。
- ・私の場合、近所の皆様は、私が身障者なのかご存知ないと存じます。しかし、左側の機能が非常に通常の方と異なっています。年齢のこともあり右側ばかりに頼ることで、体調を維持できなくなりました。少しでも長く仕事を維持し、他の人が 10 分ですむことを 30 分かればできる、雨の日はタクシーを使う、ひとりでできないことは他の人を頼りにせずできなくても満足する。あと 10 年、これが続けばよいかと。個人々で手助けの内容は異なります。
- ・常に感謝で生活すること。
- ・AED が普及して心肺停止になっても、命だけは助かりますが、その後の各後遺症のため苦しんでいる人が多く存在するなかで、医療の現場はその後のリハビリテーション等、つなげていける機関を患者に示してほしいと感じています。市の障がい福祉課は、最初から、県の総合リハビリテーションを紹介してくださり、助かりました。
- ・現時点で満足しております。ケアマネジャーさんのおかげで困っておりません。
- ・私は、市や施設の方々の協力のおかげで恵まれた現状にあると思います。
- ・毎度、丁寧に対応していただき、感謝しております。
- ・逗子にも、総合病院ができると良い。だんだん、年齢とともに、いろいろな病気が出てきて、そのたびに病院を探していくのも、大変なことです。これは、一人暮らしの方がみなさん思っていることです。
- ・店の閉店が多く、街がシャッター通り化しています。逗子市内で買い求めるものも少なくなっています。各地でラーメン通り等の特色づくりをしているように、逗子もたとえば巻きずしちらしずしなど市名にあわせた特色づくり、店への支援、企業の誘致等、街を活性化するような施策をしてほしい。
- ・障がいを抱えながら親を介護し、看取り、現在ひとり暮らしとなっているが、社会は障がい（精神障がい）を特に気に掛けるわけではない（ヘルパーさんなど除く）。障がいを持っていてもできる限りのことをやっていかないと周囲は認めてくれないが、これは健常者でも同様であると思う。障がいがあるからと、それに甘え、あれやこれや要求し、文句ばかり言うのは、誤りであると考えているし、障がいがあっても、そうとう重度の者でない限りは他者の役に立つこともある。やってもらうばかりではないということ障がいをもつ人々は自覚していく必要があるとおもっている。（「やってもらうものが当たり前」と思っている障がい者が昨今増えすぎているように思う）
- ・地域の西部包括センター職員の方々にはお世話になっていて助けられており感謝しています。11 月初め転倒して、目下娘と息子の家の近くの病院で入院生活をしています。
- ・人権を大事にして自立できる生活をしていく姿勢で過ごしたいです。
- ・施設入所の為、特に不満はありません。
- ・ゴミ出しが大変。分別も大変。特に障がい者は。
- ・他人に頼らない、自律した生活・環境を必要とします。公的機関サービスも税金などに収入源を求めているから、いつでも信頼心があります。自助自立が一番。

- ・今まで他人に頼ったことがなく、自力で生きて来たので、ほとんど他人の力は信用できないし、期待もしていません。家族3人で生きてきたのでこれからもそのままで行きたいと思えます。
- ・今はヘルパーや友人が手伝ってくれるので大丈夫。年金が少ないけどやりくりできている。
- ・81才老女、目・耳不自由ながらひとり暮らし。これから先、多方面でお世話になりましょうが今、がんばってます。ピンピンコロリが希望です。
- ・何事も自力でできる様努力を重ねておりますが、体力が年々衰えておりますので、今一番の苦労はゴミ出しです。雑誌、新聞等の搬送のお手伝いを望んでおります。
- ・年金、自立支援医療受給者証更新のたびに市役所に行くことが負担。インターネットで手続きできるようにしてほしい。在宅ワーク、ブログやクラウドワークなどの支援を望む。講演会等をLIVE配信サービスなど、自宅で見られるようにしてほしい。耳が聞こえない人に要約筆記があるように、外出できない人には自宅でイベントを閲覧できる権利あり。
- ・同じ年齢でも個人差があるということ。昨日までできたことが急にできなくなる可能性があり注意。家族の助けがどれだけありがたいか。加えて市の助けも。市役所の中にある精神障がい者の売店を好んで利用していますが良質のお弁当等をもっと広げてほしい。
- ・県に対してだと思いますが、昔（平成26年以前）ペースメーカーを入れた方はずっと1級ですが、平成26年度以降に入れた方は3年経つと級が落ちるとの事、同じ条件で不公平だと思います。
- ・他市にある「すぐやる課」のような存在がほしい。障がい者がいる家族8050だけでなく兄弟、姉妹などで支えている方々にも目を向けてほしい。
- ・現在は、働いていませんが、会社に務めていると、各種書類の提出などで市役所に行かなければなりません。夜間、休日などでも書類の受付などを行ってほしい。
- ・包括が出現してから土曜日の休みが解せない。24時間とは言わないが、緊急を要することも複数いるなら交替で午前だけでも1人機能してほしい。要支援対象で軽く見られていて月1回の安否確認もない（包括以前は確実にあった）。
- ・デマンドタクシーを再考してもらえないか。（自宅→駅→市役所だけでもかまわない）
- ・市の障がい者福祉対応に特に不満はないが、なお一層の向上をお願いします。
- ・市役所利用時間（18時以降）。
- ・性別の欄をなくしてほしい。デジタルに対応した最新のサービスを進めてほしい。
- ・市役所の2階奥の資源循環課にて障害者手帳を提示すれば、年に一度有料ゴミ袋を支給していただけます。申請をして許可の葉書が届くのを待ち、その葉書を持参したら袋を持ち帰る事ができるという二度手間を少し改善していただきたい。申請の許可が出たなら配送していただくとありがたいです。
- ・障がい者手帳の等級の見直し。
- ・職員の意識改革が必要である。私が要望した案件でも、「これはこのような理由で実現困難である。」という返事が多かった。私ができない理由を聞いているのではなく、どうしたらできるかを考えてほしいのである。行政姿勢に問題を感じた経験がある。

(13) アンケートについて

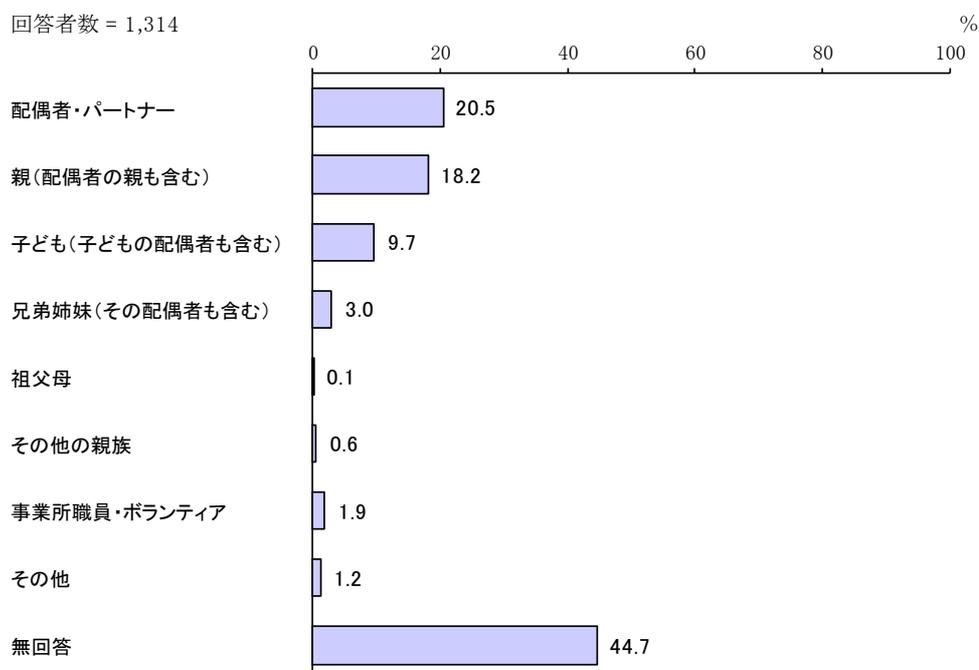
- ・理想的なことばかりのように思える。
- ・このアンケートの内容は少し役所目線な気がする。逗子の福祉・行政も、もうひと皮むけてほしい。
- ・視覚障がい者なので、アンケートに答えるのはとても大変です。今後このやり方でやるなら送ってくれなくて結構です(一人暮らしなので)。障がいに応じたやり方を考えてください。
- ・〇に関係なく、どれもみな必要なことばかりです。
- ・今のところあまり必要とする事態ではないので、あまりこれといった意見を述べられないので失礼します。
- ・記入に疲れました。障がいの度合いによっての設問が必要ではないですか。意味のある質問でしょうか。このパンフレットを作成するのに逗子市の予算の中からいくらか使用されているのか。もったいないの一言です。
- ・よくわからない。
- ・特にありませんが、日々、一緒に介助しつつ生活をしている者にとっては、この様な書類でさえも負担に思ってしまう。(申し訳ないのですが、正直な思いです。)
- ・付問に解答にあてはまらない所があり。
- ・障がい者で苦しむ人にこの量を問うのはひどいです。余計に辛くなりました。
- ・あまり大きな封筒で「障がい」と書いた封筒が来るのはすこしはざかしかったです。
- ・アンケートで多く学ぶことができました。障がい者、高齢者が生涯安心した生活ができます様取組に感謝いたします。十分ではないですが回答します。
- ・介助、支援を受けていないので問 52～未記入です。
- ・本人の意見を聞くことは不可能なため、保護者の感想と意見のみになり恐縮です。本人が自分自身を理解するのが困難であることをご承知おきいただけたらと思います。
- ・視覚障がい者で書類など、今は主人が書いてくれたり、提出しに行ったりしているので安心ですが、主人も高齢者ですのでこれからできなくなったとき不安です。この提出物も読んで書くのが大変でした。少し見ていると目や頭が重くなり考えながらやっと書き終えました。広範脊椎管狭窄症の難病もあり週の大部分は病院治療しており、通院も主人に頼り買い物等も連れていってもらっていますので、できなくなる不安もあります。
- ・このアンケート総ルビであること感謝。公のあらゆる書類の表示などすべて総ルビにしてほしい。
- ・本人は知的障がい者です。5才程度の能力しかありません。この質問内容のアンケートはとてもむずかしく対応できません(特に後半)。
- ・市役所から来る封書に福祉部障がい福祉課と印字されているが「障がい」は記入の必要があるのか。封書の印刷にも、中に障がいの案内と書けばよい。
- ・市が障がい者に対していろいろ検討していると初めてこのアンケートで知りました。どんどん進めていただきたいと思います。
- ・これまでアンケートの間にこたえて、市はかなり充実していると思いました。

(10) 介助・支援者をしている方に

①属性

問 52 あなたは障がいのある人からみてどのような関係にあたりますか。(1つに〇)

「配偶者・パートナー」の割合が 20.5%と最も高く、次いで「親（配偶者の親も含む）」の割合が 18.2%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	配偶者・パートナー	親(配偶者の親も含む)	子ども(子どもの配偶者も含む)	兄弟姉妹(その配偶者も含む)	祖父母	その他の親族	事業所職員・ボランティア	その他	無回答
全体	1314	20.5	18.2	9.7	3.0	0.1	0.6	1.9	1.2	44.7
0～5歳	23	—	95.7	—	—	—	—	—	—	4.3
6～17歳	49	—	81.6	8.2	—	—	—	—	2.0	8.2
18～29歳	61	—	75.4	1.6	1.6	1.6	—	—	3.3	16.4
30～49歳	179	6.7	48.6	1.1	1.7	—	—	1.1	2.2	38.5
50～64歳	180	15.6	11.7	2.2	6.7	—	0.6	5.6	0.6	57.2
65歳以上	785	28.0	2.5	14.3	3.1	—	0.8	1.5	1.0	48.8

【障がいの種別】

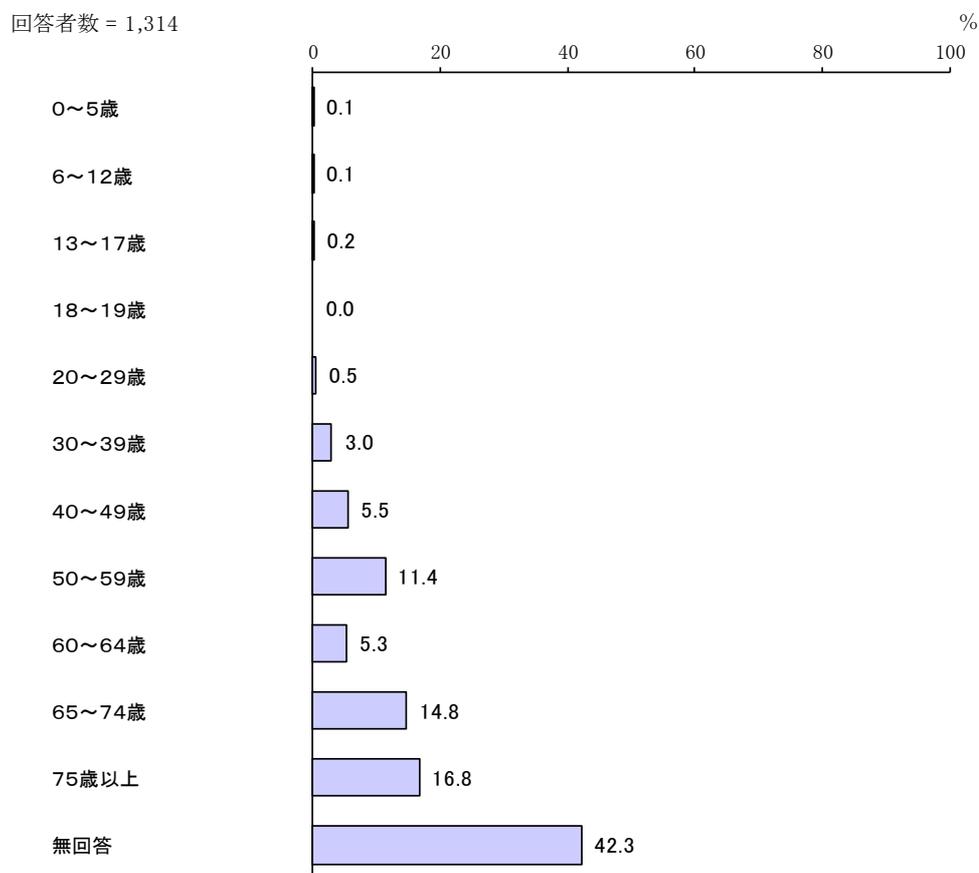
他に比べ、知的障がいで「親（配偶者の親も含む）」の割合が高くなっています。また、身体障がいで「配偶者・パートナー」「子ども（子どもの配偶者も含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者・ パートナー	親 (配偶者の親も含む)	子ども (子どもの配偶者も含む)	兄弟姉妹 (その配偶者も含む)	祖父母	その他の親族	事業所職員・ボランティア	その他	無回答
全 体	1314	20.5	18.2	9.7	3.0	0.1	0.6	1.9	1.2	44.7
身体障がい	946	25.2	7.3	12.1	2.2	—	0.7	1.1	0.7	50.7
視聴覚系	242	30.6	10.7	9.9	2.1	—	0.8	2.9	1.7	41.3
運動系	427	26.2	9.6	13.3	2.3	—	0.7	0.9	0.2	46.6
内部系	421	27.1	5.0	11.2	1.7	—	0.7	0.5	0.5	53.4
知的障がい	152	2.0	73.0	2.0	6.6	—	—	5.3	2.0	9.2
精神障がい	220	13.2	34.1	3.2	5.5	0.5	—	2.3	2.3	39.1
重複障がい	75	18.7	54.7	2.7	5.3	—	—	—	—	18.7

問 53 今年の4月1日、あなたは何歳でしたか。(1つに○)

介助・支援をしている方の年齢については、「75歳以上」の割合が16.8%と最も高く、次いで「65～74歳」の割合が14.8%、「50～59歳」の割合が11.4%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	0 ～ 5歳	6 ～ 12歳	13 ～ 17歳	18 ～ 19歳	20 ～ 29歳	30 ～ 39歳	40 ～ 49歳	50 ～ 59歳	60 ～ 64歳	65 ～ 74歳	75歳 以上	無回答
全 体	1314	0.1	0.1	0.2	—	0.5	3.0	5.5	11.4	5.3	14.8	16.8	42.3
0～5歳	23	—	—	—	—	4.3	60.9	30.4	—	—	—	—	4.3
6～17歳	49	—	2.0	4.1	—	—	24.5	44.9	16.3	—	—	—	8.2
18～29歳	61	—	—	—	—	4.9	—	9.8	55.7	9.8	1.6	—	18.0
30～49歳	179	0.6	—	0.6	—	—	3.4	6.7	5.6	7.8	26.3	11.2	38.0
50～64歳	180	—	—	—	—	1.1	1.1	—	19.4	6.7	4.4	10.6	56.7
65歳以上	785	—	—	—	—	—	0.8	3.2	7.6	4.3	17.3	21.9	44.8

【障がいの種別】

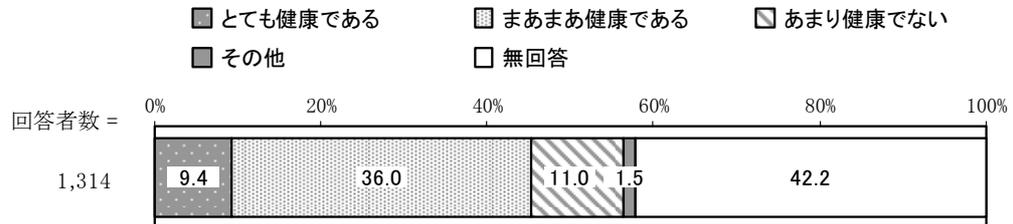
単位：％

区分	有効回答数 (件)	0 ～ 5歳	6 ～ 12歳	13 ～ 17歳	18 ～ 19歳	20 ～ 29歳	30 ～ 39歳	40 ～ 49歳	50 ～ 59歳	60 ～ 64歳	65 ～ 74歳	75歳 以上	無回答
全 体	1314	0.1	0.1	0.2	—	0.5	3.0	5.5	11.4	5.3	14.8	16.8	42.3
身体障がい	946	—	—	—	—	—	1.8	3.4	9.1	4.9	14.2	19.2	47.5
視聴覚系	242	—	—	—	—	—	3.3	3.7	10.7	5.8	14.5	24.4	37.6
運動系	427	—	—	—	—	—	2.1	4.0	9.4	5.2	15.5	20.6	43.3
内部系	421	—	—	—	—	—	1.7	3.1	9.7	3.1	10.9	21.9	49.6
知的障がい	152	0.7	—	2.0	—	3.3	9.2	15.1	27.6	6.6	18.4	8.6	8.6
精神障がい	220	0.5	—	0.5	—	—	1.8	6.8	11.8	6.8	20.0	13.2	38.6
重複障がい	75	1.3	—	1.3	—	—	6.7	10.7	13.3	6.7	25.3	17.3	17.3

②健康状態

問 54 あなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

「まあまあ健康である」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「あまり健康でない」の割合が 11.0%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	その他	無回答
全 体	1314	9.4	36.0	11.0	1.5	42.2
0～5歳	23	34.8	60.9	—	—	4.3
6～17歳	49	24.5	59.2	8.2	—	8.2
18～29歳	61	19.7	52.5	9.8	1.6	16.4
30～49歳	179	7.3	40.2	14.0	—	38.5
50～64歳	180	10.6	25.6	6.7	0.6	56.7
65歳以上	785	7.0	34.0	12.0	2.3	44.7

【障がいの種別】

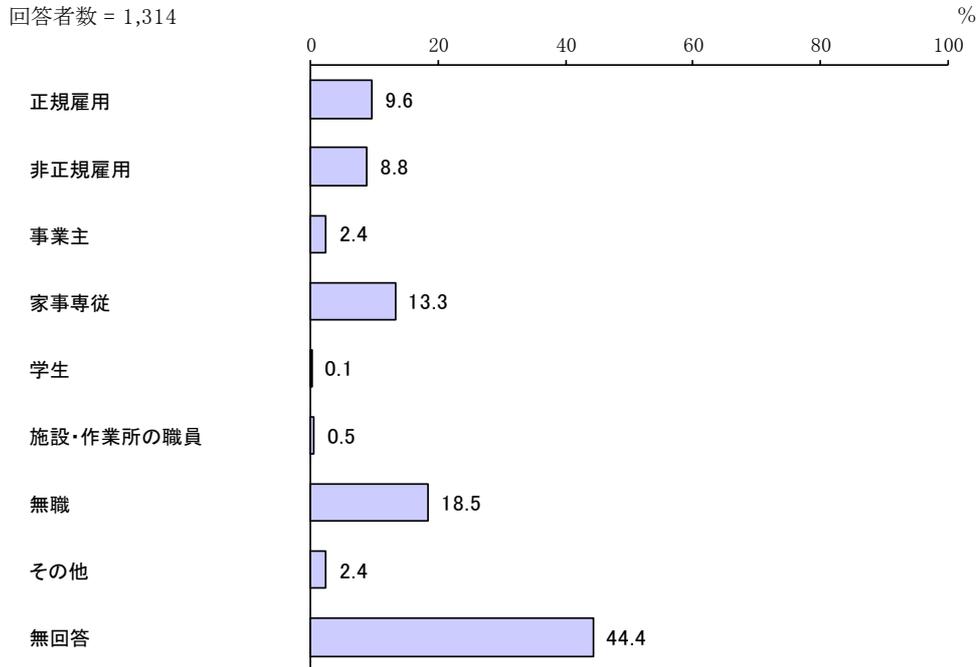
単位：%

区分	有効回答数 (件)	とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	その他	無回答
全 体	1314	9.4	36.0	11.0	1.5	42.2
身体障がい	946	7.6	32.6	10.8	1.7	47.4
視聴覚系	242	9.1	36.0	13.6	3.7	37.6
運動系	427	7.3	36.5	10.3	2.3	43.6
内部系	421	6.9	29.7	12.6	1.7	49.2
知的障がい	152	17.8	57.2	15.8	0.7	8.6
精神障がい	220	9.5	39.5	10.9	1.4	38.6
重複障がい	75	10.7	57.3	13.3	1.3	17.3

③働き方

問 55 あなたの現在の働き方は次のうちどれですか。(1つに○)

「無職」の割合が18.5%と最も高く、次いで「家事専従」の割合が13.3%となっています。



【年齢別】

他に比べ、0～5歳、18～29歳で「正規雇用」の割合が、6～17歳で「非正規雇用」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	正規雇用	非正規雇用	事業主	家事専従	学生	施設・作業所の職員	無職	その他	無回答
全体	1314	9.6	8.8	2.4	13.3	0.1	0.5	18.5	2.4	44.4
0～5歳	23	26.1	8.7	—	39.1	—	—	17.4	4.3	4.3
6～17歳	49	14.3	42.9	2.0	18.4	—	—	12.2	2.0	8.2
18～29歳	61	24.6	21.3	—	21.3	—	—	6.6	8.2	18.0
30～49歳	179	8.9	10.1	1.7	14.0	0.6	1.7	17.9	5.6	39.7
50～64歳	180	12.2	7.2	1.1	6.1	—	0.6	12.8	2.8	57.2
65歳以上	785	7.4	6.0	3.2	13.4	—	0.4	20.9	1.0	47.8

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい「正規雇用」「非正規雇用」の割合が高くなっています。また、重複障がいで「家事専従」の割合が高くなっています。

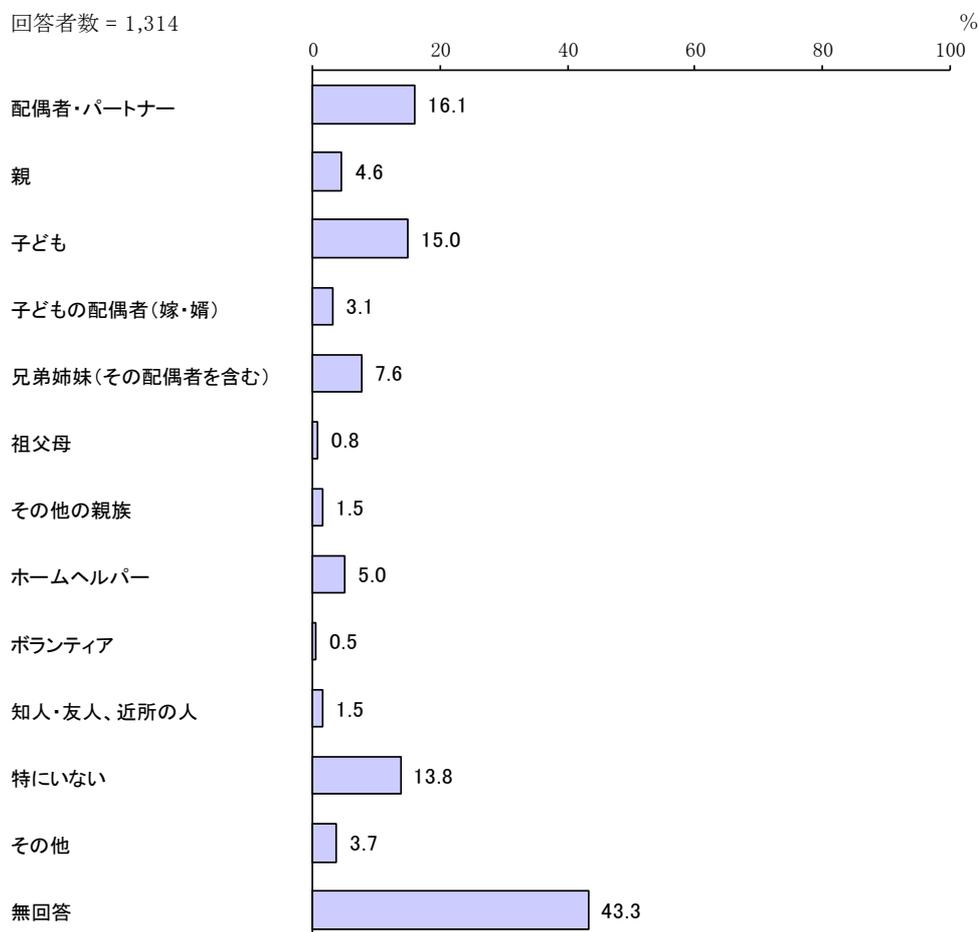
単位：％

区分	有効回答数 (件)	正規雇用	非正規雇用	事業主	家事専従	学生	施設・作業所の職員	無職	その他	無回答
全体	1314	9.6	8.8	2.4	13.3	0.1	0.5	18.5	2.4	44.4
身体障がい	946	8.4	5.9	2.5	13.1	—	0.3	18.6	1.4	49.8
視聴覚系	242	9.9	9.5	2.5	14.5	—	0.4	22.3	1.2	39.7
運動系	427	8.4	5.4	2.8	15.5	—	0.2	20.8	1.4	45.4
内部系	421	7.4	5.9	1.9	14.3	—	0.2	16.9	1.2	52.3
知的障がい	152	15.1	23.7	2.0	22.4	0.7	1.3	17.8	6.6	10.5
精神障がい	220	10.0	8.2	2.3	12.7	0.5	1.4	21.4	3.2	40.5
重複障がい	75	9.3	9.3	1.3	28.0	1.3	1.3	28.0	2.7	18.7

④介助・支援の体制について

問 56 あなたが行っている介助・支援を交代してくれる人はどなたですか。
(あてはまるものをすべてに○)

「配偶者・パートナー」の割合が16.1%と最も高く、次いで「子ども」の割合が15.0%、「特
にいない」の割合が13.8%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者・パートナー	親	子ども	子どもの配偶者 (嫁・婿)	兄弟姉妹 (その配偶者を含む)	祖父母	その他の親族	ホームヘルパー	ボランティア	知人・友人、 近所の人	特にない	その他	無回答
全体	1314	16.1	4.6	15.0	3.1	7.6	0.8	1.5	5.0	0.5	1.5	13.8	3.7	43.3
0～5歳	23	78.3	30.4	4.3	—	4.3	8.7	—	—	—	—	17.4	—	4.3
6～17歳	49	59.2	30.6	12.2	—	4.1	10.2	12.2	6.1	2.0	2.0	10.2	—	8.2
18～29歳	61	45.9	14.8	11.5	—	8.2	4.9	—	4.9	—	1.6	11.5	8.2	16.4
30～49歳	179	21.2	7.8	14.5	2.8	6.7	—	1.1	2.8	—	0.6	15.6	3.9	38.5
50～64歳	180	5.6	6.1	8.3	1.7	7.2	—	0.6	5.0	0.6	0.6	15.0	3.9	57.2
65歳以上	785	11.0	0.6	16.9	4.1	8.4	0.1	1.4	5.9	0.5	2.0	13.1	3.6	46.5

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい、重複障がいで「配偶者・パートナー」の割合が、知的障がいで「親」の割合が高くなっています。

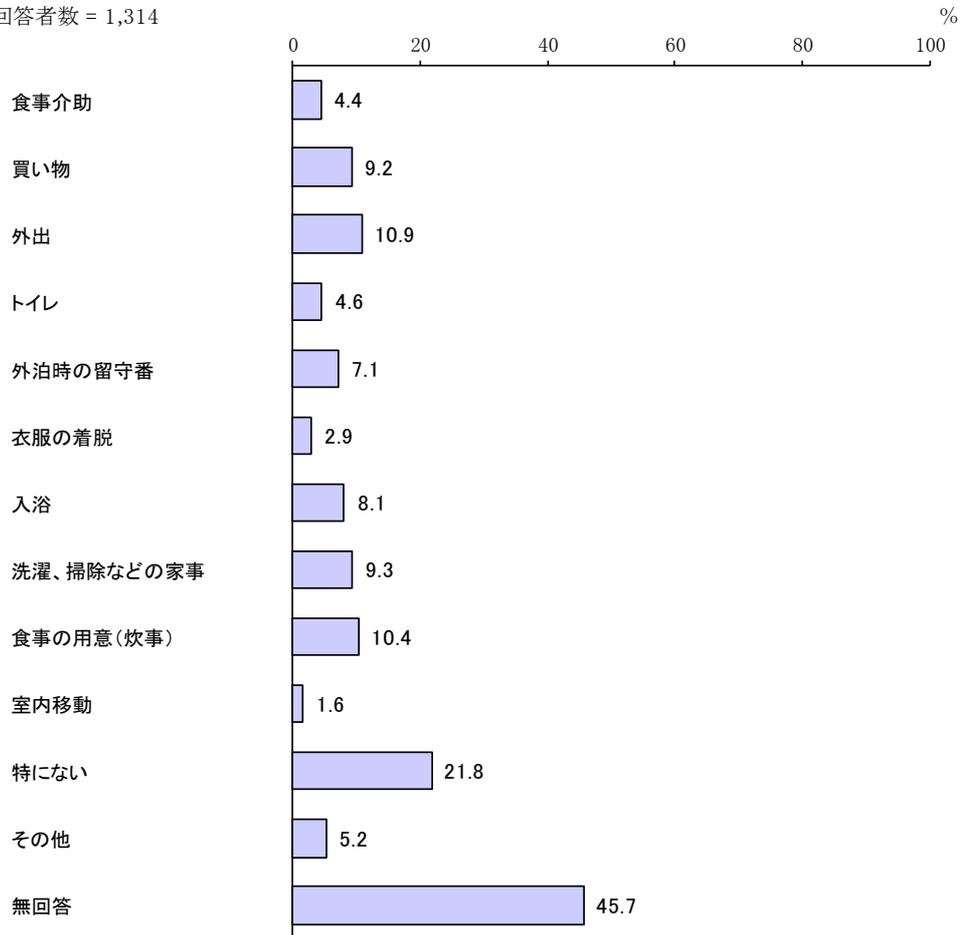
単位：％

区分	有効回答数 (件)	配偶者・パートナー	親	子ども	子どもの配偶者 (嫁・婿)	兄弟姉妹 (その配偶者を含む)	祖父母	その他の親族	ホームヘルパー	ボランティア	知人・友人、 近所の人	特にない	その他	無回答
全体	1314	16.1	4.6	15.0	3.1	7.6	0.8	1.5	5.0	0.5	1.5	13.8	3.7	43.3
身体障がい	946	11.9	1.9	15.9	4.0	7.8	0.3	1.4	5.7	0.4	1.9	12.1	3.2	48.8
視聴覚系	242	16.9	2.5	17.4	5.0	8.7	0.4	1.7	7.9	0.4	2.5	12.0	6.6	39.3
運動系	427	13.1	2.6	16.4	2.8	9.1	0.5	1.9	8.2	0.5	2.1	13.3	3.5	44.5
内部系	421	11.6	1.2	16.2	5.0	7.4	—	1.4	5.2	0.7	2.4	10.7	2.1	50.4
知的障がい	152	42.8	18.4	15.8	0.7	10.5	4.6	3.3	5.9	1.3	1.3	13.8	7.9	9.9
精神障がい	220	18.2	5.9	10.5	0.5	5.5	0.5	1.8	2.7	0.9	0.9	20.5	4.1	38.2
重複障がい	75	32.0	8.0	20.0	1.3	6.7	4.0	2.7	5.3	2.7	2.7	16.0	5.3	17.3

問 57 日常の介助・支援のなかで、あなたが他の人に代わってもらえると助かることは、
どんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が 21.8%と最も高く、次いで「外出」の割合が 10.9%、「食事の用意（炊事）」の割合が 10.4%となっています。

回答者数 = 1,314



【年齢別】

他に比べ、6～29歳で「外出」の割合が、6～17歳で「外泊時の留守番」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	食事介助	買い物	外出	トイレ	外泊時の留守番	衣服の着脱	入浴	洗濯、掃除などの家事	食事の用意(炊事)	室内移動	特にない	その他	無回答
全体	1314	4.4	9.2	10.9	4.6	7.1	2.9	8.1	9.3	10.4	1.6	21.8	5.2	45.7
0～5歳	23	13.0	8.7	13.0	4.3	13.0	4.3	4.3	17.4	17.4	—	26.1	21.7	4.3
6～17歳	49	6.1	10.2	30.6	6.1	18.4	4.1	14.3	4.1	14.3	4.1	24.5	18.4	8.2
18～29歳	61	4.9	8.2	26.2	4.9	13.1	1.6	9.8	14.8	11.5	1.6	19.7	16.4	23.0
30～49歳	179	3.4	8.9	11.2	5.0	8.4	3.9	7.3	10.1	12.3	—	27.4	6.1	43.6
50～64歳	180	3.9	11.7	8.9	4.4	5.6	2.8	5.6	8.3	8.9	2.2	16.7	1.7	57.8
65歳以上	785	4.3	8.7	8.8	4.3	6.0	2.7	8.0	9.0	9.4	1.5	21.9	3.4	48.9

【障がいの種別】

他に比べ、重複障がい、「食事介助」「買い物」「外泊時の留守番」「入浴」「食事の用意(炊事)」の割合が高くなっています。また、知的障がい、重複障がい「外出」の割合が高くなっています。

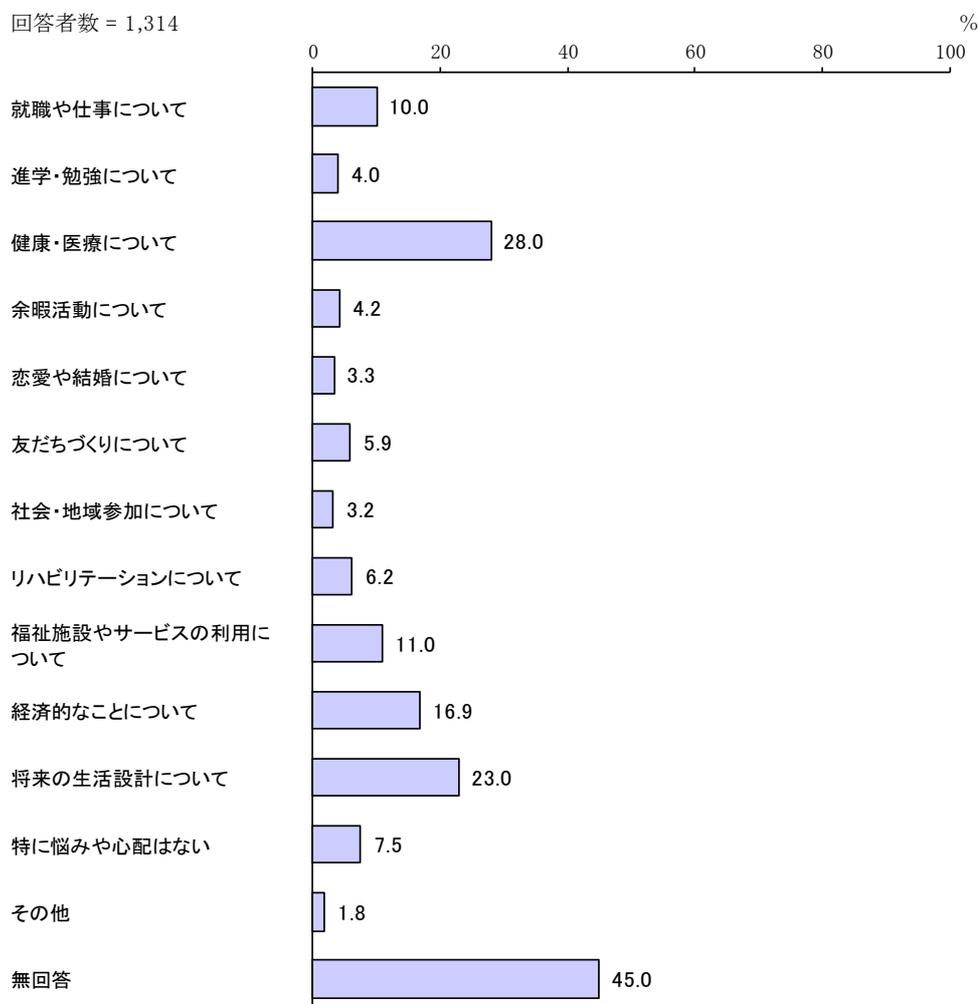
単位：％

区分	有効回答数 (件)	食事介助	買い物	外出	トイレ	外泊時の留守番	衣服の着脱	入浴	洗濯、掃除などの家事	食事の用意(炊事)	室内移動	特にない	その他	無回答
全体	1314	4.4	9.2	10.9	4.6	7.1	2.9	8.1	9.3	10.4	1.6	21.8	5.2	45.7
身体障がい	946	5.0	8.9	8.7	4.8	6.9	3.4	8.9	8.6	9.2	1.8	20.7	3.4	50.6
視聴覚系	242	9.5	12.0	13.6	7.0	11.2	5.0	11.6	7.9	11.2	3.3	23.1	4.5	40.5
運動系	427	6.6	9.6	10.5	8.0	9.6	5.9	13.8	10.1	10.1	2.6	18.7	4.2	45.2
内部系	421	4.3	8.6	7.1	3.6	4.5	2.9	7.1	9.7	8.6	1.7	21.1	3.6	52.7
知的障がい	152	6.6	15.8	29.6	8.6	19.1	3.9	12.5	14.5	21.1	2.0	23.0	11.2	17.1
精神障がい	220	1.8	10.0	12.7	4.5	8.2	1.4	5.5	9.1	12.3	0.9	22.3	9.1	41.4
重複障がい	75	10.7	18.7	32.0	14.7	25.3	6.7	22.7	9.3	25.3	4.0	13.3	13.3	18.7

⑤悩みや心配

問 58 ご本人(宛名の方)のことであなたが悩んでいること、心配に思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「健康・医療について」の割合が28.0%と最も高く、次いで「将来の生活設計について」の割合が23.0%、「経済的なことについて」の割合が16.9%となっています。



【年齢別】

0～5歳で「進学・勉強について」「友だちづくりについて」の割合が高くなっています。また、特に6～29歳で「余暇活動について」「将来の生活設計について」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	就職や仕事について	進学・勉強について	健康・医療について	余暇活動について	恋愛や結婚について	友だちづくりについて	社会・地域参加について	リハビリテーションについて	福祉施設やサービスの利用について	経済的なことについて	将来の生活設計について	特に悩みや心配はない	その他	無回答
全体	1314	10.0	4.0	28.0	4.2	3.3	5.9	3.2	6.2	11.0	16.9	23.0	7.5	1.8	45.0
0～5歳	23	56.5	87.0	39.1	8.7	21.7	73.9	13.0	13.0	4.3	26.1	47.8	4.3	—	4.3
6～17歳	49	63.3	55.1	28.6	26.5	18.4	42.9	14.3	6.1	24.5	44.9	69.4	4.1	2.0	8.2
18～29歳	61	41.0	1.6	39.3	19.7	21.3	23.0	14.8	1.6	23.0	31.1	67.2	1.6	3.3	16.4
30～49歳	179	20.7	2.8	35.8	7.3	7.3	7.3	4.5	4.5	12.3	22.9	43.0	4.5	2.8	39.1
50～64歳	180	7.2	—	21.7	1.7	0.6	2.8	3.3	5.6	5.0	16.1	23.3	3.3	0.6	57.8
65歳以上	785	1.1	—	26.6	1.5	0.1	0.8	1.0	7.0	10.4	13.0	11.8	9.9	1.8	48.9

【障がいの種別】

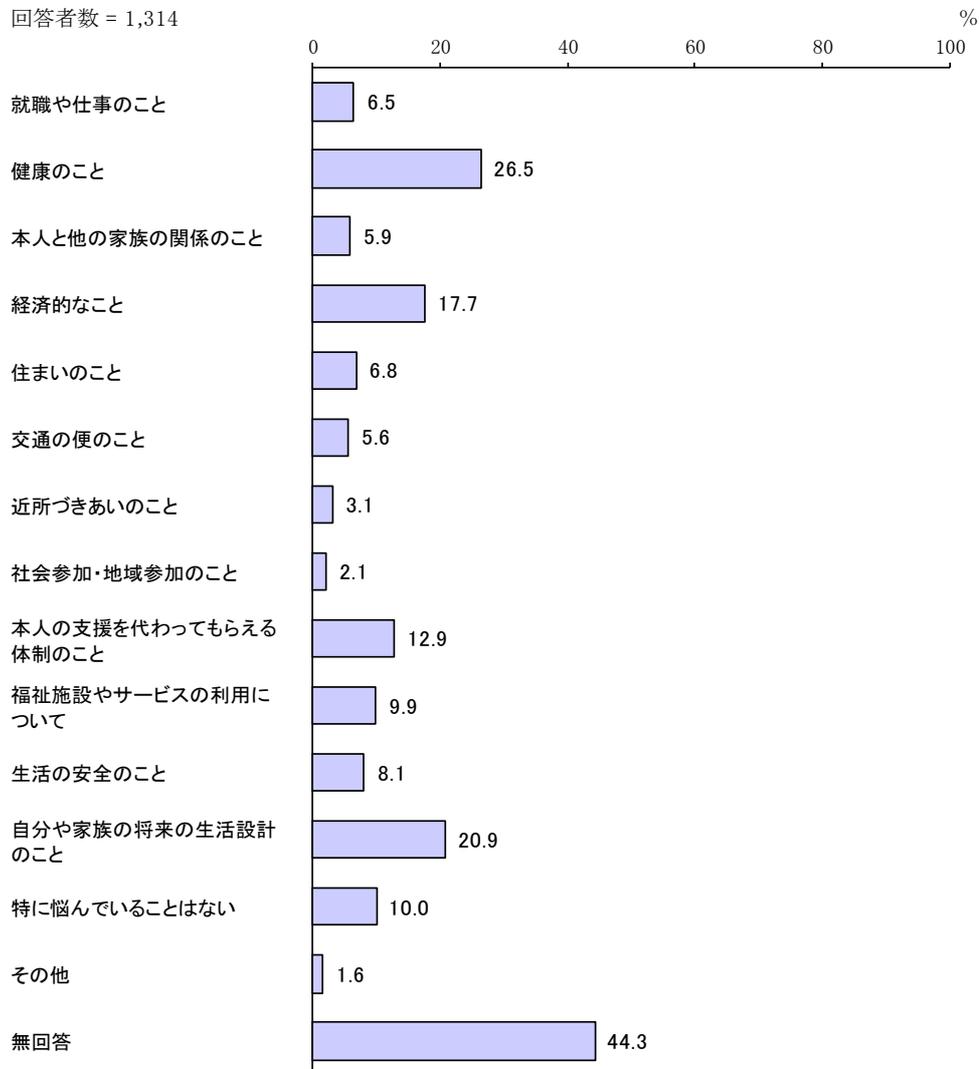
他に比べ、知的障がい、重複障がいで「余暇活動について」「将来の生活設計について」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	就職や仕事について	進学・勉強について	健康・医療について	余暇活動について	恋愛や結婚について	友だちづくりについて	社会・地域参加について	リハビリテーションについて	福祉施設やサービスの利用について	経済的なことについて	将来の生活設計について	特に悩みや心配はない	その他	無回答
全体	1314	10.0	4.0	28.0	4.2	3.3	5.9	3.2	6.2	11.0	16.9	23.0	7.5	1.8	45.0
身体障がい	946	3.3	0.8	25.6	1.8	1.0	1.4	1.2	7.4	9.6	13.2	14.8	8.8	1.6	50.7
視聴覚系	242	5.0	2.1	30.2	3.3	2.1	3.3	2.5	9.5	11.6	16.5	20.2	8.3	2.1	42.1
運動系	427	3.0	0.7	27.4	2.6	0.7	1.6	1.9	11.0	12.9	15.0	19.4	6.6	1.9	46.8
内部系	421	2.6	0.7	28.0	1.2	0.7	1.0	1.2	6.2	9.3	14.5	13.3	8.8	1.0	52.7
知的障がい	152	34.2	14.5	48.7	22.4	11.8	21.7	9.2	7.2	24.3	32.2	65.8	3.3	3.3	11.2
精神障がい	220	21.8	5.5	31.8	6.8	6.8	11.4	6.8	4.5	13.2	27.3	39.5	5.0	1.4	38.6
重複障がい	75	22.7	13.3	48.0	20.0	6.7	17.3	6.7	14.7	28.0	33.3	57.3	6.7	—	16.0

問 59 ご本人(宛名の方)を介助・支援するにあたって、あなたご自身が悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「健康のこと」の割合が 26.5%と最も高く、次いで「自分や家族の将来の生活設計のこと」の割合が 20.9%、「経済的なこと」の割合が 17.7%となっています。



【年齢別】

他に比べ、29歳以下で「経済的なこと」「本人の支援を代わってもらえる体制のこと」「自分や家族の将来の生活設計のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	就職や仕事のこと	健康のこと	本人と他の家族の関係のこと	経済的なこと	住まいのこと	交通の便のこと	近所づきあいのこと	社会参加・地域参加のこと	本人の支援を代わってもらえる体制のこと	福祉施設やサービスの利用について	生活の安全のこと	自分や家族の将来の生活設計のこと	特に悩んでいることはない	その他	無回答
全体	1314	6.5	26.5	5.9	17.7	6.8	5.6	3.1	2.1	12.9	9.9	8.1	20.9	10.0	1.6	44.3
0～5歳	23	30.4	30.4	17.4	39.1	4.3	13.0	17.4	13.0	26.1	26.1	17.4	43.5	8.7	4.3	4.3
6～17歳	49	36.7	34.7	22.4	38.8	20.4	26.5	10.2	14.3	32.7	20.4	24.5	59.2	12.2	2.0	8.2
18～29歳	61	26.2	32.8	18.0	32.8	16.4	1.6	11.5	8.2	31.1	18.0	13.1	59.0	3.3	1.6	16.4
30～49歳	179	7.8	30.2	10.1	21.2	7.8	5.6	5.0	2.2	17.9	9.5	8.9	29.6	7.3	1.7	39.7
50～64歳	180	5.6	18.9	4.4	17.2	7.2	3.9	2.2	1.7	11.7	7.2	3.9	17.8	6.1	1.1	58.3
65歳以上	785	2.4	26.1	3.1	13.8	5.1	5.0	1.4	0.8	9.6	8.4	7.1	13.6	12.0	1.5	47.8

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がい、重複障がいで「本人の支援を代わってもらえる体制のこと」「福祉施設やサービスの利用について」「自分や家族の将来の生活設計のこと」の割合が高くなっています。また、知的障がいで「就職や仕事のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

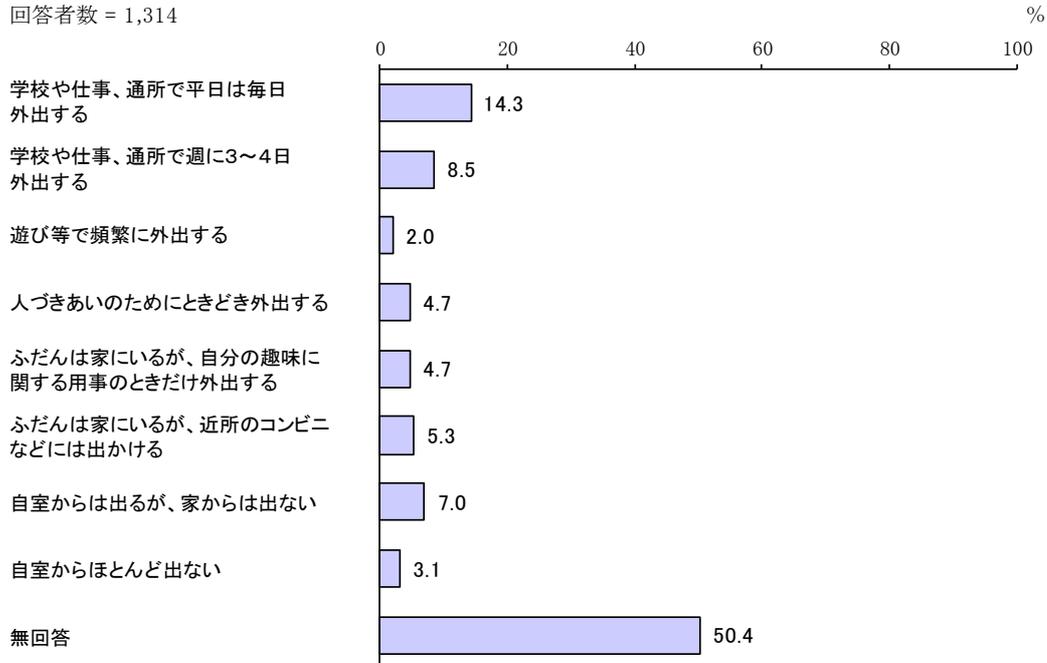
区分	有効回答数(件)	就職や仕事のこと	健康のこと	本人と他の家族の関係のこと	経済的なこと	住まいのこと	交通の便のこと	近所づきあいのこと	社会参加・地域参加のこと	本人の支援を代わってもらえる体制のこと	福祉施設やサービスの利用について	生活の安全のこと	自分や家族の将来の生活設計のこと	特に悩んでいることはない	その他	無回答
全体	1314	6.5	26.5	5.9	17.7	6.8	5.6	3.1	2.1	12.9	9.9	8.1	20.9	10.0	1.6	44.3
身体障がい	946	3.0	24.7	3.4	13.7	5.3	4.9	1.3	1.1	11.0	8.5	7.1	14.9	10.7	1.5	49.9
視聴覚系	242	4.5	28.9	5.0	19.0	6.2	5.8	1.7	2.1	15.3	12.8	7.4	19.4	11.2	1.2	40.9
運動系	427	3.5	27.4	3.7	16.2	6.1	6.1	1.9	1.6	15.0	10.8	8.9	17.6	10.3	1.4	45.4
内部系	421	3.6	26.6	4.5	14.5	5.7	5.0	1.0	1.2	10.2	6.9	6.2	14.3	9.7	1.4	52.5
知的障がい	152	24.3	40.1	13.2	34.2	15.8	13.8	8.6	6.6	36.2	23.7	16.4	46.7	7.2	1.3	11.2
精神障がい	220	11.8	29.1	10.5	25.9	7.7	6.8	6.8	4.5	15.9	9.1	8.6	34.1	7.7	1.4	39.1
重複障がい	75	18.7	45.3	12.0	34.7	9.3	18.7	5.3	8.0	41.3	22.7	18.7	42.7	8.0	—	16.0

⑥閉じこもりについて

問 60 ご本人(宛名の方)は、ふだんどのくらい外出しますか。

(1つに○をつけ、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」～「自室からほとんど出ない」をお選びの方は、次の付問にもお答えください。)

「学校や仕事、通所で平日は毎日外出する」の割合が 14.3%と最も高くなっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	学校や仕事、通所で平日は毎日外出する	学校や仕事、通所で週に3~4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	自分の趣味に関する用事するときだけ外出する	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	自室からは出るが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	無回答
全体	1314	14.3	8.5	2.0	4.7	4.7	5.3	7.0	3.1	50.4
0~5歳	23	65.2	17.4	8.7	—	—	—	—	—	8.7
6~17歳	49	71.4	2.0	—	—	—	4.1	—	—	22.4
18~29歳	61	55.7	18.0	1.6	—	3.3	—	—	—	21.3
30~49歳	179	26.3	10.1	1.1	3.4	3.4	4.5	3.4	1.1	46.9
50~64歳	180	15.6	5.6	1.7	3.3	4.4	5.0	5.6	1.1	57.8
65歳以上	785	3.3	8.4	2.3	6.4	5.7	6.2	9.2	4.3	54.1

【障がいの種別】

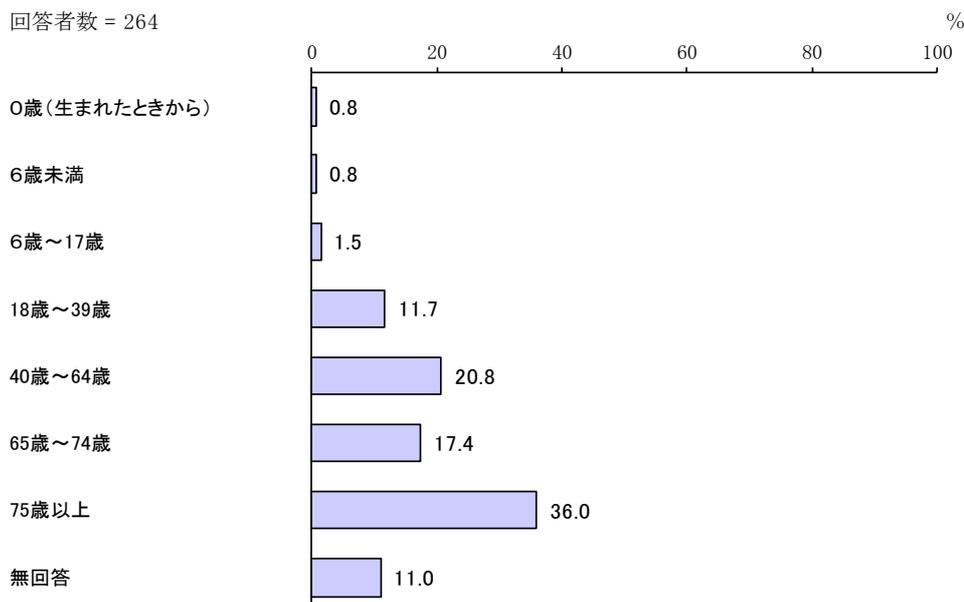
単位：％

区分	有効回答数(件)	学校や仕事、通所で平日は毎日外出する	学校や仕事、通所で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	自室からは出るが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	無回答
全体	1314	14.3	8.5	2.0	4.7	4.7	5.3	7.0	3.1	50.4
身体障がい	946	7.4	7.9	2.3	5.8	4.9	5.3	7.9	3.5	55.0
視聴覚系	242	8.3	10.3	2.5	4.5	5.0	5.8	8.7	5.4	49.6
運動系	427	6.6	9.1	1.9	4.4	5.9	4.0	9.6	6.1	52.5
内部系	421	7.8	8.1	2.4	6.2	4.8	5.5	7.6	2.9	54.9
知的障がい	152	57.9	9.9	2.0	0.7	3.3	2.0	3.3	0.7	20.4
精神障がい	220	15.5	14.5	1.4	1.8	4.5	7.7	4.5	3.2	46.8
重複障がい	75	37.3	17.3	2.7	1.3	2.7	2.7	2.7	4.0	29.3

問 60 で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」～「自室からほとんど出ない」と答えた方にお聞きします。

付問① 現在の状態になったのは、ご本人(宛名の方)が何歳の頃ですか。(数字を記入)

「75歳以上」の割合が36.0%と最も高く、次いで「40歳～64歳」の割合が20.8%、「65歳～74歳」の割合が17.4%となっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	0歳 (生まれたときから)	6歳未満	6歳～ 17歳	18歳～ 39歳	40歳～ 64歳	65歳～ 74歳	75歳以上	無回答
全体	264	0.8	0.8	1.5	11.7	20.8	17.4	36.0	11.0
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	—	—	100.0	—	—	—	—	—
18～29歳	2	—	—	—	100.0	—	—	—	—
30～49歳	22	4.5	—	4.5	63.6	9.1	—	—	18.2
50～64歳	29	—	3.4	3.4	20.7	58.6	—	6.9	6.9
65歳以上	200	0.5	—	—	4.5	17.5	22.5	44.5	10.5

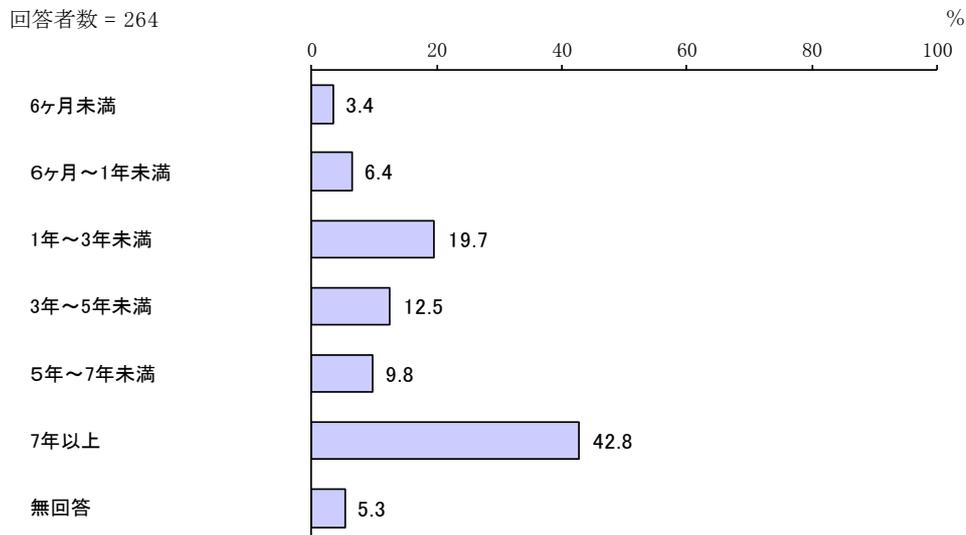
【障がいの種別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	0歳 (生まれたときから)	6歳未満	6歳～ 17歳	18歳～ 39歳	40歳～ 64歳	65歳～ 74歳	75歳以上	無回答
全体	264	0.8	0.8	1.5	11.7	20.8	17.4	36.0	11.0
身体障がい	204	0.5	0.5	0.5	4.4	19.6	19.6	44.1	10.8
視聴覚系	60	—	1.7	—	1.7	15.0	28.3	48.3	5.0
運動系	109	0.9	0.9	0.9	6.4	22.9	23.9	37.6	6.4
内部系	87	—	—	—	2.3	19.5	14.9	49.4	13.8
知的障がい	14	7.1	—	14.3	50.0	7.1	7.1	—	14.3
精神障がい	44	—	—	4.5	38.6	31.8	13.6	2.3	9.1
重複障がい	9	—	—	11.1	22.2	22.2	33.3	11.1	—

付問② ご本人（宛名の方）が現在の状態となってどのくらい経ちますか。（1つに○）

「7年以上」の割合が42.8%と最も高く、次いで「1年～3年未満」の割合が19.7%、「3年～5年未満」の割合が12.5%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満	7年以上	無回答
全体	264	3.4	6.4	19.7	12.5	9.8	42.8	5.3
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	—	—	50.0	—	—	50.0	—
18～29歳	2	50.0	50.0	—	—	—	—	—
30～49歳	22	4.5	—	4.5	—	9.1	77.3	4.5
50～64歳	29	—	13.8	20.7	6.9	13.8	44.8	—
65歳以上	200	3.5	6.0	22.0	14.5	9.5	38.0	6.5

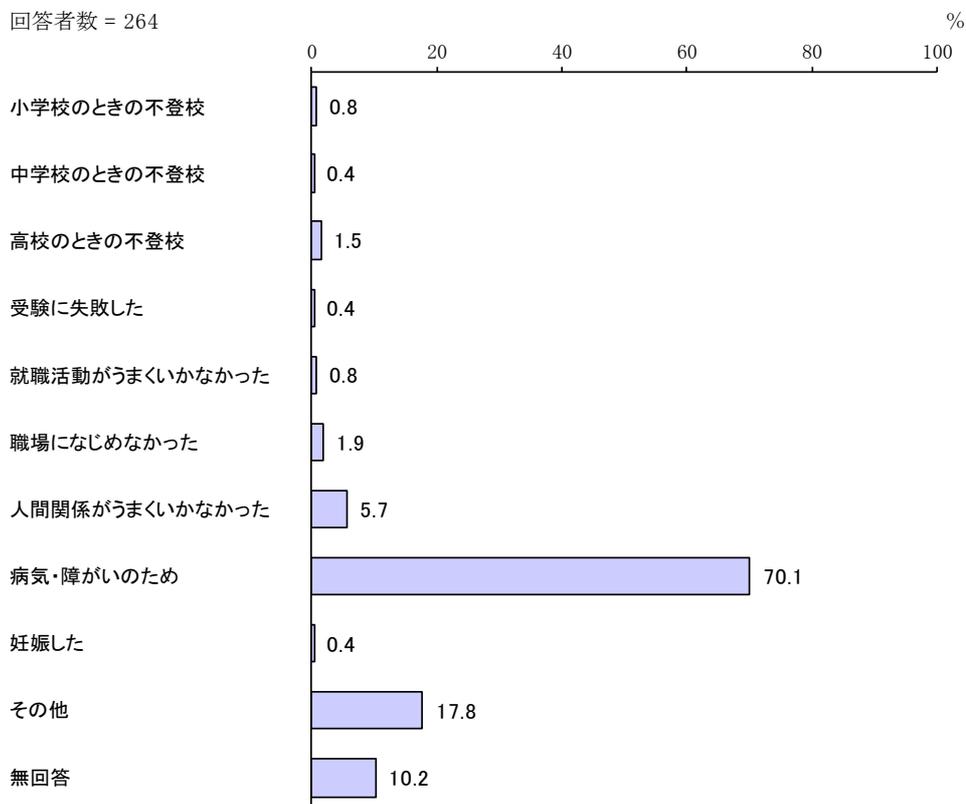
【障がいの種別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満	7年以上	無回答
全体	264	3.4	6.4	19.7	12.5	9.8	42.8	5.3
身体障がい	204	3.4	7.4	22.5	14.2	10.8	35.3	6.4
視聴覚系	60	5.0	6.7	30.0	10.0	10.0	33.3	5.0
運動系	109	1.8	4.6	22.0	9.2	8.3	47.7	6.4
内部系	87	3.4	10.3	20.7	18.4	13.8	28.7	4.6
知的障がい	14	14.3	7.1	21.4	—	7.1	50.0	—
精神障がい	44	2.3	4.5	9.1	4.5	9.1	68.2	2.3
重複障がい	9	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	44.4	—

付問③ ご本人（宛名の方）が現在の状態になったきっかけは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

「病気・障がいのため」の割合が70.1%と最も高くなっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	小学校のときの不登校	中学校のときの不登校	高校のときの不登校	受験に失敗した	就職活動がうまくいかなかった	職場になじめなかった	人間関係がうまくいかなかった	病気・障がいのため	妊娠した	その他	無回答
全体	264	0.8	0.4	1.5	0.4	0.8	1.9	5.7	70.1	0.4	17.8	10.2
0～5歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	100.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—
18～29歳	2	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0	—
30～49歳	22	—	—	4.5	—	4.5	9.1	18.2	63.6	—	13.6	9.1
50～64歳	29	—	3.4	6.9	3.4	3.4	10.3	20.7	69.0	—	10.3	6.9
65歳以上	200	—	—	0.5	—	—	—	2.0	71.5	0.5	19.5	10.5

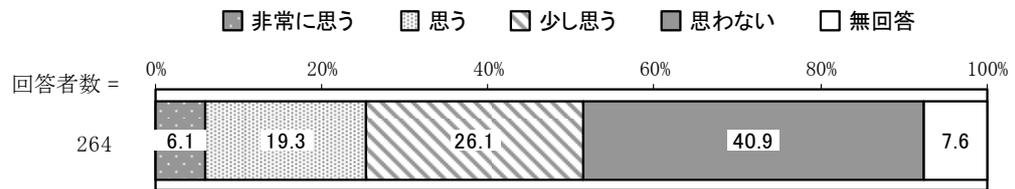
【障がいの種別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	小学校のときの不登校	中学校のときの不登校	高校のときの不登校	受験に失敗した	就職活動がうまくいかなかった	職場になじめなかった	人間関係がうまくいかなかった	病気・障がいのため	妊娠した	その他	無回答
全体	264	0.8	0.4	1.5	0.4	0.8	1.9	5.7	70.1	0.4	17.8	10.2
身体障がい	204	—	—	—	—	—	0.5	1.5	73.5	0.5	16.7	10.8
視聴覚系	60	—	—	—	—	—	—	—	78.3	—	21.7	5.0
運動系	109	—	—	—	—	—	—	1.8	74.3	0.9	16.5	10.1
内部系	87	—	—	—	—	—	—	1.1	75.9	—	13.8	12.6
知的障がい	14	7.1	—	—	—	—	—	14.3	21.4	—	42.9	14.3
精神障がい	44	4.5	2.3	9.1	2.3	4.5	9.1	22.7	63.6	—	15.9	4.5
重複障がい	9	11.1	—	—	—	—	—	11.1	55.6	—	22.2	—

付問④ ご本人（宛名の方）の現在の状態について、あなたは関係機関に相談したいと
 思いますか。（1つに○）

「思わない」の割合が40.9%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が26.1%、「思う」の割合が19.3%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	非常に思う	思う	少し思う	思わない	無回答
全 体	264	6.1	19.3	26.1	40.9	7.6
0～5歳	—	—	—	—	—	—
6～17歳	2	—	50.0	50.0	—	—
18～29歳	2	50.0	—	50.0	—	—
30～49歳	22	13.6	27.3	22.7	27.3	9.1
50～64歳	29	13.8	24.1	17.2	37.9	6.9
65歳以上	200	3.0	17.5	28.0	43.5	8.0

【障がいの種別】

単位：%

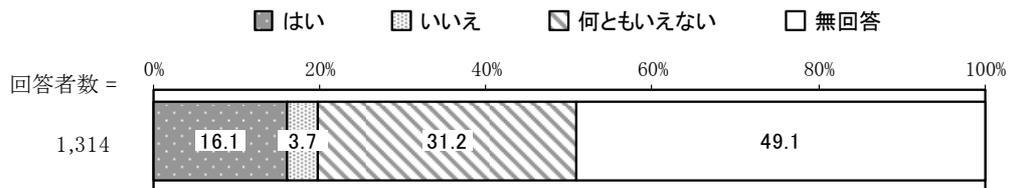
区分	有効回答数 (件)	非常に思う	思う	少し思う	思わない	無回答
全 体	264	6.1	19.3	26.1	40.9	7.6
身体障がい	204	3.4	17.2	27.9	43.6	7.8
視聴覚系	60	6.7	18.3	31.7	41.7	1.7
運動系	109	6.4	20.2	22.9	42.2	8.3
内部系	87	3.4	19.5	28.7	37.9	10.3
知的障がい	14	14.3	—	28.6	42.9	14.3
精神障がい	44	13.6	29.5	22.7	29.5	4.5
重複障がい	9	11.1	—	44.4	44.4	—

⑦介助・支援をめぐる環境について

問 61 近年、障がいのある人の社会参加における平等の実現に向け、障がい福祉に関する法制度の充実が進んでいます。あなたは、ご本人の生活や介助・支援をめぐる環境がよくなったと思いますか。ア～キごとにお答えください。

イ. サービスが利用しやすくなった、カ. 相談しやすい環境になったで「はい」の割合が比較的高く、約 20%となっています。また、エ. 介助・支援者の負担感が減ったで「いいえ」の割合が高く、10.3%となっています。

ア. 本人の意思尊重がしやすくなった



【年齢別】

単位：%

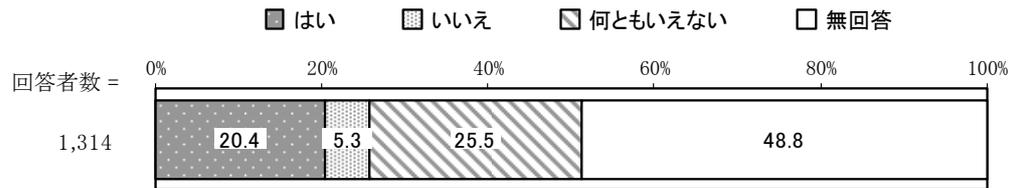
区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全体	1314	16.1	3.7	31.2	49.1
0～5歳	23	8.7	13.0	73.9	4.3
6～17歳	49	24.5	14.3	46.9	14.3
18～29歳	61	21.3	9.8	50.8	18.0
30～49歳	179	21.8	7.3	28.5	42.5
50～64歳	180	15.6	3.3	28.3	52.8
65歳以上	785	14.5	1.7	28.5	55.3

【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全体	1314	16.1	3.7	31.2	49.1
身体障がい	946	14.1	1.9	28.6	55.4
視聴覚系	242	16.9	2.5	36.0	44.6
運動系	427	14.8	2.8	30.0	52.5
内部系	421	13.1	1.0	27.8	58.2
知的障がい	152	24.3	9.2	51.3	15.1
精神障がい	220	20.9	7.7	31.8	39.5
重複障がい	75	22.7	9.3	46.7	21.3

イ. サービスが利用しやすくなった



【年齢別】

単位：%

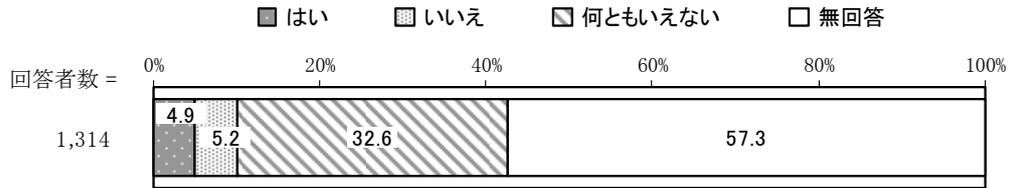
区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全 体	1314	20.4	5.3	25.5	48.8
0～5歳	23	43.5	13.0	39.1	4.3
6～17歳	49	34.7	16.3	30.6	18.4
18～29歳	61	26.2	8.2	47.5	18.0
30～49歳	179	19.6	8.9	28.5	43.0
50～64歳	180	13.9	5.6	26.7	53.9
65歳以上	785	20.5	3.3	22.2	54.0

【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全 体	1314	20.4	5.3	25.5	48.8
身体障がい	946	19.0	3.6	22.9	54.4
視聴覚系	242	24.8	4.1	26.0	45.0
運動系	427	21.3	4.2	23.2	51.3
内部系	421	16.9	3.6	23.3	56.3
知的障がい	152	32.9	8.6	42.8	15.8
神障がい	220	18.6	10.9	28.6	41.8
重複障がい	75	30.7	12.0	34.7	22.7

ウ. 職場で本人の社会参加機会が広がった



【年齢別】

単位：%

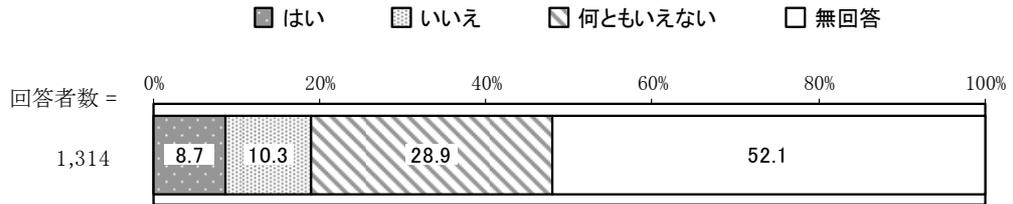
区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全体	1314	4.9	5.2	32.6	57.3
0～5歳	23	4.3	8.7	82.6	4.3
6～17歳	49	10.2	10.2	46.9	32.7
18～29歳	61	21.3	11.5	49.2	18.0
30～49歳	179	10.6	11.7	30.7	46.9
50～64歳	180	8.3	5.0	28.3	58.3
65歳以上	785	1.5	2.7	30.6	65.2

【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全体	1314	4.9	5.2	32.6	57.3
身体障がい	946	2.4	3.2	29.9	64.5
視聴覚系	242	2.5	3.7	36.0	57.9
運動系	427	3.5	4.0	29.3	63.2
内部系	421	2.1	2.9	29.0	66.0
知的障がい	152	17.8	12.5	46.7	23.0
精神障がい	220	9.5	10.9	33.6	45.9
重複障がい	75	13.3	13.3	41.3	32.0

エ. 介助・支援者の負担感が減った



【年齢別】

単位：%

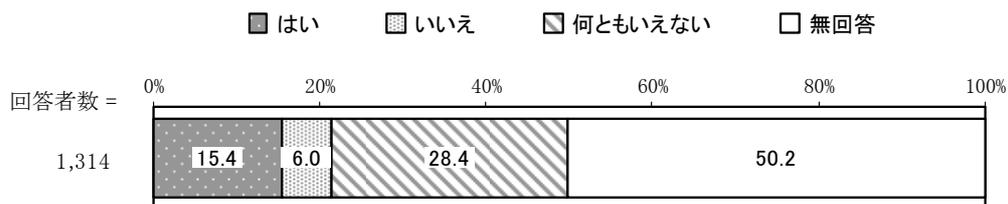
区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全 体	1314	8.7	10.3	28.9	52.1
0～5歳	23	8.7	21.7	65.2	4.3
6～17歳	49	12.2	32.7	34.7	20.4
18～29歳	61	9.8	24.6	47.5	18.0
30～49歳	179	9.5	14.0	31.8	44.7
50～64歳	180	6.7	11.7	27.8	53.9
65歳以上	785	8.7	6.2	26.0	59.1

【障がいの種別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全 体	1314	8.7	10.3	28.9	52.1
身体障がい	946	8.6	6.7	26.0	58.8
視聴覚系	242	11.6	9.9	29.8	48.8
運動系	427	11.9	8.2	24.8	55.0
内部系	421	7.1	6.7	24.9	61.3
知的障がい	152	13.8	25.0	43.4	17.8
精神障がい	220	7.7	19.5	31.4	41.4
重複障がい	75	17.3	26.7	33.3	22.7

オ. 周りの人々の理解が深まった



【年齢別】

単位：%

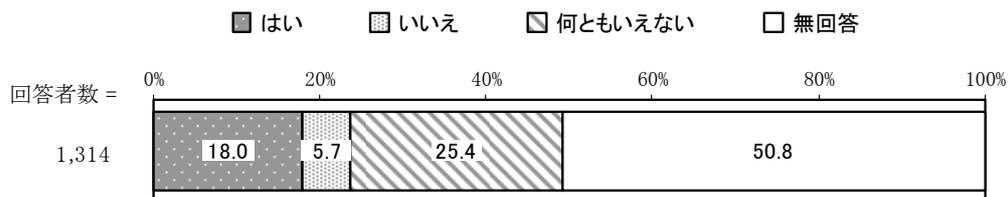
区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全 体	1314	15.4	6.0	28.4	50.2
0～5歳	23	26.1	8.7	60.9	4.3
6～17歳	49	24.5	12.2	42.9	20.4
18～29歳	61	26.2	13.1	42.6	18.0
30～49歳	179	16.8	12.8	28.5	41.9
50～64歳	180	10.6	7.8	26.7	55.0
65歳以上	785	14.5	3.3	25.7	56.4

【障がいの種別】

位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全 体	1314	15.4	6.0	28.4	50.2
身体障がい	946	14.6	3.6	25.5	56.3
視聴覚系	242	18.2	4.5	29.8	47.5
運動系	427	16.6	4.2	26.2	52.9
内部系	421	13.5	3.1	24.9	58.4
知的障がい	152	27.0	13.8	42.8	16.4
精神障がい	220	14.5	15.0	29.5	40.9
重複障がい	75	28.0	16.0	34.7	21.3

カ. 相談しやすい環境になった



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全体	1314	18.0	5.7	25.4	50.8
0～5歳	23	39.1	13.0	43.5	4.3
6～17歳	49	44.9	10.2	22.4	22.4
18～29歳	61	26.2	11.5	44.3	18.0
30～49歳	179	17.9	10.6	27.9	43.6
50～64歳	180	15.0	7.8	22.2	55.0
65歳以上	785	16.2	3.3	23.7	56.8

【障がいの種別】

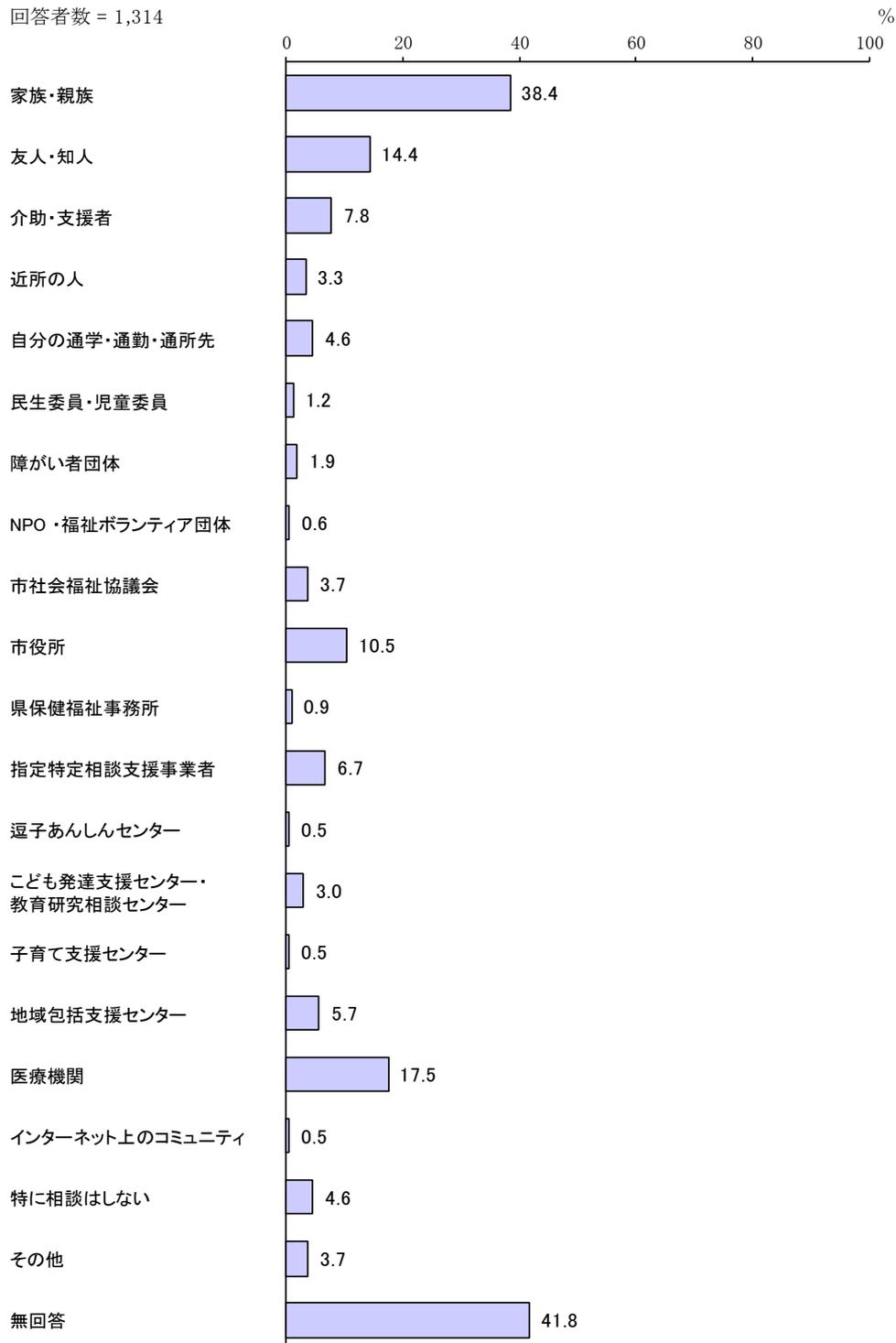
単位：%

区分	有効回答数 (件)	はい	いいえ	何ともいえない	無回答
全体	1314	18.0	5.7	25.4	50.8
身体障がい	946	15.3	3.8	23.9	57.0
視聴覚系	242	19.0	5.0	27.3	48.8
運動系	427	19.0	4.2	23.7	53.2
内部系	421	13.1	3.6	24.5	58.9
知的障がい	152	33.6	11.8	36.2	18.4
精神障がい	220	19.5	12.7	26.4	41.4
重複障がい	75	26.7	14.7	33.3	25.3

⑧相談先

問 62 困っていること、悩んでいることについて、あなたが相談する先はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族・親族」の割合が38.4%と最も高く、次いで「医療機関」の割合が17.5%、「友人・知人」の割合が14.4%となっています。



【年齢別】

年齢が低くなるにつれ「家族・親族」「自分の通学・通勤・通所先」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、18～29歳で「指定特定相談支援事業者」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	家族・親族	友人・知人	介助・支援者	近所の人	自分の通学・通勤・ 通所先	民生委員・児童委員	障がい者団体	NPO・ 福祉ボランティア団体	市社会福祉協議会	市役所
全 体	1314	38.4	14.4	7.8	3.3	4.6	1.2	1.9	0.6	3.7	10.5
0～5歳	23	82.6	34.8	—	4.3	26.1	—	—	—	—	13.0
6～17歳	49	69.4	40.8	4.1	2.0	28.6	—	—	—	—	8.2
18～29歳	61	57.4	26.2	11.5	3.3	18.0	—	4.9	1.6	1.6	13.1
30～49歳	179	33.0	13.4	10.1	1.7	8.9	2.2	6.1	1.1	4.5	17.3
50～64歳	180	23.3	7.8	8.3	2.2	3.3	1.1	1.1	—	3.3	7.8
65歳以上	785	38.5	13.2	7.4	3.8	0.8	1.3	1.1	0.6	4.3	9.8

区分	県保健福祉事務所	指定特定相談支援事業者	逗子あんしんセンター	こども発達支援センター・ 教育研究相談センター	子育て支援センター	地域包括支援センター	医療機関	インターネット上の コミュニティ	特に相談はしない	その他	無回答
全 体	0.9	6.7	0.5	3.0	0.5	5.7	17.5	0.5	4.6	3.7	41.8
0～5歳	—	8.7	—	82.6	8.7	—	30.4	4.3	—	4.3	4.3
6～17歳	—	18.4	—	36.7	4.1	—	12.2	4.1	6.1	6.1	16.3
18～29歳	—	41.0	1.6	1.6	—	1.6	27.9	—	3.3	8.2	16.4
30～49歳	2.8	14.5	0.6	0.6	0.6	2.8	20.1	—	4.5	2.2	37.4
50～64歳	1.1	7.2	0.6	—	—	2.2	13.3	—	7.2	2.2	50.6
65歳以上	0.5	1.7	0.5	—	0.1	8.0	17.1	0.4	4.2	3.7	44.7

【障がいの種別】

他に比べ、知的障がいで「家族・親族」「友人・知人」「自分の通学・通勤・通所先」の割合が、重複障がいで「介助・支援者」「市役所」「医療機関」の割合が高くなっています。また、知的障がい、重複障がいで「指定特定相談支援事業者」「こども発達支援センター・教育研究相談センター」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	家族・親族	友人・知人	介助・支援者	近所の人	自分の通学・通勤・通所先	民生委員・児童委員	障がい者団体	NPO・福祉ボランティア団体	市社会福祉協議会	市役所
全体	1314	38.4	14.4	7.8	3.3	4.6	1.2	1.9	0.6	3.7	10.5
身体障がい	946	37.5	13.1	7.7	3.5	1.4	1.3	1.6	0.6	4.0	9.9
視聴覚系	242	45.0	14.5	10.7	2.9	1.2	1.7	2.1	0.4	5.0	12.0
運動系	427	38.2	12.9	12.4	3.3	1.4	1.9	2.1	1.2	5.6	12.9
内部系	421	38.2	13.8	6.9	5.0	1.2	0.7	1.0	0.2	2.9	9.3
知的障がい	152	55.9	26.3	16.4	2.6	24.3	0.7	6.6	—	3.3	16.4
精神障がい	220	35.0	10.5	6.8	1.8	5.0	1.4	0.9	1.4	4.1	14.1
重複障がい	75	57.3	18.7	18.7	1.3	12.0	1.3	4.0	1.3	5.3	21.3

区分	県保健福祉事務所	指定特定相談支援事業者	逗子あんしんセンター	こども発達支援センター・教育研究相談センター	子育て支援センター	地域包括支援センター	医療機関	インターネット上のコミュニティ	特に相談はしない	その他	無回答
全体	0.9	6.7	0.5	3.0	0.5	5.7	17.5	0.5	4.6	3.7	41.8
身体障がい	0.5	3.1	0.5	0.6	0.2	6.7	16.1	0.4	4.3	3.7	46.1
視聴覚系	0.4	4.5	—	1.2	0.4	10.3	21.9	0.4	3.3	4.1	36.8
運動系	0.9	4.7	1.2	0.9	0.2	7.3	16.9	0.9	4.7	5.9	43.3
内部系	0.2	1.0	0.2	0.2	—	5.9	17.3	0.7	4.3	2.4	46.3
知的障がい	1.3	34.2	0.7	9.9	2.0	3.3	22.4	0.7	3.3	6.6	11.8
神障がい	1.8	11.8	0.5	3.2	0.5	4.5	25.0	0.5	5.9	4.1	35.9
重複障がい	—	28.0	1.3	8.0	1.3	6.7	28.0	1.3	2.7	12.0	16.0

⑨介助者による自由回答

アンケート調査票の自由記述欄において、合計 225 件の意見を寄せていただきました。意見の内容を分野に応じて整理したところ、意見は以下のとおりとなります。なお、意見については延べ件数でまとめています。

分類回答	件数
(1) 相談支援について	20
(2) 情報提供について	7
(3) 居住の場について	10
(4) こころのバリアフリーについて	10
(5) 障がいに対する差別について	2
(6) 安全と安心な暮らしについて	10
(7) 療育等について	4
(8) 雇用・就労について	4
(9) 経済的支援について	15
(10) 地域活動、文化・スポーツ活動について	5
(11) 障害福祉サービス等について	52
(12) その他	57
(13) アンケートについて	15

(1) 相談支援について

- ・介護をする側が、自由な時間を作りたいときに、どのような制度があり誰に相談してよいかわからない。何でも相談できる窓口や支援体制がほしい。
- ・人に相談できない事柄がある。親身になって聞いてもらい、安心して任せたい。
- ・支援者の家族が相談事を気軽に話せる場が必要だと思う。同じ悩みのある同士で集まれる所があればよい。
- ・自分の支援者である特定非営利活動法人の職員は、市との関係、施設の選択等、対応してくれる。
- ・介助も各家庭・個人でそれぞれ必要としている内容は違うので幅広い知識を持つ人を配置してほしい。相談しやすい窓口であってほしい。
- ・障がい福祉課へ相談に行くと親切にアドバイスをしてくれる。
- ・障がい窓口は対応がよい。何かあったら親切な対応をしてくれると思う。
- ・進学、就職時に本人、保護者が相談できる窓口があればよいと思う。幼児～大人になるまで支援シートを活用できればよいと思う。
- ・障がい福祉課に相談しづらい。
- ・子どもが小さいうちは不安も多いので、相談しやすい環境や情報を適宜受けられるとよい。
- ・介助する家族のカウンセリングの充実を望む。逗子アリーナ内の『喫茶かあむ』のような場が復活するとよい。
- ・相談する人と、実際にサービスをする人が違うので信頼関係が作りにくい。市役所と事業所、通所施設、それぞれに連絡しなくてはいけないので連携が取れていないと感じる。
- ・障がい者の進学、在学中、卒業後の相談先が市役所内にあると助かる。相談だけでなく、サポートもあるとよい。親が年老いた時、障がいのある子（成人）がどのように生活していけばよいのか相談するところがわからない。実際に、生活する場所（グループホームなど）を用意し、本人に合うところで生活できるよう支援してほしい。
- ・就労支援で就職したが、解雇され、それ以降どこに相談してよいかわからない。どんなことでも気軽に相談できる窓口があればよいが、事務的手続き以外では足を運びづらい。
- ・市でも体制をいろいろ整えたり、様々なサービスや支援があるようだが、市役所を通して利用につながったことは少ない。相談にも時間制限があり、時間内に結論が出なかったり、断られたりすることが多いのも負担になる。すべてがかなわないとしても、一緒に考えてくれる方がいると心強いと思う。
- ・話を聞いてもらうだけでも気が楽になる。
- ・福祉サービス等の情報提供を心がけているが、本人にどのように理解してもらえるかが課題。
- ・気軽に相談したり、愚痴を言える場所、人がいないことがつらい。
- ・1度相談に行ったことがあるが、相談内容が他人にもれていた。守秘義務があるのでは。
- ・障がい者本人が、有事の際は障がい福祉課に相談すればよいとわかっているので安心してている。

(2) 情報提供について

- ・障がい者の手続きがあることを知らなかった。ケアマネジャーやヘルパーはもっと情報を利用者に教えるべき。
- ・親なき後、どうになってしまうのか情報がほしい。講演会に行かなくても情報が得られるようにしてほしい。
- ・横須賀の作業所に通所しているので、逗子のことはほとんど情報が入ってこない。逗子の友人や支援センターに行った時などに気になったことを聞いている。

- ・障がい者が受けられる行政、民間サービスのわかりやすい一覧表がほしい。また、きちんと発信してほしい。例えば、障がい者あてに年1回など定期的に送付するなど。(他1件)
- ・障がい者福祉利用手引き冊子を配布してほしい。
- ・福祉サービスの情報をもっと積極的に知らせてほしい。(他1件)
- ・施策自体がよくわからないので教えてほしい

(3) 居住の場について

- ・いわゆる便利屋サービス（電球の取り替え等）を将来は利用したいと思っている。
- ・ゴミ出しの日に近所の方が声かけをしてくれる。
- ・終の棲家となる施設数が少ない。
- ・市内にもっとグループホームを増やしてほしい。
- ・介護者が高齢なのでグループホームに入れて独立させたい。
- ・逗子でグループホームに入り生活をしたいので増やしてほしい。
- ・グループホームを増やしてほしい。
- ・将来親亡き後の生活の場所を増やしてほしい。
- ・親が他界した時に、子どもが安心して生活できる場がほしい。
- ・逗子に知的障がい者を受け入れるグループホームがないので、設置の援助をしてほしい。

(4) こころのバリアフリーについて

- ・学校での障がい児に対する知識、意識の低さに不安を感じている。1日のほとんどを過ごす場所なのに、安心して送り出せない。
- ・世の中ではバリアフリー、共に学ぶ、と広まりつつあるが、逗子は遅れているように思える。ハンデのある人に優しくないと常に感じる。市役所も「本当に困ったら連絡を」と言ってくるが、そんな急に対応してくれるのだろうか、と不安になる。
- ・最近弱視で白杖を持つようになった。歩いていると配慮してくれて助かる。
- ・健常者にもっと関われる機会がほしい。昔より理解のある人は増えたが、障がい者をいざ目の前にすると戸惑う人のほうが多いと思う。障がい者がいるのがあたり前と思えるような環境になるとよい。
- ・教育現場での理解が不十分。
- ・仕事をしていくにあたり、就職後のサポートがほしい。特性がある子の指導や、周りの理解を深める等。
- ・障がい者の仕事先がもっと増えるとよい。
- ・市内の小中学校で発達支援員など、サポートする人を増やし、個別対応の充実を願いたい。
- ・腎障がいは、外観は元気で仕事も普通にしている人が多いが、障がいの的には重症だと思う。その点が理解されにくい。
- ・高齢化社会において、障がい者でなくとも日常生活が困難なので、お互いに助けあえるまちづくりが必要。

(5) 障がいに対する差別について

- ・障がいを持っている人や弱者が、健常者と同等の扱いをされなかったなどとクレームをつけるニュースなども見受けられるが、「〇〇してもらえなかった」「△△してあげたのに断られた」など、お互いのエゴばかりで双方に思いやりや謙虚さが欠けていると思う。障がいを持っていて困ること、不便に思うことは確かにあるが、その解消をすべて市や国に求めるのは違う気がする。また、まわりの方の優しさに甘える勇気も持ってほしい。
- ・障がい者、そうではない人、どちらも同じ人間である。障がいがあるからといって人間扱いをされないということは、あってはならないと思う。市での障がいへの理解、支援を充実させるとともに、役所の方々の対応の見直し、教育を徹底してほしい。

(6) 安全と安心な暮らしについて

- ・福祉避難所を明確に設置してほしい。
- ・バリアフリーの充実。杖や車椅子利用の人が安心して生活できる環境。(他3件)
- ・110番した時、警察の到着が遅く今後も不安だ。障がい福祉課と警察に繋がりがあるとよい。
- ・老々介護で、非常時の対応が心配だ。
- ・健常者でも通行しづらい歩道を整備してほしい。歩道の意味を成していない所が多すぎ危険だ。
- ・今回の台風の時、メールで広報が届き助かった。
- ・雨風が強いと避難はかえって危険なことがある。
- ・どのような準備が必要か考えさせられた。忘れないうちに用意したい。
- ・自転車の歩道走行や歩きスマホが危険。
- ・道路の段差、避難所での車椅子生活者に対する対応を考えてほしい。

(7) 療育等について

- ・発達支援センターがもっとスムーズに未就学、就学児の移行ができるとよい。自分からは窓口がわかりにくい。また、担当者がかかわると緊張する。
- ・くろーばー利用について
 - ・手続きにとにかく時間がかかった。
 - ・何度も同じ相談をしているのに数か月も放置された。
 - ・乳幼児の数か月がどれだけ大切かわかっているはずのプロの対応ではなかった。
 - ・療育や子どもの発達の知識が薄い利用者は適切な支援を受けられない状況にある。
 - ・スタッフの教育ができておらず安心してこどもを預けられる状況ではない。
- ・受け身な利用者との格差がある。また、付添や送迎等の負担が多い。保護者の勉強会等、積極的に意見を集めてほしい。利用までの流れも悪いので改善してほしい。
- ・学校へ行けない子への学習支援、ネット学習の支援を考えてほしい。

(8) 雇用・就労について

- ・子どもが小学校に上がるため正社員を続けるのが難しい。子どもの様子によって就労状況を考えるのはもちろんだが、仕事を続けられるような支援をもっと充実させてほしい。
- ・障がい者の支援で、仕事の種類と適正な職種があまりないので、やりたい仕事が見つげにくいのではないかと思う。また、医師と専門分野の人達で一人一人にあった仕事のプランを作成し、仕事の幅が増えるよう、サポートしてほしい。
- ・逗子は福祉事業所が少ない。環境美化の作業など、観光都市である逗子との親和性も高いのではないだろうか。
- ・障がい者が障がい者枠で就労すると受給者証を返納し、市からのサービスが利用できなくなるが、就労しても障がいなくなるわけではないので改善してほしい

(9) 経済的支援について

- ・他市のように障がい者2級でも医療が無料で受けられるようにしてほしい。
- ・タクシーの割引など利用していた。
- ・要介護2の妻を介助している。介護保険の活用はありがたい。
- ・中年層で収入があると使えないサービスがあるのが厳しい。税金の関係ではなくて障がいの不便さで認められるものであってほしい。
- ・老後、病気になって動くことができない人に対する福祉が少なく、お金がかかりすぎる。
- ・重度障がい者医療制度を続けてほしい。
- ・成年後見制度で費用を公的機関（市、国）が支援するべきと思う。できれば後見人の横領などをチェックする制度をつくってほしい。
- ・成年後見制度を利用したいが、料金が高いことと、生活資金の管理まで及んでいないことが利用を妨げる。
- ・市県民税について問い合わせ、減免処置などあるか聞いたが、1月以降と言われただけで、状況が不明だ。支払額に変化はあるのか。
- ・障害者手当金を増額してほしい。
- ・補助金（生活費）を増額してほしい。
- ・障害年金で負担が減った。
- ・医療費、光熱費、水道代（基本料のみ免除）等、考えていた以上に負担がある。
- ・介護破産などあり得ない。超高齢社会に負担が増えるのはおかしい。
- ・外出が経済的にきびしい

(10) 地域活動、文化・スポーツ活動について

- ・あまり外出して人と話したことがないので、友人がほしい。
- ・障がい者同士、支援者同士の交流、情報交換ができる場がほしい。できれば同じ等級同士で。
- ・障がい者同士の仲間作りを推進してほしい。
- ・趣味を通じて、多くの人たちと関わるようにしている。
- ・いつかは介助・支援のお世話になると思うが、できる限り健康に気をつけて仕事、趣味に精を出したい。

(11) 障害福祉サービス等について

- ・ 支援の内容に制約が多く、目的にかなうプランにならない。
- ・ ハンディキャブの運用を再開してほしい。(他1件)
- ・ 病院のリハビリセンター利用でリハビリ支援を市から受けられなくなった。
- ・ ある職員に不満がある当事者が何人もいる。どうにかならないか。
- ・ 職員、関係者は当事者の立場に立って勉強してほしい。サービスがあっても、職員に問題があると利用できない。
- ・ リハビリなど来てくれるのは、逗子以外の方達だ。
- ・ 要介護者の『支援を得る持ち点』がいくらあるのか、サービスを依頼すると何点ひかれるのかなどの開示がない。もっと明確に開示してほしい。
- ・ ヘルプを提供する側(事業所)が上から目線で心外である。
- ・ 介助ができないときに頼れるのはケアマネジャーのみだ。災害時、緊急時どこに頼ればよいのか。
- ・ 娘の外出が決まったら、車の手配、ヘルパー申し込み、通院の予約等、代わりにやってほしい。
- ・ 特別養護老人ホーム等の高齢者介護に関する施策を充実してほしい。また、健康管理と外部医療機関との連携を充実して、入居者が病気にならないことに力を入れてほしい。
- ・ 腎臓病による急な食事療法に戸惑っていたが、指導する窓口があると教えてもらい助かった。
- ・ サービスの利用により、家族以外の方との意志疎通ができていることに感謝している。
- ・ 障がい者が障がい者の介護をしているケースもあり、訪問看護の世話になっている。
- ・ 重度知的障がい者が、ヘルパーの力をかりてひとり暮らしができるようになればと思う。
- ・ 特別支援学校卒業後の活動の場が市内では満員になってきており、委託事業として生活介護などの事業が行えるようにしてもらいたい。また、一人で自立しての公共交通の利用が困難なので、徒歩圏内にあるとよい。
- ・ 重度な人ほどサービスを必要としているのに一番後回しにされている。市に相談しても、ないと言われる。重度障がい者は逗子では住むことはできないのだろうか。
- ・ 介護者が病気になった時や通院する際に、代わりに介護してくれる施設等がほしい。
- ・ 運転できなくなった時、低額で利用できる予約タクシー等があったら便利だと思う。
- ・ 介護従事者(ヘルパー)の待遇改善。
- ・ 療育や放課後デイサービスの施設が少なく、選択肢がほとんどない。
- ・ 市外の病院に、年1~2回検査に行っているが近辺で検査、指導ができるところはないか。
- ・ 専門的知識のある人の戸別訪問や、同じ障がいを持つ人の家族会のような場があればと思う。
- ・ 自宅の近くに入所できる所が順番待ちでほとんどない。
- ・ 日中は民生の方や、ケアマネジャーに気軽に相談できるが、夜中に突然の事や意識障がいなどがあると、不安が大きい。本人だけでなく、家族や介護側のケアも重視してほしい。
- ・ 義務教育終了後、土日や余暇の支援が充実することを希望する。
- ・ 放課後デイ、訪問入浴、ガソリン券等、他市に比べて不足が多い。
- ・ 娘の同居でフレンドリーサービスが受けられなくなった。再考してほしい。
- ・ 送迎関連をもっと充実してほしい。
- ・ 介助者の具合が悪くなった時に、預かってくれる場所がすぐには見つからず不安だ。
- ・ 事業所の人手不足が心配。
- ・ 精神障がい者が、介護タクシーを利用して通院できるようにしてほしい。

- ・デイサービスでいろいろな方と接して、情報が得られることは、本人にとって楽しいことだと思う。家族にとっても助かる。
- ・介護タクシーがあるとよい。
- ・近隣の市より福祉施設が整っていないと思う。
- ・具合の悪い時に入退院できる病院があるとよいと思う。
- ・ケアマネジャーの方にお世話になっている。
- ・病院が県外で今は車で連れていっているが、いつまでそれができるか心配になる。
- ・定期的に長期間利用しないとサービスを受けられない介護保険制度に不満がある。
- ・福祉の人材不足が大きな問題だと考える。人材確保についても取り組み、対策してほしい。
- ・サービスを利用しやすくしてほしい。
- ・更新手続きを24時間対応にしたり、インターネットからできるようにしてほしい。
- ・ヘルパー不足と聞いているので、働きやすい環境をつくってほしい。
- ・短期入所の日数及び回数を増やしてほしい。
- ・短期、長期入所施設を増やしてほしい。満員で入れないのが現状だ。
- ・よい職員が来てくれて安心。
- ・外出の機会があっても移動手段に困ることが多く、市としての解決策を講じてほしい。
- ・ケアマネジャーがいろいろなサービスをもってきてくれてありがたいが、高齢ゆえに対応しきれないときがある。
- ・自分の身の廻りのことはほとんど自分でできるので不安になることが少ない。訪問看護を受けているが小さな不安になることを相談でき、感謝している。
- ・介護者が亡くなった時、どれ程のサポートをしてもらえるのか。
- ・介護支援などの利用で経済的負担もあるが、障がい者の日々の向上の努力に期待している。
- ・通所先、グループホームと本籍地が異なる場合、自治体同士の横の連携が強くなると、よりよい支援につながると思う。

(12) その他

- ・両親の介助のため逗子にきたが、あらゆる場所に対応がとても親切だ。
- ・本人は障がい者としての意識がほぼゼロのため、普通の生活における不自由さは無い。ただ、高齢による要介護が必要になってきている。
- ・的確な目標をさだめて実行してほしい。
- ・障がい福祉課の対応がよくない。また、申請の仕方をわかっていないことがあった。
- ・保育所の書類で毎年療育手帳のコピーをとるのは面倒だ。
- ・障がい者への福祉の充実。
- ・逗子の介護認定基準はおかしい。もっと実状を確認してから認定してほしい。
- ・生活保護の担当者が合わないので受給を停止したい。
- ・病気は現在安定しているので、生活には支障がないが、今後どうなるか心配。
- ・精神的、経済的などあらゆる面で余裕があることがとても大切だと思う。
- ・高齢になったり、障がいがあると生活が大変だが、逗子に住みつづけたいと願っている。
- ・自分達が元気なうちはよいが、将来が不安。
- ・高齢者が増え、障がいの有る無しにかかわらず老老介護になり困る人が増えている。
- ・親切に対応してもらっている。

- ・何事も空論にならないように願う
- ・もう少し障がい者のことを考えてほしい。
- ・生まれた時から今まで大変な苦勞をしてきている。今も本人はがんばっている。
- ・介護者、支援者の研修は大切だ。常に最先端の研修が行なわれるよう、市が援助してほしい。
- ・対応に満足している。
- ・現在は何とか働いて面倒をみているが、年とともに先々が不安になってきている。
- ・付き添い人をつけてほしい。
- ・知識として足りない部分やわからないことを、市役所の方々が気付いて声かけしてくれることで助かっている。
- ・アルツハイマー型認知症で物忘れが日常。本人は気にしていない。
- ・障がい者福祉に関する理解は進んでいると思う。担当の方によって違うと思うが、積極性や踏み込み方が不足していると感じることがある。
- ・85歳になるので後は気楽に生きるだけ。
- ・少しずつ充実してきている。さらに充実することを期待している。
- ・周りの協力もあり逗子に移動してからすぐに入所できたので、困ることはなかった。
- ・本人は思い込みで固着しがちで、医師の指導、説得も難しい。
- ・自分では大変と思っても、もう少しのところで支援を受けられず困ることがある。
- ・ペースメーカーをつけているがなんとか普通に生活ができています。
- ・逗子駅、東逗子駅前ロータリーまで車で送迎する時に、乗降場所がなくて困ることが多い。
- ・養護学校が無い。
- ・自動車での移動が難しいので付添を認めてもらえるとありがたい。
- ・親亡き後のことが大きな課題。住み慣れたこの地で最後まで暮らしたい。
- ・どうしても必要な場所だけに限定されてしまい、外出する機会が少なくなってしまう。
- ・毎月の注射を受けたがらなくなった。往診の先生に頼んでいるが、今後が心配だ。
- ・介護のために仕事を休むのが大変だ。
- ・緊急時に対処するため、常に障害手帳、お薬手帳を携帯することを義務付けてはどうか。
- ・日頃から訪問等により、声掛けやお互いに顔を憶えることが大切に感じる。現在は自分から望んで出ていかないと何も変えられないと思う。
- ・忙しいこともあると思うが、気持ち良く対応してほしい。
- ・介護タクシーの予約が年々困難になっていて不安だ。
- ・障がい者が高齢になっても安心して生活できる福祉を考えてほしい。
- ・市の人たちの横のつながりをよくしてほしい。
- ・障がい福祉課に手続き等に行くと、毎回窓口の人が手続きの内容を理解していないようだ。自分の仕事をしっかり理解している人に対応してほしい。
- ・ヘルプマークをもらいに行ったときの対応がよかった。
- ・ネット社会なのに、障がい福祉の申請はすべて手書き申請でその都度市役所、年金事務所に
出向かなければならない。
- ・障がい福祉課の職員の対応がまちまち。
- ・規則よりも、授業内容等、肝心なことを充実してほしい。養護学校の規則についても「差別」や「隔離」にあたらぬか、考えてもらいたい。

- ・若い人や、障がいのある人を年長者や、健常者が「監視」するような体制は今もある。「一見、何もしない、よい子」を育てるのではなく一人ひとりのできることを観察し育てていくことが重要。
- ・子どもの通級（しおさい）にあたり親しか送迎が認められておらず、仕事を休まなければならない。もう少し働く者に優しい制度にしてほしい。
- ・福祉の窓口に行くことを考えると気が重い。
- ・本人が郵便物を紛失してしまうため、介護者宛に送ってもらうが、市からのゴミ袋の配布が本人宛厳守のため、先回りして回収している。年2回のことだが、改変されると助かる。
- ・近所の人には私が障がい者と知らないので障がい福祉課の名前で送らないでほしい。
- ・管理したいのだろうが現実離れしている。
- ・逗子市役所の職員は多過ぎるし、できるだけ働かないように、自分に責任がかからないように、新しいことはしないようにしているように思える。
- ・市の障がい福祉課などの対応がよく感謝している。（他6件）

(13) アンケートについて

- ・書ききれない部分が多くあった。
- ・質問が多すぎる。（他2件）
- ・このアンケート自体がよい方向だと思う。続けてほしい。
- ・アンケートのおかげで障がい者を支援する所がいろんな所にあることがわかった。
- ・アンケートの結果など、他の人の意見がわかるとよい。市の考えも知りたい。
- ・アンケート結果を市政に活かしてほしい。
- ・ひとり暮らしの知的障がい者にはこのようなアンケートはとても難しいと思う。障がい者のことを知るには、共に行動したり、現状を見ることが一番だ。
- ・このアンケートは在宅の障がい者に向けたものなのか。
- ・アンケートの内容が知的障がい者本人にとって難しい。
- ・本人は長い文章の理解が難しく、ずれた回答をする場合がある。アンケートを読むにも支援が必要。
- ・何度か回答したが何ら変化なしなので、今回も定期的なアンケートだろうと期待していない。
- ・高齢者へのアンケートは難しいこともある。（他2件）
- ・高齢者に死を考えさせるような質問はどうかと思う。
- ・大人と子どもでは書ける内容が違うので答えにくかった。大人と子どもとわけたアンケートをした方がよいと思う。
- ・本人への質問に対する回答により処理されたい。

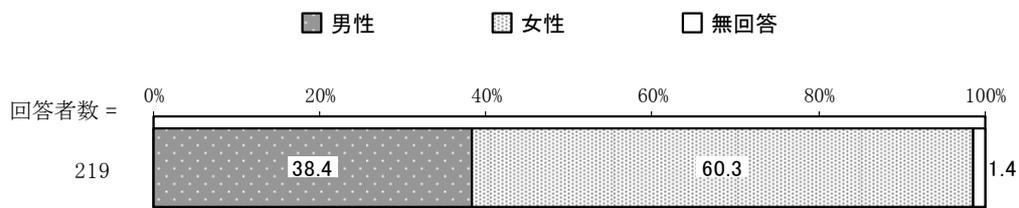
2 その他の方

(1) 回答者属性

①性別・年齢

問1 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

「男性」の割合が38.4%、「女性」の割合が60.3%となっています。



【年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	男性	女性	無回答
全体	219	38.4	60.3	1.4
15～29歳	26	42.3	57.7	—
30～49歳	53	30.2	67.9	1.9
50～64歳	52	40.4	59.6	—
65歳以上	87	41.4	57.5	1.1

【身近な障がいのある方の有無別】

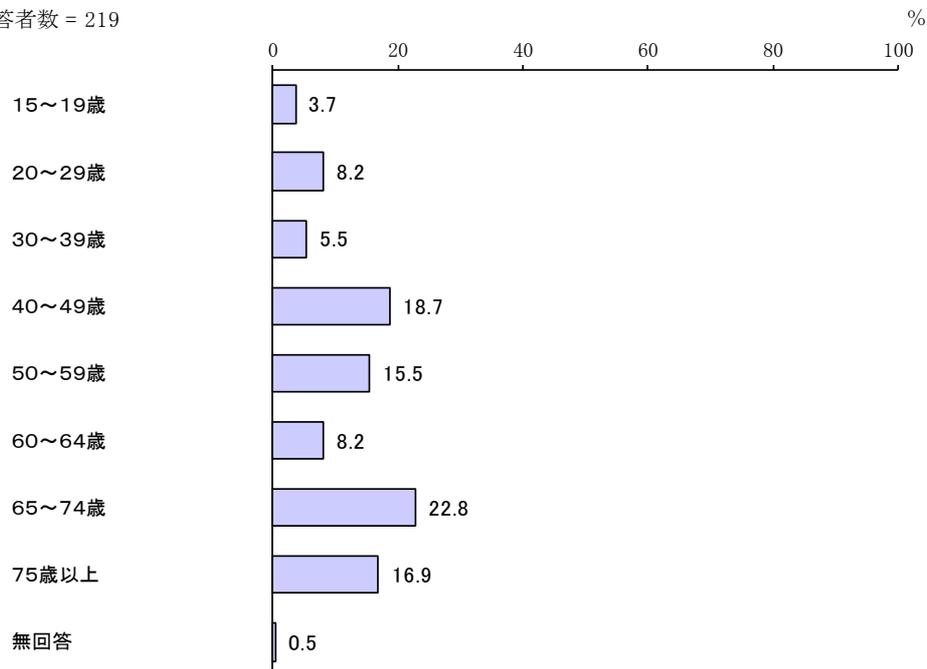
単位：%

区分	有効回答数(件)	男性	女性	無回答
全体	219	38.4	60.3	1.4
いる	93	31.2	66.7	2.2
いない	116	44.0	55.2	0.9
わからない	7	57.1	42.9	—

問2 今年の4月1日、あなたは何歳でしたか。(1つに○)

「65～74歳」の割合が22.8%と最も高く、次いで「40～49歳」の割合が18.7%、「75歳以上」の割合が16.9%となっています。

回答者数 = 219



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	15 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
全 体	219	3.7	8.2	5.5	18.7	15.5	8.2	22.8	16.9	0.5
男性	84	6.0	7.1	6.0	13.1	13.1	11.9	25.0	17.9	—
女性	132	2.3	9.1	5.3	22.0	17.4	6.1	21.2	16.7	—

【身近な障がいのある方の有無別】

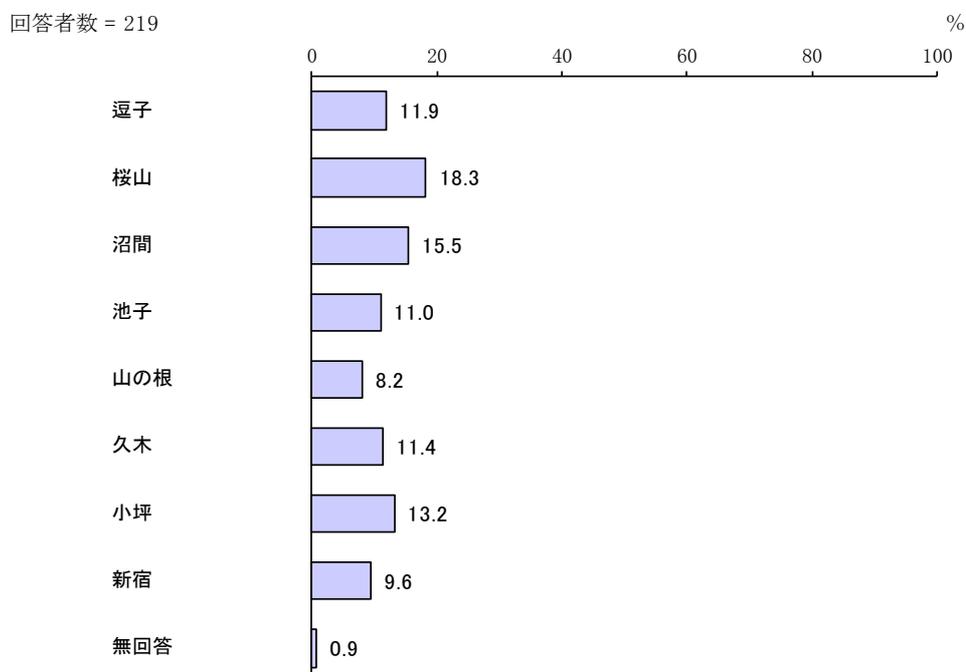
単位：%

区分	有効回答数(件)	15 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
全 体	219	3.7	8.2	5.5	18.7	15.5	8.2	22.8	16.9	0.5
いる	93	1.1	4.3	6.5	21.5	23.7	6.5	20.4	15.1	1.1
いない	116	4.3	11.2	5.2	17.2	10.3	8.6	25.9	17.2	—
わからない	7	28.6	14.3	—	14.3	—	14.3	—	28.6	—

②居住地区

問3 現在、あなたがお住まいの地域はどちらですか。(1つに○)

「桜山」の割合が18.3%と最も高く、次いで「沼間」の割合が15.5%、「小坪」の割合が13.2%となっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	逗子	桜山	沼間	池子	山の根	久木	小坪	新宿	無回答
全体	219	11.9	18.3	15.5	11.0	8.2	11.4	13.2	9.6	0.9
男性	84	16.7	16.7	15.5	15.5	6.0	9.5	11.9	8.3	—
女性	132	9.1	18.9	15.2	8.3	9.8	12.9	14.4	10.6	0.8

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	逗子	桜山	沼間	池子	山の根	久木	小坪	新宿	無回答
全 体	219	11.9	18.3	15.5	11.0	8.2	11.4	13.2	9.6	0.9
15～29 歳	26	19.2	26.9	7.7	15.4	3.8	15.4	3.8	7.7	—
30～49 歳	53	7.5	34.0	11.3	5.7	1.9	9.4	15.1	15.1	—
50～64 歳	52	15.4	13.5	11.5	5.8	11.5	13.5	13.5	13.5	1.9
65 歳以上	87	10.3	9.2	23.0	16.1	11.5	10.3	14.9	4.6	—

【身近な障がいのある方の有無別】

単位：％

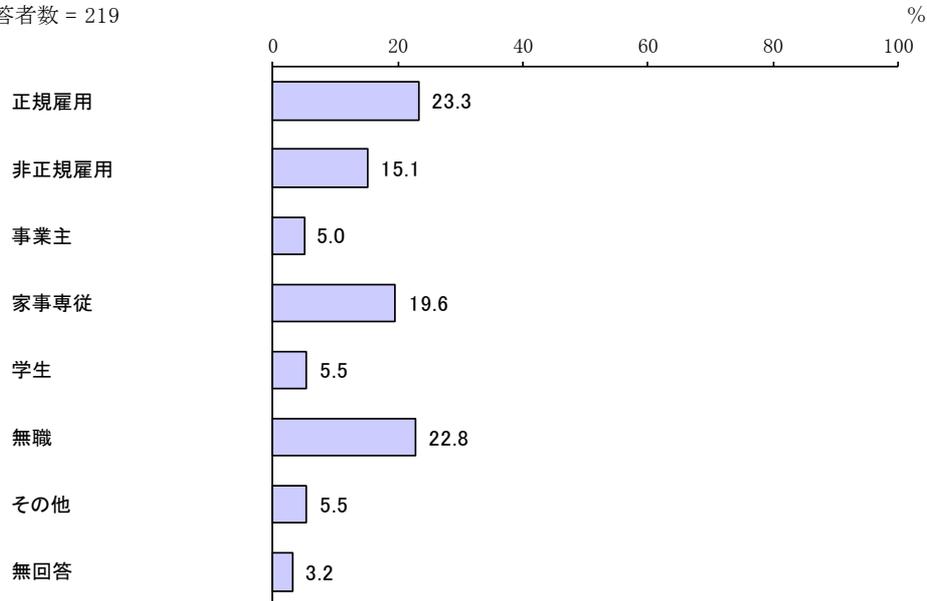
区分	有効回答数 (件)	逗子	桜山	沼間	池子	山の根	久木	小坪	新宿	無回答
全 体	219	11.9	18.3	15.5	11.0	8.2	11.4	13.2	9.6	0.9
いる	93	10.8	10.8	17.2	10.8	9.7	10.8	15.1	14.0	1.1
いない	116	12.1	24.1	15.5	12.1	6.9	11.2	11.2	6.9	—
わからない	7	14.3	28.6	—	—	—	28.6	28.6	—	—

③職業

問4 あなたの職業は何ですか。(1つに○)

「正規雇用」の割合が23.3%と最も高く、次いで「無職」の割合が22.8%、「家事専従」の割合が19.6%となっています。

回答者数 = 219



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	正規雇用	非正規雇用	事業主	家事専従	学生	無職	その他	無回答
全体	219	23.3	15.1	5.0	19.6	5.5	22.8	5.5	3.2
男性	84	35.7	7.1	6.0	1.2	6.0	36.9	4.8	2.4
女性	132	15.2	19.7	4.5	31.8	5.3	14.4	6.1	3.0

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	正規雇用	非正規雇用	事業主	家事専従	学生	無職	その他	無回答
全 体	219	23.3	15.1	5.0	19.6	5.5	22.8	5.5	3.2
15～29 歳	26	34.6	11.5	—	3.8	46.2	—	—	3.8
30～49 歳	53	41.5	28.3	5.7	15.1	—	1.9	7.5	—
50～64 歳	52	38.5	21.2	9.6	19.2	—	3.8	3.8	3.8
65 歳以上	87	—	4.6	3.4	27.6	—	54.0	6.9	3.4

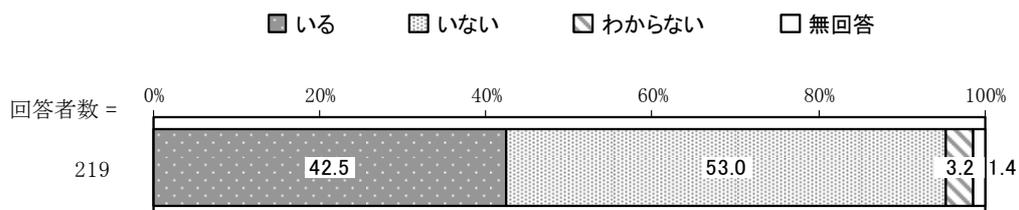
【身近な障がいのある方の有無別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	正規雇用	非正規雇用	事業主	家事専従	学生	無職	その他	無回答
全 体	219	23.3	15.1	5.0	19.6	5.5	22.8	5.5	3.2
いる	93	25.8	17.2	6.5	16.1	2.2	22.6	8.6	1.1
いない	116	21.6	13.8	3.4	21.6	7.8	24.1	3.4	4.3
わからない	7	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	—	—

④身近な障がい者の存在

問5 あなたの身近に、障がいのある人はいますか。
(1つに○をつけ、1をお選びの場合、付問にもお答えください。)



【性別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	219	42.5	53.0	3.2	1.4
男性	84	34.5	60.7	4.8	—
女性	132	47.0	48.5	2.3	2.3

【年齢別】

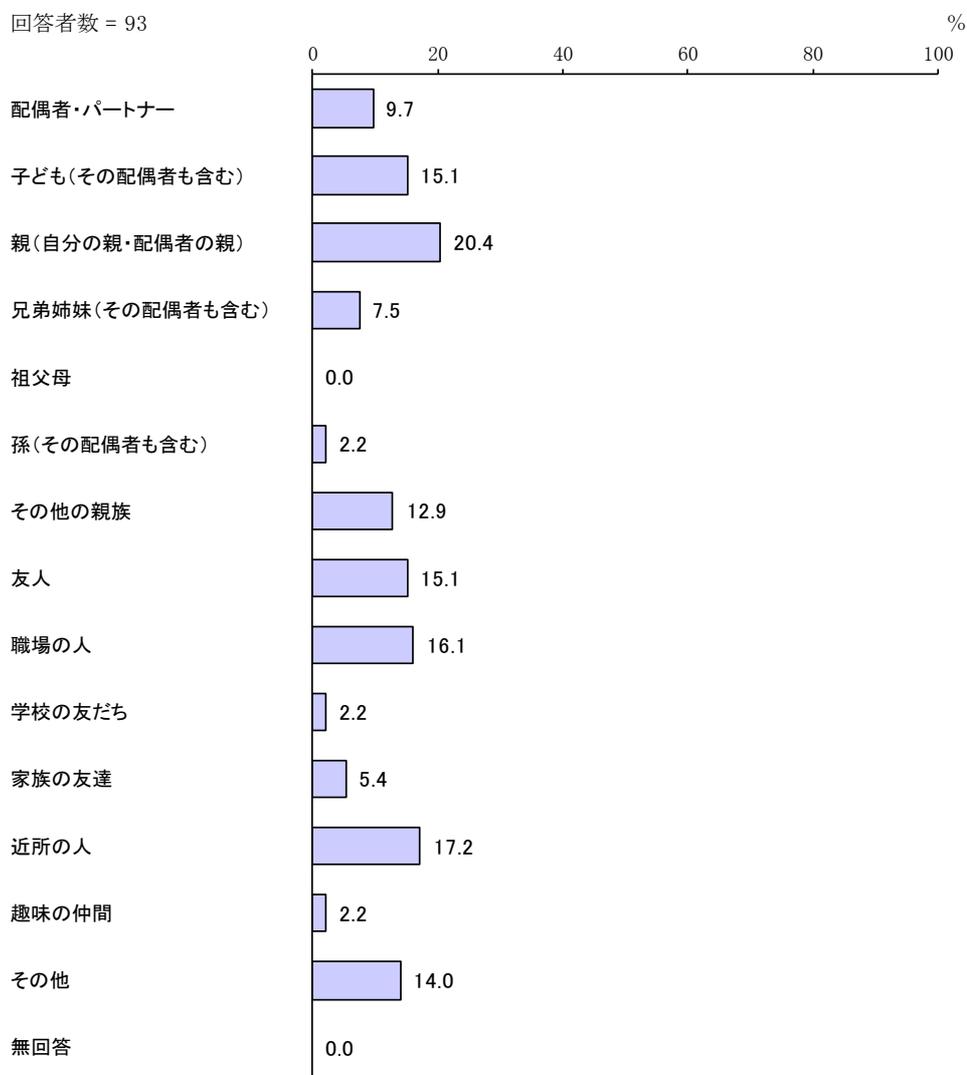
単位：％

区分	有効回答数 (件)	いる	いない	わからない	無回答
全 体	219	42.5	53.0	3.2	1.4
15～29 歳	26	19.2	69.2	11.5	—
30～49 歳	53	49.1	49.1	1.9	—
50～64 歳	52	53.8	42.3	1.9	1.9
65 歳以上	87	37.9	57.5	2.3	2.3

問5で「いる」と答えた方にお聞きします。

付問 それは、あなたからみてどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「親(自分の親・配偶者の親)」の割合が20.4%と最も高く、次いで「近所の人」の割合が17.2%、「職場の人」の割合が16.1%となっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	配偶者・パートナー	子ども(その配偶者も含む)	親(自分の親・配偶者の親)	兄弟姉妹(その配偶者も含む)	祖父母	孫(その配偶者も含む)	その他の親族	友人	職場の人	学校の友だち	家族の友達	近所の人	趣味の仲間	その他	無回答
全体	93	9.7	15.1	20.4	7.5	—	2.2	12.9	15.1	16.1	2.2	5.4	17.2	2.2	14.0	—
男性	29	6.9	17.2	17.2	10.3	—	—	20.7	13.8	17.2	—	3.4	17.2	3.4	3.4	—
女性	62	11.3	14.5	22.6	6.5	—	3.2	8.1	14.5	16.1	3.2	6.5	17.7	1.6	19.4	—

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	配偶者・パートナー	子ども(その配偶者も含む)	親(自分の親・配偶者の親)	兄弟姉妹(その配偶者も含む)	祖父母	孫(その配偶者も含む)	その他の親族	友人	職場の人	学校の友だち	家族の友達	近所の人	趣味の仲間	その他	無回答
全体	93	9.7	15.1	20.4	7.5	—	2.2	12.9	15.1	16.1	2.2	5.4	17.2	2.2	14.0	—
15～29歳	5	—	—	20.0	—	—	—	40.0	20.0	20.0	—	—	—	—	—	—
30～49歳	26	3.8	7.7	23.1	3.8	—	—	19.2	15.4	30.8	7.7	11.5	11.5	—	15.4	—
50～64歳	28	3.6	21.4	42.9	10.7	—	—	7.1	10.7	21.4	—	7.1	7.1	3.6	21.4	—
65歳以上	33	21.2	18.2	—	9.1	—	6.1	6.1	18.2	—	—	—	33.3	3.0	9.1	—

(2) 障がいのある人とのかかわりについて

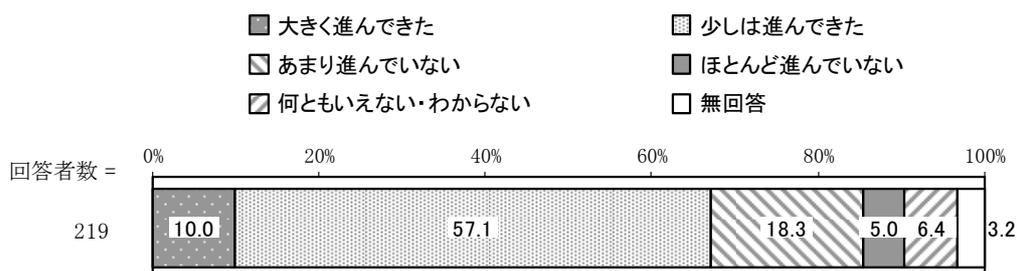
①障がいへの理解

問6 あなたは、最近の5年程度で、障がいや障がいのある人に対する理解が進んできたと思いますか。

①「ア～オ」について、最もあてはまると思うものに1つずつ○をつけてください。

ア. 社会全体で「大きく進んできた」と「少しは進んできた」をあわせた“進んできた”の割合が高く、67.1%となっています。一方、エ. 市内の身近な地域で「あまり進んでいない」と「ほとんど進んでいない」をあわせた“進んでいない”の割合が高く、38.8%となっています。

ア. 社会全体で



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	10.0	57.1	18.3	5.0	6.4	3.2
男性	84	16.7	52.4	20.2	2.4	6.0	2.4
女性	132	6.1	59.1	17.4	6.8	6.8	3.8

【年齢別】

他に比べ、15～29歳で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	10.0	57.1	18.3	5.0	6.4	3.2
15～29歳	26	3.8	73.1	11.5	—	11.5	—
30～49歳	53	11.3	52.8	26.4	1.9	7.5	—
50～64歳	52	9.6	61.5	21.2	3.8	3.8	—
65歳以上	87	11.5	51.7	13.8	9.2	5.7	8.0

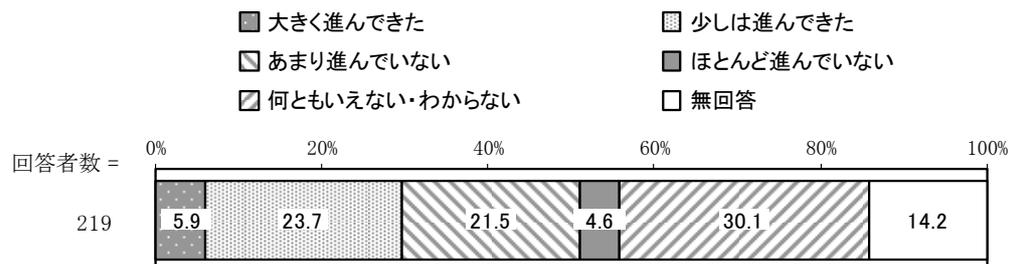
【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいる人に比べ、いない人で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全 体	219	10.0	57.1	18.3	5.0	6.4	3.2
いる	93	9.7	51.6	16.1	7.5	8.6	6.5
いない	116	10.3	62.1	19.8	2.6	4.3	0.9
わからない	7	—	71.4	28.6	—	—	—

イ. 学校で



【性 別】

男性に比べ、女性で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全 体	219	5.9	23.7	21.5	4.6	30.1	14.2
男性	84	6.0	17.9	28.6	2.4	32.1	13.1
女性	132	6.1	26.5	16.7	6.1	29.5	15.2

【年齢別】

他に比べ、15～29歳で“進んできた”“進んでいない”それぞれの割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	5.9	23.7	21.5	4.6	30.1	14.2
15～29歳	26	7.7	34.6	34.6	3.8	19.2	—
30～49歳	53	7.5	30.2	32.1	5.7	24.5	—
50～64歳	52	7.7	30.8	23.1	5.8	32.7	—
65歳以上	87	3.4	11.5	10.3	3.4	35.6	35.6

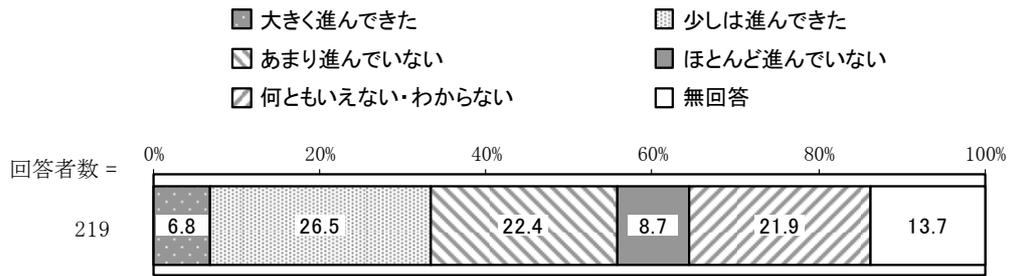
【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいる人に比べ、いない人で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	5.9	23.7	21.5	4.6	30.1	14.2
いる	93	4.3	26.9	18.3	3.2	30.1	17.2
いない	116	6.9	22.4	22.4	5.2	31.9	11.2
わからない	7	14.3	14.3	57.1	—	—	14.3

ウ. 職場で



【性別】

女性に比べ、男性で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	6.8	26.5	22.4	8.7	21.9	13.7
男性	84	11.9	25.0	22.6	7.1	20.2	13.1
女性	132	3.8	27.3	22.0	9.8	22.7	14.4

【年齢別】

他に比べ、30～64歳で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	6.8	26.5	22.4	8.7	21.9	13.7
15～29歳	26	11.5	30.8	15.4	3.8	34.6	3.8
30～49歳	53	9.4	35.8	30.2	11.3	13.2	—
50～64歳	52	5.8	38.5	28.8	13.5	13.5	—
65歳以上	87	4.6	11.5	16.1	5.7	28.7	33.3

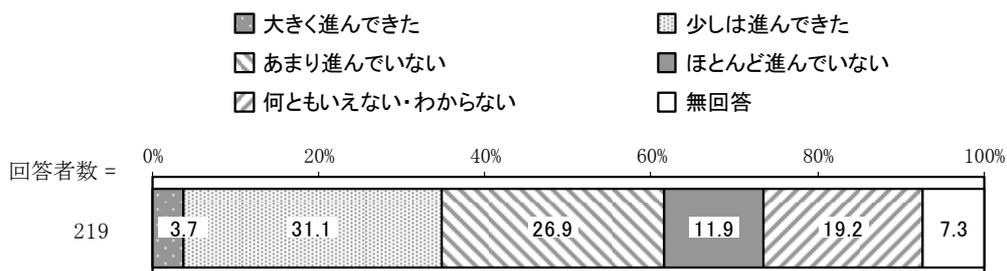
【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	6.8	26.5	22.4	8.7	21.9	13.7
いる	93	5.4	28.0	24.7	9.7	16.1	16.1
いない	116	7.8	24.1	21.6	6.9	27.6	12.1
わからない	7	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	—

エ. 市内の身近な地域で



【性別】

女性に比べ、男性で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	3.7	31.1	26.9	11.9	19.2	7.3
男性	84	4.8	33.3	21.4	11.9	22.6	6.0
女性	132	3.0	29.5	30.3	12.1	16.7	8.3

【年齢別】

他に比べ、30～64歳で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：％

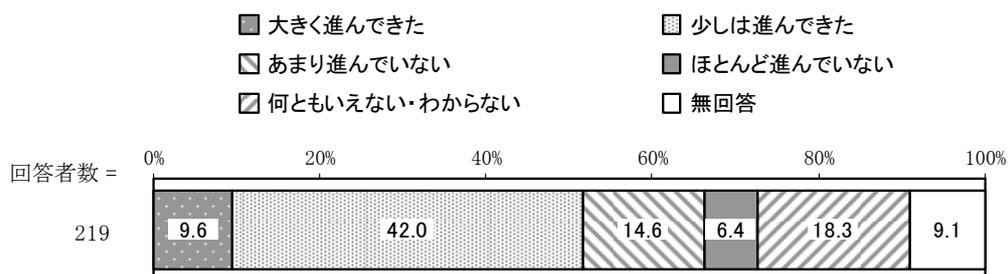
区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	3.7	31.1	26.9	11.9	19.2	7.3
15～29歳	26	3.8	38.5	30.8	7.7	19.2	—
30～49歳	53	3.8	26.4	35.8	13.2	20.8	—
50～64歳	52	—	34.6	32.7	17.3	15.4	—
65歳以上	87	5.7	28.7	17.2	9.2	20.7	18.4

【身近な障がいのある方の有無別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	3.7	31.1	26.9	11.9	19.2	7.3
いる	93	4.3	30.1	29.0	10.8	17.2	8.6
いない	116	3.4	31.9	25.9	11.2	21.6	6.0
わからない	7	—	42.9	28.6	28.6	—	—

オ. あなたやあなたの家族の中で



【性別】

女性に比べ、男性で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	9.6	42.0	14.6	6.4	18.3	9.1
男性	84	13.1	47.6	11.9	3.6	15.5	8.3
女性	132	7.6	38.6	15.9	8.3	19.7	9.8

【年齢別】

他に比べ、50～64歳で“進んできた”の割合が高くなっています。また、30～49歳で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	9.6	42.0	14.6	6.4	18.3	9.1
15～29歳	26	11.5	46.2	19.2	3.8	19.2	—
30～49歳	53	7.5	41.5	22.6	15.1	13.2	—
50～64歳	52	17.3	51.9	11.5	3.8	13.5	1.9
65歳以上	87	5.7	34.5	10.3	3.4	24.1	21.8

【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で“進んできた”の割合が高くなっています。

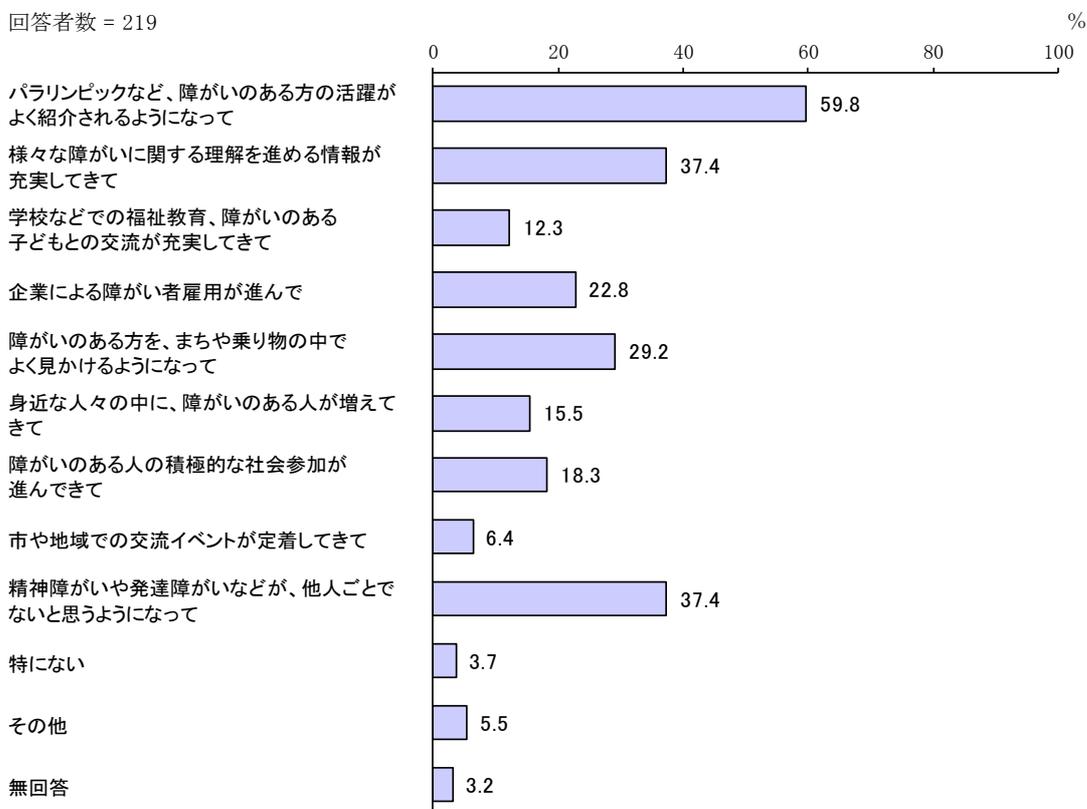
単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで ない	何ともいえない・ わからない	無回答
全体	219	9.6	42.0	14.6	6.4	18.3	9.1
いる	93	14.0	40.9	14.0	4.3	16.1	10.8
いない	116	3.4	43.1	15.5	8.6	21.6	7.8
わからない	7	28.6	57.1	14.3	—	—	—

問6 ②障がいに対する理解が進んだ主な理由は何だと思えますか。 (あてはまるものすべてに○)

「パラリンピックなど、障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって」の割合が59.8％と最も高く、次いで「様々な障がいに関する理解を進める情報が充実してきて」、「精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって」の割合が37.4％となっています。

回答者数 = 219



【性別】

女性に比べ、男性で「企業による障がい者雇用が進んで」の割合が高くなっています。また、女性では「パラリンピックなど、障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって」「身近な人々の中に、障がいのある人が増えてきて」「精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって	様々な障がいに関する理解を進める情報が充実してきて	福祉教育、障がいのある子どもとの交流が充実してきて	企業による障がい者雇用が進んで	障がいのある方を、まちや乗り物の中でよく見かけるようになって	身近な人々の中に、障がいのある人が増えてきて	障がいのある人の積極的な社会参加が進んできて	市や地域での交流イベントが定着してきて	精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって	特にない	その他	無回答
全体	219	59.8	37.4	12.3	22.8	29.2	15.5	18.3	6.4	37.4	3.7	5.5	3.2
男性	84	52.4	33.3	10.7	25.0	27.4	10.7	15.5	2.4	27.4	4.8	7.1	3.6
女性	132	64.4	38.6	12.9	19.7	30.3	18.9	19.7	8.3	43.9	3.0	4.5	3.0

【年齢別】

他に比べ、30～49歳で「パラリンピックなど、障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって」「精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって」の割合が高くなっています。また、65歳以上で「障がいのある方を、まちや乗り物の中でよく見かけるようになって」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって	様々な障がいに関する理解を進める情報が充実してきて	福祉教育、障がいのある子どもとの交流が充実してきて	企業による障がい者雇用が進んで	障がいのある方を、まちや乗り物の中でよく見かけるようになって	身近な人々の中に、障がいのある人が増えてきて	障がいのある人の積極的な社会参加が進んできて	市や地域での交流イベントが定着してきて	精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって	特にない	その他	無回答
全体	219	59.8	37.4	12.3	22.8	29.2	15.5	18.3	6.4	37.4	3.7	5.5	3.2
15～29歳	26	53.8	46.2	23.1	11.5	19.2	11.5	7.7	3.8	42.3	3.8	7.7	3.8
30～49歳	53	71.7	30.2	17.0	32.1	22.6	11.3	20.8	11.3	49.1	5.7	5.7	1.9
50～64歳	52	63.5	40.4	9.6	30.8	17.3	23.1	23.1	5.8	38.5	3.8	5.8	1.9
65歳以上	87	51.7	36.8	8.0	14.9	43.7	14.9	17.2	4.6	28.7	2.3	4.6	4.6

【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「企業による障がい者雇用が進んで」「身近な人々の中に、障がいのある人が増えてきて」「精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって」の割合が高くなっています。また、いない人では「パラリンピックなど、障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって」「学校などでの福祉教育、障がいのある子どもとの交流が充実してきて」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって	様々な障がいに関する理解を進める情報が充実してきて	福祉教育、障がいのある子どもとの交流が充実してきて	企業による障がい者雇用が進んで	障がいのある方を、まちや乗り物の中でよく見かけるようになって	身近な人々の中に、障がいのある人が増えてきて	障がいのある人の積極的な社会参加が進んできて	市や地域での交流イベントが定着してきて	精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって	特になし	その他	無回答
全体	219	59.8	37.4	12.3	22.8	29.2	15.5	18.3	6.4	37.4	3.7	5.5	3.2
いる	93	59.1	35.5	9.7	29.0	28.0	26.9	17.2	5.4	49.5	4.3	5.4	3.2
いない	116	64.7	39.7	14.7	19.8	31.0	5.2	19.8	7.8	26.7	3.4	6.0	2.6
わからない	7	14.3	42.9	14.3	—	14.3	28.6	14.3	—	57.1	—	—	—

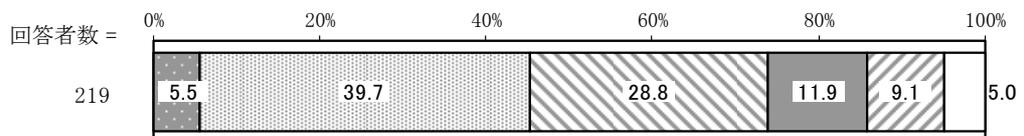
②障がいのある人への差別が解消されてきたと思うか

問7 あなたは、最近の5年程度で、障がいのある人への差別が解消され、分け隔てのない状態が進んできたと思いますか。①「ア～オ」について、あなたが最もあてはまると思うものに1つずつ○をつけてください。

ア. 社会全体で、オ. あなたやあなたの家族の中で「大きく進んできた」と「少しは進んできた」をあわせた“進んできた”の割合が高く、4割台半ばなっています。一方、ア. 社会全体で、エ. 市内の身近な地域で「あまり進んでいない」と「ほとんど進んでいない」をあわせた“進んでいない”の割合が高く、約4割となっています。

ア. 社会全体で

- 大きく進んできた
- 少しは進んできた
- あまり進んでいない
- ほとんど進んでいない
- 何ともいえない・わからない
- 無回答



【性別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全体	219	5.5	39.7	28.8	11.9	9.1	5.0
男性	84	8.3	36.9	29.8	10.7	9.5	4.8
女性	132	3.8	41.7	27.3	12.9	9.1	5.3

【年齢別】

他に比べ、50～64歳で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全体	219	5.5	39.7	28.8	11.9	9.1	5.0
15～29歳	26	7.7	34.6	30.8	7.7	19.2	—
30～49歳	53	5.7	35.8	32.1	15.1	11.3	—
50～64歳	52	3.8	46.2	30.8	13.5	5.8	—
65歳以上	87	5.7	39.1	25.3	10.3	6.9	12.6

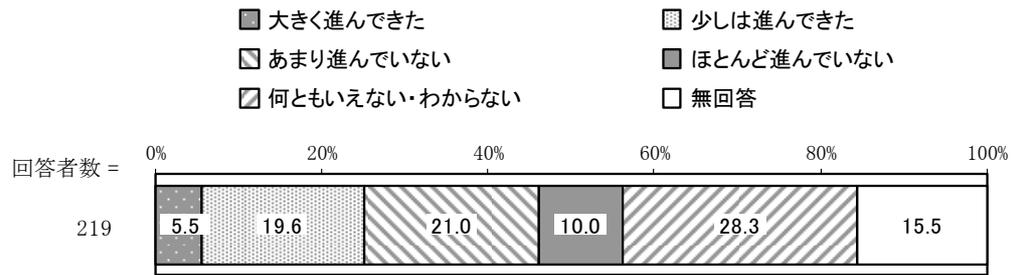
【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいる人に比べ、いない人で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全体	219	5.5	39.7	28.8	11.9	9.1	5.0
いる	93	3.2	38.7	30.1	11.8	7.5	8.6
いない	116	6.9	41.4	29.3	9.5	10.3	2.6
わからない	7	—	42.9	14.3	42.9	—	—

イ. 学校で



【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	5.5	19.6	21.0	10.0	28.3	15.5
男性	84	6.0	20.2	19.0	9.5	31.0	14.3
女性	132	5.3	18.9	22.0	10.6	26.5	16.7

【年齢別】

単位：%

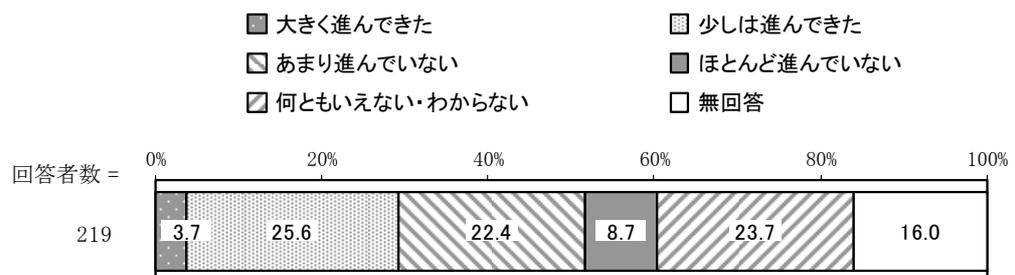
区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	5.5	19.6	21.0	10.0	28.3	15.5
15～29歳	26	11.5	23.1	30.8	11.5	23.1	—
30～49歳	53	9.4	24.5	30.2	13.2	22.6	—
50～64歳	52	1.9	28.8	23.1	13.5	32.7	—
65歳以上	87	3.4	9.2	11.5	5.7	31.0	39.1

【身近な障がいのある方の有無別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全 体	219	5.5	19.6	21.0	10.0	28.3	15.5
いる	93	2.2	20.4	22.6	9.7	26.9	18.3
いない	116	6.9	19.0	19.0	9.5	31.0	14.7
わからない	7	14.3	28.6	42.9	14.3	—	—

ウ. 職場で



【性 別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んで いない	ほとんど進んで いない	何ともいえない・ わからない	無回答
全 体	219	3.7	25.6	22.4	8.7	23.7	16.0
男性	84	6.0	25.0	26.2	7.1	22.6	13.1
女性	132	2.3	25.8	19.7	9.8	24.2	18.2

【年齢別】

15～29歳と50～64歳で“進んできた”の割合が高くなっていますが、他に比べ、30～49歳で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：％

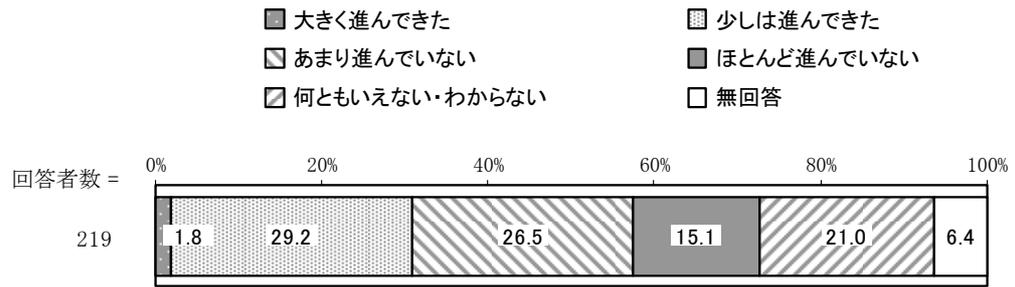
区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全 体	219	3.7	25.6	22.4	8.7	23.7	16.0
15～29歳	26	—	38.5	23.1	3.8	30.8	3.8
30～49歳	53	3.8	30.2	34.0	15.1	17.0	—
50～64歳	52	5.8	34.6	28.8	11.5	17.3	1.9
65歳以上	87	3.4	12.6	11.5	4.6	29.9	37.9

【身近な障がいのある方の有無別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全 体	219	3.7	25.6	22.4	8.7	23.7	16.0
いる	93	1.1	28.0	24.7	8.6	19.4	18.3
いない	116	5.2	20.7	21.6	7.8	29.3	15.5
わからない	7	—	71.4	14.3	14.3	—	—

エ. 市内の身近な地域で



【性別】

男性に比べ、女性で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	1.8	29.2	26.5	15.1	21.0	6.4
男性	84	2.4	31.0	22.6	14.3	22.6	7.1
女性	132	1.5	28.0	29.5	15.2	19.7	6.1

【年齢別】

15～29歳で“進んできた”の割合が高くなっています。

単位：%

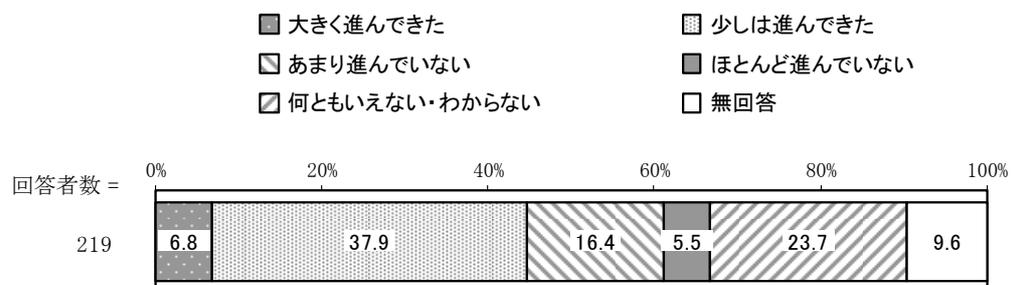
区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	1.8	29.2	26.5	15.1	21.0	6.4
15～29歳	26	3.8	34.6	19.2	11.5	30.8	—
30～49歳	53	1.9	26.4	30.2	18.9	22.6	—
50～64歳	52	—	34.6	28.8	21.2	15.4	—
65歳以上	87	2.3	25.3	25.3	10.3	20.7	16.1

【身近な障がいのある方の有無別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	1.8	29.2	26.5	15.1	21.0	6.4
いる	93	1.1	31.2	29.0	16.1	15.1	7.5
いない	116	1.7	27.6	25.0	12.9	26.7	6.0
わからない	7	—	42.9	28.6	28.6	—	—

オ. あなたやあなたの家族の中で



【性別】

男性に比べ、女性で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	6.8	37.9	16.4	5.5	23.7	9.6
男性	84	8.3	38.1	14.3	—	29.8	9.5
女性	132	6.1	37.9	17.4	9.1	19.7	9.8

【年齢別】

他に比べ、50～64歳で“進んできた”の割合が高くなっています。また、30～49歳で“進んでいない”の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	6.8	37.9	16.4	5.5	23.7	9.6
15～29歳	26	7.7	42.3	11.5	—	38.5	—
30～49歳	53	5.7	39.6	22.6	11.3	18.9	1.9
50～64歳	52	15.4	44.2	19.2	3.8	17.3	—
65歳以上	87	2.3	31.0	12.6	4.6	26.4	23.0

【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で“進んでいない”の割合が高くなっています。

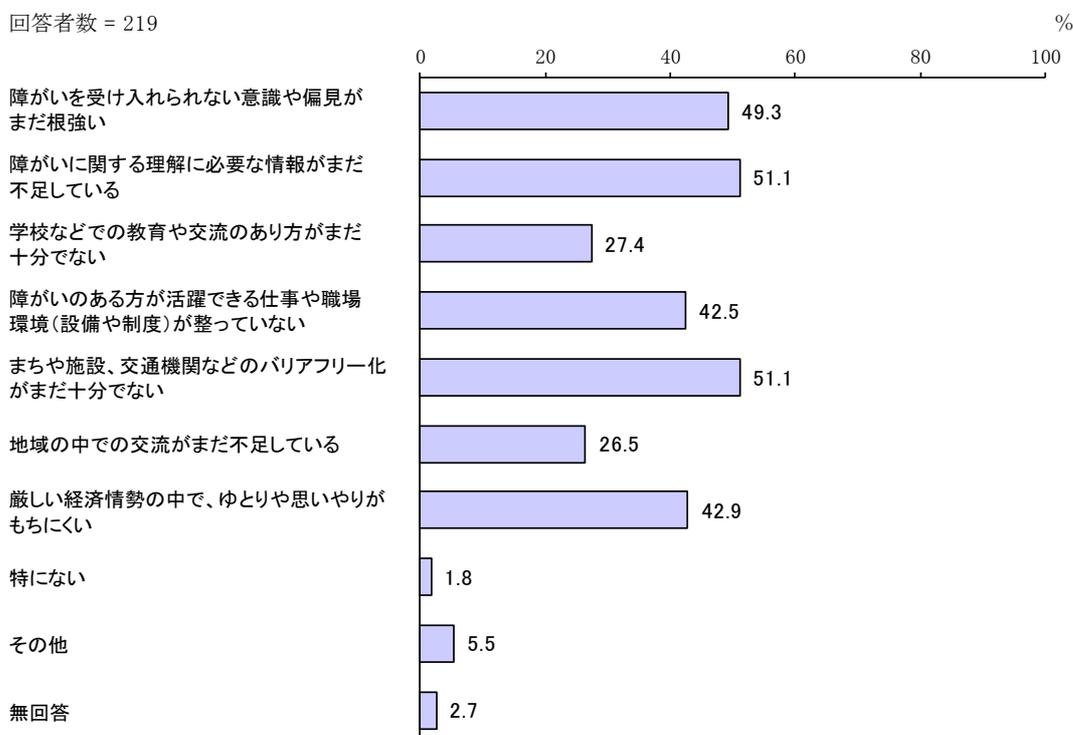
単位：％

区分	有効回答数(件)	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない	無回答
全体	219	6.8	37.9	16.4	5.5	23.7	9.6
いる	93	6.5	39.8	19.4	7.5	16.1	10.8
いない	116	5.2	37.1	14.7	4.3	30.2	8.6
わからない	7	14.3	42.9	14.3	—	28.6	—

問7 ②あなたは、障がいに対する差別の解消が進みにくい主な理由は何だと思えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している」、「まちや施設、交通機関などのバリアフリー化がまだ十分でない」の割合が51.1%と最も高く、次いで「障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根強い」の割合が49.3%となっています。

回答者数 = 219



【性別】

男性に比べ、女性で「障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根強い	障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している	学校などでの教育や交流のあり方がまだ十分でない	障がいのある方が活躍できる仕事や職場環境が整っていない	まちや施設、交通機関などのバリアフリー化がまだ十分でない	地域の中での交流がまだ不足している	厳しい経済情勢の中で、ゆとりや思いやりがもちにくい	特になし	その他	無回答
全体	219	49.3	51.1	27.4	42.5	51.1	26.5	42.9	1.8	5.5	2.7
男性	84	47.6	46.4	28.6	39.3	48.8	27.4	45.2	2.4	9.5	4.8
女性	132	50.8	54.5	26.5	43.9	53.0	25.8	40.9	1.5	2.3	1.5

【年齢別】

年齢が低くなるにつれ「障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根強い」「障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	有効回答数(件)	障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根強い	障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している	学校などでの教育や交流のあり方がまだ十分でない	障がいのある方が活躍できる仕事や職場環境が整っていない	まちや施設、交通機関などのバリアフリー化がまだ十分でない	地域の中での交流がまだ不足している	厳しい経済情勢の中で、ゆとりや思いやりがもちにくい	特になし	その他	無回答
全体	219	49.3	51.1	27.4	42.5	51.1	26.5	42.9	1.8	5.5	2.7
15～29歳	26	65.4	61.5	26.9	46.2	15.4	23.1	42.3	3.8	3.8	—
30～49歳	53	52.8	50.9	43.4	43.4	58.5	20.8	47.2	1.9	5.7	1.9
50～64歳	52	48.1	51.9	25.0	48.1	61.5	28.8	48.1	—	11.5	—
65歳以上	87	43.7	48.3	19.5	37.9	51.7	29.9	37.9	2.3	1.1	5.7

【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「厳しい経済情勢の中で、ゆとりや思いやりがもちにくい」の割合が高くなっています。また、いない人では「障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している」「障がいのある方が活躍できる仕事や職場環境（設備や制度）が整っていない」の割合が高くなっています。

単位：％

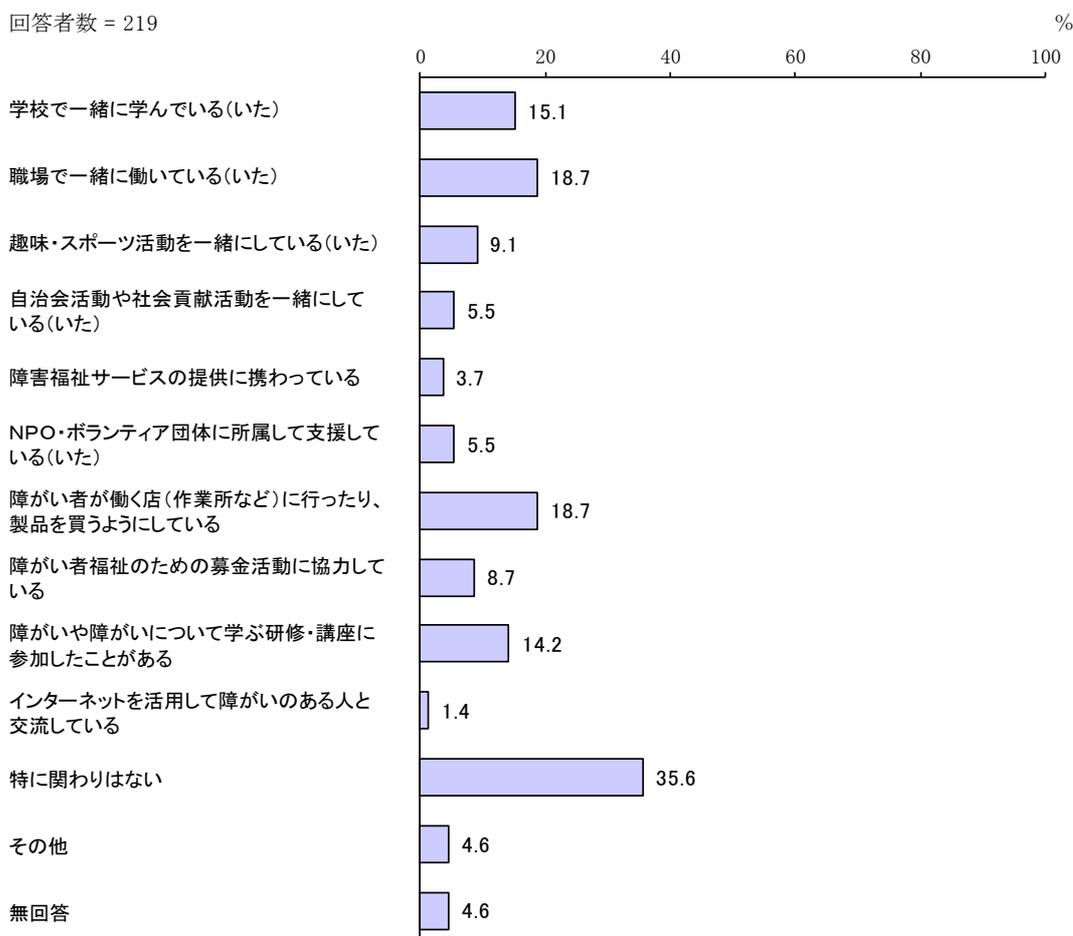
区分	有効回答数（件）	障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根強い	障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している	学校などでの教育や交流のあり方がまだ十分でない	障がいのある方が活躍できる仕事や職場環境が整っていない	まちや施設、交通機関などのバリアフリー化がまだ十分でない	地域の中での交流がまだ不足している	厳しい経済情勢の中で、ゆとりや思いやりがもちにくい	特になし	その他	無回答
全 体	219	49.3	51.1	27.4	42.5	51.1	26.5	42.9	1.8	5.5	2.7
いる	93	50.5	48.4	28.0	38.7	48.4	28.0	46.2	1.1	7.5	1.1
いない	116	48.3	55.2	29.3	46.6	53.4	25.0	38.8	2.6	2.6	4.3
わからない	7	57.1	14.3	—	28.6	42.9	28.6	57.1	—	28.6	—

③障がいのある人との関わり方

問8 あなたは、障がいのある人（ご家族以外）とどのように関わっていますか。
（あてはまるものすべてに○）

「特に関わりはない」の割合が35.6%と最も高く、次いで「職場で一緒に働いている（いた）」、「障がい者が働く店（作業所など）に行ったり、製品を買うようにしている」の割合が18.7%となっています。

回答者数 = 219



【性別】

女性に比べ、男性で「職場で一緒に働いている（いた）」「特に関わりはない」の割合が高くなっています。また、女性では「学校で一緒に学んでいる（いた）」「障がい者が働く店（作業所など）に行ったり、製品を買うようにしている」「障がい者福祉のための募金活動に協力している」「障がいや障がいについて学ぶ研修・講座に参加したことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	学校で一緒に学んでいる(いた)	職場で一緒に働いている(いた)	趣味・スポーツ活動を一緒にしている(いた)	自治会活動や社会貢献活動を一緒にしている(いた)	障害福祉サービスの提供に携わっている	NPO・ボランティア団体に所属して支援している(いた)	障がい者が働く店に行ったり、製品を買うようにしている	障がい者福祉のための募金活動に協力している	障がいや障がいについて学ぶ研修・講座に参加したことがある	インターネットを活用して障がいのある人と交流している	特に関わりはない	その他	無回答
全体	219	15.1	18.7	9.1	5.5	3.7	5.5	18.7	8.7	14.2	1.4	35.6	4.6	4.6
男性	84	8.3	25.0	11.9	6.0	2.4	2.4	13.1	4.8	6.0	2.4	41.7	3.6	6.0
女性	132	18.2	15.2	7.6	4.5	4.5	7.6	22.0	11.4	18.9	0.8	31.8	4.5	3.8

【年齢別】

他に比べ、30～64歳で「職場で一緒に働いている（いた）」の割合が高くなっています。また、15～29歳で「特に関わりはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	学校で一緒に学んでいる（いた）	職場で一緒に働いている（いた）	趣味・スポーツ活動を一緒にしている（いた）	自治会活動や社会貢献活動を一緒にしている（いた）	障害福祉サービスの提供に携わっている	NPO・ボランティア団体に所属して支援している（いた）	障がい者が働く店に行ったり、製品を買うようにしている	障がい者福祉のための募金活動に協力している	障がいや障がいについて学ぶ研修・講座に参加したことがある	インターネットを活用して障がいのある人と交流している	特に関わりはない	その他	無回答
全体	219	15.1	18.7	9.1	5.5	3.7	5.5	18.7	8.7	14.2	1.4	35.6	4.6	4.6
15～29歳	26	30.8	11.5	11.5	—	3.8	3.8	3.8	3.8	15.4	—	50.0	—	—
30～49歳	53	22.6	30.2	5.7	7.5	3.8	3.8	18.9	5.7	13.2	1.9	26.4	7.5	—
50～64歳	52	17.3	30.8	9.6	5.8	5.8	9.6	21.2	11.5	21.2	3.8	26.9	5.8	3.8
65歳以上	87	3.4	6.9	10.3	5.7	2.3	4.6	21.8	10.3	10.3	—	42.5	2.3	9.2

【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「趣味・スポーツ活動を一緒にしている（いた）」「NPO・ボランティア団体に所属して支援している（いた）」「障がい者福祉のための募金活動に協力している」「障がいや障がいについて学ぶ研修・講座に参加したことがある」の割合が高くなっています。また、いない人では「特に関わりはない」の割合が高くなっています。

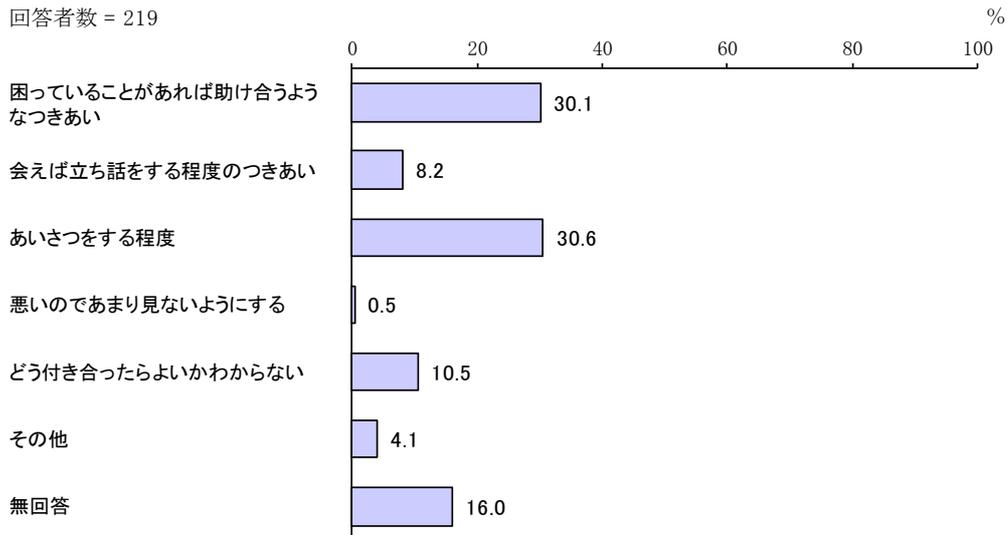
単位：％

区分	有効回答数（件）	学校で一緒に学んでいる（いた）	職場で一緒に働いている（いた）	趣味・スポーツ活動を一緒にしている（いた）	自治会活動や社会貢献活動を一緒にしている（いた）	障害福祉サービスの提供に携わっている	NPO・ボランティア団体に所属して支援している（いた）	障がい者が働く店に行ったり、製品を買うようにしている	障がい者福祉のための募金活動に協力している	障がいや障がいについて学ぶ研修・講座に参加したことがある	インターネットを活用して障がいのある人と交流している	特に関わりはない	その他	無回答
全体	219	15.1	18.7	9.1	5.5	3.7	5.5	18.7	8.7	14.2	1.4	35.6	4.6	4.6
いる	93	17.2	21.5	14.0	7.5	5.4	8.6	19.4	12.9	18.3	2.2	22.6	7.5	3.2
いない	116	13.8	17.2	5.2	3.4	2.6	3.4	18.1	5.2	12.1	0.9	43.1	2.6	6.0
わからない	7	14.3	14.3	14.3	—	—	—	28.6	14.3	—	—	71.4	—	—

④地域の中での（近所の）障がいのある人との関わり方

問9 あなたの身近（近所等）に障がいのある人がいる場合の対応についておたずねします。
 ①あなたは、障がいのある人との近所づきあいはどの程度していますか
 （できそうですか）。（1つに○）

「あいさつをする程度」の割合が30.6%と最も高く、次いで「困っていることがあれば助け合うようなつきあい」の割合が30.1%、「どう付き合ったらよいかわからない」の割合が10.5%となっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	困っていることがあれば助け合うようなつきあい	会えば立ち話をする程度のつきあい	あいさつをする程度	悪いのであまり見ないようにする	どう付き合ったらよいかわからない	その他	無回答
全体	219	30.1	8.2	30.6	0.5	10.5	4.1	16.0
男性	84	28.6	7.1	34.5	1.2	9.5	6.0	13.1
女性	132	31.1	9.1	28.0	—	11.4	3.0	17.4

【年齢別】

他に比べ、15～29歳で「困っていることがあれば助け合うようなつきあい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	困っていることがあれば助け合うようなつきあい	会えば立ち話をする程度のつきあい	あいさつをする程度	悪いのであまり見ないようにする	どう付き合ったらよいかわからない	その他	無回答
全体	219	30.1	8.2	30.6	0.5	10.5	4.1	16.0
15～29歳	26	42.3	3.8	34.6	—	15.4	—	3.8
30～49歳	53	28.3	11.3	32.1	1.9	9.4	5.7	11.3
50～64歳	52	32.7	5.8	28.8	—	13.5	3.8	15.4
65歳以上	87	26.4	9.2	29.9	—	8.0	4.6	21.8

【身近な障がいのある方の有無別】

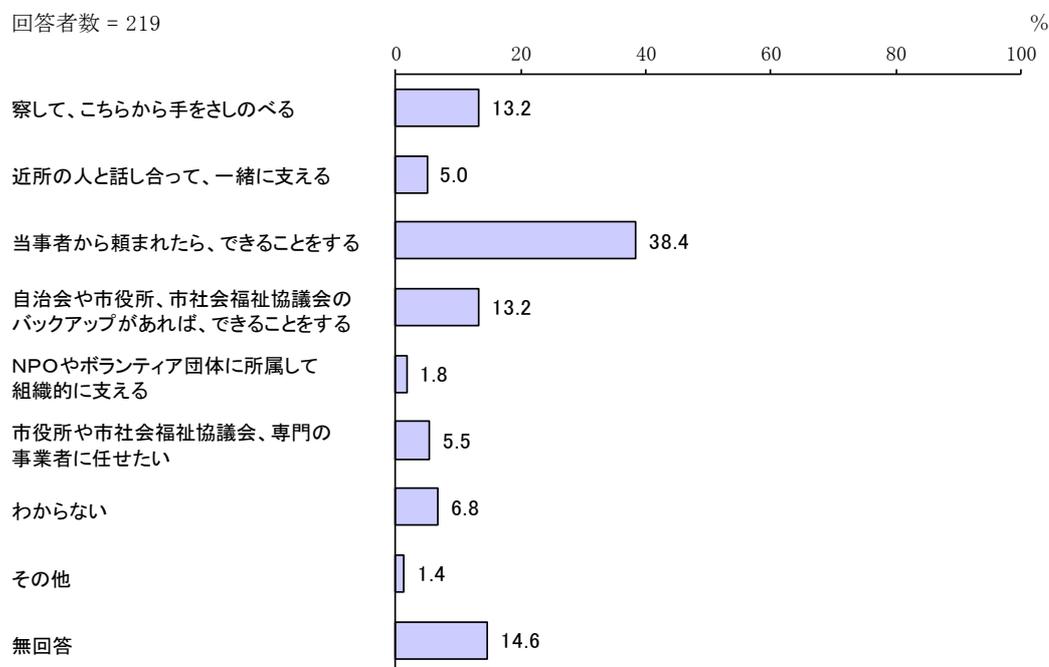
身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「困っていることがあれば助け合うようなつきあい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	困っていることがあれば助け合うようなつきあい	会えば立ち話をする程度のつきあい	あいさつをする程度	悪いのであまり見ないようにする	どう付き合ったらよいかわからない	その他	無回答
全体	219	30.1	8.2	30.6	0.5	10.5	4.1	16.0
いる	93	36.6	9.7	31.2	—	10.8	5.4	6.5
いない	116	25.9	7.8	30.2	0.9	10.3	2.6	22.4
わからない	7	14.3	—	28.6	—	14.3	14.3	28.6

問9 ②あなたが障がいのある人に介助・支援しやすいのはどんなかたちですか。
(1つに〇)

「当事者から頼まれたら、できることをする」の割合が38.4%と最も高く、次いで「察して、こちらから手をさしのべる」、「自治会や市役所、市社会福祉協議会のバックアップがあれば、できることをする」の割合が13.2%となっています。



【性別】

女性に比べ、男性で「近所の人と話し合っ、一緒に支える」「当事者から頼まれたら、できることをする」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	察して、こちらから手をさしのべる	近所の人と話し合っ、一緒に支える	当事者から頼まれたら、できることをする	自治会等のバックアップがあれば、できることをする	NPOやボランティア団体に所属して組織的に支える	市役所や市社会福祉協議会、専門の事業者任せたい	わからない	その他	無回答
全体	219	13.2	5.0	38.4	13.2	1.8	5.5	6.8	1.4	14.6
男性	84	10.7	8.3	41.7	13.1	2.4	7.1	3.6	2.4	10.7
女性	132	14.4	3.0	35.6	13.6	1.5	4.5	9.1	0.8	17.4

【年齢別】

他に比べ、15～29歳で「察して、こちらから手をさしのべる」の割合が、30～49歳で「自治会や市役所、市社会福祉協議会のバックアップがあれば、できることをする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	察して、こちらから手をさしのべる	近所の人と話し合って、一緒に支える	当事者から頼まれたら、できることをする	自治会等のバックアップがあれば、できることをする	NPOやボランティア団体に所属して組織的に支える	市役所や市社会福祉協議会、専門の事業者に任せたい	わからない	その他	無回答
全体	219	13.2	5.0	38.4	13.2	1.8	5.5	6.8	1.4	14.6
15～29歳	26	23.1	11.5	38.5	—	—	3.8	11.5	3.8	7.7
30～49歳	53	11.3	3.8	41.5	24.5	—	5.7	1.9	—	11.3
50～64歳	52	11.5	1.9	34.6	9.6	5.8	5.8	7.7	1.9	21.2
65歳以上	87	12.6	5.7	37.9	12.6	1.1	5.7	8.0	1.1	14.9

【身近な障がいのある方の有無別】

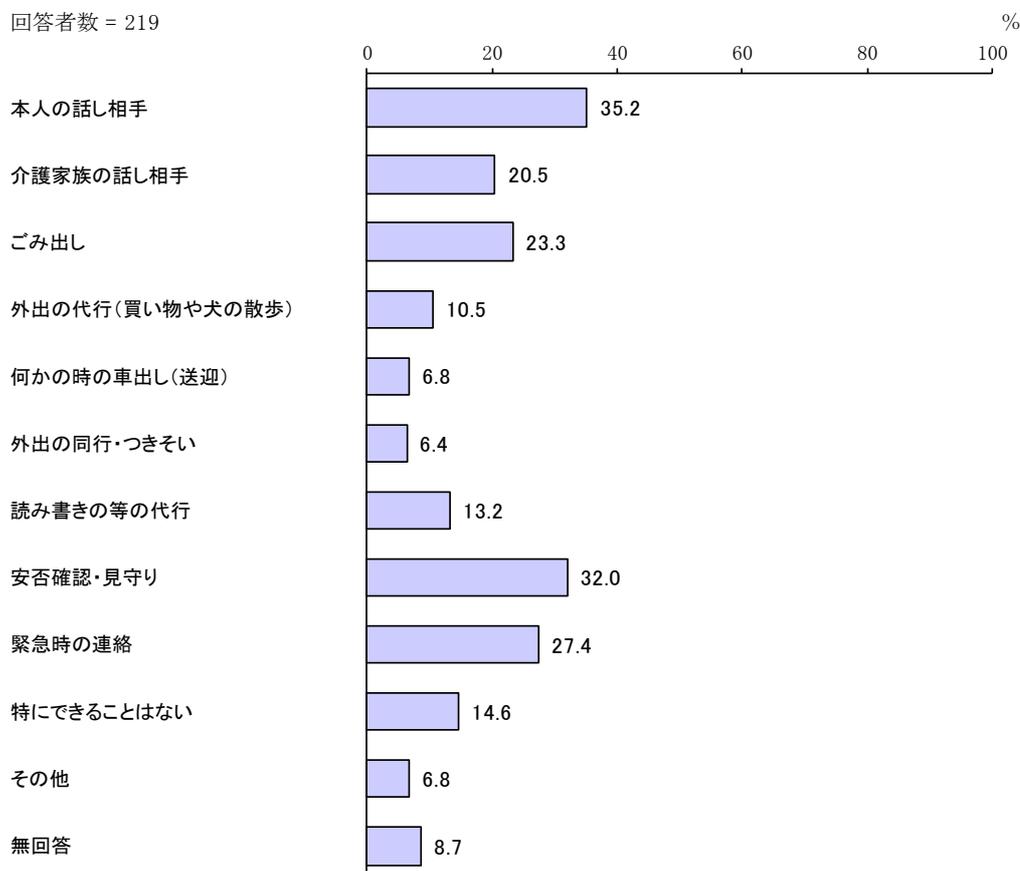
身近な障がいのある方がいる人に比べ、いない人で「自治会や市役所、市社会福祉協議会のバックアップがあれば、できることをする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	察して、こちらから手をさしのべる	近所の人と話し合って、一緒に支える	当事者から頼まれたら、できることをする	自治会等のバックアップがあれば、できることをする	NPOやボランティア団体に所属して組織的に支える	市役所や市社会福祉協議会、専門の事業者に任せたい	わからない	その他	無回答
全体	219	13.2	5.0	38.4	13.2	1.8	5.5	6.8	1.4	14.6
いる	93	16.1	4.3	37.6	9.7	2.2	7.5	6.5	1.1	15.1
いない	116	11.2	5.2	40.5	15.5	1.7	2.6	7.8	0.9	14.7
わからない	7	—	14.3	14.3	14.3	—	28.6	—	14.3	14.3

問9 ③あなたは日頃の生活の中でその人にどんな支援ができますか。
(あてはまるものすべてに○)

「本人の話し相手」の割合が35.2%と最も高く、次いで「安否確認・見守り」の割合が32.0%、「緊急時の連絡」の割合が27.4%となっています。



【性別】

女性に比べ、男性で「何かの時の車出し(送迎)」の割合が高くなっています。また、女性では「本人の話し相手」「ごみ出し」「読み書きの等の代行」「安否確認・見守り」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	本人の話し相手	介護家族の話し相手	ごみ出し	外出の代行 (買い物や犬の散歩)	何かの時の車出し(送迎)	外出の同行・つきそい	読み書きの等の代行	安否確認・見守り	緊急時の連絡	特にできることはない	その他	無回答
全体	219	35.2	20.5	23.3	10.5	6.8	6.4	13.2	32.0	27.4	14.6	6.8	8.7
男性	84	31.0	17.9	19.0	10.7	11.9	7.1	9.5	25.0	28.6	16.7	11.9	4.8
女性	132	37.1	21.2	24.2	9.1	3.0	5.3	15.9	35.6	26.5	13.6	3.8	11.4

【年齢別】

他に比べ、15～29歳で「本人の話し相手」「ごみ出し」の割合が、30～49歳で「介護家族の話し相手」「外出の代行」「安否確認・見守り」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	本人の話し相手	介護家族の話し相手	ごみ出し	外出の代行 (買い物や犬の散歩)	何かの時の車出し(送迎)	外出の同行・つきそい	読み書きの等の代行	安否確認・見守り	緊急時の連絡	特にできることはない	その他	無回答
全体	219	35.2	20.5	23.3	10.5	6.8	6.4	13.2	32.0	27.4	14.6	6.8	8.7
15～29歳	26	53.8	11.5	34.6	7.7	—	3.8	11.5	38.5	26.9	7.7	3.8	3.8
30～49歳	53	35.8	28.3	18.9	17.0	11.3	5.7	18.9	54.7	32.1	9.4	7.5	3.8
50～64歳	52	30.8	21.2	19.2	9.6	7.7	9.6	15.4	30.8	30.8	17.3	11.5	3.8
65歳以上	87	32.2	18.4	24.1	6.9	4.6	5.7	9.2	17.2	23.0	18.4	4.6	16.1

【身近な障がいのある方の有無別】

身近な障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「本人の話し相手」「介護家族の話し相手」の割合が高くなっています。また、いない人では「ごみ出し」の割合が高くなっています。

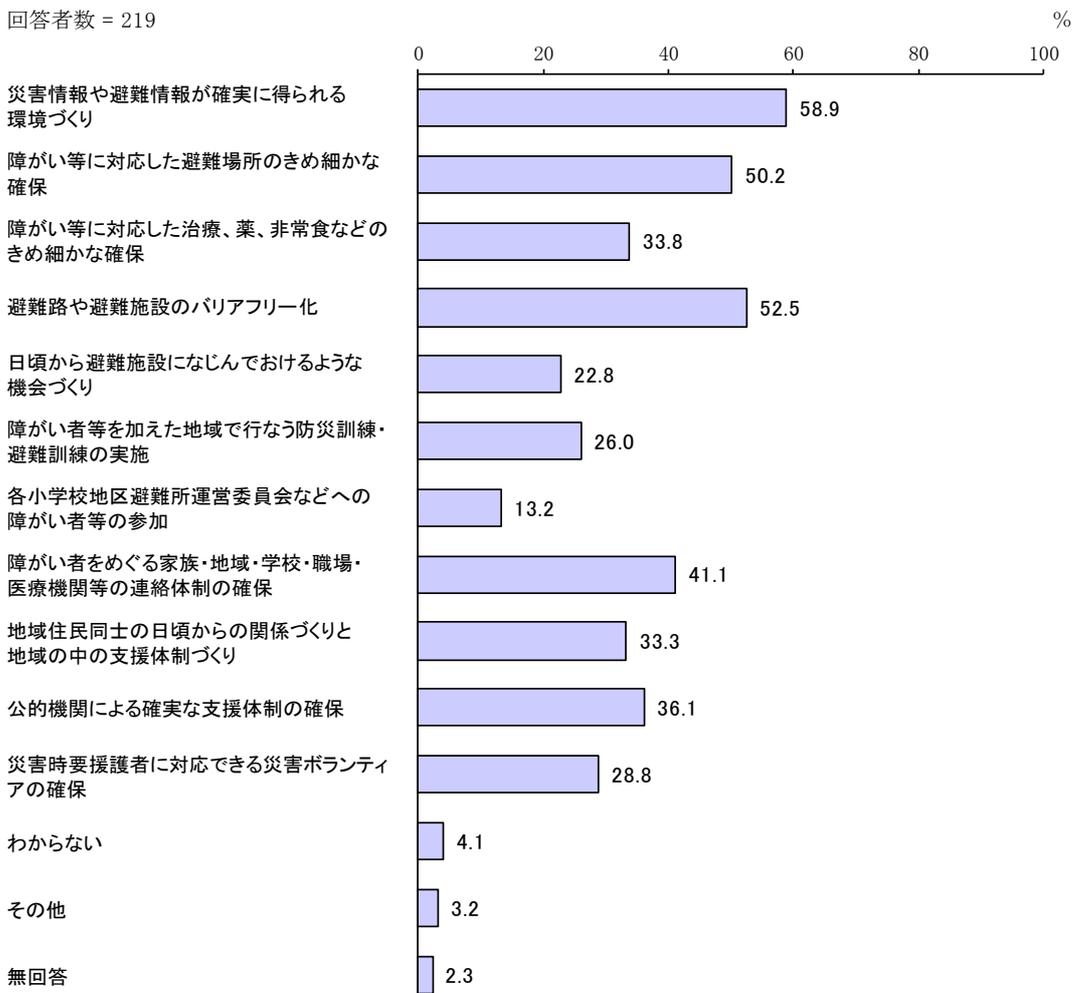
単位：％

区分	有効回答数(件)	本人の話し相手	介護家族の話し相手	ごみ出し	外出の代行 (買い物や犬の散歩)	何かの時の車出し(送迎)	外出の同行・つきそい	読み書きの等の代行	安否確認・見守り	緊急時の連絡	特にできることはない	その他	無回答
全体	219	35.2	20.5	23.3	10.5	6.8	6.4	13.2	32.0	27.4	14.6	6.8	8.7
いる	93	41.9	30.1	17.2	11.8	7.5	7.5	14.0	34.4	28.0	15.1	8.6	4.3
いない	116	29.3	13.8	26.7	10.3	6.9	6.0	12.9	31.9	26.7	14.7	5.2	12.1
わからない	7	28.6	14.3	28.6	—	—	—	14.3	—	28.6	14.3	14.3	14.3

④災害時の支援

問 10 あなたは、障がいのある人に対する災害時の避難について、市や地域にはどんな支援や配慮が必要と考えますか。(あてはまるものすべてに○)

「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「避難路や避難施設のバリアフリー化」の割合が 52.5%、「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」の割合が 50.2%となっています。



【性別】

男性に比べ、女性で「避難路や避難施設のバリアフリー化」「障がい者をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保」「災害時要援護者に対応できる災害ボランティアの確保」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり	障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保	障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保	避難路や避難施設のバリアフリー化	日頃から避難施設になじんでおけるような機会づくり	障がい者等を加えた地域で行なう防災訓練・避難訓練の実施	障がい者等の参加	各小学校地区避難所運営委員会などへの障がい者等の参加	障がい者をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保	地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域の中の支援体制づくり	公的機関による確実な支援体制の確保	災害時要援護者に対応できる災害ボランティアの確保	わからない	その他	無回答
全体	219	58.9	50.2	33.8	52.5	22.8	26.0	13.2	41.1	33.3	36.1	28.8	4.1	3.2	2.3	
男性	84	57.1	45.2	33.3	47.6	17.9	23.8	10.7	32.1	28.6	38.1	20.2	4.8	6.0	1.2	
女性	132	59.8	52.3	33.3	56.1	25.8	26.5	14.4	45.5	35.6	34.1	33.3	3.8	1.5	3.0	

【年齢別】

他に比べ、50～64歳で「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」の割合が、15～29歳で「避難路や避難施設のバリアフリー化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり	障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保	障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保	避難路や避難施設のバリアフリー化	日頃から避難施設になじんでおけるような機会づくり	障がい者等を加えた地域で行なう防災訓練・避難訓練の実施	障がい者等の参加	各小学校地区避難所運営委員会などへの障がい者等の参加	障がい者をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保	地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域の中の支援体制づくり	公的機関による確実な支援体制の確保	災害時要援護者に対応できる災害ボランティアの確保	わからない	その他	無回答
全体	219	58.9	50.2	33.8	52.5	22.8	26.0	13.2	41.1	33.3	36.1	28.8	4.1	3.2	2.3	
15～29歳	26	69.2	57.7	42.3	69.2	7.7	19.2	23.1	42.3	19.2	23.1	34.6	3.8	—	—	
30～49歳	53	52.8	52.8	35.8	58.5	24.5	34.0	17.0	49.1	43.4	37.7	37.7	5.7	7.5	—	
50～64歳	52	73.1	50.0	44.2	61.5	23.1	28.8	11.5	48.1	30.8	42.3	32.7	—	3.8	—	
65歳以上	87	51.7	46.0	24.1	39.1	26.4	21.8	9.2	31.0	33.3	35.6	19.5	5.7	1.1	5.7	

【身近な障がいのある方の有無別】

身近に障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「日頃から避難施設になじんでおけるような機会づくり」や「地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域の中の支援体制づくり」の割合が高くなっています。また、いない人では「避難路や避難施設のバリアフリー化」「公的機関による確実な支援体制の確保」の割合が高くなっています。

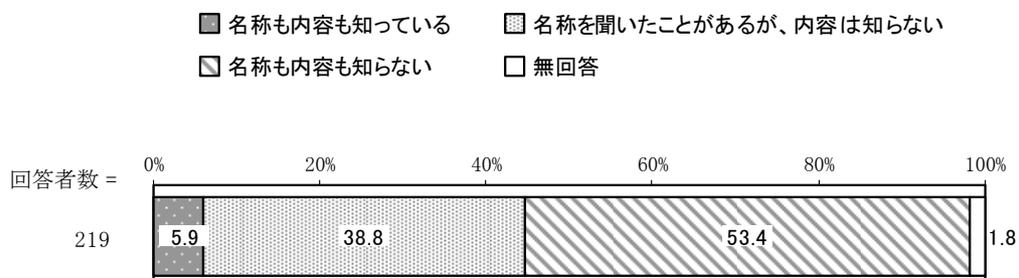
単位：％

区分	有効回答数(件)	災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり	障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保	障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保	避難路や避難施設のバリアフリー化	日頃から避難施設になじんでおけるような機会づくり	障がい者等を加えた地域で行なう防災訓練・避難訓練の実施	各小学校地区避難所運営委員会などへの障がい者等の参加	障がい者等をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保	地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域の中の支援体制づくり	公的機関による確実な支援体制の確保	ボランティアの確保	災害時要援護者に対応できる災害ボランティアの確保	わからない	その他	無回答
全体	219	58.9	50.2	33.8	52.5	22.8	26.0	13.2	41.1	33.3	36.1	28.8	28.8	4.1	3.2	2.3
いる	93	59.1	49.5	36.6	48.4	30.1	25.8	10.8	43.0	41.9	33.3	28.0	28.0	2.2	4.3	1.1
いない	116	57.8	50.9	31.9	56.9	17.2	26.7	14.7	42.2	27.6	38.8	28.4	28.4	6.0	1.7	3.4
わからない	7	57.1	42.9	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	42.9	42.9	—	14.3	—

⑤障害者差別解消法について

問 11 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

「名称も内容も知らない」の割合が 53.4%と最も高く、次いで「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が 38.8%となっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことがあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	219	5.9	38.8	53.4	1.8
男性	84	4.8	41.7	51.2	2.4
女性	132	6.8	37.1	54.5	1.5

【年齢別】

他に比べ、65歳以上で「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことがあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	219	5.9	38.8	53.4	1.8
15～29歳	26	7.7	34.6	57.7	—
30～49歳	53	9.4	28.3	60.4	1.9
50～64歳	52	3.8	38.5	57.7	—
65歳以上	87	4.6	47.1	44.8	3.4

【身近な障がいのある方の有無別】

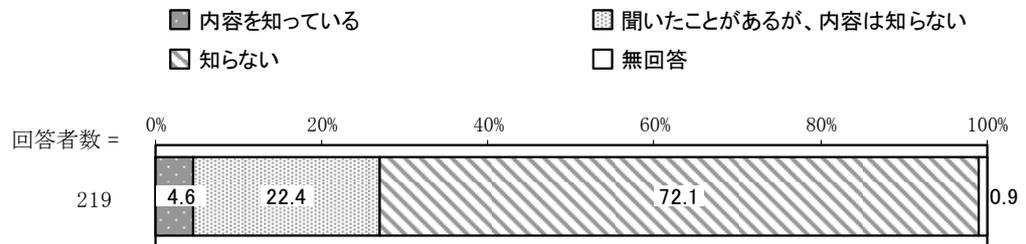
身近に障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「名称も内容も知っている」の割合が高くなっています。また、いない人では「名称も内容も知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことがあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	無回答
全体	219	5.9	38.8	53.4	1.8
いる	93	11.8	41.9	45.2	1.1
いない	116	1.7	38.8	56.9	2.6
わからない	7	—	14.3	85.7	—

問 12 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。
(1つに○)

「知らない」の割合が72.1%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が22.4%となっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	内容を知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体	219	4.6	22.4	72.1	0.9
男性	84	4.8	25.0	70.2	—
女性	132	4.5	20.5	73.5	1.5

【年齢別】

他に比べ、65歳以上で「聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	内容を知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	知らない	無回答
全 体	219	4.6	22.4	72.1	0.9
15～29 歳	26	3.8	23.1	73.1	—
30～49 歳	53	9.4	18.9	71.7	—
50～64 歳	52	7.7	15.4	76.9	—
65 歳以上	87	—	28.7	69.0	2.3

【身近な障がいのある方の有無別】

身近に障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「内容を知っている」「聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

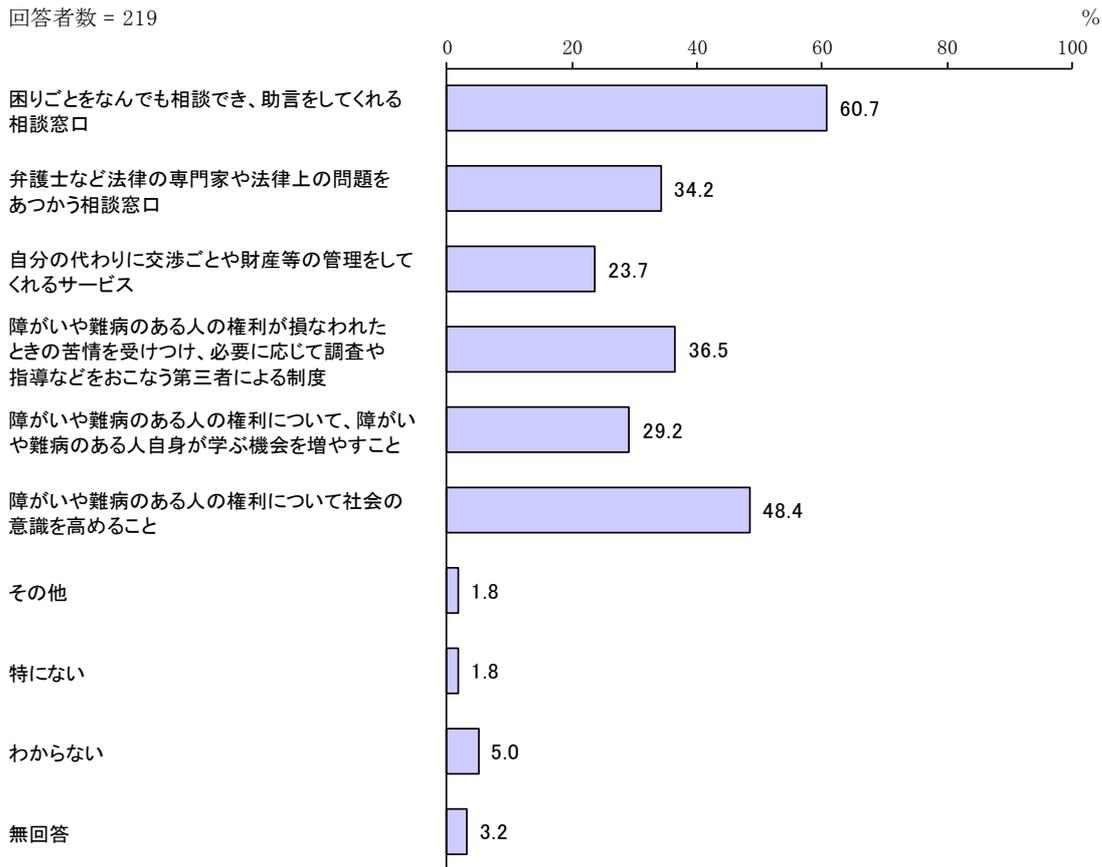
区分	有効回答数 (件)	内容を知っている	聞いたことがある が、内容は知らない	知らない	無回答
全 体	219	4.6	22.4	72.1	0.9
いる	93	8.6	28.0	63.4	—
いない	116	1.7	19.0	77.6	1.7
わからない	7	—	14.3	85.7	—

⑥権利擁護について

問 13 あなたは障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」の割合が 60.7%と最も高く、次いで「障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること」の割合が 48.4%、「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」の割合が 36.5%となっています。

回答者数 = 219



【性別】

男性に比べ、女性で「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」「障がいや難病のある人の権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと」「障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	なんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口	法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口	自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス	権利が損なわれたとき苦情を受けつけ、調査や指導などをこなう第三者による制度	権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと	障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること	その他	特になし	わからない	無回答
全体	219	60.7	34.2	23.7	36.5	29.2	48.4	1.8	1.8	5.0	3.2
男性	84	54.8	32.1	22.6	33.3	19.0	44.0	2.4	2.4	8.3	4.8
女性	132	64.4	34.8	23.5	37.9	34.8	50.8	1.5	1.5	2.3	2.3

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	なんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口	法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口	自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス	権利が損なわれたとき苦情を受けつけ、調査や指導などをこなう第三者による制度	権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと	障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること	その他	特にない	わからない	無回答
全体	219	60.7	34.2	23.7	36.5	29.2	48.4	1.8	1.8	5.0	3.2
15～29歳	26	65.4	30.8	23.1	30.8	30.8	50.0	7.7	—	—	—
30～49歳	53	50.9	41.5	22.6	34.0	34.0	54.7	1.9	—	5.7	1.9
50～64歳	52	65.4	38.5	26.9	36.5	38.5	48.1	—	1.9	5.8	5.8
65歳以上	87	63.2	28.7	23.0	40.2	20.7	44.8	1.1	3.4	4.6	3.4

【身近な障がいのある方の有無別】

身近に障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「障がいや難病のある人の権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと」「障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	なんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口	法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口	自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス	権利が損なわれたとき苦情を受けつけ、調査や指導などをこなう第三者による制度	権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと	障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること	その他	特にない	わからない	無回答
全体	219	60.7	34.2	23.7	36.5	29.2	48.4	1.8	1.8	5.0	3.2
いる	93	60.2	34.4	21.5	35.5	37.6	52.7	1.1	3.2	5.4	1.1
いない	116	61.2	32.8	25.9	36.2	23.3	46.6	2.6	0.9	5.2	4.3
わからない	7	42.9	57.1	28.6	57.1	14.3	28.6	—	—	—	14.3

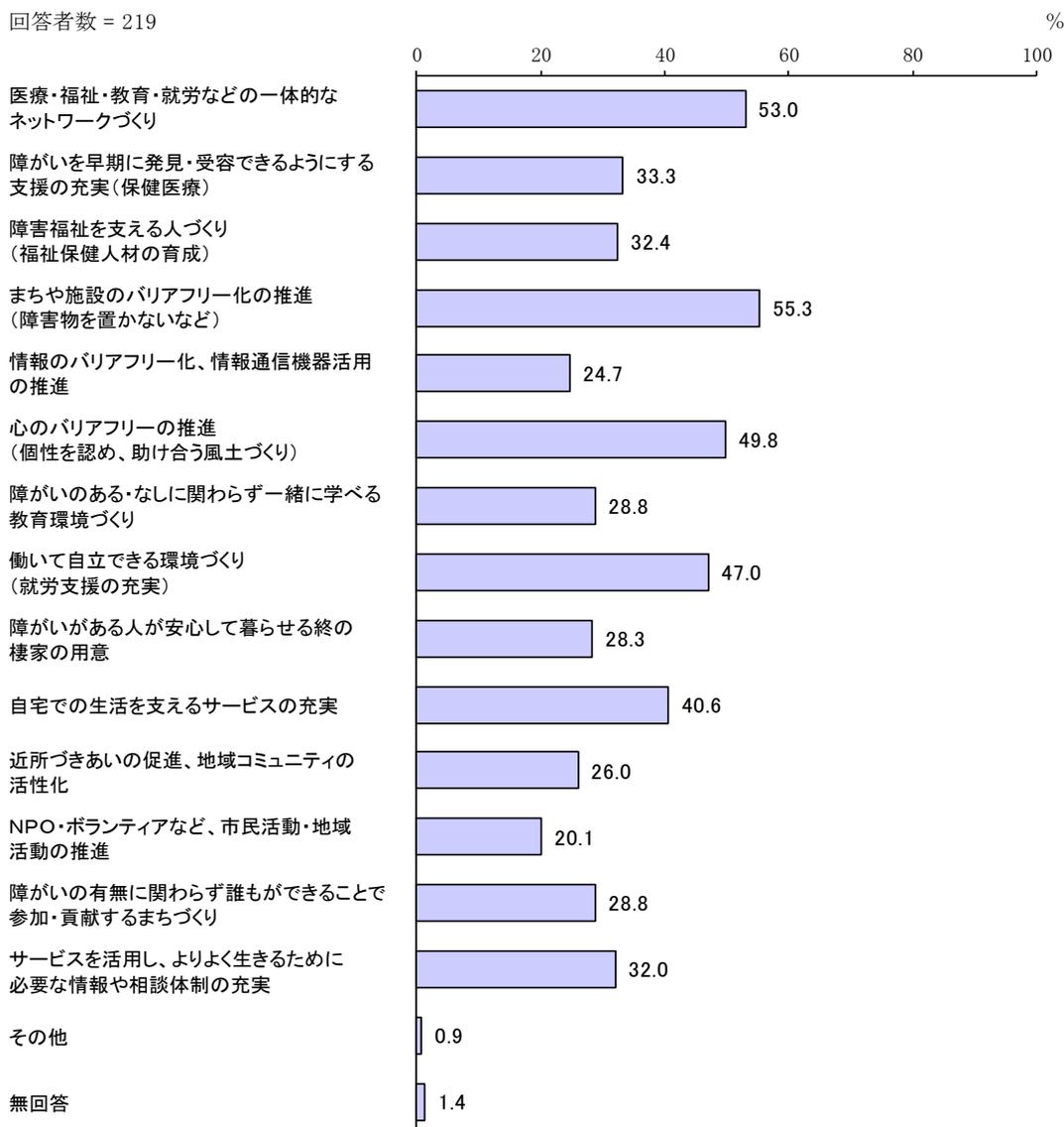
(3) 障がい者施策について

① 今後重要だと思うこと

問 14 あなたが、障がいの有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちにするために、今後あなたが特に重要と思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「まちや施設のバリアフリー化の推進(障害物を置かないなど)」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」の割合が 53.0%、「心のバリアフリーの推進(個性を認め、助け合う風土づくり)」の割合が 49.8%となっています。

回答者数 = 219



【性別】

女性に比べ、男性で「情報のバリアフリー化、情報通信機器活用の推進」の割合が高くなっています。また、女性では「障害福祉を支える人づくり（福祉保健人材の育成）」「障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり」「働いて自立できる環境づくり（就労支援の充実）」「障がいの有無に関わらず誰もがができることで参加・貢献するまちづくり」「サービスを活用し、よりよく生きるために必要な情報や相談体制の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	一体的なネットワークづくり	医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり	障がいを早期に発見・受容できるようにする支援の充実(保健医療)	障がい福祉を支える人づくり(福祉保健人材の育成)	まちや施設のバリアフリー化の推進	情報通信機器活用の推進	情報のバリアフリー化、情報通信機器活用の推進	心のバリアフリーの推進	一緒に学べる教育環境づくり	障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり	働いて自立できる環境づくり(就労支援の充実)	障がいがあっても安心して暮らせる終の棲家の用意	障がいがあっても安心して暮らせる終の棲家の用意	自宅での生活を支えるサービスの充実	地域コミュニティの活性化	近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化	市民活動・地域活動の推進	障がいの有無に関わらず誰もがができることで参加・貢献するまちづくり	サービスを活用し、よりよく生きるために必要な情報や相談体制の充実	その他	無回答
全体	219	53.0	33.3	32.4	55.3	24.7	49.8	28.8	47.0	28.3	40.6	26.0	20.1	28.8	32.0	0.9	1.4					
男性	84	51.2	33.3	23.8	51.2	28.6	46.4	20.2	40.5	25.0	39.3	25.0	16.7	21.4	25.0	1.2	2.4					
女性	132	53.8	32.6	37.1	58.3	21.2	51.5	34.1	50.0	29.5	40.2	26.5	21.2	33.3	35.6	0.8	0.8					

【年齢別】

他に比べ、50～64歳で「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」の割合が、30～49歳で「働いて自立できる環境づくり（就労支援の充実）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	一体的なネットワークづくり	医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり	障がいを早期に発見・受容できるようにする支援の充実(保健医療)	障がい福祉を支える人づくり(福祉保健人材の育成)	まちや施設のバリアフリー化の推進	情報通信機器活用の推進	情報のバリアフリー化、情報通信機器活用の推進	心のバリアフリーの推進	一緒に学べる教育環境づくり	障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり	働いて自立できる環境づくり(就労支援の充実)	障がいがあっても安心して暮らせる終の棲家の用意	障がいがあっても安心して暮らせる終の棲家の用意	自宅での生活を支えるサービスの充実	地域コミュニティの活性化	近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化	市民活動・地域活動の推進	障がいの有無に関わらず誰もがができることで参加・貢献するまちづくり	サービスを活用し、よりよく生きるために必要な情報や相談体制の充実	その他	無回答
全体	219	53.0	33.3	32.4	55.3	24.7	49.8	28.8	47.0	28.3	40.6	26.0	20.1	28.8	32.0	0.9	1.4					
15～29歳	26	46.2	23.1	38.5	50.0	42.3	61.5	23.1	38.5	11.5	19.2	15.4	15.4	7.7	23.1	—	—					
30～49歳	53	50.9	30.2	22.6	62.3	28.3	56.6	34.0	58.5	26.4	39.6	30.2	26.4	28.3	32.1	1.9	—					
50～64歳	52	61.5	36.5	34.6	55.8	25.0	53.8	26.9	44.2	26.9	36.5	21.2	23.1	36.5	40.4	—	3.8					
65歳以上	87	51.7	36.8	35.6	52.9	17.2	40.2	28.7	43.7	35.6	49.4	29.9	14.9	31.0	29.9	1.1	1.1					

【身近な障がいのある方の有無別】

身近に障がいのある方がいない人に比べ、いる人で「心のバリアフリーの推進（個性を認め、助け合う風土づくり）」「自宅での生活を支えるサービスの充実」「近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化」「サービスを活用し、よりよく生きるために必要な情報や相談体制の充実」の割合が高くなっています。また、いない人では「まちや施設のバリアフリー化の推進（障害物を置かないなど）」「障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり」「働いて自立できる環境づくり（就労支援の充実）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	一体的なネットワークづくり	医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり	障がいを早期に発見・受容できるようにする支援の充実（保健医療）	障がい福祉を支える人づくり（福祉保健人材の育成）	まちや施設のバリアフリー化の推進	情報通信機器活用の推進	心のバリアフリーの推進	障がいのある・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり	働いて自立できる環境づくり（就労支援の充実）	障がいがある人が安心して暮らせる終の棲家の用意	自宅での生活を支えるサービスの充実	近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化	市民活動・地域活動の推進	障がいの有無に関わらず誰もがができることでの参加・貢献するまちづくり	障がいの有無に関わらず誰もが利用できる必要な情報や相談体制の充実	その他	無回答
全体	219	53.0	33.3	32.4	55.3	24.7	49.8	28.8	47.0	28.3	40.6	26.0	20.1	28.8	32.0	0.9	1.4	
いる	93	50.5	33.3	31.2	49.5	23.7	55.9	25.8	44.1	32.3	45.2	31.2	19.4	32.3	34.4	2.2	1.1	
いない	116	55.2	33.6	31.9	60.3	25.0	45.7	31.9	50.0	27.6	37.1	21.6	22.4	27.6	27.6	—	0.9	
わからない	7	42.9	28.6	42.9	42.9	42.9	42.9	—	28.6	—	42.9	42.9	—	—	57.1	—	14.3	

②自由回答

アンケート調査票の自由記述欄において、合計66件の意見を寄せていただきました。意見の内容を分野に応じて整理したところ、意見は以下のとおりとなります。なお、意見については延べ件数でまとめています。

分類回答	件数
(1) 相談支援について	4
(2) こころのバリアフリーについて	16
(3) 障がいに対する差別について	2
(4) 安全と安心な暮らしについて	11
(5) 雇用・就労について	5
(6) 経済的支援について	1
(7) 地域活動・文化・スポーツ活動について	1
(8) 福祉サービスについて	7
(9) その他	16
(10) アンケートについて	3

(1) 相談支援について

- ・自分から情報収集する大切さを知った。
- ・日本語が読めない障がい者が増えたとき、英語でお手伝いできればと思う。
- ・市として行っていることが見えてこない。市役所内のカフェ等でもっと広報してほしい。
- ・在宅介護をしている。包括センターの方やケアマネジャーの助言がありがたい。

(2) こころのバリアフリーについて

- ・万が一の時にお互いに助け合えるよう、日頃から障がい者の方々と自然に交流できる街になったらよいと思う。障がいの有無にかかわらず、ひとりひとりが互いを気遣える意識を持つよう呼びかけをお願いしたい。
- ・誰でもケガをしたり妊娠したり、幼い子と一緒にいたり、年をとって体が動きづらくなってくれば、障がい者と同じような状況になる。障がい者に優しい町のしつらえは高齢化社会の日本に必要なと思った。計画的に「障がい者に優しい町」をプランニングすれば、それは「誰にとっても住みやすい町」となる。
- ・人に無関心な世の中をなおさないとなかなか前に進まないのでは、と思う。
- ・障がい者の方に対する理解が足りないのだと思う。自治体やマスコミがもっと発信すると市民の意識も変わるのではないか。
- ・障がい者に対して、何か手助けしたくても実際に何をしたらよいかわからない。ヘルプマークのようなものがあれば判断しやすいと思う。
- ・障がい者が周りにあまりおらず、社会人になった今、障がい者との関わり方がよくわからなくなってきた。障がいの有る無しに限らない人との関わり方について考える場があればよいと思う。
- ・もっと市民に障がい者のことや福祉活動の機会をつくるような施策。たとえば1か月に1回福祉事業所等の見学やボランティアの機会を市民情報で伝える。子どもでも参加できるようにする。
- ・近所づきあいを密にし、心配ごとを話せる同志とのふれあいを心掛けるように努めている。
- ・高齢者の身体能力が低下する如く、身体機能に障がいがあることが当たり前となる社会が福祉の目標であろうと感じる。障がい者を特別扱いしないで済むことが一番良好な福祉だと思う。
- ・優先席に健康な高校生が当然のように座っていて、席を譲らない。道徳教育の不足を感じる。
- ・小、中学生の間に障がい者と交流が持てるような企画があると、小さいうちからすんなり理解できるのではないか。
- ・障がい者とふれあう機会を逗子は多く取り入れていると思う。
- ・ボランティアに参加する時は「やってあげる」ではなく「お互い様」「貴重な経験をもらっている」という気持ちを持つようにしている。
- ・自分自身が、障がい者と関わりがなさすぎる。
- ・地域で助け合える、支えあえる社会になるとよい。
- ・「みんな違ってみんなよい」という考え方が正しい形で広がっていけばよいと思う。

(3) 障がいに対する差別について

- ・身体障がいに対する理解は進む一方で、知的な障がいに対しては、社会全体として、その理解を進めることが非常に難しいと言えるのではないかと。関わり方がわからず、また、不可解な行動を目の当りにすることもある。実際に不快な行為をされても、相手が障がい者である以上、一概に「痴漢被害」とも言えない。このように、障がい者の権利侵害の反面、健常な市民の安全が脅かされていることも残念ながら事実だ。故に、そういったケースをサポートできるような対策が求められているのではないかと思う。人手不足の中ひとりひとりをサポートするのは難しいかもしれないが、アンケートからは、すべてを一括りにしてしまっているように感じた。
- ・「障害者」を「障がい者」と表記することで、当事者への配慮や思いやり、理解を深めたと考える社会そのものの考え方を変えないとおかしい。具体的な施策はもちろん大事だが、「意識」そのものを改めていかないと、表面的な理解しかできないのではないかと。表記を変えることは、一種の「言葉狩り」だ。

(4) 安全と安心な暮らしについて

- ・道路のバリアフリー化。健常者でも歩きづらい道路への支援が必要。
- ・災害時、障がい者や高齢者が遠くまで避難するのは危険なので、空き家を活用できないか。
- ・狭い歩行者道路や使いにくい逗子駅前バスロータリーなど逗子の町並み自体が福祉以前の状態だと思う。
- ・信号のない横断歩道前にバンプを設置し、減速させるようにすれば、障がい者も安心して渡れる環境にできるのではないかと。
- ・街灯を増やしたり、照度を上げた方がよい。市役所と踏切の間が暗い。
- ・車が入れないような細い路地や階段上に生活している人への積極的な支援が必要。
- ・以前骨折をした際に、道路や踏切など日常ではささいな物が大きな壁に感じるということを体験した。歩道橋にはスロープをつける、歩道にわずかなスペースでもよいので、何か不自由な人のために専用の歩道をつくるべきだと思う。
- ・母の足の具合が悪く、街の段差が気になるようになった。JR 逗子駅下りホーム後ろの方は、電車とホームに差があり、特に降りるのが難しい。
- ・障がい者の方々が安心して暮らせる町になってほしいと思う。
- ・障がい者が安心して生活できるよう、最善を尽くしてほしい。

(5) 雇用・就労について

- ・障がいの有無にかかわらず、働きたい人が働けて、収入を得られる街になるとよい。
- ・雇用の場の提供として桜山中央公園周りに障がい者が多く働く喫茶店を開設してはどうか。
- ・障がい者雇用の実態について、市が調査し、不十分な企業・団体には指導すべきではないか。市にはその責任があるのではないかと。
- ・事業のルールは健常者が作り、製品の試行錯誤等は皆で考えることにより、障がい者にも充実感があるのではないかと思う。金銭面でも支援ばかりでなく、彼ら自身で作りあげていくことで、仕事をする、生きていく中での満足感が得られるのではないかと思う。
- ・障がい者に対しての社会の見かたは近年だいぶ良くなってきたと思うが、難病をかかえている人、特定疾患の人に対する社会はまだまだとりのこされているように感じる。働きたくても病気のことを伝えると働けなくなる状況がまだ残っている。このような人たちにも同じように社会でいろいろな取り組みを提案してほしい。

(6) 経済的支援について

- ・障がい者の中でも高齢の障がい者に対する福祉の幅が少なすぎる。1～2級の方に対する障害者手当（例えば年金）は充実しているが、3級では何もないのが現実。

(7) 地域活動・文化・スポーツ活動について

- ・障がいのある人が安心して暮らし、趣味なども自由にできる環境作りをしてほしいと思う。
- ・障がい者の社会との関わり合いの機会を増やす場として、逗子海岸清掃の役割を市がリードしてやってはどうか。

(8) 福祉サービスについて

- ・ハンディキャブ廃止に伴い、家族が会社を休み通院している。長距離通院のため付き添いのサポートを受けたいが、自家用車利用の場合、ヘルパーをたのむことができない。
- ・急に通院が必要となり、ヘルパーをたのんだが、同居家族(高齢の母親 85 歳)がいるため、利用できなかった。介護が必要な患者をかかえ、薬を取りに行くことができなかった。
- ・同居家族の有無にかかわらず、障がい者本人の必要にかなった制度を早急に整えてほしい。・緊急時に、ヘルパーをお願いできる体制を整えてほしい。経済的理由から、介護離職は避けたいと考えている。
- ・理学の先生をもっと増やすようにしてほしい。特に訪問。
- ・デイサービスやショートステイ、本人にとって楽しみとなり、ご家族にとって安心して時を過ごせる、そんな企画があるとよいのではと思う。
- ・障がい者の家族など、まわりの人も精神的に大変なので、施設や短期、長期入所場所をもっとつくってほしい。

(9) その他

- ・『逗子市障がい者福祉計画』を知らなかった。調べたいと思う。また、わかりやすく掲示してほしい。
- ・逗子が障がい者に対して優しい町と言われるようがんばってほしい。
- ・障がい者が少しでも住みやすいよう、有効に税金が使用されることを願っている。
- ・市が何をやっているのかがわからないので、どう意見してよいかわからない。
- ・障がい者に限らず、福祉や教育の問題に対応するためには専門性を身に付けた人が対応することがとても大切だと思う。市の職員も専門家として仕事をしてほしい。
- ・隣接する市町村との連携が必要だと思う。個人情報絡みもあるので、本人、家族の承諾も必要かもしれないが、福祉の充実を進めるなら広域で考えることも有意義だと思う。
- ・近所まかせ、個人まかせは、難しいと思う。行政の介入は必要だ。
- ・福祉に限らず何をすることもお金がかかる。早急な市財政の回復を願う。
- ・充実した公共の対応を望む。
- ・ボランティア活動の拠点となっている福祉会館が使用できなくなるとの話がでて一時心配したが、現在は土曜日の活動も可能になり大変助かっている。
- ・未就学児から小、中、高と継続した支援の方法を考えてほしい。支援を個人や家族の努力だけでは補うことのできない部分に絞って、財源の確保に取り組んでほしい。

- ・ 家族に障がい者がいるので、市の福祉に対する施策がかなり乏しい状態であることを痛感している。社会の中で、自立、もしくは支援で安心して生活できる体制を早く整えてほしい。
- ・ 困っている人の発掘のため、アンテナを張り、現場へ出ていっての情報収集と対策をしてほしい。
- ・ 小学校へろう者の日本代表選手を3名と一緒に訪問し、小4の授業で社会教育授業として交流させてもらった。事前に市へ広報したが、障がい福祉課をはじめ、どの課にも来てもらえなかった。アンケートもよいが、実際の現場に足を運んでほしい。
- ・ 高齢者の方々に席を譲るように教育してほしい。

(10) アンケートについて

- ・ 各項目に解答しかねる。
- ・ 障がい者でも発達障がいと身体の障がいは少し違うと思うので答えにくい。
- ・ このアンケート調査から、本計画策定のかなりの形骸化が否めない。

Ⅲ ヒアリング調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的と方法

ヒアリングは、アンケート調査を補完・代替し、よりきめ細かく障がいのある方などの生活の現状や意向、支援ニーズ等を把握するため、当事者およびその家族の方々から直接話をうかがいました。

特に、難病、発達障がいについては、県関係機関の協力により、アンケートを代替する調査として、ヒアリング調査を実施しました。

2. 調査の対象と実施概要

分野	協力者（当日の人数）		実施日・場所
身体障がい	逗子市身体障害者福祉協会（役員1名）		令和2年2月14日（金） 逗子市役所 13時～14時
	逗葉ろうあ協会（メンバー2名）		令和2年2月10日（火） 逗子市役所 9時～10時
難病	鎌倉保健福祉事務所難病登録者（1名）		令和2年2月21日（金） 協力者宅 10時～11時
知的障がい	逗子市手をつなぐ 育成会	手帳所持者が未成年の方 の家族（7名）	令和2年1月27日（月） 逗子市役所 10時～11時
		手帳所持者が40歳以上 の方の家族（8名）	令和2年1月21日（火） 逗子市役所 10時～12時
	地域活動支援センター ワークショップリプル （スタッフ1名）		令和2年2月14日（金） 逗子市役所 14時～15時
精神障がい	相談事業所カモミール （メンバー・スタッフ20名）		令和2年2月14日（金） カモミール 15時半～16時半
療育	こども発達支援センター利用者 （保護者3名）		令和2年2月6日（木） 10時～11時 令和2年2月7日（金） 10時～11時 療育教育総合センター

Ⅱ ヒアリング調査の結果

1. 住まい

地域のなかで、住まいを持ち暮らしていくには、経済面や健康面などの不安があるとともに、地域との関わりも重要な要因となっています。

また、グループホーム等の整備が望まれる中で、ひとり暮らしでも地域の中で様々な支援を受けながら、安全に安心して暮らしていける環境が求められています。

【現状】

- ・ 育成会の場合、一人で暮らせるような方が少ない。(知的障がい：家族)
- ・ 独居になった時の家の管理に不安を感じる。(精神障がい)
- ・ コミュニケーションの問題で近所付き合いが困難。(身体障がい)
- ・ 体力的、金銭的にも今後の生活に漠然とした不安がある。(身体障がい)

【意向】

- ・ グループホーム以外で、単身で支援を受けながら暮らせるなど、そのような居住支援もあっても良いと思う。(知的障がい：家族)

2. 福祉サービス

障がいのある人の年齢や障がいに応じて、様々な支援やサービスが求められています。通常の福祉サービスのほか、学校への通学や通院などの移動支援、行事や会合等での託児の設置、また障がいのある子どもが将来に向けて自立した生活を送れるための支援の充実が望まれています。

【現状】

- ・育成会の場合は一人で暮らせるような方が少ない。(知的障がい：家族)
- ・通学の送迎に不安がある。(知的障がい：家族)
- ・高齢者のいる家庭では、気遣いからサービスを利用したがない傾向がある。
(知的障がい：地域活動支援センタースタッフ)
- ・ガイドヘルパーは病院内での付き添いが出来ない制度と聞くと、全盲の人にとって一人での通院が難しくなると感じている。(身体障がい)

【意向】

- ・土・日曜日に預かりのサービスがあるとよい。(知的障がい：家族)
- ・グループホーム等の整備。(知的障がい：家族)
- ・スクールバスの送迎で、遠距離になる方の事も考慮してほしい。(知的障がい：家族)
- ・子どもの預かりサービスを充実させてほしい。(知的障がい：家族)
- ・障がい者の家族向けの勉強会や交流会などの時に託児所を利用できるようにしてほしい。(知的障がい：家族)
- ・PTやOTなどのサービスをより頻繁に、より長く利用できるようにしてほしい。
(療育)
- ・就学してからもくろーばーにて放課後等デイサービスの受入れ回数をもっと増やしてほしい。(療育)
- ・将来子どもが大きくなった時、自立して生活できるような支援をしてほしい。
(療育)
- ・何かをしてくれるホームヘルパーではなく、一緒に行動してくれるヘルパーを望む。(精神障がい)
- ・グループホーム等に入る前の段階において、生活のスキルの向上を目的とした施設があるとよい。(精神障がい)
- ・聴覚障がいの高齢者で、特に一人暮らしのろうあ者がいることを考慮して支援等を検討してほしい。(身体障がい)

3. 就労

就労については、知的障がい、精神障がいの人から意見が多く出ています。治療を受けながら、仕事をしていくことへの不安や就労に関する相談窓口の周知が問題としてあがっています。今後、事業所等の参入や受け入れ企業の増加による雇用の場の拡充や就労の場での支援、相談支援の充実が望まれています。

【現状】

- ・精神医療を受けつつ就労している人で、長時間働かなければならない人は多くいる。(精神障がい)
- ・就労に関する相談窓口がどこなのかわかりにくい。(精神障がい)

【意向】

- ・逗子市は就労の場が少ないので何とかしてほしい。(知的障がい：家族)
- ・他の事業者の参入も検討してほしい。(知的障がい：家族)
- ・就労相談支援の事業所の方や相談支援の方が相談にのってくれるとうれしい。(知的障がい：家族)
- ・しっかりした就労支援員がほしい。(知的障がい：家族)
- ・長時間働かなければならない人が少しでも長く働かせてくれる場所が増えると、より多くの方が一般就労という形態をとりやすくなると思う。(精神障がい)
- ・家に近いところで通える通所施設等があるとよい。(精神障がい)

4. 保健・医療

医療機関での受診の際に障がいに対する理解や対応が十分でないため、不安を感じている人がいます。また、通院手段の確保が難しい現状もうかがえます。今後、医療側の障がいに対する知識の普及や通院が困難な人への在宅医療の充実が望まれています。

【現状】

- ・知的障がいと精神障がいが併発すると、事情の説明が難しくなることから通院をためらう方もいる。(知的障がい：地域活動支援センタースタッフ)
- ・大きい病院が身近にないため、他地域の医療機関に通うのは非常に難しい。(精神障がい)
- ・医師の説明が手話通訳を通して本人に伝わりにくく、そのため症状が伝わりにくい。(身体障がい)

【意向】

- ・低額所得者に対する医療費の補助制度が逗子市にもあればよい。(精神障がい)
- ・精神医療に関する知識を広め、偏見をなくすための啓発をしてほしい。(精神障がい)
- ・難病の主人が風邪などをひいても、自分は病院に連れていけないので困っている。市の保健師等が積極的に介入し、往診の医師を紹介してほしい。(難病)

5. 保育・教育

障がいのある子どもにおいては、就学前後を中心に、それぞれのライフスタイルに応じた支援が必要です。ひなたファイルについては、より理解しやすい啓発の必要性があがっています。また、進学に関する助言の機会や障がいのある子どもを育てていくための保護者へのサポートの充実が求められています。

【現状】

- ・ひなたファイルは利用しているが、分け方が大まかで理解しづらい。(知的障がい：家族)

【意向】

- ・特別支援学校の説明会に行ったが福祉サービス利用前提での話をされたので、サービス自体を利用しづらいということも理解してもらいたい。(知的障がい：家族)
- ・障がい児向けクラスに対する理解のための授業や活動の時間を作ってほしい。(療育)
- ・子ども毎に抱える問題は様々だが、専門的な知識も含めて育て方について勉強する機会を与えてほしい。(療育)
- ・就学については地元の支援学級にするか支援学校にするか等迷うことがあり、選択肢の提示やアドバイスがあると助かる。(療育)
- ・聴覚障がい者のインクルーシブ教育支援をしてほしい。(身体障がい)

6. 生活環境（バリアフリー等）

障がいのある人が、地域において安心して快適な生活を送るための環境整備が進んでいる中、ヒアリングでは、歩道の整備や交通機関の利用の不便さ、交通や災害に関する情報提供に対する問題があがっています。

また、災害発生時における情報伝達手段の充実や障がいに応じた避難対応・対策が求められています。

【現状】

- ・防災無線がよく聞こえない、反響していて何を言っているか分からない。
（身体障がい）
- ・車いすで通ることが難しい歩道がかなりある。（知的障がい：地域活動支援センタースタッフ）
- ・新逗子駅にエレベーターがないのが不便。（知的障がい：地域活動支援センタースタッフ）
- ・災害・事故等の情報が伝わらない。（身体障がい）
- ・歩道が狭く、電柱が歩道にあることで白杖がぶつかってしまい、すれ違いが出来ないなど歩行に困難に感じることもある。（身体障がい）
- ・災害時の避難については、排尿の装置等もあり避難所に連れていくことも難しく、家族の力だけでは避難が難しいと感じる。（難病）

【意向】

- ・音響信号のなる時間が朝8時から夜の6時ではなく、朝の7時から夜の7時までになればもう少し多くの人利用できるようになると思う。（身体障がい）
- ・信号の切り替わりが、盲人がタッチ操作などで必要な時に鳴らすことが出来るようにしてほしい。（身体障がい）
- ・全盲の人向けの運動する場所がほしい。（身体障がい）

7. 経済的状況（利用者負担等）

日常生活を送るうえで、必要な支援を受けるため、経済的な支援の充実が望まれています。

【現状】

- ・ろうあ者のデイサービスは不十分だと思う。（身体障がい）
- ・体力向上のためのリハビリがあると聞き、体力保持のために利用したいが、利用料が負担となる。（身体障がい）

【意向】

- ・ひとり暮らしの際の、家賃補助のようなものを出していただけたらうれしい。（精神障がい）
- ・交通費の計算が3か月定期の日割りだが、短期の通所で不便なので検討してほしい。（精神障がい）

8. 理解と交流

障がいに対する理解を深めていくためには、子どもの頃からの福祉教育の充実やイベント等の機会を活用した周知・啓発、障がいのある人との交流機会の充実などの意見があがっています。

【現状】

- ・手話が浸透していないことから、ろうあ者が社会に受け入れられていないと感じる。言語生活の違いから相互理解が出来ているとは思えない。（身体障がい）
- ・小学生の児童に対する障がい者理解の教育が進んでいると感じている。実際、まちを歩いている際に小学生が声をかけてくれて買い物などの手伝いをしてあげることがあったが、一方で大人の、特に年配の方は白杖を持っている人に対する理解がない方が多いので、子どもの頃からの教育は大切だと思う。（身体障がい）

【意向】

- ・障がいがある方が参加する勉強会に、教育関係者が参加してもらおうとよい。（療育）
- ・障がいのある方が参加するイベントを、市のイベントに組み込んでもらえれば子どもに対する理解が深まるのではないかと思う。（療育）
- ・市内イベントに参加してもすでに顔見知りという事がよくあるので、新しい方が集まって輪が広がる交流会などがあるといい。（知的障がい：地域活動支援センタースタッフ）

9. 相談支援・情報提供

相談支援には、利用しやすく、広く相談に乗ってもらえる窓口や、ピアカウンセリングなどに対応できる環境づくりが望まれています。

また、障がいの特性に応じた情報提供とともに、積極的な提供が望まれています。

【現状】

- ・福祉サービスに関する情報は全て書面で届くので目を通しきれない、どこを見たらよいか分からない。(知的障がい：家族)
- ・障がい児を抱える親のネットワークに参加できていない家庭は情報共有が難しくなっていると思う。(療育)
- ・家族に精神疾患があり、周囲の人に迷惑をかけていた時期に地域活動支援センターを紹介してほしかった。(精神障がい)
- ・コミュニケーションの違いから、同じ障がいのある人に先ず相談することが多く、相談支援事業所を利用することにハードルを感じる。(身体障がい)

【意向】

- ・市民からの要望に応えるだけでなく、市ができる事を提案する形で情報をもっと積極的に提供してほしい。(知的障がい：家族)
- ・個人個人に最適なサービスをしっかりと提案してほしい。(知的障がい：家族)
- ・相談支援事業所・こども発達支援センターから電話をいただけると話が進みやすくなると思う。(知的障がい：家族)
- ・高齢者の家族は、サービス利用を勧めても抵抗感が強く、そのまま負担を抱えてしまう例が多いので、家族単位で状況を把握し適切な支援を提供できる仕組みが必要。(知的障がい：地域活動支援センタースタッフ)
- ・子どもの時期に親の精神疾患について相談できる場所があれば、とてもよいと思う。(精神障がい)

10. 団体活動の継続・拡充

障がい者団体等においては、新規会員が入ってこないことや会員の高齢化などの課題があがっています。

【現状】

- ・受け入れる障がいの多様性により人材不足が懸念され、施設の利用日もこちらで指定、加えて災害時などの不安要素もある。
(知的障がい：地域活動支援センタースタッフ)
- ・新規会員の入会がなく会員の高齢化が進んでいるので、このままでは存続が難しい。
(身体障がい)

IV 調査結果からみた課題整理

1. 調査結果の概括

各調査の結果を概括すると、次のように整理されます。

	調査結果
心身の状況等	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答者の6割が65歳以上。75歳以上が4割。 身体障がい：約8割が65歳以上。 知的障がい：20～40歳代が多い。 精神障がい：40～50歳代が多い。 ・医療機関を定期的に受診している人は8割。特に身体障がい、精神障がいで多い。その中で常時医療的ケアが必要な人もいる。 ・診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担に感じている人がいる。 ・支援は必要なこととして「外出」「食事の用意（炊事）」が多い。外出については、身体障がいの視聴覚系、運動系での要望が高い。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療側の障がいに対する知識の普及や通院が困難な人への在宅医療の充実が望まれている。
暮らし方	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、家族・親族・友人・知人などと暮らしている人が7割強、一人暮らしは1割。 ・身体障がいでは「配偶者・パートナー」の割合が高いのに対し、知的障がい、精神障がいでは「親（自分の親・配偶者の親）」の割合が高い。 ・よく利用している情報通信手段は、「テレビ」が8割と最も高く、次いで「スマホやタブレット」が3割、「携帯電話」が2割半ば。身体障がいの内部系で「テレビ」、精神障がいで「スマホやタブレット」の割合が高い。 ・今後の暮らし方の希望として、「家族・親族と暮らしたい」が6割と最も高く、次いで「ひとり暮らししたい」。精神障がいで「ひとり暮らししたい」、身体障がい、特に内部系で「家族・親族と暮らしたい」の割合が高い。 ・介助・支援をしている方は「配偶者・パートナー」が20.5%、「親（配偶者の親も含む）」が18.2%。 ・介助・支援をしている方の年齢については、「75歳以上」が16.8%と最も高く、次いで「65～74歳」が14.8%、「50～59歳」が11.4%と高齢化が顕著。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの特性に応じた情報提供とともに、情報提供側の積極的な情報提供が望まれている。 ・グループホーム等の整備が望まれる一方、ひとり暮らしでも地域の中で様々な支援を受けながら、安全に安心して暮らしていける環境が求められています。

	調査結果
日頃の過ごし方や社会参加	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な生活状況について “苦しい生活をしている” が3割、「普通の生活をしている」が6割、“ゆとりのある生活をしている” が1割。30～64歳で“苦しい生活をしている” 割合が高い。精神障がいでは“苦しい生活をしている” の割合が高い。 ・就労状況について、「仕事をしていた（今はしていない）」が5割、「仕事をしたことはない」が2割、「現在、仕事をしている」が2割。知的障がいでは「現在、仕事をしている」「仕事をしたことはない」、身体障がいでは「仕事をしていた（今はしていない）」の割合が高い。 ・仕事をする上での悩みは、「収入が少ない」が1割強。年齢が低くなるにつれ「収入が少ない」「職場の人間関係がむずかしい」「障がいを理解してもらえない」の割合が高くなる傾向がある。知的障がい、精神障がいでは「今の仕事を続けたい」の割合が高い。 ・障害福祉サービスについて、就労定着支援で「知らない」の割合が高く、5割台半ば。就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）で「知っているが利用したことはない」の割合が高い。身体障がいでは「知らない」の割合が高い。 ・仕事以外で参加している団体活動等について、「特に参加していない」が6割、次いで「趣味・文化・スポーツ活動」の割合が15.9%。知的障がい、重複障がいでは「障がい者団体の活動」の割合が高い。 ・暮らしの中で特に大事にしていることの上位は「家族と過ごす時間」が34.0%、「静養・体調管理」が30.4%、「家のこと（家事）」が23.3%。18～29歳で「趣味・習い事」「テレビや音楽の鑑賞」の割合が高い。また、65歳以上で「友人づきあい」の割合が高い。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療を受けながら、仕事をしていくことへの不安や就労に関する相談窓口の周知が課題。 ・事業所等の参入や受け入れ企業の増加による雇用の場の拡充や就労の場での支援、相談支援の充実が望まれている。 <p>その他の方向け調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人との関わりについて、「特に関わりはない」が35.6%と最も高く、次いで「職場で一緒に働いている（いた）」、「障がい者が働く店（作業所など）に行き、製品を買うようにしている」。 ・障がいのある人に介助・支援しやすいかたちは、「当事者から頼まれたら、できることをする」が38.4%と最も高く、次いで「察して、こちらから手をさしのべる」、「自治会や市役所、市社会福祉協議会のバックアップがあれば、できることをする」。 ・日頃の生活の中でできる支援は、「本人の話し相手」「安否確認・見守り」「緊急時の連絡」。

	調査結果
情報・相談	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する情報の取得先は、「県や市の広報・ガイドブック」が46.3%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が28.0%、「新聞・雑誌」が26.7%。 他に比べ、身体障がい、特に内部系で「県や市の広報・ガイドブック」、知的障がい、重複障がいで「障がい者施設・事業所」の割合が高い。 福祉に関する情報の入手について困っていることは「どこに情報があるかわからない」が24.5%、「情報の内容がむずかしい」が10.8%。 現在の困りごとや不安について、「健康・医療について」が4割と最も高く、次いで「経済的なことについて」「自分の将来の生活設計について」の割合が2割強。知的障がい、重複障がいで「親亡き後について」、精神障がいで「就職や仕事について」「健康・医療について」「家族について」「経済的なことについて」の割合が高い。 困りごとや心配ごとの相談先は、「家族・親族」が7割と最も高く、次いで「友人・知人」「医療機関」が2割。 相談したい時に困ること「特に困ることはない」が4割、「どこに相談したらいいかわからない」が2割。 「成年後見制度」の認知度は4割、利用した割合が2.3%。 「成年後見制度」を利用し後見人に財産管理などを任せてもよい人は16.8%。 逗子市社会福祉協議会が行っているサービスの認知度は、「逗子あんしんセンター」「ボランティアセンター」で「名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない」の割合が高く、約2割。「逗子あんしんセンター」「生活困窮者自立支援事業」で「知らない」の割合が高く、6割超。 「障害者差別解消法」の認知度は2割。 障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」の認知度は2割。 障がいがあることで差別を受ける、または嫌な思いをしたことある人は17.2%。知的障がい、精神障がい、重複障がいで「時々ある」の割合が高い。 差別を感じた場面は、「まちを歩いているとき」が30.5%と最も高く、次いで「公共交通機関を利用するとき」「就職するときや職場生活において」等。 受けた差別は、「差別的な発言を受けた」が51.3%と最も高く、次いで「障がいへの配慮が欠けるため、障がいがない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられなかった」「障がいを理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」。精神障がい、重複障がいで「差別的な発言を受けた」の割合が高い。また、身体障がいの視聴覚系、内部系で「障がいへの配慮が欠けるため、障がいがない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられなかった」の割合が高い。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいの特性に応じた情報提供とともに、情報提供側の積極的な情報提供が望まれている。 利用しやすく、広く相談に乗ってもらえる窓口や、ピアカウンセリングなどに対応できる環境づくりが望まれている。 <p>その他の方向け調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> 「障害者差別解消法」の認知度は低い。

	調査結果
障がい児への療育や教育について	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育や教育に関する相談について要望は、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」が最も高く、次いで「具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい」「専門的な相談機関を充実してほしい」。 ・乳幼児期における母子保健や療育に対する要望として、「保護者に対する相談・支援体制の充実」が最も高く、次いで「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」「通園事業・療育事業などの充実」。 ・発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、特に重要と思うものは、「保護者に対する相談・支援体制の充実」「発育・発達上の課題の早期発見・診断」「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」が上位。 ・市の療育教育総合センター（こども発達支援センター及び教育研究相談センター）に相談したことのある人は数%。 ・ひなたファイルの認知度は数%。活用できている人も数%。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひなたファイルについては、より理解しやすい啓発が必要。 ・進学に関する助言の機会や障がいのある子どもを育てていくための保護者へのサポートの充実が求められています。
地域の中での関わり	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいの程度は、「あいさつをする程度」が38.4%と最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度」が21.8%、「困っていることがあれば助け合うような人がいる」が17.6%。 ・知的障がい、精神障がいで「近所づきあいはしていない」の割合が高い。 ・日頃の生活でご近所に頼りたいことは、「特に頼りたいことはない」が41.2%と最も高く、次いで「緊急時の連絡」「安否確認・見守り」。 ・火事や地震などの災害発生時に、自力で避難できない人は35.7%。身体障がいの視聴覚系、運動系、知的障がいで「できない」の割合が高い。 ・火災や地震などの災害発生時に、助けてくれる人がいる割合は66.4% ・市からの防災情報を防災行政無線またはメール等で受信することが「できる」が42.7%、「できない」が47.9%。 ・災害時の避難に求める市や地域の支援や配慮は、「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」が51.8%と最も高く、次いで「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」「災害時要援護者を支援できる災害ボランティアの確保」の割合が高い。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時における情報伝達手段の充実や障がいに応じた避難対応、対策が求められている。 <p>その他の方向け調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人に介助・支援しやすいかたちは、「当事者から頼まれたら、できることをする」が38.4%と最も高く、次いで「察して、こちらから手をさしのべる」、「自治会や市役所、市社会福祉協議会のバックアップがあれば、できることをする」。 ・障がいのある人に対する災害時の避難について、市や地域にはどんな支援や配慮が必要と考えについて「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」「避難路や避難施設のバリアフリー化」「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」。

	調査結果
施策等の評価	<p>障がいのある方向け調査より</p> <p><アンケート調査></p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいや障がいのある人に対する理解が進んできたと思いますかについて <u>本人やその家族の中で</u> “進んできた” の割合が高く、約 5 割。一方、<u>市内の身近な地域</u> で “進んでいない” の割合が高く、約 3 割。 障がいのある人への差別が解消され、分け隔てのない状態が進んできたと思うか。 <u>本人やその家族の中で</u> “進んできた” の割合が高く、50% 近く。また、<u>社会全体、市内の身近な地域</u> で “進んでいない” の割合が高く、2 割台半ば。 障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、必要な手助けや取り組みについて、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が 52.5% と最も高く、次いで「障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること」「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」。 障がいの有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちにするために、今後特に重要と思うことは、「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」が 45.1% と最も高く、次いで「まちや施設のバリアフリー化の推進（障害物を置かないなど）」「自宅での生活を支えるサービスの充実」。 地域生活支援拠点等事業で利用したいもの「介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能」が 47.3% と最も高く、次いで「24 時間対応できる相談窓口」「医療的ケアが必要な方や、障がい重度化した方に対して専門的な対応を行う機能」。 障がいに対する差別の解消が進みにくい主な理由は、「障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している」、「まちや施設、交通機関などのバリアフリー化がまだ十分でない」が 51.1% と最も高く、次いで「障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根強い」。 <p><ヒアリング調査></p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいに対する理解を深めていくためには、子どもの頃からの福祉教育の充実やイベント等の機会を活用した周知・啓発、障がいのある人との交流機会の充実など。 <p>その他の方向け調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近の 5 年程度で、障がいや障がいのある人に対する理解が “進んできた” の割合が高く、約 67%。一方、市内の身近な地域で “進んでいない” の割合が高く、約 4 割。 最近の 5 年程度で、障がいのある人への差別が解消され、分け隔てのない状態が進んできたと思いますか。社会全体で、あなたやあなたの家族の中で “進んできた” の割合が高く、4 割台半ば。一方、社会全体で、市内の身近な地域で “進んでいない” の割合が高く、約 4 割。 あなたは障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるとよいと思いますか。「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」の割合が 60.7% と最も高く、次いで「障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること」の割合が 48.4%、「障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」の割合が 36.5%。 障がいの有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちにするために、今後あなたが特に重要と思うことは何ですか。「まちや施設のバリアフリー化の推進（障害物を置かないなど）」の割合が 55.3% と最も高く、次いで「医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり」の割合が 53.0%、「心のバリアフリーの推進（個性を認め、助け合う風土づくり）」の割合が 49.8%。

2. 課題の整理

アンケート調査、ヒアリング調査の結果から、第3期逗子市障がい者福祉計画の5つの施策分野の項目で今後に向けての課題を整理しました。

①相談支援、情報提供について

- 福祉に関する情報の取得先は、「県や市の広報・ガイドブック」「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」が上位にあがっています。福祉に関する情報の入手について困っていることとしては「どこに情報があるかわからない」「情報の内容がむずかしい」等の意見があり、障がいのある人への情報提供については、市ホームページや広報誌、障がい者福祉のしおりの活用のほか、点字・音声・情報通信技術の利用など、多様な媒体を活用して、分かりやすい提供に努めていくことが重要です。
- 現在の困りごとや不安については、「健康・医療について」が4割と最も高く、次いで「経済的なことについて」「自分の将来の生活設計について」となっています。知的障がい、重複障がいでは、特に他の障がいに比べ「親亡き後について」の課題があがっています。
- アンケート調査結果では、困りごとや心配ごとの相談先は、「家族・親族」が7割と最も高く、次いで「友人・知人」「医療機関」が2割となっており、家族や友人以外では医療関係者や福祉施設の職員など、それぞれの生活で身近な所が相談先になっていることから、今後、障がいのある人がよく利用する障害福祉サービス事業所や指定特定相談支援事業所をはじめ、身近な相談先から適切な支援につなげる体制の充実も必要です。
- ヒアリング調査では、相談支援には、利用しやすく、広く相談に乗ってもらえる窓口や、専門的な対応ができる窓口や、ピアカウンセリングなどに対応できる環境づくりが求められています。

②共生社会の基盤づくりについて

- 今後の暮らし方の希望として、「家族・親族と暮らしたい」が6割と最も高く、家族との時間を大切にしたい意向も強くなっています。一方、家族の介助、支援者の高齢化が顕著になっており、特に知的障がいでは、親亡き後の生活に対する不安への対応が大きな課題となっています。
- アンケート調査結果では、障がいがあることで差別を受けたり、嫌な思いをしたことがある人は2割程度であり、知的障がい、精神障がい、重複障がいが多くなっています。差別を感じた場面は、「まちを歩いているとき」や「公共交通機関を利用するとき」「就職するときや職場生活において」等と様々であり、障がい等について、その特性や必要な配慮等に関する理解の促進を図ることが必要です。
- 「障害者差別解消法」や障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」の認知度は2割に止まっており、「社会的障壁の除去のための必要かつ合理的な配慮」の理念を地域社会や企業、学校などに普及することが必要です。

- アンケート調査結果では、地域とのつきあいについて、「あいさつをする程度」が4割程度となっています。知的障がい、精神障がいで「近所づきあいはしていない」の割合が高く、障がいのある人と地域住民が交流する機会を増やしていくことが必要です。
- 「成年後見制度」の認知度は4割、利用した割合が2.3%となっており、成年後見制度の更なる周知が求められています。
- 火事や地震などの災害発生時に、自力で避難できない人は4割、身体障がいの視聴覚系、運動系、知的障がいで「できない」の割合が高く、支援が必要な人の安否確認を迅速に行うことや必要な支援を的確に実施するなど、避難体制の充実が求められます。
- 災害時の避難に求める市や地域の支援や配慮としては、「災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり」が5割と最も高く、次いで「障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保」「災害時要援護者を支援できる災害ボランティアの確保」の意見があがっています。
- 障がいのない人が日頃の生活の中でできる支援は、「本人の話し相手」「安否確認・見守り」「緊急時の連絡」等があがっており、安心・安全な地域を実現するためには、住民一人一人が地域に対して、気配り・目配り・思いやりの心を持った、日常からの助け合いや支え合いが重要です。

③障がいのある子どもの支援について

- 療育や教育に関する相談についての要望は、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」「具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい」「専門的な相談機関を充実してほしい」などの相談支援体制の充実が求められています。
- 乳幼児期における母子保健や療育に対する要望として、「保護者に対する相談・支援体制の充実」が2割と最も高く、次いで「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」「通園事業・療育事業などの充実」があがっています。また、発達の特徴に対する早期発見・早期支援が重要であることから、乳幼児期の健康診査や発達相談、保育所等との連携などにより早期発見に努めることが必要です。
- 発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、特に重要と思うものは、「保護者に対する相談・支援体制の充実」「発育・発達上の課題の早期発見・診断」「保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート」が上位にあがっています。

④社会参加の促進について

- 就労状況について、「現在、仕事をしている」が2割となっています。仕事をする上での悩みは、「収入が少ない」が1割強。年齢が低くなるにつれ「収入が少ない」「職場の人間関係がむずかしい」「障がいを理解してもらえない」の割合が高くなる傾向があります。また、知的障がい、精神障がいで「今の仕事を続けたい」の割合が高く、今後も就労に向けた支援体制の充実が必要です。
- ヒアリング調査では、事業所等の参入や受け入れ企業の増加による雇用の場の拡充や就労の場での支援、相談支援の充実が望まれています
- 仕事以外で参加している団体活動等について、「特に参加していない」が6割、次いで「趣味・文化・スポーツ活動」が15.9%。知的障がい、重複障がいで「障がい者団体の活動」の割合が高くなっています。障がいのある方のニーズを捉え、様々な社会参加の場の周知・検討が求められます。
また、ヒアリング調査において障がい者団体等においては、新規会員が入ってこないことや会員の高齢化などの課題があがっています。
- 経済的な生活状況について、苦しい生活をしている人が3割、特に精神障がいで割合が高くなっており、日常生活を送るうえで、経済的な支援の充実が望まれています。

⑤障害福祉サービス等について

- 地域生活支援拠点等事業で利用したいものとして、「介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能」が5割と最も高く、次いで「24時間対応できる相談窓口」「医療的ケアが必要な方や、障がい重度化した方に対して専門的な対応を行う機能」があがっており、緊急時の支援体制や医療ケア体制の確保と相談支援体制の充実が特に求められています。
- ヒアリング調査から、障がいのある人の年齢や障がいに応じて、様々な支援やサービスが求められています。通常福祉サービスのほか、学校への通学や通院などの移動支援、行事や会合等での託児の設置、また障がいのある子どもが将来に向けて自立した生活を送れるための支援の充実が望まれています。
- 医療機関を定期的に通診している人は8割となっており、特に身体障がい、精神障がいの人で多くなっています。その中で常時医療的ケアが必要な人もおり、医療的ケアが必要な重度・重複障がいのある人等に対する医療機関、医療的ケア体制の充実が望まれます。

V 調査票

1 障がいのある方向け

1. 調査の回答者について

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。
(1つに○をつけ、2か3をお選びの方は、付箋にもお書きください。)

1. 本人 (宛名の方)
2. 本人の養育を聞いて回答を代筆
3. 本人の意思を汲んで代理で回答

問1で「2」「3」と答えた方にお聞きます。
付箋① それほどなたですか。(1つに○)

1. 家族 2. 施設職員 3. その他 ()

2. あなた (宛名の方) ご自身のことについて

問2 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

1. 男性 2. 女性

問3 今年の4月1日、あなたは何歳でしたか。(1つに○)

1. 0～5歳 2. 6～12歳 3. 13～17歳
4. 18～19歳 5. 20～29歳 6. 30～39歳
7. 40～49歳 8. 50～59歳 9. 60～64歳
10. 65～74歳 11. 75歳以上

問4 現在、あなたが住まいる地域の地域はどちらですか。入所・入院中の方は、ご自宅のある地域をお書きください。(1つに○)

1. 逗子 2. 椋山 3. 沼間 4. 池子
5. 山の根 6. 久木 7. 小坪 8. 新宿

問5 あなたご自身のおもな収入は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の給与・賞金 2. 自分の事業収入
3. 自分の年金・障害年金 4. 生活保護費
5. 家族からの仕送り 6. その他 ()
7. わからない



ずしししょう しゃふくしけいかくさくいでい 逗子市障がい者福祉計画策定のための アンケート調査ご協力のお願い

市民の皆様には、日ごろから市政運営にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

逗子市では、障がいのある方が安心して生活に参画できるまちをつくるため、平成26年度に「逗子市障がい者福祉計画」を策定し、障がい福祉の充実に向けてきました。今回、この計画の充實を図るため、アンケート調査を実施いたします。

この調査の対象として、令和元年10月1日時点で逗子市にお住まいの障害者手帳または障害福祉サービス受給者証をお持ちの方に調査票を送付させていただきます。調査は無記名で行い、調査結果はすべて統計的な数値として取りまとめますので、どうぞありのままの状況やご意見を、一人でも多くの皆様からお寄せいただきたいと思います。ご多忙の折大変恐縮ですが、調査の趣旨をおくみいただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月
逗子市長 桐ヶ谷 寛

ご記入にあたってのお願い

1 この調査票は、障害者手帳または障害福祉サービス受給者証をお持ちの方と、その方を介助・支援している方が回答をお願いします。ご本人が回答する項目は1～18ページ、介助・支援している方が回答する項目は19～23ページとなっております。

2 ご本人がお答えになるのがむずかしい場合には、ご家族の方や介助・支援している方がご本人に代ってお答えください。

3 住所、氏名を記入する必要はありません。

4 質問によっては回答する方を限定しているものもありますので、質問の順にお答えください。

5 お答えは、質問ごとに設けてある枠の中から、あてはまるものを選んで番号を○で囲んでください。○の数は「1つ」の場合と「あてはまるものすべて」の場合があります。なお、※がついている用語には、説明を記載していますのでご参照ください。

6 「その他()」に○をつけたときは、()内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたアンケート用紙は、向郵の返信用封筒に入れて、**12月9日(月)までに郵便ポストに投函**してください。(切手は不要です)

ご記入にあたってお困りの方は下記までご相談ください。

また、この調査に際してお問い合わせについても下記までお願いいたします。

逗子市役所 福祉部 障がい福祉課 TEL. 046-873-1111
Eメール syohukukacity.zushi.ig.jp FAX. 046-873-4520



4. あなたの暮らし方について

問10 あなたは、現在どのようなかたちで暮らしていますか。
(1つに○をつけ、2をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

1. ひとりで暮らしている
2. 家族・親族・友人・知人などと暮らしている
3. グループホームで暮らしている
4. 障がい者施設などで暮らしている
5. 高齢者施設（介護保険）などで暮らしている
6. 長期入院している

問10で「1」と答えた方にお問きます。

付問① 現在、あなたはどなたと暮らしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 配偶者・パートナー
2. 親（自分の親・配偶者の親）
3. 子ども（子どもの配偶者も含む）
4. 兄弟姉妹（その配偶者も含む）
5. 在父母
6. 孫（その配偶者も含む）
7. その他の親族（友人）
8. 友人
9. 支援者（施設職員等）
10. その他（ ）

問11 あなたは、通院以外に定期的に通っているところはありませんか。（あてはまるものすべてに○をつけ、1～15に○をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

1. 保育所
2. 幼稚園
3. 療育施設
4. 小中学校（普通級・通級）
5. 小中学校（特別支援学級）
6. 高等学校
7. 特別支援学校
8. 大学・短大・専門学校・大学院
9. ことば・きこえの教室
10. 放課後児童クラブ
11. ふれあいスクール
12. 職場の学習塾
13. 職場
14. 障がい者の通所施設（生活介護、生活訓練等）
15. 介護保険のデイサービス・デイケア施設
16. 親戚・知人宅
17. 行きつけの店や公共施設
18. 特に通っていない
19. その他（ ）



問11で「1」～「15」と答えた方にお問きます。

付問① 主に、どのように通っていますか。（1つに○）

1. ひとりで通っている
2. 家族がつきそいで通っている
3. 仲間と連れ立って通っている
4. 移動支援サービス等を利用している
5. 送迎車を利用している
6. その他（ ）

付問② 付問①ができない場合はどうしていますか。（1つに○）

1. 欠席してしまうことが多い
2. 他の家族や親戚がつきそいで代行する
3. 移動支援サービス等を利用する
4. 近所につきそいで頼める人がいる
5. タクシーを利用する
6. その他（ ）

付問③ 通い先で特に困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 施設・設備の配慮が不十分
2. 学習（仕事）面のサポートが不十分
3. 生活面のサポートが不十分
4. 医療的サポートが不十分
5. 健常児・者との交流が不十分
6. 障がいへの理解が不十分
7. 偏見を感じる
8. その他（ ）

問12 あなたが外出する場合の主な交通手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 普通車
2. バス
3. タクシー
4. 福祉有償運送
5. 自家用車
6. 自転車
7. オートバイ
8. 車椅子
9. 施設の送迎車
10. 徒歩
11. その他（ ）

※「福祉有償運送」とは、公共交通機関を利用することが困難な方に代して、通院、通学、レジャーなどを目的に寄附で行う車両による送迎サービスです。このサービスを利用するためには、事業者への会員登録が必要になります。
【参考】本市内の事業者：希望福祉利便施設 さいばい、ゆろ、希望福祉利便施設 ワーゲーズ・エンクティブ くまやさん、福祉クラブ生活協賛会 移動サービスワーカーズ・コレクティブ もら、むらぶ 塩川聖一

問13 あなたがよく利用している情報通信手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. テレビ
2. ラジオ
3. 固定電話
4. ファクシミリ（FAX）
5. 携帯電話
6. スマホやタブレット
7. パソコン
8. 音声録音・再生・通訳機器
9. 特にない
10. その他（ ）



問14 あなたは、今後どんなかたちで暮らしたいと希望しますか。(1つに○)

- 1. ひとり暮らししたい
- 2. 家族・親族と暮らしたい
- 3. 友人・仲間と自立して暮らしたい
- 4. グループホームで暮らしたい
- 5. 障がい者施設で暮らしたい
- 6. 高齢者施設(介護保険)などで暮らしたい
- 7. その他()

5. 日中活動について

問15 あなたの経済的な生活状況は、次のどれに近いと思いますか。(1つに○)

- 1. 非常に苦しい生活をしている
- 2. やや苦しい生活をしている
- 3. 普通の生活をしている
- 4. ややゆとりのある生活をしている
- 5. ゆとりのある生活をしている

問16 あなたの就労状況についておたずねします。(1つに○をつけ、1または2をお選びの場合、下の付問にもお答えください。)

- 1. 現在、仕事をしています
- 2. 仕事をしていた(今はしていません)
- 3. 仕事をしたことはない

問16で「1」「2」と答えた方にお聞きします。

付問① 現在(辞めた方は直近)のあなたの就労形態はどれに当たりますか。(1つに○)

- 1. 一般就労(正社員)
- 2. 一般就労(パート・アルバイト)
- 3. 自営業
- 4. 就労継続支援・就労移行支援事業所に通所
- 5. NPOに所属
- 6. その他()

付問② あなたは、今の仕事はどのようにして探しましたか。(1つに○)

- 1. 直接自分で
- 2. 障がいのない時から勤めていた
- 3. 市役所
- 4. 障がい者就業・生活支援センター
- 5. 病院
- 6. 障がい者施設・事業所
- 7. 学校
- 8. 公共職業安定所(ハローワーク)
- 9. 家族・知人
- 10. その他()



付問③ あなたの、1か月の平均給与・賞金はどのくらいですか。(1つに○)

- 1. 1万円未満
- 2. 1万円～3万円未満
- 3. 3万円～5万円未満
- 4. 5万円～10万円未満
- 5. 10万円～15万円未満
- 6. 15万円～20万円未満
- 7. 20万円～30万円未満
- 8. 30万円以上
- 9. 決まっていない
- 10. その他()

付問④ 仕事をすすまでの悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 収入が少ない
- 2. 仕事がむずかしい
- 3. 仕事がつい
- 4. 仕事が少ない
- 5. 自分に合った内容の仕事がない
- 6. 職場の人間関係がむずかしい
- 7. トイレなどの設備が使いにくい
- 8. 休んでざる環境がない
- 9. 障がいや理解してもらえない
- 10. 通勤が負担
- 11. 相談相手がない
- 12. 特に悩みはない
- 13. その他()

問17 あなたは、今後の就労についてどのようなようにお考えですか。(1つに○をつけ、具体的な内容をご記入ください。)

- 1. 今の仕事を続けたい(仕事の内容→)
- 2. 職場や仕事をかえたい(具体的に→)
- 3. 条件があれば働きたい(ほしい条件→)
- 4. 就労に向けて訓練をしたい(具体的に→)
- 5. 働きたいと思わない
- 6. その他()



問18 あなたは、次の障害福祉サービスについて知っていますか。(1つに○)

	用したことがある	知っている、利	知したことはない	知っているが利	知し
A 就労移行支援 一般企業等への就労を希望する方に、一定期間、就労に必要な知識や能力のための就労を必要とする方に必要な知識や能力の向上のための訓練を行う	1	2	3	4	知
B 就労継続支援(A型・B型) 一般企業等での就労が困難な方に働く場を提供するとともに、知識や能力向上のための訓練を行う	1	2	3	4	知らない
C 就労定着支援 一般企業等に新たに雇用された方に就労の継続を図るため、相談、指導、助言等を行う	1	2	3	4	知らない

問19 あなたが、仕事以外で参加している団体活動等についておたずねします。(あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容もご記入ください。)

- 障がい者団体の活動 ()
- 地域の自治会・子ども会・老人クラブ等の活動 ()
- 社会貢献・ボランティア活動 ()
- 趣味・文化・スポーツ活動 ()
- 特に参加していない 6. その他 ()

問20 現在、あなたが暮らしている中で特に大事にしていることは何ですか。(3つまで○)

- 家庭生活
- 仕事
- リハビリテーション
- 家族と過ごす時間
- 買い物や散歩
- 趣味・習い事
- スポーツ・レクリエーション
- 社会貢献・ボランティア活動
- 友人づきあい
- テレビや音楽の鑑賞
- パソコン等でのゲームやコミュニケーション
- 静養・体調管理
- その他 ()



6. 情報・相談について

問21 福祉に関する情報を、あなたはどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 県や市の広報・ガイドブック
- 新聞・雑誌
- テレビ・ラジオ
- インターネット(パソコン・スマホ)
- 家族や友人
- 市役所・健康福祉事務所・児童相談所
- 障がい者施設・事業所
- 学校・職場
- 病院
- 障がい者団体
- その他 ()

問22 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

- どこに情報があがるかわからない
- 情報の内容がむずかしい
- 点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない
- パソコン・スマホなどの使い方がわからないため、インターネットが利用できない
- パソコン・スマホなどを持っていないため、インターネットが利用できない
- その他 ()
- 特に困っていない

問23 現在あなたが困ったり、不安に思っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 就職や仕事について
- 進学・勉強について
- 健康・医療について
- 家族について
- 経済的なことについて
- 住まいについて
- 交通の便について
- 恋愛や結婚について
- 近所づきあひについて
- 社会参加・地域参加について
- 文化・スポーツ活動などへの参加について
- 福祉施設や福祉サービスの利用について
- 防災や防犯について
- 自分の将来の生活設計について
- 親亡き後について
- その他 ()



問24 困りごとや心配ごとのあなたの主な相談先はどこ(誰)ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 介助・支援者
4. 近所の人
5. 学校・職場・通所先
6. 民生委員・児童委員
7. 障がい者団体
8. NPO・福祉ボランティア団体
9. 市社会福祉協議会
10. 県保健福祉事務所・児童相談所
11. 指定特定相談支援事業者※
12. 遠子あんしんセンター
13. ことちろ児童支援センター・教育研究相談センター
14. 子育て支援センター
15. 地域包括支援センター
16. 医療機関
17. インターネット上のコミュニティ
18. 市役所(障がい福祉課、高齢介護課、子育て支援課、その他)
19. 特に相談はしない
20. その他()

※市内の指定特定相談支援事業者：支援センター風、浦瀬クリエィティブサービス遠子相談支援事業所、相談事業所がモミフル、株式会社LOVEONE(ラブワン)、有償ボランティア

問25 あなたが相談したい時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. どこに相談したらいいかわからない
2. 相談が1か所ではすまない
3. 近所に頼れる相談場所がない
4. 相談相手が少ない・いない
5. 日時を気にせず連絡できる場所がない
6. 相談のための手続きが大変
7. やりとりを手伝ってくれる人がいない
8. 特に困ることはない
9. 相談したいが、苦手でできない
10. その他()

問26 あなたは、金銭や財産の管理、福祉サービスの利用手続きなどを本人に代わって行い、判断に不安のある人を守る「成年後見制度」についてご存知ですか。(1つに○)

1. 内容までよく知っている
2. ある程度知っている
3. 名称は聞いたことはある
4. 知らなかった

問27 あなたは成年後見制度を利用したことがありますか。(1つに○)

1. ある
2. ない

問28 あなたは、自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見制度」を利用し後見人に財産管理などを任せたいことについて、どう思いますか。(1つに○)

1. 任せてもよい
2. 一部なら任せたい
3. 任せたくない
4. わからない



問29 あなたは、遠子市社会福祉協議会が行っている次のサービスの利用について知っていますか。(1つに○)

	知っているし、利用したことがある	知っているが利用したことはない	詳しくは知らないことがある	知らない
A 遠子あんしんセンター 日常生活において、福祉サービスの十分な利用や、介護の管理支の徹底が困難な高齢者や、障がい者、外国人に、福祉サービスの利用支援サービス、日常生活支援サービス、高齢者からサービスを行うとともに、介護上による相談を行っています。	1	2	3	4
B フレンドリーヘルパー 市内にお住まいの高齢者や、障がいがある方、出産された方のお宅へ、社会性を増強させる支援を行っているフレンドリーヘルパーが訪問し、日常の家事(掃除・洗濯・調理等)をお手伝いします。(身体介助はできません)	1	2	3	4
C ボランティアセンター ボランティアをしたいとボランティアをしてほしい方をつなぐ機関です。ボランティアを募集したい方、ボランティアをしている人のサポートを行います。ボランティアを知ってもらえるような様々な講座・イベントも行っていきます。	1	2	3	4
D 生活困窮者自立支援事業 お金のことや仕事のことなどを相談できます。お金の相談と並行して、生活が安定できるように、相談の様々な講義・イベントも行っていきます。	1	2	3	4



問30 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

- 1. 名称も内容も知っている
- 2. 名称を聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3. 名称も内容も知らない

問31 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。(1つに○)

- 1. 内容を知っている
- 2. 聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3. 知らない

問32 この5年間において、あなたが障がいがあることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。(1つに○をつけ、1または2とお選びの方は付問にもお答えください。)

- 1. よくある
- 2. 時々ある
- 3. あまりない
- 4. まったくない

付問2で「1」「2」と答えた方にお聞きします。

付問① あなたがそう感じたのはどのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 進学するときや学校生活において
- 2. 就職するときや職場生活において
- 3. 結婚するとき
- 4. 近所つきあい、地域の行事等において
- 5. 家庭生活において
- 6. 福祉サービスを利用するとき
- 7. 医療を受けるとき
- 8. 役所で手続きするときや公共施設を使うとき
- 9. 公共交通機関を利用するとき
- 10. ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき
- 11. スポーツや文化活動をするとき
- 12. 家を借りるとき
- 13. まちを歩いているとき
- 14. 選挙など政治に参加するとき
- 15. その他()

付問② あなたが受けたのはどのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 障がいを理由に施設やサービス等を利用することを断られた
- 2. 障がいへの配慮が欠けるため、障がいがない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられなかった
- 3. 差別的な発言を受けた
- 4. その他()



7. 障がい児への療育や教育について

問33 あなたは療育や教育に関する相談について望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 相談機関の情報を提供してほしい
- 2. 困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい
- 3. 1か所で相談できるようにしてほしい
- 4. 専門的な相談機関を充実してほしい
- 5. 具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい
- 6. その他()

問34 あなたは乳幼児期における母子保健や療育に関わることでどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 訪問指導の充実
- 2. 保護者に対する相談・支援体制の充実
- 3. 福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと
- 4. 通園事業・療育事業などの充実
- 5. その他()

問35 発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 乳幼児健診の充実
- 2. 養育・養護上の課題の早期発見・診断
- 3. 保護者に対する相談・支援体制の充実
- 4. 訪問指導の充実
- 5. 地域における療育、リハビリテーション体制
- 6. 障がい児通所施設の整備
- 7. 認定こども園・保育所(園)・幼稚園・放課後児童クラブでの受入れ
- 8. 小・中学校、高等学校でのインクルーシブ教育の推進
- 9. 通学・通園時の介助・付添い
- 10. 休日・長期休暇時の居場所づくり
- 11. 放課後の居場所の確保
- 12. 地域社会と関わる機会や環境づくり
- 13. 保護者が介助・支援できないときの一時的な預かりやサポート
- 14. その他()



問42 火事や地震などの災害発生時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(1つに○)

- 1. できる
- 2. できない

問43 火災や地震などの災害発生時に、あなたを助けてくれる方はいますか。(1つに○)

- 1. いる
- 2. いない
- 3. わからない

問43で「1」と答えた方にお聞きします。

付問① あなたを助けてくれる方は誰ですか。(1つに○)

- 1. 同居の家族
- 2. 親族
- 3. 近所の人
- 4. 民生委員・児童委員
- 5. その他 ()

問44 あなたは市からの防災情報を防災行政無線またはメール等で受信することができますか。(1つに○)

- 1. できる
- 2. できない

※市の防災委主催で開催している地域防災緊急情報共有システムに登録していただくと、市からの防災、防災、生活情報を直接受信できます。

問45 あなたは、災害時の避難について、市や地域に、どんな支援や配慮を求めますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり
- 2. 障がい等に配慮した避難場所のきめ細かな確保
- 3. 障がい等に配慮した沿路、業、非常食などのきめ細かな確保
- 4. 避難路や避難施設のバリアフリー化
- 5. 日頃から避難施設に慣れさせておくような機会づくり
- 6. 障がい者等を加えた地域で行う防災訓練・避難訓練の実施
- 7. 各小学校地区避難所運営委員会などへの障がい者等の参加
- 8. 障がい者をめぐる家族・地域・学校・福祉・医療機関等の連絡体制の確保
- 9. 地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域中の支援体制づくり
- 10. 公的機関による確かな支援体制の確保
- 11. 災害時避難者を受け入れる災害ボランティアの確保
- 12. 市や地域に求めることは持たない
- 13. その他 ()



問36 あなたは市の障害教育総合センター(こども発達支援センター及び教育研究相談センター)に相談したことはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. こども発達支援センター(1F ひなた)に相談したことがある
- 2. 教育研究相談センター(3F)に相談したことがある
- 3. どちらも相談したことがない

問37 あなたはひなたファイルを知っていますか。(1つに○)

- 1. 内容を知っている
- 2. 聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3. 知らない

問38 あなたはひなたファイルを活用できていますか。(1つに○)

- 1. 活用できている
- 2. 活用できていない
- 3. わからない

8. 地域の中での関わりについて

問39 あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。(1つに○)

- 1. 困っていることがあれば助け合うような人がいる
- 2. 会話は立ち話をする程度
- 3. あいさつをする程度
- 4. 近所づきあいはしていません
- 5. その他 ()

問40 あなたが日頃の生活でご近所に頼りたいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 話し相手
- 2. ごみ出し
- 3. 外出の代行(買い物や犬の散歩)
- 4. 外出の同行・つきそい
- 5. 向かいの家の車出し(送迎)
- 6. 読み書き等の代行
- 7. 安否確認・見守り
- 8. 緊急時の連絡
- 9. 特に頼りたいことはない
- 10. その他 ()

問41 火事や地震などの災害発生時に、あなたは自力で避難できますか。(1つに○)

- 1. できる
- 2. できない



9. 今後のあり方について

問46 あなたは、最近の5年程度で、障がいや障がいのある人に対する理解が進んできたと思えますか。「ア～オ」について、最もあてはまるところを1つずつ○をつけてください。

	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	わからない
ア. 社会全体で	1	2	3	4	5
イ. 学校で	1	2	3	4	5
ウ. 職場で	1	2	3	4	5
エ. 市内の身近な地域で	1	2	3	4	5
オ. あなたやあなたの家族の中で	1	2	3	4	5

問47 あなたは、最近の5年程度で、障がいのある人への差別が解消され、分け隔てのない状態が進んできたと思えますか。「ア～オ」について、最もあてはまるところを1つずつ○をつけてください。

	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	わからない
ア. 社会全体で	1	2	3	4	5
イ. 学校で	1	2	3	4	5
ウ. 職場で	1	2	3	4	5
エ. 市内の身近な地域で	1	2	3	4	5
オ. あなたやあなたの家族の中で	1	2	3	4	5



問48 あなたは障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるか、どのように思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス
4. 障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度
5. 障がいや難病のある人の権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること
7. その他()
8. 特になし
9. わからない

問49 あなたが、障がいの有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちにすることを今後特に重要と思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり
2. 障がいや福祉を支える人づくり(福祉保健人材の育成)
3. 障がいや福祉のバリアフリー化の推進(障害物を撤かないなど)
4. まちや施設の情報化、情報通信機器活用の推進
5. 心のバリアフリーの推進(個性を認め、助け合う風土づくり)
6. 障がいの有無に関わらず一緒に学べる教育環境づくり
7. 働いて自立できる環境づくり(就労支援の充実)
8. 障がいの有無に関わらず暮らせる終の住居の用意
9. 自宅で生活を支えるサービスの充実
10. 近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化
11. NPO・ボランティアなど、市民活動・地域活動の推進
12. 障がいの有無に関わらず誰もが参加・貢献するまちづくり
13. サービスを活用し、よりよく生きるために必要な情報や相談体制の充実
14. その他()
15. その他()



問50 地域生活支援拠点事業とは、障がい児・者の重症化・高齢化や親亡き後を先慮して、住み慣れた地域で安心した生活が送れるように様々な機能が協力し合い、障がい児・者を切れ目なく地域で支え含める体制づくりのことをいいます。市では現在この事業の整備について検討していますが、以下の機能について、あなたが利用したいものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 24時間対応できる相談窓口
2. 介護者の急病や障がいのある方が急変した際の受け入れや医療機関への連絡などを行う機能
3. 親からの自立等に当たって、障害福祉サービスの利用やひとり暮らしの体験の機会・場を提供する機能
4. 医療的ケアが必要な方や、障がいが重度化した方に対して専門的な対応を行う機能
5. 地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制
6. 特にご利用したいものはない

問51 その他、あなたが白旗を感じていること、市の障がい者福祉に対するご意見など、ご自由に記入してください。

ご本人にご回答いただく項目は、ここまでです。



10. 介助・支援をしている方におたずねします

問52 あなたは障がいのある人からみてもどのような関係にあたりますか。(1つに○)

1. 配偶者・パートナー
2. 親 (配偶者の親も含む)
3. 子ども (子どもの配偶者も含む)
4. 兄弟姉妹 (その配偶者も含む)
5. 在父母
6. その他の親族 ()
7. 事業所職員・ボランティア
8. その他 ()

問53 今年の4月1日、あなたは何歳でしたか。(1つに○)

1. 0～5歳
2. 6～12歳
3. 13～17歳
4. 18～19歳
5. 20～29歳
6. 30～39歳
7. 40～49歳
8. 50～59歳
9. 60～64歳
10. 65～74歳
11. 75歳以上

問54 あなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

1. とても健康である
2. まあまあ健康である
3. あまり健康でない
4. その他 ()

問55 あなたの現在の働き方は次のうちどれですか。(1つに○)

1. 正社員
2. 非正規雇用
3. 事業主
4. 家事専従
5. 学生
6. 施設・作業所の職員
7. 無職
8. その他 ()

問56 あなたが行っている介助・支援を交代してくれる人はどなたですか。(あてはまるものをすべてに○)

1. 配偶者・パートナー
2. 親
3. 子ども
4. 子どもの配偶者(嫁・婿)
5. 兄弟姉妹 (その配偶者を含む)
6. 在父母
7. その他の親族
8. ホームヘルパー
9. ボランティア
10. 知人・友人、近所の人
11. 特にない
12. その他 ()



問57 日常の介助・支援のなかで、あなたが他の人に代わってもらえらると動かるとは、どんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 食事介助
2. 買い物
3. 外出
4. トイレ
5. 外出時の留守番
6. 衣服の着脱
7. 入浴
8. 洗濯、掃除などの家事
9. 食事の用意(炊事)
10. 室内移動
11. 特にない
12. その他 ()

問58 ご本人(宛名の方)のことであなたが悩んでいること、心配に思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 就職や仕事について
2. 進学・勉強について
3. 健康・医療について
4. 余暇活動について
5. 恋愛や結婚について
6. 友だちづくりについて
7. 社会・地域参加について
8. リハビリテーションについて
9. 福祉施設やサービスの利用について
10. 経済的なことについて
11. 将来の生活設計について
12. 特に悩みや心配はない
13. その他 ()

問59 ご本人(宛名の方)を介助・支援するにあたって、あなたが自身が悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 就職や仕事のこと
2. 健康のこと
3. 本人と他の家族の関係のこと
4. 経済的なこと
5. 住まいのこと
6. 交通の便のこと
7. 近所つきあいのこと
8. 社会参加・地域参加のこと
9. 本人の支援を代わってもらえる体制のこと
10. 福祉施設やサービスの利用について
11. 生活の安全のこと
12. 自分や家族の将来の生活設計のこと
13. 特に悩んでいることはない
14. その他 ()



問60 ご本人(宛名の方)は、ふだんどのくらい外出しますか。(1つに○をつけ、5～8をお選びの方は、次の付問にもお答えください。)

1. 学校や仕事、通所で平日は毎日外出する
2. 学校や仕事、通所で週に3～4日外出する
3. 遊び等で頻繁に外出する
4. 人づきあいのためにときどき外出する
5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

問60で「5～8」と答えた方にお聞きます。

付問① 現在の状態になったのは、ご本人(宛名の方)が何歳の頃ですか。(数字を記入)

- ()歳の頃
- 付問② ご本人(宛名の方)が現在の状態となつてどのくらい経ちますか。(1つに○)
1. 6ヶ月未満
 2. 6ヶ月～1年未満
 3. 1年～3年未満
 4. 3年～5年未満
 5. 5年～7年未満
 6. 7年以上

付問③ ご本人(宛名の方)が現在の状態になつたきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 小学校のときの不登校
2. 中学校のときの不登校
3. 高校のときの不登校
4. 受験に失敗した
5. 就職活動がうまくいかなかった
6. 職場になじめなかった
7. 人間関係がうまくいかなかった
8. 病気・障がいのため
9. 妊娠した
10. その他 ()

付問④ ご本人(宛名の方)の現在の状態について、あなたは関係機関に相談したいと思いませんか。(1つに○)

1. 非常に思う
2. 思う
3. 少し思う
4. 思わない



問61 近年、障がいのある人の社会参加における平等の実現に向け、障がい福祉に関する法制度の充実が進んでいます。あなたは、ご本人の生活や介助・支援をめぐる環境がよくなったと思いますか。ア～キごとにお答えください。

	あなたの評価 (○は各1つずつ)		何ともいえない
	はい	いいえ	
ア. 本人の意思尊重がしやすくなった	1	2	3
イ. サービスが利用しやすくなった	1	2	3
ウ. 職場で本人の社会参加機会が広がった	1	2	3
エ. 介助・支援者の負担感が減った	1	2	3
オ. 周りの人々の理解が深まった	1	2	3
カ. 相談しやすい環境になった	1	2	3
キ. その他 (具体的に)			

問62 困っていること、悩んでいることについて、あなたが相談する先はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 介助・支援者
4. 近所の人
5. 自分の通学・通勤・通所先
6. 民生委員・児童委員
7. 障がい者団体
8. NPO・福祉ボランティア団体
9. 市社会福祉協議会
10. 市役所
11. 泉保健福祉事務所
12. 指定特定相談支援事業者※
13. 遠子あんしんセンター
14. ことば支援センター・教育研究相談センター
15. 子育て支援センター
16. 地域包括支援センター
17. 医療機関
18. インターネット上のコミュニティ
19. 特に相談はしない
20. その他 ()

※ 市の指定特定相談支援事業者：支援センター風、浦南クリニック、遠子福祉支援事業所、相談事業所がモミール、株式会社LOVEONE (ラブワン)、有償登録の手



問63 あなたが、介助・支援を通じて日頃感じていること、市の障がい者福祉に対するご意見など、ご自由に記入してください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。



2. 障がいのある人とのかわりについて

問6 あなたは、最近の5年程度で、障がいや障がいのある人に対する理解が進んできたと思いますか。

① 「ア～オ」について、最もあてはまると思うものに1つずつ○をつけてください。

	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない
ア. 社会全体で	1	2	3	4	5
イ. 学校で	1	2	3	4	5
ウ. 職場で	1	2	3	4	5
エ. 市内の身近な地域で	1	2	3	4	5
オ. あなたやあなたの家族の中で	1	2	3	4	5

② 障がいに対する理解が進んだ主な理由は何か、何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. ハラリンピックなど、障がいのある方の活躍がよく紹介されるようになって
2. 様々な障がいに関する理解を進める情報が充実してきて
3. 学校などでの福祉教育、障がいのある子どもとの交流が充実してきて
4. 企業による障がい者雇用が進んで
5. 障がいのある方を、まちや乗り物の中でよく見かけるようになって
6. 身近な人々の中に、障がいのある人が増えてきて
7. 障がいのある人の積極的な社会参加が進んできて
8. 市や地域での交流イベントが定着してきて
9. 精神障がいや発達障がいなどが、他人ごとでないと思うようになって
10. 特になし
11. その他 ()

問7 あなたは、最近の5年程度で、障がいのある人への差別が解消され、分け隔てのない状態が進んできたと思いますか。

① 「ア～オ」について、あなたが最もあてはまると思うものに1つずつ○をつけてください。

	大きく進んできた	少しは進んできた	あまり進んでいない	ほとんど進んでいない	何ともいえない・わからない
ア. 社会全体で	1	2	3	4	5
イ. 学校で	1	2	3	4	5
ウ. 職場で	1	2	3	4	5
エ. 市内の身近な地域で	1	2	3	4	5
オ. あなたやあなたの家族の中で	1	2	3	4	5

② あなたは、障がいに対する差別の解消が進みにくい主な理由は何か、何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 障がいを受け入れられない意識や偏見がまだ根深い
2. 障がいに関する理解に必要な情報がまだ不足している
3. 学校などでの教育や交流のあり方がまだ十分でない
4. 障がいのある方が活躍できる仕事や職場環境（設備や制度）が整っていない
5. まちや施設、交通機関などのバリアフリー化がまだ十分でない
6. 地域の中で交流がまだ不足している
7. 厳しい経済情勢の中で、ゆとりや思いやりがもたれにくい
8. 特になし
9. その他 ()

問8 あなたは、障がいのある人（ご家族以外）とどのように関わっていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校と一緒に学んでいる (いた) 2. 職場と一緒に働いている (いた) 3. 趣味・スポーツ活動を一緒にしている (いた) 4. 自治会活動や社会貢献活動を一緒にしている (いた) 5. 障害福祉サービスの提供に携わっている 6. NPO・ボランティア団体に所属して支援している (いた) 7. 障がい者が働く店（作業所など）に行ったり、製品を買うようにしている 8. 障がい者福祉のための募金活動に参加している 9. 障がい者や障がいについて学び研修・講座に参加したことがある 10. インターネットを活用して障がいのある人と交流している 11. 特に関わりはない 12. その他 () |
|--|

問9 あなたの身近（近所等）に障がいのある人がある場合の対応についておたずねします。

① あなたは、障がいのある人との近所づきあいはどの程度していますか（できそうですか）。(1つに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 困っていることがあれば助け合うようなつきあひ 2. 会えば立ち話をする程度のつきあひ 3. あいさつをする程度 4. 悪いのであまり見ないようにする 5. どう付き合ったらいかがかわからない 6. その他 () |
|--|

② あなたが障がいのある人に介助・支援しやすいのはどんなかたちですか。(1つに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 察して、こちらから手をさしのべる 2. 近所の人と話し合って、一緒に支える 3. 当事者から頼まれたら、できることをする 4. 自治会や市役所、市社会福祉協議会のバックアップがあれば、できることをする 5. NPOやボランティア団体に所属して組織的に支える 6. 市役所や市社会福祉協議会、専門の事業者に任せたい 7. わからない 8. その他 () |
|--|

③ あなたは日頃の生活の中でその人にどんな支援ができますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 本人の話し相手 2. 介護家族の話し相手 3. ごみ出し 4. 外出の代行（買い物や犬の散歩） 5. 何かの時の車出し（送迎） 6. 外出の同行・つきそい 7. 読み書きの等の代行 8. 安否確認・見守り 9. 緊急時の連絡 10. 特にできることはない 11. その他 () |
|--|

問10 あなたは、障がいのある人に対する災害時の避難について、市や地域にはどんな支援や配慮が必要と考えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害情報や避難情報が確実に得られる環境づくり 2. 障がい等に対応した避難場所のきめ細かな確保 3. 障がい等に対応した治療、薬、非常食などのきめ細かな確保 4. 避難路や避難施設のバリアフリー化 5. 日頃から避難を促しておくような機会づくり 6. 障がい者等を加えた地域で行なう防災訓練・避難訓練の実施 7. 各小学校地区避難所運営委員会などへの障がい者等の参加 8. 障がい者をめぐる家族・地域・学校・職場・医療機関等の連絡体制の確保 9. 地域住民同士の日頃からの関係づくりと地域中の支援体制づくり 10. 公的機関による確実な支援体制の確保 11. 災害時要援護者に対応できる災害ボランティアの確保 12. わからない 13. その他 () |
|---|

問11 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 名称も内容も知っている 2. 名称を聞いたことがあるが、内容は知らない 3. 名称も内容も知らない |
|--|

問12 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。
(1つに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容を知っている 2. 聞いたことがあるが、内容は知らない 3. 知らない |
|--|

問 13 あなたは障がいのある人の権利が奪われたり、損なわれないようにするために、どのような手助けや取り組みがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉ことや財産等の管理をしてくれるサービス
4. 障がいや難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度
5. 障がいや難病のある人の権利について、障がいや難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 障がいや難病のある人の権利について社会の意識を高めること
7. その他 ()
8. 特になし
9. わからない

3. 障がい者施策について

問 14 あなたが、障がいの有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちにするために、今後あなたが特に重要と思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 医療・福祉・教育・就労などの一体的なネットワークづくり
2. 障がいを早期に発見・受容できるようにする支援の充実(保健医療)
3. 障害福祉を支える人づくり(福祉保健人材の育成)
4. まちや施設のパリアフリー化の推進(障害物を置かないなど)
5. 情報のパリアフリー化、情報通信機器活用の推進
6. 心のパリアフリーの推進(個性を認め、助け合う風土づくり)
7. 障がいの有る・なしに関わらず一緒に学べる教育環境づくり
8. 働いて自立できる環境づくり(就労支援の充実)
9. 障がいがある人が安心して暮らせる終の棲家の用意
10. 自らの生活を支えるサービスの充実
11. 近所づきあいの促進、地域コミュニティの活性化
12. NPO・ボランティアなど、市民活動・地域活動の推進
13. 障がいの有無に関わらず誰もが参画できることに参加・貢献するまちづくり
14. サービスを活用し、よりよく生きるために必要な情報や相談体制の充実
15. その他 ()

問 15 障がい者福祉に関する施策等について、市へのご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。